Ⅶ 教 育 課 程 表

幼児教育・保育科

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

幼児教育･保育科

卒業要件

卒業までの２年間に下記の単位数を修得すること。

- ◆ 基礎・保健体育科目　→　１０単位以上
- ◆ 外国語科目　→　２単位
- ◆ 専門的科目　→　４８単位以上
- ◆ 合　計　→　６４単位以上

免許･資格関係科目

※　教育課程表（授業科目開講一覧表）の「免許・資格等」の欄を参照すること。

※　免許・資格取得希望者は、下記の科目も忘れずに履修・修得しなければならない。
詳細は、「２．免許・資格等について」のページを参照すること。

● **幼　免** ･･･ 幼稚園教諭２種免許状取得に必要な科目
「◎」は免許取得希望者について必修科目
「○」は免許取得希望者について選択科目

● **保育士** ･･･ 保育士資格取得に必要な科目
「◎」は資格取得希望者について必修科目
「○」は資格取得希望者について選択科目で、「○」の中から６単位以上選択し修得すること。

● **ピアヘルパー** ･･･ ピアヘルパー資格取得に必要な科目
「○」は資格取得希望者について選択必修科目
選択必修科目（４科目７単位)の中から３科目６単位を履修･修得するとともに、本学で実施されるピアヘルパー認定試験に合格しなければならない。
（ピアヘルパー認定試験の詳細は、掲示にて告知する。）

● **ネイチャーゲームリーダー** ･･･ ネイチャーゲームリーダー資格取得に必要な科目
「子どもと生活」(集中講義) を履修･修得すること。

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

幼児教育・保育科　教育課程表（授業科目開講一覧表）

平成２８年度入学生用

※開講時期は、変更となる場合があるので、毎年シラバス等で確認すること。

区分	コード	幼児教育・保育科 授業科目	単位数		免許・資格等			開講時期(●印)				担当教員名	備考
								1年次		2年次			
			必修	選択	幼免	保育士	ピアヘルパー	春	秋	春	秋		
基礎教養科目	1011	文学		2		4					●	島田大助	
	1021	歴史学		2							●	伊藤圭一	
	1051	倫理学		2								本年度は開講しない	
	1122	憲法		2	◎			●				伊藤圭一	
	1211	生物学		2								本年度は開講しない	
	1041	表現学		2				●				朝元尊	
	1252	数学基礎		2					●			中島剛・伊藤圭一	
	1246	総合講座		2						●		伊藤圭一	
	1271	茶道Ⅰ		1				●				中神佐代子	
	1272	茶道Ⅱ		1					●			中神佐代子	
	1281	硬筆書道		1				●				鈴木陽子	
	1282	フラワーアレンジメント		1				●				高橋希	
保健体育	2632	体育講義		1	◎	◎		●				岡本雅子	
	2652	体育実技		1	◎	◎		●				白柳佳子	
外国語	2010	英語（異文化理解とコミュニケーション）	2		◎	◎			●			青嶋由美子	
専門的科目	3101	保育者論		2	◎	◎				●		杉山和恵	
	3111	社会福祉		2		◎				●		村上逸人	
	3127	相談援助		1		◎				●		佐々木将芳	
	3132	児童家庭福祉		2		◎			●			木村哲雄	
	3142	保育原理		2		◎			●			佐野真一郎	
	3162	社会的養護		2		◎		●				太田一平	
	3181	教育原理		2	◎	◎				●		佐野真一郎	
	3212	子どもの心理学		2	◎	◎	○		●			加藤知佳子	
	3213	子どもの心理学演習		1		◎	○				●	斎藤善郎	
	3214	子どもの保健Ⅰ		4		◎			●			小林敦子	
	3215	子どもの保健Ⅱ		1		◎				●		鈴木佐和子	
	3216	子どもの食と栄養		2		◎					●	武田康代	
	3297	家庭支援論		2		◎					●	中島美奈子	
	3298	保育課程論		2	◎	◎					●	杉山和恵	
	3281	障害児心理学		2		○	○				●	佐々木将芳	
	3295	教育相談		2	◎	○	○	●				斎藤善郎	
	3402	子どもと生活		1	○				↔		↔	岡本雅子	※集中講義ネイチャーゲームリーダー科目
	3412	保育内容総論		1	◎	◎		●				杉山和恵	
	3422	保育内容・健康		1	◎	◎			●			岡本雅子	
	3432	保育内容・人間関係		1	◎	◎			●			杉山和恵	
	3442	保育内容・環境		1	◎	◎		●				藤城民男	
	3452	保育内容・言葉		1	◎	◎			●			青嶋由美子	

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

区分	コード	幼児教育・保育科 授業科目	単位数		免許・資格等			開講時期(●印)				担当教員名	備考
								1年次		2年次			
			必修	選択	幼免	保育士	ピアヘルパー	春	秋	春	秋		
専門的科目	3463	保育内容・表現		1	◎	◎			●			岡本雅子	
	3471	保育方法論		2	◎	○					●	今神仁美	
	3482	乳児保育Ⅰ		1		◎			●			森下みどり	
	3491	乳児保育Ⅱ		1		◎				●		森下みどり	
	3503	障害児保育		2		◎					●	佐々木将芳 織田秀隆	
	3509	社会的養護内容		1		◎			●			佐々木将芳	
	3510	保育相談支援		1		◎					●	川村渉	
	3511	児童文化		2		○					●	加藤克俊	
	3521	児童文学		2	○	○					●	堀内美江	
	3532	情報教育入門		2	◎			●				佐野真一郎	
	3544	教育工学演習Ⅰ（情報教育とコンピュータ）		2	◎				●			佐野真一郎	
	3545	教育工学演習Ⅱ（子どもとコンピュータ）		2	○	○				●		佐野真一郎	
	3622	音楽Ⅰ	1		◎			●				井中・加藤久・金井・藤原英・手島・井指鈴木・伊藤絢・伊藤章・高柳・加藤友	
	3623	音楽Ⅱ	1		◎				●			井中・加藤久・金井・藤原英・手島・井指鈴木・伊藤絢・伊藤章・高柳・加藤友	
	3624	音楽Ⅲ		1	○	○					●	井中あけみ 藤原英	
	3625	音楽Ⅳ		1	○	○						本年度は開講しない	
	3632	基礎造形	1		◎			●				加藤克俊	
	3644	幼児体育Ⅰ	1		◎				●			岡本雅子 朝元尊	
	3643	幼児体育Ⅱ	1		◎					●		岡本雅子 朝元尊	
	3645	音楽表現		1		◎				●		井中・加藤久・金井・藤原英・手島・井指鈴木・伊藤絢・伊藤章・高柳・加藤友	
	3646	言語表現		1		◎				●		青嶋由美子	
	3647	造形表現		1		◎			●			加藤克俊	
	3648	身体表現		1		◎				●		岡本雅子	
	3651	言葉と表現	2		◎			●				青嶋由美子	
	3711	実習指導		2	◎				●			杉山和恵	
	3721	教育実習		4	◎				←	→		杉山和恵	
	3732	保育実習Ⅰ		4		◎			←	→		中島美奈子 佐々木将芳	
	3733	保育実習指導Ⅰ		2		◎			●			中島美奈子 佐々木将芳	
	3741	保育実習Ⅱ		2		◎				←	→	中島美奈子	
	3742	保育実習指導Ⅱ		1		◎				●		中島美奈子	
	3760	保育・教職実践演習（幼稚園）		2	◎	◎					●	朝元尊・佐野真一郎 岡本雅子・青嶋由美子	
	3765	総合表現		2		○					●	井中あけみ・加藤克俊 青嶋由美子・井指紗恵	
	3806	保育者のライフデザイン	1					●				青嶋・岡本・朝元・杉山 加藤・佐々木・白柳	
	3807	保育者のキャリアデザインⅠ	1						●			青嶋・岡本・朝元・杉山 加藤・佐々木・白柳	
	3811	保育者のキャリアデザインⅡ	2								●	青嶋・佐野・井中・岡本 朝元・杉山・加藤克・佐々木	
自由科目	3908	キャリアベーシック・言語Ⅰ		履				●				熊澤美弓	
	3909	キャリアベーシック・言語Ⅱ		履					●			熊澤美弓	

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

幼児教育・保育科　教育課程表（授業科目開講一覧表）

平成２７年度入学生用

※開講時期は、変更となる場合があるので、毎年シラバス等で確認すること。

区分	コード	幼児教育・保育科 授業科目	単位数		免許・資格等			開講時期(●印)				担当教員名	備考
								1年次		2年次			
			必修	選択	幼免	保育士	ピアヘルパー	春	秋	春	秋		
基礎教養科目	1011	文学		2		4					●	島田大助	
	1021	歴史学		2							●	伊藤圭一	
	1051	倫理学		2								本年度は開講しない	
	1122	憲法		2	◎			●				伊藤圭一	
	1211	生物学		2								本年度は開講しない	
	1041	表現学		2							●	朝元尊	
	1252	数学基礎		2					●			中島剛・伊藤圭一	
	1246	総合講座		2						●		伊藤圭一	
	1271	茶道Ⅰ		1				●				中神佐代子	
	1272	茶道Ⅱ		1					●			中神佐代子	
保健体育	2632	体育講義		1	◎	◎		●				岡本雅子	
	2652	体育実技		1	◎	◎		●				白柳佳子	
外国語	2010	英語（異文化理解とコミュニケーション）	2		◎	◎						青嶋由美子	
専門的科目	3101	保育者論		2	◎	◎				●		杉山和恵	
	3111	社会福祉		2		◎				●		村上逸人	
	3127	相談援助		1		◎				●		佐々木将芳	
	3132	児童家庭福祉		2		◎			●			木村哲雄	
	3142	保育原理		2		◎			●			佐野真一郎	
	3162	社会的養護		2		◎		●				太田一平	
	3181	教育原理		2	◎	◎				●		佐野真一郎	
	3212	子どもの心理学		2	◎	◎	○		●			加藤知佳子	
	3213	子どもの心理学演習		1		◎	○				●	斎藤善郎	
	3214	子どもの保健Ⅰ		4		◎			●			小林敦子	
	3215	子どもの保健Ⅱ		1		◎				●		鈴木佐和子	
	3216	子どもの食と栄養		2		◎					●	武田康代	
	3297	家庭支援論		2		◎					●	中島美奈子	
	3298	保育課程論		2	◎	◎					●	杉山和恵	
	3281	障害児心理学		2		○	○				●	佐々木将芳	
	3295	教育相談		2	◎	○	○	●				斎藤善郎	
	3402	子どもと生活		1	○				◆▶		◆▶	岡本雅子	※集中講義 ネイチャーゲームリーダー科目
	3412	保育内容総論		1	◎	◎		●				杉山和恵	
	3422	保育内容・健康		1	◎	◎			●			岡本雅子	
	3432	保育内容・人間関係		1	◎	◎			●			杉山和恵	
	3442	保育内容・環境		1	◎	◎		●				藤城民男	
	3452	保育内容・言葉		1	◎	◎			●			青嶋由美子	
	3463	保育内容・表現		1	◎	◎			●			岡本雅子	

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

区分	コード	幼児教育・保育科 授業科目	単位数		免許・資格等			開講時期(●印)				担当教員名	備考
								1年次		2年次			
			必修	選択	幼免	保育士	ピアヘルパー	春	秋	春	秋		
専門的科目	3471	保育方法論		2	◎	○					●	今神仁美	
	3482	乳児保育Ⅰ		2		◎			●			森下みどり	
	3491	乳児保育Ⅱ		2		◎					●	前田キミヨ	
	3503	障害児保育		2		◎				●		佐々木将芳 織田秀隆	
	3509	社会的養護内容		1		◎			●			佐々木将芳	
	3510	保育相談支援		1		◎					●	川村渉	
	3511	児童文化		2		○					●	加藤克俊	
	3521	児童文学		2	○	○					●	堀内美江	
	3532	情報教育入門		2	◎			●				佐野真一郎	
	3544	教育工学演習Ⅰ (情報教育とコンピュータ)		2	◎				●			佐野真一郎	
	3545	教育工学演習Ⅱ (子どもとコンピュータ)		2	○	○				●		佐野真一郎	
	3622	音楽Ⅰ	1		◎			●				井中・加藤久・金井・藤原英・手島・井指 鈴木・伊藤絢・伊藤章・高柳・加藤友	
	3623	音楽Ⅱ	1		◎				●			井中・加藤久・金井・藤原英・手島・井指 鈴木・伊藤絢・伊藤章・高柳・加藤友	
	3624	音楽Ⅲ		1	○	○					●	井中あけみ 藤原英	
	3625	音楽Ⅳ		1	○	○						本年度は開講しない	
	3632	基礎造形	1		◎			●				加藤克俊	
	3644	幼児体育Ⅰ	1		◎				●			岡本雅子 朝元尊	
	3643	幼児体育Ⅱ	1		◎					●		岡本雅子 朝元尊	
	3645	音楽表現		1		◎				●		井中・加藤久・金井・藤原英・手島・井指 鈴木・伊藤絢・伊藤章・高柳・加藤友	
	3646	言語表現		1		◎				●		青嶋由美子	
	3647	造形表現		1		◎			●			加藤克俊	
	3648	身体表現		1		◎				●		岡本雅子	
	3651	言葉と表現	2		◎					▲		青嶋由美子	▲再履修者対応
	3711	実習指導		2	◎				●			杉山和恵	
	3721	教育実習		4	◎				←	→		杉山和恵	
	3732	保育実習Ⅰ		4		◎			←	→		中島美奈子 佐々木将芳	
	3733	保育実習指導Ⅰ		2		◎			●			中島美奈子 佐々木将芳	
	3741	保育実習Ⅱ		2		◎				←	→	中島美奈子	
	3742	保育実習指導Ⅱ		1		◎				●		中島美奈子	
	3760	保育・教職実践演習(幼稚園)		2	◎	◎					●	朝元尊・佐野真一郎 岡本雅子・青嶋由美子	
	3765	総合表現		2		○				●		井中あけみ・加藤克俊 青嶋由美子・井指紗恵	
	3806	入門セミナー	1					●				青嶋・岡本・井中・朝元 杉山・加藤・白柳	
	3807	基礎セミナー	1						●			青嶋・岡本・井中・加藤克 杉山・佐々木・白柳	
	3811	卒業研究セミナー	2							●		青嶋・佐野・井中・岡本 朝元・杉山・加藤克・佐々木	
自由科目	3908	キャリアベーシック・言語Ⅰ		履				●				熊澤美弓	
	3909	キャリアベーシック・言語Ⅱ		履					●			熊澤美弓	

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	10110
科目	1011 文学	授業種別	週間授業
担当教員	島田　大助	単位数	2
その他担当者			
授業概要	文学には文字によって書承されたもの、口承によって伝えられたもの、書承・口承の両面の特徴を持つものがある。読まれ、語り継がれた作品の中には時代によって内容を変えていったものも少なくない。本講義では、主に昔話と呼ばれる作品を取り上げ、その特徴及び魅力について探る。		
授業の到達目標	１．日本の昔話の成り立ちを、神話・説話・御伽草子などとの関係から理解する ２．書承・口承によって受け継がれている日本の昔話の特徴を理解する ３．日本の昔話は、読まれた時代によっての内容が変化していることを理解する		
テキスト（教科書）	テキスト：プリントを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	現在出版されている昔話は、編集者の意図により、同じタイトルでも内容に違いがある。予習として、これらの昔話を読んでおくことが望ましい。		
評価方法	各講義時間中に課す提出物、学期末に課すレポートに基づいて評価する。		
授業計画	第１回　昔話とは 第２回　神話を起源に持つ昔話・因幡の白ウサギ 第３回　神話を起源に持つ昔話・浦島太郎（丹後国風土記・万葉集） 第４回　神話を起源に持つ昔話・浦島太郎（明治時代の授業での扱い） 第５回　神話を起源に持つ昔話・海幸山幸 第６回　竹取物語（物語の構成） 第７回　竹取物語（今昔竹取物語との比較） 第８回　説話・瘤取り爺さん 第９回　御伽草子・一寸法師（御伽草子と現代絵本の比較） 第 10 回　御伽草子・一寸法師（小さ子・申し子・継子としての一寸法師） 第 11 回　御伽草子・鉢かづき 第 12 回　草双紙・かちかち山 第 13 回　草双紙・花咲か爺 第 14 回　草双紙・桃太郎 第 15 回　一休さん・謎々		
ナンバリング	PEFL2012		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	10210
科目	1021 歴史学	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	歴史に苦手意識がある人に対しても、一般教養の試験に必要という人、また、教養を深めたいという人にとっても、将来役に立つ知識をわかりやすく概要する。更に、作業を通して楽しく知識を身につけ、これからの自分の生き方の参考にすることを目指す。		
授業の到達目標	１．日本の歴史、文化に興味、関心を持つ ２．歴史を踏まえ、それぞれの時代の生き方を知る		
テキスト（教科書）	『読むだけですっきりわかる日本史』　後藤武士　宝島社文庫		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	それぞれの講義の終わりに指示する		
評価方法	課題提出と定期テストを３：１の割合で総合評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス　　ー自分の好きな時代とその理由ー 第２回　旧石器から古墳時代 第３回　江戸時代と明治維新 第４回　なるほど　飛鳥時代から天武王朝時代 第５回　あおによし　奈良時代 第６回　千年の都　平安時代 第７回　武士の生き方　鎌倉時代 第８回　南北朝　室町時代 第９回　幸せを求めて　戦国時代 第 10 回　大河ドラマ　真田丸について 第 11 回　平和を求めて　江戸時代 第 12 回　近代の夜明け　明治時代 第 13 回　挫折と頂点　大正、昭和時代 第 14 回　七草とお正月 第 15 回　日本のこれから		
ナンバリング	PEFL2013		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	10410
科目	1041 表現学	授業種別	週間授業
担当教員	朝元　尊	単位数	2
その他担当者			
授業概要	子どもの表現や活動意欲を引き出すためには、保育者自身の表現力や子どもとの関わり方が大切である。この授業では、日本の伝統楽器である和太鼓について、その歴史や扱い方を始め、保育現場で活用できる知識と表現技能を学ぶ。また、日本人としてのリズム、間合いを意識した遊びや表現方法の理解を深め、リズムで表現し、リズムで他者と繋がることの保育的な意義を学ぶ。		
授業の到達目標	１．日本の伝統文化、表現方法を理解し、実践することができる ２．日本の伝統文化と保育の繋がりを理解することができる ３．保育者としての自覚を持ち、自らの課題に取り組むことができる		
テキスト（教科書）	なし		
参考書（参考文献）	適宜資料を配布する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	適宜指示する。実践課題に対しては毎回復習すること。		
評価方法	授業・課題への取り組み方を 50%、発表・課題・小テストの達成度を 50% の割合で総合的に評価する。		
授業計画	授業計画 第１回　ガイダンス 第２回　太鼓の起源（世界の歴史から）・太鼓の扱い方 第３回　太鼓の歴史（日本・文化から）・打ち方の基礎①（所作・基礎打ち） 第４回　太鼓の特徴と種類について・打ち方の基礎②（音の強弱） 第５回　ばちの素材と使い方・作り方について・打ち方の基礎③（音を繋げる） 第６回　日本各地の演奏スタイルと技術・伝統芸能に触れる 第７回　幼児と太鼓（保育や行事での実践事例）・コール＆レスポンス（即興演奏） 第８回　高齢者及び障がい者と太鼓（福祉施設の実践事例）・音の創作（グループワーク） 第９回　太鼓と表現①（低音、中音、高音のアンサンブル） 第 10 回　太鼓と表現②（言葉と太鼓・言葉のリズムの創作） 第 11 回　太鼓と表現③（数字と太鼓・数字のリズムの創作） 第 12 回　太鼓と表現④（自身の特徴を把握する） 第 13 回　太鼓と表現⑤（自身の表現力・集団の表現力を高める） 第 14 回　発表会（全クラス合同） 第 15 回　まとめ（VTR 鑑賞・自己課題・自己評価） ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFL1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	11220
科目	1122 憲法	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	日本国憲法について、皆さんの生活、仕事に身近な話題から、採用試験、就職後まで、関係の深い部分を中心に講義を行う。 最後にまとめのチェックを行うことによって、毎回の講義の内容がその場で確認できるようになっている。日本国憲法に触れていると社会を理解する時に役立つ。これから社会に羽ばたく皆さんに、基礎的な内容を、わかりやすく講義する。		
授業の到達目標	１．憲法の条文を読み基本知識を身につける ２．憲法の重要な論点を理解できる ３．教育現場と憲法についての関係が理解できる 毎回の講義で、この３つについてまとめのチェックを行う。		
テキスト（教科書）	『デイリー六法 2016』 （鎌田　薫　　三省堂　978-4385159577　） 1,800 円		
参考書（参考文献）	『法の世界へ』 （池田　真朗　有斐閣アルマ　978-4641124592 ） 1,700 円		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	毎回の授業計画に基づいて予習復習をすること。 また、ニュース番組を少し見たり、ネットのニュースに関心を持つこと。（講義の冒頭で、憲法とニュースに関係ある話をすることが多いので役立つ。） 復習する際には、自分で、今日の講義から問題を作成すること。（必ず、自分の知識として役に立つ。）		
評価方法	①毎回の講義ごとに行うチェック（毎回回収）40% ②書き込みプリントのでき具合 5% ③定期テスト 50% ④課題提出（作問後提出。自由提出。）5% 以上 4 つで評価する。④の課題提出は、教員の指示に従うこと。		
授業計画	第１回　憲法の三大原則 第２回　国民の三大義務 第３回　思想及び良心の自由 第４回　健康で文化的な最低限度の生活 第５回　社会保険 第６回　プライバシーの権利 第７回　第 96 条（憲法改正） 第８回　前半のまとめ 第９回　選挙制度 第 10 回　国会 第 11 回　裁判所 第 12 回　日本の省庁 第 13 回　著作権（くまもんとひこにゃん） 第 14 回　租税法律主義 第 15 回　労働三権		
ナンバリング	PEFL1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	12460
科目	1246 総合講座	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	「人として、社会人として」社会に巣立つにふさわしい社会人基礎力を修得し、社会情勢を見る眼を養うことを主眼とする。授業では、 一般常識として必要な知識を学ぶと同時に、ニュースを的確に把握出来るようにする。更に、 一般常識から発展して、公務員試験につながる知識を得ることも目標とする。		
授業の到達目標	１．新聞を読んで必要な情報を正しく把握し理解出来る ２．社会人として必要な知識を身に付け、活用出来る ３.一般常識のテストで安定した得点を得ることが出来る		
テキスト（教科書）	就職筆記試験対策問題集【Web テスト付】1,200 円　ウィネット		
参考書（参考文献）	公務員試験を考える場合にもっと問題演習が必要な場合は 完全攻略公務員試験 Web トレーニング 3,800 円		
受講条件	なし。（採用試験の筆記試験対策を中心に行うことを理解して参加すること。）		
準備学習等の内容	毎回、ニュースについての記述を行うので新聞に目を通しておくこと。 図書館に常備してあるので、利用してもらいたい。		
評価方法	授業の復習･授業中の課題への取り組み姿勢を 70%、新聞を読んでの課題を 30% の割合で勘案し、総合評価とする。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新聞を読む①（先週のニュース） 社会人基礎力①（読む力・速さの基礎） 第３回　新聞を読む②（先週のニュース） 社会人基礎力②（言葉の常識・旅人算） 第４回　新聞を読む③（先週のニュース） 社会人基礎力③（社会で使われる用語・通過算） 第５回　新聞を読む④（先週のニュース） 社会人基礎力④（日本国憲法・流水算） 第６回　新聞を読む⑤（先週のニュース） 社会人基礎力⑤（国会・内閣・裁判所、割合の基礎） 第７回　新聞を読む⑥（先週のニュース） 社会人基礎力⑥（四字熟語・成語の常識、濃度計算） 第８回　新聞を読む⑦（先週のニュース） 社会人基礎力⑦（経済の仕組み、損益算） 第９回　新聞を読む⑧（先週のニュース） 社会人基礎力⑧（景気の循環、仕事算） 第 10 回　新聞を読む⑨（先週のニュース） 社会人基礎力⑨（日本の地理・世界の地理、計算の基礎） 第 11 回　新聞を読む⑩（夕刊の連載記事を読む） 社会人基礎力⑩（日本の歴史、虫食い算） 第 12 回　新聞を読む⑪（先週のニュース） 社会人基礎力⑪（社会保障、順列・確率） 第 13 回　新聞を読む⑫（先週のニュース） 社会人基礎力⑫（環境、集合） 第 14 回　新聞を読む⑬（先週のニュース） 社会人基礎力⑬（日本・世界の芸術家、推理） 第 15 回　模擬問題 なお、履修している学生の習熟度により、シラバスの内容が変更となる場合がある。		
ナンバリング	PEFL2011		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	12521
科目	1252 数学基礎	授業種別	週間授業
担当教員	中島　剛	単位数	2
その他担当者			
授業概要	一般常識としての基礎的な数学の知識を再確認し、応用問題に対応できる数的能力の向上を目指す。また数学を必要とする一般就職試験、地方初級公務員試験受験に役立つ知識を学ぶ。		
授業の到達目標	数学で扱う課題について対応できる知識の獲得と、応用力を身につける。また、解法の道具となる計算力の向上を目指す。計算については、早く正確にできるように訓練する中で創造力の向上を図る。また､身近な問題について数学的に解決できる必要最低限の知識と学力をつける。 具体的には、数については実数の四則演算を習熟し、文章題については読解力の向上と解法方法を理解し問題が解ける。		
テキスト（教科書）	プリントを配布する。		
参考書（参考文献）	なし。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	毎回の授業で学習したプリントの復習を必ず行うこと。		
評価方法	期末試験（80%）、課題提出（20%）の割合で総合的に評価する。		
授業計画	第１回　数の計算１（実数・有理数） 第２回　数の計算２（実数・無理数） 第３回　文字式１（式の展開・因数分解） 第４回　文字式２（分数式・式の応用） 第５回　単位の変換 第６回　文章題１（比例関係） 第７回　文章題２（比例関係外） 第８回　方程式・不等式の計算 第９回　方程式・不等式の応用 第 10 回　関数１（一次関数とその応用） 第 11 回　関数２（二次関数とその応用・その他の関数） 第 12 回　図形１（平面図形） 第 13 回　図形２（立体図形） 第 14 回　確率 第 15 回　統計 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFL1007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	12523
科目	1252 数学基礎	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	数学の基礎をおさえる講座である。採用試験の対策のみならず、社会に出てから「数」に親しめるように、テーマを決めて数学を学ぶ。		
授業の到達目標	１.四則演算ができる ２．問題に対する解法パターンを身につける ３．問題に対して積極的な取り組みができる		
テキスト（教科書）	必要な場合は指示をする。		
参考書（参考文献）	必要な場合は指示をする。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	毎回、講義の後に指示をする。 空き時間は公務員スタディールームで復習を行うこと。		
評価方法	毎回の提出物と定期テストを３：１で評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　　基礎的な四則演算 第２回　公約数　倍数 第３回　整数と分数　文字と式　式の値 第４回　比例　反比例 第５回　式の展開 第６回　因数分解 第７回　濃度計算 第８回　速度計算 第９回　１回から８回までの復習 第 10 回　１次方程式 第 11 回　平行線　円 第 12 回　平面図形　空間図形 第 13 回　２次方程式 第 14 回　連立方程式 第 15 回　確率 ※受講学生の進捗状況に応じて内容は変更することもある。		
ナンバリング	PEFL1007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	12710
科目	1271 茶道Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	中神　佐代子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	本学の茶道は南坊流である。茶道の第一の段階は実際にふれなければならない点前の習熟である。本授業では、日本の伝統芸能の一つ、茶道で学ぶ礼儀、作法、誠実の精神を養うことを目的とする。 茶道では主人は客を思い、客は主人を思い、お互いに思いやる心を持ち、茶の湯を行う。茶道具、掛物、季節のお花等にも目をむけ、授業で学習した事をお茶会に参加する事で実践する。 また、創造祭でお茶会を行うので、授業の集大成として主客の心得を体験してもらいたい。		
授業の到達目標	１．茶道を通して、礼儀・作法・誠実の精神を養うこと ２．茶道の基本に習熟すること ３．茶道を通して日本文化を理解すること		
テキスト（教科書）	テキスト：教科書なし。その都度プリントを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	講義時に指示する。四季の花、和菓子にも目をむけて欲しい。		
評価方法	レポート、実技テスト（出席日数、授業態度、総合的に評価する）		
授業計画	点前の作法をまず習うことから、練習を身をもって習う。 第１回　風炉薄茶用の諸道具の説明・お辞儀の仕方・挨拶の仕方・歩き方 第２回　座り方・襖（障子）開閉・床の間の拝見（掛物、お花・花入れ（花びん） 第３回　部分指導（ふくささばき・茶入のふき方・茶杓のふき方・茶巾の扱い方） 部分指導（茶せんとうし・茶碗のふき方・お菓子のいただき方・お茶の飲み方） 第４回　盆点薄茶点前 第５回　主客の実習 第６回　主客の実習 第７回　主客の実習 第８回　主客の実習 第９回　主客の実習 第 10 回　主客の実習 第 11 回　主客の実習 第 12 回　風炉小板薄茶点前（柄杓の扱い方） 第 13 回　主客の実習（水指運ぶ） 第 14 回　主客の実習 第 15 回　実技		
ナンバリング	CPDL1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	12720
科目	1272 茶道Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	中神　佐代子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	本学の茶道は南坊流であります。茶道の第一の段階は実際にふれなければならない点前の習熟であります。日本の伝統芸能の一つ、茶道で学ぶ、礼儀、作法、誠実の精神を養うことを目的とします。 茶道では主人は客を思い、客は主人を思い、お互いに思いやる心を持ち、茶の湯を行います。茶道具、掛物、季節のお花等にも目をむけて授業で学習した事を皆さんにもお茶会に参加する事で実践していただきたいです。 創造祭にお茶会を行いますのでこの機会に主客の心得を体験しませんか。		
授業の到達目標	１．茶道を通して、礼儀・作法・誠実の精神を養うこと ２．基本点前に習熟すること ３．茶道を通して日本文化を理解すること		
テキスト（教科書）	テキスト：教科書なし。その都度プリントを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	「茶道Ⅰ」の単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	講義時に指示する。		
評価方法	レポート、実技テスト（出席日数、授業態度、総合的に評価する） 四季の花、和菓子にも目をむけて欲しい。		
授業計画	点前の作法をまず習うことから、練習を身をもって習う。 第１回　風炉小板薄茶点前　水指運ぶ 第２回　風炉小板薄茶点前　水指運ぶ 第３回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第４回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第５回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第６回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第７回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第８回　色紙箱 第９回　主客の実習 第 10 回　主客の実習 第 11 回　主客の実習 第 12 回　主客の実習 第 13 回　主客の実習 第 14 回　主客の実習 第 15 回　実技		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	12810
科目	1281 硬筆書道	授業種別	週間授業
担当教員	鈴木　陽子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	「文字は人を表す」という。文字には、性格・人柄や知性が表れるという意味である。パソコンの普及や SNS 等の利用により、今の時代、手書きで文字を書く機会は随分と減少した。しかし、そういう時代だからこそ、温かみのある「手で書く文字」の価値が上がってきているともいえる。 幼児教育・保育の現場では、「正しく丁寧な文字」を書くことが要求される。また、「読みやすく整った文字」からは、誠意が伝わり、信頼感も生まれる。 「硬筆書道」では、文字の練習を効率的に行うことにより、手書き文字の質を高め、生活の中で活かしていくことを目的に授業を行う。		
授業の到達目標	１．正しいペンの持ち方、姿勢を身につける ２．ひらがな、カタカナ、数字、アルファベットを正しく整えて書く ３．漢字の基本及び楷書の書き方を習得する ４．手紙・礼状、履歴書など実用的な練習を行う		
テキスト（教科書）	・日経 WOMAN 別冊　やさしい　好感度が上がる「美文字」練習帳　青山浩之監修・手本 （日経 BP 社）　ISBN 978-4-8222-6833-6 ・AERA Mook 大人のたしなみ美しいペン字練習帳　中山佳子著 （朝日新聞出版）　ISBN 978-4-02-278001-0		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業内で適宜指示する。		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方・提出を 70%、実技試験 30% として総合評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　自己診断シートの作成 第２回　正しいペンの持ち方、姿勢の確認。ひらがな単体練習① 第３回　ひらがな単体練習② 第４回　ひらがな語句の練習 第５回　カタカナ単体の練習① 第６回　カタカナ単体の練習②・語句の練習 第７回　数字・アルファベットの練習、詩などの作品を書く。 第８回　百人一首などの作品を書く。 第９回　漢字の基本点画の練習 第 10 回　漢字の部首ごとの練習「へん・かまえ」 第 11 回　漢字の部首ごとの練習「つくり・たれ・にょう」 第 12 回　漢字の語句の練習 第 13 回　漢字かなまじり文の練習 第 14 回　手紙・履歴書等の練習 第 15 回　まとめ、自己診断シートを記入し上達を確認する。 ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	12820
科目	1282 フラワーアレンジメント	授業種別	週間授業
担当教員	高橋　希	単位数	1
その他担当者			
授業概要	現代の住空間､保育環境を意識しながら､四季を楽しみ自然の草花を愛でる伝統文化を理解する。 また、花や道具を扱う基礎的な技術を実践的に学ぶ。		
授業の到達目標	１．植物に関する基本的な知識と技能を身につける ２．命あるものを慈しむ心や美しさを感じる感性、豊かな想像力を身につける ３．自然、植物と親しむことの保育的意義を理解できる		
テキスト（教科書）	特になし。必要な場合は、適宜プリントを配布する。		
参考書（参考文献）	『花育ハンドブック』 （農耕と園芸編集部　誠文堂新光社　978-4-416-71451-5）1,800 円＋税 『水揚げ＆花のケア』 （薄木健友　誠文堂新光社　978-4-416-71214-6）2,000 円＋税		
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	実技の回は、必要な道具類を準備、持参すること。（事前に授業内にて連絡をします。） 事後は授業の内容をまとめておくこと。		
評価方法	平常点（授業態度）40%、小レポート（制作作品、授業内容のまとめ）60%		
授業計画	第１回　ガイダンス ・ 講義　基礎知識１（花の名前、分類） 第２回　講義　季節の花１（ガーベラ、桜について） 第３回　実技　アレンジメント（道具の扱い方、花の挿し方） 第４回　講義　季節の花２（菖蒲、カーネーションについて） 第５回　講義　基礎知識２（花の生産、流通） 第６回　実技　ブーケ（花の色合せ、ラッピング） 第７回　講義　基礎知識３（花の水揚げ、管理方法） 第８回　講義　季節の花３（バラ、紫陽花について） 第９回　実技　アレンジメント（花器と花の組合せ） 第 10 回　講義　季節の花４（百合、マムについて） 第 11 回　講義　花育１（対象、活動方法） 第 12 回　実技　コサージ（ワイヤリングテクニック） 第 13 回　講義　花育２（行事の花） 第 14 回　講義　花育３（企画・計画・運営） 第 15 回　実技　花育プロジェクト（合作） ※生鮮の植物を取り扱うため、天候・気象条件等により授業内容が前後する場合がある。 　また、受講生の習熟度によっては授業計画を変更することもある。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	20100
科目	2010 英語	授業種別	週間授業
担当教員	青嶋　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	言語は、意志を伝えるための道具であると同時に、様々な文化を理解する手がかりともなる。この講座では、英語という言語を通して、日本文化とは異なる文化の一面を、わらべ歌や童話の中に探り、また、幼児教育の現場で必要と思われるコミュニケーションの道具としての英語の習得を目的とする。		
授業の到達目標	１．受講者は、Mother Goose をはじめとする英語の遊び唄を歌える ２．受講者は、英語の遊び唄に合わせて手遊びを行える ３．受講者は、平易な英文を理解出来、身の回りや幼児教育に関わる英単語を使用出来る		
テキスト（教科書）	キッズ英語編集部・編『子どもとうたおう！　マザーグース』（アルク） 他に随時プリント配布		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	英語図鑑の製作については、翌週の講義の際に提出となる。 課題を遅れることなく提出出来るよう製作すること。		
評価方法	授業への参加態度と課題の作成が 50%、試験の点数を 50% として、総合的に評価する。		
授業計画	各回、練習問題を実施する。 第１回　ガイダンス　実力判定試験 第２回　“Colors” SONG：Old MacDonald Had a FARM　&　Twinkle、Twinkle、Little Star 第３回　“Shapes” SONG：Mary Had a Little Lamb　&　Hush-a-bye, Baby 第４回　“Animals” SONG：Six Little Ducks　&　Humpty Dumpty 第５回　“Musical Instruments” SONG：BINGO　&　Where Is Thumbkin? 第６回　“Vegetables” SONG：Under the Spreading Chestnut Tree 第７回“Flowers” SONG：Head, Shoulders, Knees and Toes 第８回　“Annual Events--Spring and Summer--” SONG：Sally, Go Round　&　Eency Weency Spider 第９回　“Annual Events--Autumn and Winter” SONG：Ring-A-Ring O’Roses　&　This　Old　Man 第 10 回　“Twelve Zodiac Signs” SONG：Polly Put the Kettle on　&　Hot Cross Buns 第 11 回　“Occupations” SONG：The Muffin Man　&　Little Peter Rabbit 第 12 回　“Food” SONG：Pat-a-Cake, Pat-a-Cake, Baker’s Man 第 13 回　“House Furniture” SONG：Pease Porridge Hot 第 14 回　“Christmas Ornaments” SONG：The First Noel　&　We Wish You a Merry Christmas 第 15 回　課題一覧票作成　英語図鑑の完成 第 16 回　試験 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFL1008		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	26320
科目	2632 体育講義	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	人間の身体構造や働き、現代的課題を学び、自身の健康維持・増進、ライフプランを考える。		
授業の到達目標	１．人間の身体の仕組みを理解する ２．様々な生活習慣と健康との関係を理解する。 ３．自分自身の健康管理能力を高める		
テキスト（教科書）	適宜指示する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	授業、課題への取り組み方、小テストを 60%、試験を 40% の割合で総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス―健康とは― 第２回　喫煙 第３回　飲酒 第４回　性と命、ライフサイクルを考える（豊橋市保健所との地域連携） 第５回　感染症 第６回　身体諸機能の発育・発達と体力 第７回　筋肉の働き 第８回　格の働き 第９回　肢体不自由の理解 第 10 回　生活習慣病とその予防 第 11 回　アレルギー 第 12 回　ストレス 第 13 回　肥満 第 14 回　けがの予防 第 15 回　応急処置 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PECL1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	26520
科目	2652 体育実技	授業種別	週間授業
担当教員	白柳　佳子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	日常生活において必要な運動量を確保するとともに、豊かな身体表現力を身につけるための基礎的な技術を習得することを目標とする。		
授業の到達目標	１．身体を動かすことの楽しさを理解できる ２．身体的活動を通して仲間と関わることができる		
テキスト（教科書）	『乳幼児のダンスＡＢＣ』（猪崎弥生　山田悠莉著　一二三書房）ISBN978-4-89199-152-4		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	実技課題に対し、自主練習をすることを推奨する。		
評価方法	出席、授業への参加態度、課題の取り組み方を 60%、発表、課題の達成度を 40% の割合で、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（基礎運動について） 第２回　身体活動と表現 第３回　基礎運動とリトミック、ポーズの工夫（個～グループ） 第４回　ダンス①　基本ステップと動き方の工夫（上半身） 第５回　ダンス②　基本ステップと動き方の工夫（腰～足） 第６回　ダンス③　結合ステップと移動の動き（個～グループ） 第７回　ダンス④　模倣運動（グループ活動） 第８回　ダンス⑤　模倣～即興への発展運動 第９回　ダンス⑥　即興～動き方の工夫 第 10 回　ダンス⑦　声（言葉）を使った動き方の工夫（グループ活動） 第 11 回　ダンス⑧　体全体を使った動き方の工夫（グループ評価） 第 12 回　ダンス⑨　音楽と空間の使い方（グループ活動） 第 13 回　ダンス⑩　課題曲による作品作り 第 14 回　課題曲による作品作り、作品発表と鑑賞、自己評価 第 15 回　集団の仲間作り（少人数と大人数） ただし、受講学生の習熟度により内容を変更することもある。		
ナンバリング	PEDL1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	31010
科目	3101 保育者論	授業種別	週間授業
担当教員	杉山　和恵	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この授業では、保育者をその実践及び制度的、政策的、歴史的視点から捉えることにより、専門職としての保育者の社会における位置付けを総合的に理解することを目標とする。さらに、それらの知識を踏まえ、各学生が、保育者という職業人としての意識と自らの保育者像を形成していくことを目指す。		
授業の到達目標	１．保育者の役割を制度的・実践的側面から捉え、社会における位置付けを確認することを通して、保育者としての責務を自覚する。 ２．専門職としての保育者に求められる特質を理解し、自らの資質向上のために課題とすることを明らかにする。 ３．保育者同士の連携、保護者や地域との連携の重要性を認識し、保育・子育てにおける幅広い協力関係の構築に目を向ける。 ４．保育を取り巻く政策や世論に関心を持ち、子どもを中心に据えた保育・子育て環境の充実に向けて主体的に取り組む姿勢を持つ。		
テキスト（教科書）	『保育者論』（田中まさ子編　みらい）ISBN978-4-86015-268-0		
参考書（参考文献）	『幼稚園教育要領』（文部科学省　フレーベル館） 『保育所保育指針』（厚生労働省　フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園　教育･保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省　フレーベル館）		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	テキストや配布プリント、ノートを整理し読み返すことで、授業の復習を行うこと。		
評価方法	授業への参加度と授業中の課題（30%）、筆記試験（70%）をもとに、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　保育者になるということ 第２回　保育者の役割①　子どもに対する役割 第３回　保育者の役割②　保護者への支援 第４回　保育者の役割③　地域における役割 第５回　保育者になるための学び 第６回　保育者の専門性①　法的位置付け 第７回　保育者の専門性②　専門職としての特質 第８回　保育者の資質 第９回　保育者の倫理 第 10 回 保育者としての育ち 第 11 回 保育者の権利と研修 第 12 回 集団としての保育者 第 13 回 保育者と園の管理・運営 第 14 回 保育者の歴史と思想 第 15 回 保育者を取り巻く課題 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEAM2009		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	31110
科目	3111 社会福祉	授業種別	週間授業
担当教員	村上　逸人	単位数	2
その他担当者			
授業概要	社会福祉の意義と目的、利用者ニーズ、社会福祉制度と，その歩みについて学ぶ。社会福祉制度の現状と課題について理解し、専門職として職務に必要な社会福祉の知識を習得する。		
授業の到達目標	１．社会福祉の意義と目的，社会福祉制度と社会福祉の歩みについて説明できる ２．専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる ３．専門職として必要な福祉の基本的知識な知識の活用ができる		
テキスト（教科書）	テキスト　：　『新・プリマーズ　社会福祉』　ミネルヴァ書房		
参考書（参考文献）	授業にて紹介、提示する。		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	各回の授業計画に沿って予習・復習をする。授業を受講するにあたっては、社会福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。		
評価方法	筆記試験を実施し、評価する。場合によっては、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度等は、減点の対象とする。		
授業計画	第１回　ガイダンス（社会福祉の考え方） 第２回　社会福祉をとりまく環境 第３回　社会福祉の歴史 第４回　社会福祉のしくみ 第５回　社会福祉サービスの利用のしくみ 第６回　社会福祉の機関と施設 第７回　社会保障 第８回　低所得者福祉 第９回　子ども家庭福祉 第 10 回　高齢者福祉 第 11 回　障害者福祉 第 12 回　地域福祉 第 13 回　利用者保護制度 第 14 回　社会福祉援助技術 第 15 回　社会福祉の担い手		
ナンバリング	PEBM2005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	31270
科目	3127 相談援助	授業種別	週間授業
担当教員	佐々木　将芳	単位数	1
その他担当者			
授業概要	相談援助業務において、利用者の非言語的なニーズを理解することは高度な専門性を必要とする。しかし、内在化したニーズや、言語的表現手段を持たない相手に対しては、その行動や表情、仕草などを起点としたアセスメントが欠かせない。 本授業では、その様な言語化できないニーズを理解するための視点や技術を習得することを目的とする。		
授業の到達目標	１　ソーシャルワーク、相談援助と保育との関連性について説明できるようになる ２　相談援助の方法と技術について理解し、実行する ３　相談援助の具体的展開について説明できるようになる ４　子どもという発達の過程を歩む人びとを支援する為に、「内面世界に寄り添うこと」や「最大限の発達を保障する」といった視点を学び、ロールプレイなどで取り組めるようになる		
テキスト（教科書）	なし。授業時にレジメを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	特にありません		
準備学習等の内容	通常の講義系科目とは違い、授業の進捗状況によって、ディスカッションやロールプレイ（役割演技）も行う。他の受講者と一緒に積極的に取り組めるようにすること。		
評価方法	授業時の感想、振り返りレポート　40% 課題提出　60% この授業はアクティブラーニングの手法を用いる。授業中に様々なシチュエーションを想定した演習を行うので、消極的な授業態度は減点の対象となることに留意すること。		
授業計画	第１回　相談援助の概要①　相談援助の理論 第２回　相談援助の概要②　相談援助の意義 第３回　相談援助の概要③　相談援助の機能 第４回　相談援助の概要④　相談援助とソーシャルワーク 第５回　相談援助の概要⑤　保育とソーシャルワーク 第６回　相談援助の方法と技術①　相談援助の対象 第７回　相談援助の方法と技術②　相談援助の過程 第８回　相談援助の方法と技術③　相談援助の技術・アプローチ 第９回　相談援助の具体的展開①　保育実践における相談援助の活動と記録 第 10 回 相談援助の具体的展開②　相談機関の役割理解と連携 第 11 回 事例分析①　虐待が疑われる子どもと家族の事例 第 12 回 事例分析②　障害をもつ子どもと家族の支援を考える 第 13 回 事例分析③　実際の場面を想定し、ロールプレイを行う 第 14 回 相談援助の課題　具体的事例から、支援者の葛藤を考える 第 15 回 まとめ ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEBM2007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	31320
科目	3132 児童家庭福祉	授業種別	週間授業
担当教員	木村　哲雄	単位数	2
その他担当者			
授業概要	児童家庭福祉の現場体験から、今日の少子化社会がかかえている様々な児童家庭の問題とその背景、対応するサービス内容や政策動向について事例やデータをとり入れて考える。また、児童の権利保障としての児童家庭福祉の理念や法制度、施策体系などとともに、保育士として社会に出た際に必要となる知識と実際的な保育や子育て家庭支援へのかかわり方の基本についても学ぶ。		
授業の到達目標	１．児童家庭福祉の理念と権利主体者としての子ども観を身につける ２．少子化社会での子ども家庭の諸問題とその現状、対応する法制度やサービス体系を知り、将来の進路選択や社会生活の中で、生かせる様にする ３．児童家庭福祉分野の中心を担う保育士の専門性と子ども家庭支援の内容や役割を学び、支援者としての基本的な心構えをつくる		
テキスト（教科書）	『新保育ライブラリ 児童家庭福祉「新版」』（植木信一編著　　北大路書房） ISBN　978-4-7628-2839-3		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	子ども家庭の福祉制度は年々進展しており、聞き慣れない法律用語や新しい制度政策名も多い。しかし、これらは保育士や幼稚園教諭になった時に、常識として知っておく必要のあるものでもあるので、授業ごとにテキストや配布する資料等での予習、復習に加え、新聞等で子ども家庭のニュースや子育て支援に関する記事等に目を通しておくことをすすめる。		
評価方法	期末の筆記試験による成績（70%）と、授業での参加態度、課題や質問等への取組姿勢（30%）によって総合的に評価する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション・児童家庭福祉とは 第２回　児童家庭福祉の理念と概念 第３回　児童家庭福祉の歴史的変遷 第４回　児童の権利条約と国内の法整備 第５回　児童家庭福祉に関わる制度と法体系 第６回　児童家庭福祉の行財政と実施機関 第７回　児童家庭に関わる施設や専門職 第８回　保育サービスとその実際 第９回　母子保健サービスと児童健全育成施策 第 10 回 障害児の福祉サービスと要保護児童の自立支援 第 11 回 ひとり親家庭支援サービスと子どもの貧困問題 第 12 回 児童虐待や学校生活上の児童問題とその対応 第 13 回 国際社会と児童家庭福祉 第 14 回 少子化問題と子育て支援施策の推進 第 15 回 子ども・子育てに関わる施策動向と展望		
ナンバリング	PEBM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	31420
科目	3142 保育原理	授業種別	週間授業
担当教員	佐野　真一郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	保育・幼児教育に関する基本的な知識、そしてこれからの新しい保育動向を視野におさめつつ学習する。具体的には、保育の意義・歴史・子ども理解・保育内容や方法・環境や遊具など保育実践に必要な理論的な部分を修得し、子どもたちにふさわしい保育者としてのあり方を考えられるようにしていく。		
授業の到達目標	１．保育の意義・歴史を理解する ２．わが国の保育制度を知る ３．多様化する保育ニーズを知る ４．「子ども」を理解し、適切な保育観を持つ		
テキスト（教科書）	未定		
参考書（参考文献）	適宜指示する。		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	厚生労働省関係・文部科学省関係、内閣府関係の新聞記事（保育について）は必ず読むように努めること。また、講義前の予習（教科書の該当箇所を読む）、講義後の復習（知らない語句等を確認し、覚える）を必ず行うこと。		
評価方法	授業態度（30%）、筆記試験のおよび提出課題（70%）の割合で評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　幼児保育・教育の基本（保育を学ぶ人たちへ） 第２回　保育の基本（子どもの最善の利益とは何か） 第３回　保育における「子ども」理解 第４回　保育の制度と現状１（保育所、幼稚園、こども園について） 第５回　保育の制度と現状２（わが国の保育政策動向） 第６回　保育の制度と現状３（諸外国の保育制度について） 第７回　保育の歴史１（西欧における保育施設の誕生と歴史） 第８回　保育の歴史２　（日本における保育施設誕生と発展） 第９回　保育の意義・理念１（養護と教育の一体性等） 第 10 回　保育の意義・理念２（保育の社会的意義等） 第 11 回　保育者の専門性について 第 12 回　保育の方法について（個と集団、保育形態と保育方法等について） 第 13 回　多様な子どもの保育への対応（安全、事故、危機管理等を含む） 第 14 回　多様化する保育ニーズを考える 第 15 回　まとめ（保育の現状と課題について、未来の保育者へ託すこと） ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEAM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	31620
科目	3162 社会的養護	授業種別	週間授業
担当教員	太田　一平	単位数	2
その他担当者			
授業概要	講師は、児童養護施設の施設長で、日々施設で子ども達の処遇を行う実践者である。この講義を通して児童福祉施設の援助者の要である保育士の役割について学び、また施設実習へ向けての心構えや留意点について現場から見た視点で伝えるとともに、下記の目標を中心に専門職としての知識修得に努める。		
授業の到達目標	１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する ２．社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する ３．社会的養護の制度や実施体系等について理解する ４．社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する ５．社会的養護の現状と課題について理解する		
テキスト（教科書）	テキスト：『新選　児童の社会的養護原理』 株式会社みらい		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	テスト（60%）、受講態度（40%）などによる総合評価とする。		
授業計画	１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 第１回　社会的養護の理念と概念 第２回　社会的養護の歴史的変遷 ２．社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 第３回　児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 第４回　児童の権利擁護と社会的養護 ３．社会的養護の制度と実施体系 第５回　社会的養護の制度と法体系 第６回　社会的養護の仕組みと実施体系 第７回　家庭的養護と施設養護 第８回　社会的養護の専門職・実施者 ４．施設養護の実際 第９回　施設養護の基本原理 第 10 回　施設養護の実際－日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 第 11 回　施設養護とソーシャルワーク ５．社会的養護の現状と課題 第 12 回　施設等の運営管理 第 13 回　倫理の確立 第 14 回　被措置児童等の虐待防止 第 15 回　社会的養護と地域福祉		
ナンバリング	PEBM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	31810
科目	3181 教育原理	授業種別	週間授業
担当教員	佐野　真一郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	「教育」とは一体何であるのか。受講生はこれまで、家庭・学校・社会と様々な場面で教育を受けた経験があるはずだ。その経験や、１年生の保育所・幼稚園実習での経験を礎にしながら、本講義では受動的な形ではなく、積極的に「教育」について考える力、発表する力を養いたいと思う。		
授業の到達目標	１．代表的な幼児教育思想を概観できる ２．その思想の理解を踏まえたうえで、健全な幼児教育観の涵養して行く力をつける ３．現代の幼児教育の課題を知る		
テキスト（教科書）	森上史朗監修『最新保育資料集 2016』ミネルヴァ書房 , 2000 円（税別）		
参考書（参考文献）	適宜指示する。		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業時に適宜指示する。 【講義後には重要キーワードを復習し、講義前には必ず講義予定分の（教科書の）箇所を読んでおくこと】		
評価方法	授業態度 25%、レポート 5%、試験 70% で評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　　教育とは何か 第２回　あなたが「先生」とよばれるとき 第３回　教育（保育）を実践する者になるには？（ 教育と児童福祉の関連性を含む） 第４回　子どもへの理解１（生活と発達） 第５回　子どもへの理解２（環境としての家庭、子どもの権利等） 第６回　教育の意義と目的１（教育とは何か） 第７回　教育の意義と目的２（教育の目的と変遷） 第８回　教育の歴史１（子ども観の変遷）、DVD「フレーベルの教育」 第９回　教育の歴史２（教育思想の展開）、DVD「モンテッソーリ教育」 第 10 回　教育の歴史３（我が国での幼児教育の展開）、、DVD「シュタイナー教育」 第 11 回　教育の制度（教育制度の仕組み、各国の就学前教育）、DVD「オランダの幼児教育」 第 12 回　自己評価から第三者評価まで（評価の意味） 第 13 回　教育が抱える現代的課題（生涯学習社会の抱える問題等） 第 14 回　幼児教育の課題と未来（少子化問題等） 第 15 回　まとめに代えて～教育原理的知見から、現代の幼児教育を考える～ ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEAM2008		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	32120
科目	3212 子どもの心理学	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　知佳子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	保育実践に必要な心理学の知識を習得する。基本的な子どもの発達過程を学ぶとともに、子どもの発達に必要な社会的・物理的環境、初期経験の重要性、生涯発達などについて学ぶ。		
授業の到達目標	１．子どもの認知・感情・社会性の発達の概略を理解している ２．子どもの発達とその支援を生涯発達の視点から考えられる ３．上記の基礎的な理解を具体的な保育実践と関連づけることができる		
テキスト（教科書）	テキスト：『保育の心理学　第二版』（相良順子他著　ナカニシヤ出版）ISBN-10: 4779507510		
参考書（参考文献）	随時、紹介する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	履修前の準備学習は特に必要ないが、小テストを数回実施する予定なので、そのつど必ず試験範囲を学習すること。		
評価方法	小テストおよび課題：20% 学期末試験：80% ただし、小テストや課題の回数によっては、比率を変更することもある。		
授業計画	第１回　なぜ発達を学ぶのか 第２回　発達にかかわる要因 第３回　運動の発達 第４回　知覚の発達 第５回　認知の発達 第６回　感情の発達 第７回　ことばの発達 第８回　人とのかかわりと発達：愛着と基本的信頼感の獲得 第９回　友達関係と遊びの発達 第 10 回　記憶の発達 第 11 回　学びのしくみ 第 12 回　やる気と環境 第 13 回　発達段階と発達課題 第 14 回　乳幼児期以降の発達 第 15 回　発達援助と評価 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PECM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	32130
科目	3213 子どもの心理学演習	授業種別	週間授業
担当教員	斎藤　善郎	単位数	1
その他担当者			
授業概要	子どもの発達についての理解を深め、保育実践の中でどのように生かしていくかを学ぶ。また、保育場面の具体的な事例をもとに、そこでの子どもの育ちの姿や子どもの心理について学び、保育での対応の仕方について考える。		
授業の到達目標	１．実際の保育場面での子どもへの対応を理解する ２．子どもの心理を踏まえて対応する力を育む		
テキスト（教科書）	テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	幼児の発達の姿を「保育実習」「教育実習」の経験から、具体的なイメージをもって授業に出席すること。		
評価方法	①配布するプリントへの記入状況 40% ②筆記試験 30% ③受講態度 30% ①から③の総合評価		
授業計画	第１回　保育観の時代的変遷と保育者（中世ヨーロッパから近世） 第２回　保育観の時代的変遷と保育者（日本における保育） 第３回　最近の保育観 第４回　子どもの行動と心理 第５回　子どもの心の育ちと保育 第６回　子どもの発達（身体活動・情緒の発達） 第７回　子どもの発達（思考の発達） 第８回　子どもの発達（人間関係の発達） 第９回　子どもの発達（社会性・言葉の発達） 第 10 回　発達の連続性と発達の個人差 第 11 回　事例に見る「三歳児の発達と心の育ち」 第 12 回　事例に見る「四歳児の発達と心の育ち」 第 13 回　事例に見る「五歳児の発達と心の育ち」 第 14 回　子どもの心を読む（行動の裏に隠された心理） 第 15 回　最近の社会環境における子どもの発達と心理		
ナンバリング	PECM2007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	32140
科目	3214 子どもの保健Ⅰ	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	小林　敦子	単位数	4
その他担当者			
授業概要	子どもの持つ成長・発達の力を最大限に発揮できるように支援し、子どもの健康を保持・増進させるための基礎的知識や考え方を学ぶことが本科目の大きな目的である。また、近年の子どもをとりまく生活環境が、子どもの健やかな育ちに及ぼしている様々な課題と対応についても学びを深めて行きたい。		
授業の到達目標	1.一人ひとりの子どもの成長発達をふまえ「健康」「保健」の意義について学び、考えを深める 2. 子どもの心とからだの病気・障がいについての知識を学び、その予防と対応の方法を習得する 3. 子どもの事故の現状を知り予防のための安全管理・安全教育について知識を身につける 4. 母子保健の現状についてを学び保育者の視点での課題や子ども・家族への支援について考えを深める		
テキスト（教科書）	『子どもの保健Ⅰ』（佐藤益子編著　ななみ書房）ISBN 978-4-903355-26-9		
参考書（参考文献）	『最新　保育保健の基礎知識　2013』 （巷野悟郎監修　日本小児医事出版）　ISBN 978-4-88924-9 C3047		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習すること。また、子どもの健康や保健にかかわる新聞記事等を関心を持って購読すること。		
評価方法	授業への参加態度、レポート（20%）、筆記試験の結果（80%）をもとに評価する		
授業計画	春学期 1　ガイダンス　保育における保健の意義と目的 2　子どもの健康概念と指標 3　発育発達の基本原則 4　乳幼児期の発育の特徴と保健 5　学童期・思春期の発育の特徴と保健 6　身体発育の評価 7　運動機能の発達（神経系の発育と反射） 8　運動機能の発達（粗大運動と微細運動） 9　精神機能の発達（感覚機能） 10　精神機能の発達（言語・情緒） 11　精神機能の発達（社会性・認知機能） 12　精神発達の評価 13　生理機能の発達（体温・呼吸・循環等） 14　生理機能の発達（消化・排泄・睡眠等） 15　生理機能の発達（内分泌・感覚器等） 秋学期 16　子どもの安全と事故 17　子どもに多いけがと対応 18　保育現場における安全対策と事故防止 19　子どもの病気と健康管理 20　症状の観察と対応（痛み、発熱、発疹） 21　症状の観察と対応（嘔吐、下痢、脱水、けいれん） 23　感染症の予防と対策 24　主な感染症の特徴と対応 25　予防接種の基礎知識 26　子どものアレルギー性疾患 27　子どもの精神保健（心身症） 28　子どもの精神保健（虐待） 29　子どもの精神保健（発達障害） 30　子どもの生活環境と保健 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	PECM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	32150
科目	3215 子どもの保健Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	鈴木　佐和子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	「子どもの保健Ⅰ」で習得した知識を演習等でより具体的に学び、保育者として実践的な技術を身につける。健康状態・異常の早期発見・疾病の予防・看護・応急処置・安全管理について学ぶ。 演習では、グループで各自が実践し、観察者、チェック者など役割分担し準備や片付けを行う。 演習内容は、養護技術と応急処置に重点を置く。		
授業の到達目標	子どもの成長発達に見合った養護技術を身につけ、援助できる 子どもの疾病及び、予防、事故への適切な対応技術を習得する		
テキスト（教科書）	テキスト：『子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子（編著） 創成社）ISBN978-4-7944-8057-6		
参考書（参考文献）	『子どもの保健Ⅰ』 テキストでは不足と思われる内容については授業で資料として配布する。		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	受講態度、プレテスト、演習レポート、試験の成績で総合評価する。		
授業計画	１．オリエンテーション ２．子どもの健康観察と健康管理（健康状態を把握するポイント） ３．子どもの健康観察と健康管理（バイタルサイン測定・健康診断） ４．子どもの養護と教育（抱っこ・おんぶ・おむつ交換） ５．子どもの養護と教育（調乳・授乳・離乳食） ６．子どもの養護と教育（手洗い・うがい・歯磨き・爪切りなど） ７．子どもの養護と教育（沐浴・衣服） ８．子どもの発育・発達の観察と評価（体重・身長・頭囲・胸囲など） ９．子どもの発育・発達の観察と評価（発育の評価） 10. 子どもの生活習慣への援助と教育 11. 子どもの体調不良等への対応（冷罨法・嘔吐時の対応など） 12. 保育における応急処置（止血法・熱傷・誤飲など） 13. 保育における応急処置（包帯法・心肺蘇生法など） 14. 保育環境と安全対策 15. 地域との連携・子どもたちのためにできること・まとめ		
ナンバリング	PECM2006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	32160
科目	3216 子どもの食と栄養	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	武田　康代	単位数	2
その他担当者			
授業概要	子どもの発育・発達と食生活の関連について、栄養の基本的概念を踏まえ理解を深める。健康な生活の基本としての食生活の意義や、食育のための環境について考えることを目的とする。 また、子どもの食と栄養を支援する保育者の役割を理解し、具体的な演習を通して適切な支援の仕方を修得する。		
授業の到達目標	１．食育のための環境を理解できる。 ２．現代の子どもたちの食生活の現状と課題について理解できる。 ３．特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解できる。		
テキスト（教科書）	テキスト：『子どもの食と栄養』（峯木真知子 他 （株）みらい ， 2.200 円） ISBN 978-4-86015-348-9		
参考書（参考文献）	『子どもの食と栄養』（児玉浩子　他　中山書店） 『食物アレルギーの基礎と対応』（宇理須厚雄 （株）みらい）		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	「食育演習ノート」を配付する。各自、食に対する問題意識を持ち取り組むこと。次回とり上げる演習課題に対して予習をすること。子どもたちの食生活や食の安全性について常に関心をもち整理・復習すること。		
評価方法	レポート提出状況（40%） 実技・筆記試験（60%）で総合評価する。 特に調理実習では、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度などは減点の対象とする。		
授業計画	第１回　ガイダンス　子どもの健康と食生活の意義 第２回　子どもの発育・発達と食育の重要性 第３回　栄養に関する基本的知識　炭水化物 第４回　栄養に関する基本的知識　たんぱく質 第５回　栄養に関する基本的知識　脂質 第６回　栄養に関する基本的知識　ビタミン・ミネラル 第７回　基礎栄養学のまとめ（小テス） 第８回　食事摂取基準　献立作成　調理の基本 第９回　子どもの発育・発達と食生活　授乳・離乳の意義 第 10 回　子どもの発育・発達と食生活　幼児期　　食物アレルギー 第 11 回　子どこの発育・発達と食生活　学童期 第 12 回　子どこの発育・発達と食生活　生涯発達と食生活 第 13 回　食育の基本と内容 第 14 回　家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第 15 回　食育のための環境　まとめ 第 16 回　衛生管理　調理実習室の使い方 第 17 回　乳児期の授乳・離乳の意義 第 18 回　乳児期の離乳 （生後 5.6 か月） 第 19 回　乳児期の離乳 （生後 7.8 か月） 第 20 回　乳児期の離乳 （生後 9 から 11 か月） 第 21 回　乳児期の離乳 （生後 12 から 18 か月） 第 22 回　幼児期の食生活 第 23 回　学童期の食生活 第 24 回　食物アレルギーのある子どもへの対応 第 25 回　疾病および体調不良の子どもへの対応 （緊急時対応食） 第 26 回　クッキング保育　食育プログラム 第 27 回　食育の内容と計画および評価 第 28 回　自主献立　５歳児対象のお弁当作り　献立作成　調理計画（Plan） 第 29 回　自主献立　調理実習（Do） 評価（Check） 第 30 回　子どもの食と栄養　まとめ　改善（Action） ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもあり得る。		
ナンバリング	PECM2005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	32810
科目	3281 障害児心理学	授業種別	週間授業
担当教員	佐々木　将芳	単位数	2
その他担当者			
授業概要	障害児への発達支援を行っていく上で、障害児の心理や発達を理解することは不可欠である。ここでは、障害全般についての理解を深め、それぞれの障害について、援助のために必要な心理学的理論についても、学習する。		
授業の到達目標	１．障害の各特性について、説明できる ２．類似する障害の特性について理解し、支援上の上で留意すべき事を説明できる ３．障害の特性理解に依拠した、保育、支援計画を作成できるようになる		
テキスト（教科書）	授業で指示する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	「障害児保育」、「子どもの心理学」は密接に関連する。それぞれの授業内容をしっかり復習した後、受講すること。		
評価方法	授業内で視聴した視聴覚教材のレポート　60% 授業終了時の総括レポート　40%		
授業計画	第１回　ガイダンス・オリエンテーション 第２回　障害の概念を理解する① 第３回　障害の概念を理解する②（国際生活機能分類を中心に） 第４回　障害をもつ人の社会参加 第５回　発達と障害① 第６回　発達と障害② 第７回　障害児の心理①知的障害 第８回　障害児の心理②ダウン症 第９回　障害児の心理③自閉性障害 第 10 回　障害児の心理④自閉性障害 第 11 回　障害児の心理⑤ LD ／ ADHD 第 12 回　障害児の心理⑦肢体不自由 第 13 回　障害児の心理⑧重症心身障害 第 14 回　過去の療育実践から考える 第 15 回　発達検査の理解と実践への応用 ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEBM2008		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	32950
科目	3295 教育相談	授業種別	週間授業
担当教員	斎藤　善郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	子育て環境の多様化や少子化の流れの中で、子育てに不安を感じる保護者が多くなってきている。それに伴い、子育てへの支援が、幼稚園・保育園等で働く保育者にも必要とされるようになってきた。子育てへの支援は、幼児と向き合うことにとどまらず、保護者の悩みを聞いたり、相談にのったりと多岐にわたる。ここでは、保護者からの相談にのる際に知っておきたい知識や方法について学ぶとともに、子どもとの暖かい信頼関係を築く方法について学んでいくことを目的とする。		
授業の到達目標	１、子育てに悩む保護者の相談に寄り添う方法を習得する ２、子どもの発達の姿や内面を理解し、援助の仕方を習得する ３、保育場面における子どもとの信頼関係づくりの方法について学ぶ		
テキスト（教科書）	毎回プリントを配布する		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	話の主旨を聞きとる姿勢を育て、配布するプリントに聞いたことをまとめる習慣を身につけること。それが相談に来られた方の思いを聴きとる基本になる。		
評価方法	①配布したプリントへの記入状況 40% ②筆記試験 30% ③受講態度 30% ①～③の総合評価		
授業計画	第１回　教育相談の意義 第２回　カウンセリング的援助と教育相談 第３回　子育て環境の変化と子育て（少子化の問題） 第４回　子育て環境の変化と子育て（社会の変化・情報の変化） 第５回　育児不安はなぜおこるのか 第６回　クローズ・アップされる心の問題 第７回　教育相談の仕方（傾聴の大切さ） 第８回　教育相談の仕方（聴く方法） 第９回　教育相談の仕方（信頼関係を築く） 第 10 回　幼児期に育てたいこと（愛着の形成） 第 11 回　幼児期に育てたいこと（発達課題） 第 12 回　親の育児態度と子ども（気質と環境） 第 13 回　親の育児態度と子ども（過保護・過干渉） 第 14 回　親の育児態度と子ども（ネグレクト・虐待） 第 15 回　子育て相談での相談事例		
ナンバリング	PEBM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	32970
科目	3297 家庭支援論	授業種別	週間授業
担当教員	中島　美奈子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	現代の社会では、様々な環境におかれた家庭の状況や子育てに対する課題があり、支援が必要とされている。本授業では、保育現場や地域における子育て支援の取り組みや専門機関との連携について学ぶことを通して、支援を必要とする保護者や子どもに対する理解を深める。また、保育者として実際に様々な相談の内容や支援方法について触れ、家庭支援に必要な知識と技術を学ぶ。		
授業の到達目標	１．家庭の意義及び子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する ２．家族支援の目的や関係機関との連携について把握する ３．家庭支援の多様性と支援の実際について理解を深める		
テキスト（教科書）	『よくわかる　子育て支援・家庭支援論』（大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗　編　ミネルヴァ書房）2,400 円 + 税		
参考書（参考文献）	『幼稚園教育要領』（文部科学省） 『保育所保育指針』（厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省）		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をすること。		
評価方法	授業態度で 30%、課題提出で 30%、筆記試験で 40% の配分で評価する。		
授業計画	第１回　現代の子育て家庭の状況と家庭支援の目的 第２回　家庭の意義及び子育て家庭を取り巻く社会的状況 第３回　我が国の子育て支援政策の流れ 第４回　子育て支援事業の概要と関係機関 第５回　子育てをめぐる様々な問題と家庭支援の方法 第６回　親としての育ちを支援するための保育者の資質 第７回　保育所・幼稚園における子育て支援の実際① 保育所通園児家庭への支援の視点 第８回　保育所・幼稚園における子育て支援の実際② 保育所通園児家庭への支援の事例 第９回　保育所における子育て支援活動の見学①　～子どもの育ちを伝える保育の展開～ 第 10 回 保育所における子育て支援活動の見学②　～子どもの育ちを伝える園行事～ 第 11 回 地域の子育て家庭への支援の視点と保育者の役割 第 12 回 保育所における子育て支援活動の見学① 親子ひろばの実践に向けての保育者の姿勢及び事例 第 13 回 保育所における子育て支援活動の見学② 親子ひろばの見学及び参加実践 第 14 回 育てにくさや障害を持つ子どもの子育てを支援する保育者の姿勢 第 15 回 特別なニーズを持つ家族と支援のあり方 ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更することがある。		
ナンバリング	PEBM2009		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	32980
科目	3298 保育課程論	授業種別	週間授業
担当教員	杉山　和恵	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この授業では、保育の計画と評価の意義について理解し、その内容と手順を理論的、実践的に捉えることを目標とする。具体的な内容としては、カリキュラムの基礎理論を保育所保育指針及び幼稚園教育要領との関連において理解した上で、保育課程・教育課程の編成及び保育課程・教育課程を実践に移すための指導計画の作成について学ぶ。さらに、実践後の評価と計画の改善により、保育の質の向上を図るプロセスを理解する。		
授業の到達目標	１．保育の計画と評価の意義について理解し、計画、実践、評価、改善の循環サイクルを自ら実践することができる ２．保育の計画の体系を把握し、各種の計画間の関係を実践との関わりの中で理解する ３．保育課程・教育課程の意味と編成の手順を理解し、その編成における保育者及び保護者、地域との協働に主体的に参加しようとする姿勢を持つ ４．様々なカリキュラムの存在に関心を持ち、国内外の多様な保育実践から学ぼうとする意欲を持つ		
テキスト（教科書）	『保育課程・教育課程総論』（柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編　ミネルヴァ書房） ISBN978-4-623-05733-7 『幼稚園教育要領』（文部科学省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81240-2 『保育所保育指針』（厚生労働省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81241-9 『幼保連携型認定こども園　教育･保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省　フレーベル館） ISBN978-4-577-81367-6		
参考書（参考文献）	適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	テキストや配布プリント、ノートを整理し読み返すことで、授業の復習を行うこと。		
評価方法	授業への参加度と授業中の課題（30%）、筆記試験（70%）をもとに、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　保育における計画 第２回　カリキュラムの基礎理論 第３回　様々なカリキュラム 第４回　幼稚園における教育課程 第５回　保育所における保育課程 第６回　指導計画の種類と体系 第７回　長期の指導計画 第８回　短期の指導計画 第９回　指導計画作成の実際 第 10 回 保育の記録と省察 第 11 回 保育の評価 第 12 回 自己評価の実際 第 13 回 保育内容の変遷と計画 第 14 回 保護者・地域との連携 第 15 回 小学校との連携 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEAM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	34020
科目	3402 子どもと生活	授業種別	集中講義
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	ネイチャーゲームの実践を通して、まず自分自身の「自然への気づき」を育む。そして、自然や環境への理解を深め、子どもたちの自然体験、社会体験を豊かにすることのできる知識と技術の習得を目標とする。		
授業の到達目標	１．五感を使って身近な自然に親しむことができる ２．子どもを取り巻く環境、自然を理解できる ３．安全で豊かな自然体験の為に必要な指導・援助を理解できる		
テキスト（教科書）	講座説明会（日時決定次第掲示）の際に指示する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	別途費用が必要。（詳細は講座説明会にて説明する）		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	検定に合格し、ネイチャーゲームリーダー資格を取得した学生に対して単位を認定する。授業への取り組み方、模擬指導を 80%、課題を 20% の割合で総合的に評価する。		
授業計画	第１回　自然体験活動の理念 第２回　自然の理解①（講義） 第３回　自然の理解②（アクティビティ） 第４回　対象となる参加者を知る 第５回　人と自然、社会、文化のかかわり①（講義） 第６回　人と自然、社会、文化のかかわり②（アクティビティ） 第７回　自然体験活動の基礎技術①（講義） 第８回　自然体験活動の基礎技術②（アクティビティ） 第９回　自然体験活動の指導法①（講義） 第 10 回　自然体験活動の指導法②（アクティビティ） 第 11 回　フローラーニングとプログラムの作り方 第 12 回　検定（指導実践を含む）と振り返り（公社シェアリングネイチャー協会講師） 第 13 回　安全対策について①（講義） 第 14 回　安全対策について②（アクティビティ） 第 15 回　アクティビティの指導実践		
ナンバリング	PEDM1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	34120
科目	3412 保育内容総論	授業種別	週間授業
担当教員	杉山　和恵	単位数	1
その他担当者			
授業概要	この授業は、保育内容を総合的に捉え、その理論的裏付けと実践との関連を明らかにすることを目標とする。具体的には、幼稚園と保育所における保育内容の基準を学び、その構成要素についての知識を得た上で、それらを実際の保育の計画に組み込んでいくプロセスを理解することを目指す。保育内容の各領域についての特殊性を学ぶ前提となる、保育内容の全体構造と領域間相互の関係を理解するための総論として位置付く科目である。		
授業の到達目標	１．保育の目標と内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づきながら考察し、領域間相互の関係及び養護と教育の関係の理解を踏まえ、保育内容の全体構造を把握する ２．子ども理解と保育内容の関係が分かり、子どもの発達過程や個々の特性を踏まえた保育内容の重要性を認識する ３．環境を通して行う教育・保育の意味を理解し、その方法について具体的に考案することができる。 ４．社会の動向や保育ニーズの変化に伴い、変容し多様化する保育内容について関心を持つ		
テキスト（教科書）	『保育内容総論』（塩美佐枝編　同文書院）ISBN978-4-8103-1292-8 『幼稚園教育要領』（文部科学省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81240-2 『保育所保育指針』（厚生労働省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81241-9 『幼保連携型認定こども園　教育･保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81367-6		
参考書（参考文献）	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省　フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省編　フレーベル館）		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	テキストや配布プリント、ノートを整理し読み返すことで、授業の復習を行うこと。		
評価方法	授業への参加度と授業中の課題（30%）、筆記試験（70%）をもとに、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　保育内容の５領域 第２回　幼稚園制度と保育所制度①　法的根拠 第３回　幼稚園制度と保育所制度②　設備の基準 第４回　幼稚園教育要領における保育内容①　幼稚園教育の基本 第５回　幼稚園教育要領における保育内容②　ねらいと内容 第６回　保育所保育指針における保育内容①　保育所の特性 第７回　保育所保育指針における保育内容②　ねらいと内容 第８回　環境を通して行う教育・保育①　保育の環境 第９回　環境を通して行う教育・保育②　ねらい・内容と環境 第 10 回 幼稚園における計画の構造と内容 第 11 回 保育所における計画の構造と内容 第 12 回 保育の観察と記録 第 13 回 保育の評価と計画 第 14 回 保護者への支援 第 15 回 幼保小連携 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEAM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	34220
科目	3422 保育内容・健康	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	子どもの健康・発育発達の知識を身につけ、子どもが健やかに成育するために必要な指導・援助について考える。又、現在の保育ニーズを踏まえながら、保育者の視点に立って、子どもの健康についての理解を深める。		
授業の到達目標	１・子どもの健康、発育発達を理解できる ２・子どもが健やかに生育するための指導・援助を理解できる ３・子どもを取り巻く現代的課題やニーズを理解できる		
テキスト（教科書）	『子どもの元気を取り戻す　保育内容・健康』（池田裕恵編著　杏林書院 ） ISBN978-4-7644-1120-3		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	授業、課題への取り組み方、小テストを 60%、筆記試験を 40% の割合で総合的に評価する。		
授業計画	第１回　現代の子どもの姿 第２回　領域「健康」 第３回　情緒・感情の発達と人とのかかわり 第４回　身体諸機能の発達 第５回　運動の発達 第６回　あそびの意味・発達 第７回　からだで遊ぶあそびの特徴 第８回　健康な生活リズム 第９回　基本的生活習慣（睡眠・排泄・衣服の着脱・清潔） 第 10 回　基本的生活習慣（食事） 第 11 回　子どもの健康と病気の予防 第 12 回　子どものケガ・事故 第 13 回　安全管理と安全教育 第 14 回　災害対策と避難訓練 第 15 回　現代的課題 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEAM1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	34320
科目	3432 保育内容・人間関係	授業種別	週間授業
担当教員	杉山　和恵	単位数	1
その他担当者			
授業概要	この授業では、保育内容における「人間関係」とは何を目的とし、どのような内容を扱うべきかを考えていく。子どもが初めての集団生活を経験する保育所・幼稚園において、子どもの自主性と社会性の発達は、子どもの生活の展開そのものであり、また人格形成の根幹を成すものである。この授業では、これらの発達を援助することの重要性をまず確認し、それを日々の保育の中に織り込んでいくことの意識化を図りたい。		
授業の到達目標	１．保育内容における「人間関係」は、何をねらいとし、どのような内容を取り扱うべきかを幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づきながら確認し、子どもの中に育てるべきことがらを主体的に追究する ２．子どもの発達過程において、子どもが自分自身をどう捉え、また人との関わりをどのように築いていくか、基礎的な理論も踏まえながらその傾向を掴む ３．集団生活の中で、子どもが自己を発揮しながら協同性を身に付けていくために相応しい具体的活動や遊びなどを考案することができる。		
テキスト（教科書）	『保育内容　人間関係』（濱名浩編　みらい）ISBN978-4-86015-180-5 『幼稚園教育要領』（文部科学省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81240-2 『保育所保育指針』（厚生労働省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81241-9 『幼保連携型認定こども園　教育･保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省　フレーベル館）ISBN978-4-577-81367-6		
参考書（参考文献）	適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	テキストや配布プリント、ノートを整理し読み返すことで、授業の復習を行うこと。		
評価方法	授業への参加度と授業中の課題（40%）、筆記試験（60%）をもとに、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　５領域における「人間関係」 第２回　子どもを取り巻く環境と人間関係 第３回　子どもの人間関係をめぐる現代的課題 第４回　幼稚園教育要領における「人間関係」 第５回　保育所保育指針における「人間関係」 第６回　子どもの発達と人間関係 第７回　遊びの発達と人間関係①　遊びの分類と発達 第８回　遊びの発達と人間関係②　遊びのなかの人間関係 第９回　乳児期における人とのかかわり 第 10 回 幼児期における人とのかかわり①　自我の発達 第 11 回 幼児期における人とのかかわり②　協同する経験 第 12 回 集団生活、集団づくり 第 13 回 異年齢間のかかわり 第 14 回 親子関係 第 15 回 地域社会とのかかわり ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEAM1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	34420
科目	3442 保育内容・環境	授業種別	週間授業
担当教員	藤城　民男	単位数	1
その他担当者			
授業概要	保育にとって領域とは何か。そして保育内容「環境」はどのような位置づけにあるのか。保育園や幼稚園における保育実践を推測し、保育者が子どもたちとかかわりながら子どもたちが環境とどのようにかかわっているのか、またそのかかわりが領域「環境」の内容として示されている具体的な経験として蓄積されていくためには、どのような環境構成や援助が求められてくるのか。これらについて具体的に考えていく力を身に付けるとともに保育とは何か、保育者とはどうあるべきかという基本概念も含めて習得する。		
授業の到達目標	１．領域「環境」のねらい、内容を理解する ２．子どもの育ちと環境との関わりを理解する ３．環境構成や援助を具体的に修得する		
テキスト（教科書）	『演習保育内容環境』　柴崎正行　編著　建帛社		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	講義時に指示する。		
評価方法	授業内容を毎日綴る学習ノートＡ４判（課題レポート、作品は必ず提出しノートに添付する） 授業への参加態度を総合的に評価する。		
授業計画	第１回　この授業で何を学ぶのか：領域「環境」の意味するところを学ぶ 第２回　保育の基本とは：保育の基本と大切にしたいことを学ぶ 第３回　領域「環境」の位置づけ：領域とは何かを踏まえて学ぶ 第４回　子どもと環境のかかわり：身近な環境の捉え方とかかわり方を学ぶ 第５回　子どもと環境のかかわり：物・文字・記号・数量とのかかわり方を学ぶ 第６回　子どもと環境のかかわり：絵本・音楽・行事・文化などとのかかわり方を学ぶ 第７回　園庭の自然や遊具とのかかわり：子どものかかわり方と保育者の援助を学ぶ 第８回　室内の遊具、教材などのかかわり：子どものかかわり方と保育者の援助を学ぶ 第９回　飼育、栽培、園外保育：それぞれの活動の意義と保育者の援助を学ぶ 第 10 回 領域「環境」と指導計画：領域の考え方と指導計画について学ぶ 第 11 回 領域「環境」と保育方法：領域の考え方と保育方法について学ぶ 第 12 回 領域「環境」と保育の実際：保育生活において環境を取り入れることについて学ぶ 第 13 回 領域「環境」と保育の実際：思考力のめばえ、好奇心、探究心への繋がりについて学ぶ 第 14 回 領域「環境」の変遷：幼稚園創設期から今日に至る保育内容の変遷について学ぶ 第 15 回 まとめ：保育者が保育環境に関心を持ち魅力ある保育環境づくりについて学ぶ		
ナンバリング	PEAM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	34520
科目	3452 保育内容・言葉	授業種別	週間授業
担当教員	青嶋　由美子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	人間と動物とを区別する二つの事柄とは、言葉の使用と直立歩行である。その「言葉」を、発達の過程、構音器官、調音点などの機能的な面からと、保育の場面で必要となる知識という面の、二つの様相から学んでいく。 本講では、子どもの言葉の発達を支えるものとして、特に児童文化財について重点を置いている。様々な児童文化財を使いこなし、子どもの言葉を伸ばすことの出来る保育者としての力を育てていきたい。		
授業の到達目標	１．受講者は、子どもが言葉を獲得するおおまかな過程を理解出来る ２．受講者は、子どもの言葉の発達過程に応じた児童文化財を選択出来る ３．受講者は、言葉の発達に応じた言葉のやりとりを子どもと楽しめる		
テキスト（教科書）	太田光洋編『保育内容・言葉』（同文書院）ISBN978-4-8103-1335 テキストのほかに、適宜配布するプリントを使用		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	授業時間内に実施するチェック・テストを含む授業への参加態度を 30%、 「２分間スピーチ」の実施具合を 20%、 定期試験の結果を 50% として評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　言葉の発達と児童文化財１　絵本の歴史 第３回　言葉の発達と児童文化財２　絵本の教育的意義・役割 第４回　言葉の発達と児童文化財３　絵本の分類 第５回　言葉の発達と児童文化財４　年齢に合った絵本 第６回　言葉の発達と児童文化財５　紙媒体以外の絵本を中心として 第７回　言葉の発達と児童文化財６　紙芝居を中心として 第８回　言葉の発達と児童文化財７　ペープサートを中心として 第９回　言葉の発達と児童文化財８　パネルシアターを中心として 第 10 回　言葉の発達と児童文化財９　人形劇を中心として 第 11 回　言葉の発達と児童文化財 10　エプロン・シアターを中心として 第 12 回　言葉の発達と児童文化財 11　素話を中心として 第 13 回　言葉の発達と児童文化財 12　ストーリー・テリングを中心として 第 14 回　言葉の理解　―日本語文法の復習を中心に― 第 15 回　調音器官と調音点　―音はどこで作られる？　言葉はどこから生まれてくる？― 第 16 回　定期試験 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEAM1006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	34630
科目	3463 保育内容・表現	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	自らの身体表現力を高めると同時に、子どもの表現とはどのようなものなのかを学ぶ。また、作品創作・発表を通して、音楽・衣装・構成・演出の総合的な工夫を学ぶ。		
授業の到達目標	１．自らの表現力を高める ２．子どもの表現を理解できる ３．子どもの表現を引き出す指導・援助を理解できる		
テキスト（教科書）	『子どもの身体表現～からだとこころ、あらわしてあそぼう～』（西　洋子・本山益子編著、市村出版）ISBN978-4-902109-12-2		
参考書（参考文献）	『乳幼児のダンス ABC』（猪崎弥生・山田悠莉、一二三書房）		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	テキストの予読、実技課題に対しての自主練習を推奨する。		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方、提出課題の達成度を 60%、実技課題の達成度を 40%の割合で、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　からだあそび 第３回　リズムあそび 第４回　わらべうたあそび 第５回　模倣あそび 第６回　手あそび 第７回　手あそびから表現あそびへ 第８回　手あそびの指導実践 第９回　手あそびの発表 第 10 回 ダンス作品の創作（テーマ設定・構想） 第 11 回 ダンス作品の創作（選曲・動きの工夫） 第 12 回 ダンス作品の創作（構成の工夫） 第 13 回 ダンス作品の創作（演出の工夫） 第 14 回 ダンス発表会（全クラス合同） 第 15 回 まとめ（VTR 鑑賞と自己評価、自己課題の確認） ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEAM1007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	34710
科目	3471 保育方法論	授業種別	週間授業
担当教員	今神　仁美	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本授業では、保育を行う上での基本的事項、指導上の留意点を踏まえ、様々な保育方法があることを学ぶ。また、実際に教材研究や事例検討、指導案の作成を通して、保育者の仕事に対する理解、子どもの育ちを援助する保育の原点への理解を深める。		
授業の到達目標	１．保育職の意義を理解し、保育者としての使命感を高める ２．子どもの育ちを援助するための、多様な保育方法への理解を深める ３．保育に対する考えを深め、自分らしい保育をするための素地を培う		
テキスト（教科書）	新・保育講座『保育方法・指導法の研究』（森上史朗＋渡辺英則＋大豆生田啓友編　ミネルヴァ書房　2,400 円）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 30%、課題（指導案、ノートの作成）の達成度を 30%、筆記試験を 40% の割合で、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　オリエンテーション・保育の歴史的変遷 第２回　保育の基本と保育内容の理解 第３回　保育内容と子ども理解：子どもの発達の特性と保育の方法 第４回　個と集団の発達と保育内容と方法 第５回　保育指導案の書き方の説明と実際（ねらい・内容） 第６回　保育指導案の書き方の説明と実際（環境構成・子どもの活動） 第７回　保育指導案の書き方の説明と実際（保育者の援助・配慮・関わり） 第８回　保育指導案の書き方の説明と実際（評価・反省・記録） 第９回　養護と教育を一体的に展開する保育（事例分析） 第 10 回 環境を通して行う保育（環境の構成の仕方、考え方） 第 11 回 遊びによる総合的な保育（行事について学ぶ） 第 12 回 生活や発達の連続性に考慮した保育 第 13 回 家庭、地域、小学校との連携・接続を踏まえた保育 第 14 回 保育の多様な展開 第 15 回 まとめ・これからの保育に求められるもの 但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEAM2011		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	34830
科目	3483 乳児保育Ⅰ（H28 入学生～）	授業種別	週間授業
担当教員	森下　みどり	単位数	1
その他担当者			
授業概要	乳児は内面に育とうとする力を持って生まれる。その成長には、大人の創造的な関わりが必要である。乳児期は人格形成の基礎を育む重要な時期であることを認識し、この時期の乳児の発達の理解や乳児保育の原理、知識、技術などの基本的なことを学ぶ。		
授業の到達目標	１．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ ２．保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する ３．３歳未満児の発育・発達について学び、３歳未満児の生活と遊びについて理解する		
テキスト（教科書）	『乳児の生活と保育』 松本園子編書　　ななみ書房 ISBN　978-4-903355-25-2　　C3037		
参考書（参考文献）	『保育所保育指針』 フレーベル館		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をすること。また、日頃の生活の中で赤ちゃんや子育てに関する出来事などの情報を、新聞やニュース、雑誌などから意識的に収集しておくことを望む。		
評価方法	授業への参加態度（30%）、各学期に実施する筆記試験及び課題への取り組み（70%）などをもとに総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　乳児保育の理念 第２回　乳児保育の歴史的変遷 第３回　乳児保育の役割と機能　児童の権利と乳児保育 第４回　乳児保育の役割と機能　子育て支援と乳児保育 第５回　乳児保育の現状と課題　保育所・乳児院・家庭的保育 第６回　乳児保育の現状と課題　環境と子育て支援 第７回　３歳未満児の発達と保育　基本的知識・技能 第８回　３歳未満児の発達と保育　６か月未満 第９回　３歳未満児の発達と保育　６か月未満 第 10 回　３歳未満児の発達と保育　６か月～１歳３か月未満 第 11 回　３歳未満児の発達と保育　６か月～１歳３か月未満 第 12 回　３歳未満児の発達と保育　１歳３か月～２歳未満 第 13 回　３歳未満児の発達と保育　１歳３か月～２歳未満 第 14 回　３歳未満児の発達と保育　２歳 第 15 回　３歳未満児の発達と保育　２歳 ただし受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	34910
科目	3491 乳児保育Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	前田　キミヨ	単位数	2
その他担当者			
授業概要	乳児保育Ⅰで学習したことを基本とし、乳児の生活や遊びなどの内容、指導法、保育の計画・記録・評価などをより深く学習する。保育所・その他の子ども関連施設などを訪問し、具体的な指導技術や家庭及び地域との望ましい連携・育児支援のあり方などについて学ぶ。さらに、今日求められている、様々な保育ニーズや課題についても理解することを目的とする。		
授業の到達目標	１　乳児保育Ⅰで学習したことを基礎とし、保育計画や記録・評価について学ぶ ２　保育施設等を訪問し具体的な指導技術や家庭との連携・育児支援の方法を学ぶ ３　保育ニーズの多様化と課題について理解する		
テキスト（教科書）	『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』（吉本和子著　エイデル研究所） ISBN　4-87168-343-5　C3037		
参考書（参考文献）	『保育所保育指針』　フレーベル館		
受講条件	「乳児保育Ⅰ」（１年次秋学期・２年次春学期履修）の単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	「乳児保育Ⅰ」で学習した内容について復習をしておくこと。毎日の授業計画にそって予習・復習をすること。保育所、地域子育て支援施設などに積極的に出向き、自主実習をすることを望む。		
評価方法	授業への参加態度（20%）、課題への取り組み（60%），指導技術（20%）などをもとに総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス・乳児保育の重要性についての再確認 第２回　生命の誕生・母親のメンタルヘルス 第３回　新生児・未熟児・病児について―病院見学― 第４回　家庭との連携について―保護者対応、家庭連絡など― 第５回　家庭・地域・他の関係機関との協力・連携―ファミリーサポートセンター見学 第６回　乳児保育の計画―指導案の作成― 第７回　乳児保育の計画―記録・評価― 第８回　生活・遊びに関する環境と保育者の援助 第９回　流れる日課と担当制について 第 10 回　地域子育て支援について　―子ども未来館見学― 第 11 回　乳児と児童文化・生活様式と育児用品 第 12 回　乳児の遊びの習得―わらべうた・リズム遊び― 第 13 回　手づくりおもちゃについて―制作― 第 14 回　手づくりおもちゃについて―発表― 第 15 回　多様化する保育ニーズと今日的課題 ただし受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PECM2008		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	35030
科目	3503 障害児保育	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	織田　秀隆	単位数	2
その他担当者	佐々木　将芳		
授業概要	〈春学期〉 　近年の保育制度改革や、障害児支援制度の改変により、障害をもつ子どもが保育所等で支援を受ける機会が拡大している。その中で、「障害」だけでなく、発達に偏りや遅れが見受けられる子どもも含めた保育の役割やりや意義の理解が必要である。また、保育所保育における障害をもつ子の保育だけでなく、障害児施設などの他施設や、相談機関での取り組み、保護者との連携についても理解できるようにする。 〈秋学期〉 　現在、さまざまな障害のある子どもたちが幼稚園や保育所において地域の子どもたちとともに生活している。専門の治療教育施設での訓練と地域での保育をバランスよく取り入れ、障害のある子どもたちが健やかに成長するために必要な保育方法について実践的に学ぶ。		
授業の到達目標	１．障害児保育に関する理念・歴史の理解 ２．障害に関する知識習得 ３．障害児支援の具体的方法に関する理解 ４．他機関連携や保護者支援の具体的方法の理解 ５．障害児保育方法の実践的理解		
テキスト（教科書）	〈春学期〉 『保育者のためのテキスト　障害児保育』（近藤直子、白石正久、中村尚子編　全障研出版部） 〈秋学期〉 　開講時に指示する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	「相談援助」、「子どもの心理学」、「家庭支援論」、「障害児心理学」、「保育相談支援」などが関連する科目になるので、それぞれの授業についての関連性を意識して授業に取り組むこと。		
評価方法	出席・授業への参加態度や取り組み・課題提出・試験など総合的に評価する。		
授業計画	〈春学期〉 第１回　障害をもつ乳幼児の生活と発達 第２回　障害児保育の現状と課題①（保育所を中心に） 第３回　障害児保育の現状と課題②（療育施設を中心に） 第４回　保育実践の展開 第５回　障害の基礎知識と保育の留意点①（総論） 第６回　障害の基礎知識と保育の留意点②（広汎性発達障害①） 第７回　障害の基礎知識と保育の留意点③（自閉性障害） 第８回　障害の基礎知識と保育の留意点④（視覚障害） 第９回　障害の基礎知識と保育の留意点⑤（聴覚障害） 第 10 回 障害の基礎知識と保育の留意点⑥（肢体不自由） 第 11 回 障害の基礎知識と保育の留意点⑦（医療的ケア） 第 12 回 家族への援助①（父母への支援） 第 13 回 家族への援助②（きょうだいへの支援） 第 14 回 就学へ向けての取り組み 第 15 回 保育実践の具体的取り組み 〈秋学期〉 第１回　ガイダンス 第２回　障害児保育の目標と今日の形態 第３回　統合保育の実態 第４回　保育実践から学ぶ（知的遅れのある子どもの保育） 第５回　保育実践から学ぶ（からだの不自由な子ども・病気がちな子どもの保育） 第６回　保育実践から学ぶ（行動と情動の調整のむずかしい子どもの保育） 第７回　保育実践から学ぶ（言葉遅れのある子どもの保育） 第８回　保育計画 第９回　関連機関との連携・協働 第 10 回 医療の観点から考える 第 11 回 特別支援教育 第 12 回 保護者の理解と支援 第 13 回 保護者の声から学ぶ 第 14 回 ケース会議から学ぶ 第 15 回 ケース会議から学ぶ 　但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	PEBM2006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	35090
科目	3509 社会的養護内容	授業種別	週間授業
担当教員	佐々木　将芳	単位数	1
その他担当者			
授業概要	社会的養護の内容をふまえ、実践に求められる「生活」の理解、子ども集団への関わり方を学ぶ。成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を習得し、子ども観や施設養護観を養う。		
授業の到達目標	１．保育士に必要な知恵・技・観（見方）を理解し、説明できる ２．施設養護および他の社会的養護の実際について学ぶ ３．児童福祉施設における養護実践事例を読み拓くことができ、個々に応じた個別支援計画の作成についての留意点を説明できる ４．児童福祉施設における子ども集団、親・家族への働きかけを検討し、施設職員の役割を知る		
テキスト（教科書）	授業内で指示する。		
参考書（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	「社会的養護」と密接に関わっている。「社会的養護」について、しっかり学びながらこの授業に臨むことが必要である。		
評価方法	授業態度、課題提出　40% 期末筆記試験　　60%		
授業計画	第１回　オリエンテーション、施設とは 第２回　子どものこころの理解 第３回　社会的養護問題の背景 第４回　社会的養護の動向 第５回　社会的養護における個と集団 第６回　社会的養護における生活内容 第７回　社会的養護における養護技術（日常生活に関する技術） 第８回　社会的養護における養護技術（専門的援助・支援） 第９回　自立支援計画 第 10 回 専門職の倫理と責務 第 11 回 子どもへの関わりの視点を学ぶ 第 12 回 アドミッションケア・インケア 第 13 回 自立援助・家族支援 第 14 回 施設内虐待 第 15 回 施設退所後のケア ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEBM1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	35100
科目	3510 保育相談支援	授業種別	週間授業
担当教員	川村　渉	単位数	1
その他担当者			
授業概要	保育現場で期待される保護者支援の内容と技術について学ぶ。具体的には、保育相談支援の概要を理解した上で、相談支援を行うための基礎的な知識、技法の取得、ならびに支援者として必要な自己理解を深めることを目指す。日常､乳幼児の保護者世代と交流する機会のない学生が､相談支援の実際を経験的に理解できるように演習を取り入れ、事例などを活用した具体的な解説を行う。また自己理解を深めるため、心理テストの体験を実施する。		
授業の到達目標	１．保育相談支援の意義と原則について理解する ２．保護者支援の基本を理解する ３．保育相談支援の実際を学び、支援に必要な技術や知識を身につける ４．保護者支援に必要な自己理解を深める		
テキスト（教科書）	必要に応じプリント等を配布する。		
参考書（参考文献）	『相談援助 保育相談支援』（笠師千恵， 小橋明子 中山書店） ISBN978-4521739564		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	受講態度（30%）期末筆記試験および提出課題（70%）		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　保育相談支援の意義 第３回　保育相談支援の基本・原則 第４回　効果的な保育相談 第５回　保育相談支援の実際 第６回　保育相談支援の技術１ 第７回　保育相談支援の技術２ 第８回　特別な支援が必要な子ども 第９回　特別な支援が必要な家庭 第 10 回 児童福祉施設での相談 第 11 回 記録・協働・社会資源 第 12 回 総括 グループワーク×３回 （受講状況に応じて適切な時期に実施する） 習熟度に応じて計画を変更する可能性がある。		
ナンバリング	PEBM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	35110
科目	3511 児童文化	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　克俊	単位数	2
その他担当者			
授業概要	児童文化は子どもの生活の全てに関わるものであるが、子どもの生活を豊かにする遊びや行事に視点をおいて、保育者を目指す学生が保育所や幼稚園などで取り入れられている様々な遊びや行事の楽しさや意味を学び、子どもに提供するための創造性や感性を磨く。		
授業の到達目標	１．グループワークを通し社会性を育みながら、協力して表現することを楽しめる ２．素材ごとに適した道具を使用することができる ３．子どもの視点に立った思考により、子どものための環境づくりができる		
テキスト（教科書）	なし		
参考書（参考文献）	適宜資料を用いる		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった製作に、こだわりを持って取り組むこと。第１回は折り紙と接着剤、色ペンを持ってくること。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 50%、提出された課題の内容 50% で総合評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　児童画について 第２回　ビバあそび場！（SOZO 展における遊べるコーナーづくり）企画 第３回　ビバあそび場！遊べるコーナーの制作 第４回　ビバあそび場！遊べるコーナーの制作 第５回　ビバあそび場！遊べるコーナーの制作 第６回　ビバあそび場！遊べるコーナーの完成 第７回　ビバあそび場！作品の展示 第８回　壁面制作　行事・記念日　（行事について調べ、下絵を描く） 第９回　壁面制作　行事・記念日　（様々な素材をつかっての制作） 第 10 回　壁面制作　行事・記念日　（完成） 第 11 回　ペープサート　（ペープサートについて） 第 12 回　ペープサート　（キャラクターデザイン） 第 13 回　ペープサート　（道具の制作、演技の練習） 第 14 回　ペープサート　（道具の完成、演技の練習） 第 15 回　ペープサート　（発表） 但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2018		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	35210
科目	3521 児童文学	授業種別	週間授業
担当教員	堀内　美江	単位数	2
その他担当者			
授業概要	幼い子どもはお話が大好きだ。幼児期の物語体験は、その後の成長に大きな影響を及ぼすと言われ、しばらく前から、さまざまな施設で読み聞かせ、語り聞かせが奨励されるようになってきている。 では実際に、どのような影響を子どもにもたらすのか。また、実際に保育現場でお話を劇や絵本、素話などで用いる場合、どうすれば子どもたちにとって面白く、また意味のあるものにすることができるのか。この授業では、児童文学と幼児教育の関係に焦点をあて、保育や教育の専門家として社会に出ようとする皆さんが、仕事に役立つであろうヒントをひとつでも見出すことができるような講義を行う。		
授業の到達目標	１．できるだけ多くのお話や絵本を知り、職場で活かせるようにする ２．良く知られているお話をより深く、より正しく理解をする ３．昔話やメルヘンなどを含めた古代から伝わる物語についての基礎的な知識を得る ４．子どもとともにお話を楽しむための技術などを、実際の経験談などから聞き知る ５．実際の子どもと物語の体験談を聞き、自分なりにお話について取り組むヒントを得る		
テキスト（教科書）	プリント配布		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	出席等授業参加度：課題＝５：５の割合で評価する。試験は行わない。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　世界中のシンデレラを知っていますか？ 第３回　桃太郎の別バージョンを聞いてみよう！ 第４回　ヨーロッパの昔話と日本の昔話の成立 第５回　お話の特徴と本質についての基礎を学ぼう 第６回　絵本を深める　絵本の絵について　１ 第７回　絵本を深める　絵本の文について　２ 第８回　一年の流れとお話の関係　季節に合ったお話選び 第９回　語り聞かせを学ぶ　素話体験　１ 第 10 回 語り聞かせを学ぶ　素話のコツ　２ 第 11 回 現代の子どもとお話の関係 第 12 回 ヘンゼルとグレーテルと心理学 第 13 回 動物たちの表すもの 第 14 回 年齢にあったお話の題材選びとその応用 第 15 回 まとめと振り返り		
ナンバリング	PEDM2019		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	35320
科目	3532 情報教育入門	授業種別	週間授業
担当教員	佐野　真一郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本演習では教育工学の理論的解説はもちろん、実際に専門職に就いた際に行われるであろう業務内容を想定し、授業を進める。コンピュータを一つの必要不可欠な道具として使えるようになること、そしてネットワークモラルを常に意識し、保育者として必要な情報発信ができることを目標としている。　また、本演習はマイクロソフトオフィススペシャリストに準拠した教科書を使用するため、任意ではあるが、演習期間中に MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を強く勧める。		
授業の到達目標	１．ワープロ系アプリケーションの操作に習熟する ２．保育者として必要な情報リテラシを知る ３．簡単な情報発信が行える（園便りの作成等）		
テキスト（教科書）	『Microsoft Office Word 2013 ドリル』FOM 出版、1,000 円（税別） ISBN：978-4-86510-075-4		
参考書（参考文献）	適宜指示する。		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	各回に行ったドリルを必ず復習しておくこと。		
評価方法	受講態度等 35% 、課題 65% の割合で判定する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（メール設定・転送設定） 第２回　コンピュータの基本操作（本学のネットワーク環境について） 第３回　ネットワーク上のモラルについて 第４回　電子メールの仕組みと利用方法、SNS 等の利用モラルについて 第５回　Web の利用（検索エンジンを利用して子ども情報を集める） 第６回　ワードの基礎（2013 の基本的操作方法） 第７回　ワードの基礎（文章の入力とオブジェクトの挿入） 第８回　ワードの応用１（文章の整形と装飾） 第９回　ワードの応用２（文章に使うオブジェクトの作成） 第 10 回　園便りの作成１（情報収集） 第 11 回　園便りの作成２（情報の取捨選択、必要な情報は何か？） 第 12 回　園便りの作成３（図の挿入、オートシェイプの使い方） 第 13 回　園便りの作成４（文書の整形等） 第 14 回　園便りの作成５（1 ～４の応用） 第 15 回　課題の発表 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEDM1006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	35440
科目	3544 教育工学演習 I	授業種別	週間授業
担当教員	佐野　真一郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本演習では、1 年春学期に「情報教育入門」で学習したことを礎石にしながら、より一層教育現場で必要とされる業務内容をパソコンで行うことを目標とする。具体的には、ワードの応用ならびに、表計算ソフト（エクセル）の基礎から応用までを行う。 また、本演習は「情報教育入門」に引き続き、MOS（Microsoft Office Specialist）に準拠した教科書を使用するので、演習期間中に MOS の資格取得を強く勧める。		
授業の到達目標	１．表計算系アプリケーションの操作に習熟する ２．ワープロ系ソフトの応用、表計算系ソフトの利用により、より精緻な情報発信を行える基礎力を身に付ける ３．ネットワークを利用し、必要な情報を精査できる力を身につける		
テキスト（教科書）	実教出版編集部編『60 時間でエキスパート　Excel2007/2010』実教出版、952 円（税別） ISBN:978-4-407-31906-4		
参考書（参考文献）	適宜指示する。		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎回演習時に行ったことを、次回に活かせるように復習に努めること。		
評価方法	授業態度 35%、課題 65% の割合で評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　グラフィック機能を使い表現力アップを学ぶ（Word） 第３回　フォームを使っての効率的な入力方法を学ぶ（Word） 第４回　アウトラインを使った文書編集（Word） 第５回　Web 対応機能に習熟する（Word） 第６回　エクセルの基礎 第７回　エクセルでの四則演算 第８回　エクセルでの四則演算２（オートフィルを使いこなす） 第９回　エクセルの関数（最大、最小等の関数を使いこなす） 第 10 回　エクセルの関数（Max、Min、Sum 等の関数を使いこなす） 第 11 回　エクセルの関数（Average,Rank、If 等の関数を使いこなす） 第 12 回　エクセルでの課題作成（いろいろなグラフを作成する） 第 13 回　エクセルでの課題応用（ワードとの連携作業を行う） 第 14 回　総合課題練習（エクセル、ワードを利用した情報発信にチャレンジ） 第 15 回　エクセルのまとめ（園でよく使う機能を意識する） ※ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM1010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	35450
科目	3545 教育工学演習Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	佐野　真一郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本演習では、保育者としての情報発信能力の涵養を目指す。具体的には、ホームページエディタを利用し、主に必要な保育関係情報をインターネットを利用から収集し、その情報を学生自身が加工（精査）し、ホームページとしてまとめ情報発信することとする。また、上述した作業を通して、簡単な電子教材等を作成できる力も培う。		
授業の到達目標	１．情報機器の操作の簡単な指導ができる ２．ネットワークを利用して適切に情報を収集・発信することができる ３．情報機器を使い、簡単な教材が作成できる基礎力を培う		
テキスト（教科書）	適宜指示する。		
参考書（参考文献）	適宜指示する		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	演習後は、必ず習得した内容を実践できるように復習しておくこと。		
評価方法	授業態度 35%、課題 65% の割合で評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　検索エンジンのアクティブな活用 第３回　Web Editor の基礎（何を作るのか） 第４回　Web Editor の基礎（階層構造について） 第５回　写真の加工（サイズ変更や各種フィルタについて学ぶ） 第６回　音楽ファイルの作成（Sibelius を使いこなす） 第７回　Movie　Maker を使ったスライドショー作成 第８回　PowerPoint を使ったスライドショーの作成 第９回　個人ブログの作成（無料ブログを利用する） 第 10 回　個人ブログ作成２（何を・どのように発信するか） 第 11 回　幼児教育情報の収集（幼稚園・保育所・施設関係） 第 12 回　的確な情報発信の方法（何を閲覧者に届けるのか？） 第 13 回　ホームページ or 動画の作成（グループ毎にテーマを決める） 第 14 回　ホームページ or 動画の作成（コンテンツのレイアウトを考える） 第 15 回　まとめとホームページの発表 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2015		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36220
科目	3622 音楽Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	井中　あけみ	単位数	1
その他担当者	井指　紗恵、手島　裕美、伊藤　絢、鈴木　真衣、伊藤　章子、高柳　賀代、加藤　友香、金井　ゆかり、加藤　久美子、藤原　英		
授業概要	「音楽Ⅰ」は、幼児教育者・保育者として必要な音楽の基礎力を習得するため、ピアノでの独奏や弾き歌い、またそれらを習得するための読譜力を学ぶ。また多くの童謡曲を知り、その演奏のレパートリーを個人のレベルに応じて増やすことを目標とする。		
授業の到達目標	１．読譜に必要な音楽基礎理論を理解する ２．「弾き歌い」歌唱を行い、多くの童謡曲を知る ３．ピアノ演奏に必要な読譜力と適切な練習方法を身につける		
テキスト（教科書）	『こどものうた 100』（井戸和秀　チャイルド本社） ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 （バイエルピアノ教則･ブルグミュラー 25 番練習曲･ソナチネアルバム１･ソナタアルバム１等）		
参考書（参考文献）	授業時に適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	各自に出されるピアノ課題曲の、読譜と練習をしっかりと行い授業に臨むこと。		
評価方法	ピアノ実技試験 50%、筆記テスト 25%、授業への参加態度・取り組み方（努力点）を 25% の割合で総合評価する。		
授業計画	ピアノ実技は、全ての授業回数にてそれぞれの学生に合わせたテキストを使用し、各自の目標曲に取り組む 。さらに以下は全員が行う。 第１回　音楽Ⅰの授業体制と受講の仕方についての説明 第２回　理論：音名　　童謡曲の歴史と意義について 第３回　理論：譜表　　春のうたを歌う：（「先生とおともだち」他、拍子を体感する） 第４回　理論：音符と休符　　春のうたを歌う ：（「こいのぼり」他、春のうたで、リズムのコミュニケーションを体感する） 第５回　理論：音価　　春のうたを歌う：（「おかあさん」他、フレーズを考える） 第６回　理論：リズムと遊び　春のうたを歌う ：（「とけいのうた」他 、歌でのリズム遊びを実践する） 第７回　演奏学習発表（鑑賞と反省）・次の課題に向けて 第８回　理論：リズムの種類　夏のうたを歌う：（「みずあそび」他、リズムで対話する） 第９回　理論：リズムで歌う　夏のうたを歌う：(「おつかいありさん」他、リズムと言葉について） 第 10 回 理論：リズムで歩く　夏のうたを歌う：（「アイアイ」他、リズムの創作） 第 11 回 理論：リズムと言葉　夏のうたを歌う：（「たなばたさま」他、情景を考える歌唱） 第 12 回 理論：リズムを創作　リズムの創作発表 第 13 回 理論：拍子２，３，４拍子　夏のうたを歌う：（拍子別による歌い方について） 第 14 回 理論：拍子６拍子　　夏のうたを歌う：（行事のうたについて） 第 15 回 演奏学習発表（鑑賞と反省）・次の課題に向けて ※学生の習熟状況により、授業計画を変更すること（曲目増加・減少等）もある。		
ナンバリング	PEDM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	36230
科目	3623 音楽Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	井中　あけみ	単位数	1
その他担当者	井指　紗恵、手島　裕美、伊藤　絢、鈴木　真衣、伊藤　章子、高柳　賀代、加藤　友香、金井　ゆかり、加藤　久美子、藤原　英		
授業概要	ピアノ演奏の技術の向上と共に、童謡曲「子どもの歌」のレパートリーを増やし、保育者にとして必要な音楽的技術表現を実践する。また、生活の歌、行事の歌などの「弾き歌い」演奏を子どもの前で行えるようにする。		
授業の到達目標	１．季節や行事の童謡曲を中心に、子どもの歌の内容を理解し、歌えるようにする ２．読譜・記譜力に必要な音楽の基礎理論を習得する ３．子どもたちを意識して演奏ができるようにする		
テキスト（教科書）	『こどものうた 100』（井戸和秀　チャイルド本社） ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 （バイエルピアノ教則･ブルグミュラー 25 番練習曲･ソナチネアルバム１･ソナタアルバム１等）		
参考書（参考文献）	授業時に適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	各自に出されるピアノ課題曲の、読譜と練習をしっかりと行い授業に臨むこと。		
評価方法	ピアノ実技試験 50%、筆記テスト 25%、授業への参加態度・取り組み方（努力点）25% として総合評価する。		
授業計画	ピアノ実技は、全ての授業回数にてそれぞれの学生に合わせたテキストを使用し、各自の目標曲に取り組む 。さらに以下は全員が行う。 第１回　ガイダンス　音楽Ⅱの授業体制と受講の仕方についての説明 第２回　理論：用語・記号について　秋の童謡曲を確認する 第３回　理論：音階　秋のうたを歌う；（おおきなくりのきのしたで他､生物･植物の歌を調べる） 第４回　理論：長音階　秋のうたを歌う；（まつぼっくり他、明暗の表現について） 第５回　理論：調について　秋のうたを歌う；（たきび他、歌詞の描写について） 第６回　理論：調について（C:F:G）　秋のうたを歌う；（いもほりのうた他音の重量を表現する） 第７回　理論：調について（B：D：A）　秋のうたを歌う ；（山の音楽家など、歌と身体を伴う表現について） 第８回　演奏学習発表（鑑賞と反省）・次の課題に向けて 第９回　理論：移調について　童謡を歌う；（冬の歌を確認する） 第 10 回 理論：移調奏　冬のうたを歌う；（雪他、冬の手遊び歌を歌う） 第 11 回 理論：移調の記譜　冬のうたを歌う ；（あわてんぼうのサンタクロース他､歌からリズム遊びを考える） 第 12 回 理論：コードネームとその展開　冬のうたを歌う；（冬の行事の歌を知る） 第 13 回 理論：主要三和音　冬のうたを歌う；（冬の歌にコード伴奏をつける） 第 14 回 童謡曲に伴奏付け 第 15 回 演奏学習発表（鑑賞と反省）・次の課題に向けて ※学生の習熟状況により、授業計画を変更する（曲目増加・減少）こともある。		
ナンバリング	PEDM1007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	36240
科目	3624 音楽Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	井中　あけみ	単位数	1
その他担当者	藤原　英		
授業概要	斉唱や合唱･合奏で集団による音楽表現を行い､ハーモニーの美しさやダイナミックを経験する。さらに、舞台での演奏を実践することで、照明・音響などを含めた創造的表現を体験する。また子どもたちがその音楽表現に興味が持てるような創作表現・演奏方法を企画・構成する。		
授業の到達目標	１．合唱（２・３部合唱）、合奏（楽器・リズム）を行うことができる ２．子どもたちの理解できる楽曲を様々な表現方法を考え、グループで演奏することができる ３．言葉・身体・造形を考えながら舞台での演奏を実践し、総合的な舞台を体感する		
テキスト（教科書）	授業時に適宜指示する。		
参考書（参考文献）	授業時に適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	合唱・合奏の；読譜をしっかり行い、不得意な部分や、計画した目標地点までの演奏が、授業時に行えるよう練習をする。		
評価方法	課題 50%、授業への参加態度・取り組み方（努力点）50% として総合評価する。		
授業計画	以下の授業内容は､「青い空コンサート」で発表を行う。 第１回　ガイダンス　　授業体制と受講の仕方についての説明 第２回　コンサートの目的と意義について（説明と確認） 第３回　選曲（曲の表現内容、表現方法について） 第４回　読譜・パート分け 第５回　言葉と歌詞　２部合唱パート練習 第６回　動きと音楽　２部合唱パート練習 第７回　動きと歌唱　２部合唱パート練習 第８回　リズムとフォーメーション　２部合唱練習 第９回　音楽と身体表現　２部合唱練習 第 10 回 舞台での演奏について　２部合唱練習 第 11 回 演奏と表情について　２部合唱練習 第 12 回 間（歩行・姿勢・弛緩と緊張）のリズムについて　２部合唱練習 第 13 回 総合練習（舞台マナーについて） 第 14 回 総合練習（リハーサル）照明・音響について 第 15 回 コンサート ※学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2017		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36320
科目	3632 基礎造形	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　克俊	単位数	1
その他担当者			
授業概要	絵の具・パス・サインペン・版画インクといった平面の作品制作に使用する描画材料は、工夫して用いることでさまざまな表現が可能になる。この授業では、保育者自身が獲得しておくべき内容と子どもたちに伝えるべき内容・指導方法の両面について学ぶことを目指す。		
授業の到達目標	１．子どもの身体機能に応じた表現の方法を学ぶことができる ２．造形演習を通して、子どもの表現を理解することができる ３．様々な素材を使ったモダンテクニックを学ぶことができる		
テキスト（教科書）	なし		
参考書（参考文献）	適宜資料を用いる		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった制作は、こだわりを持って取り組むこと。第１回は絵の具セットを持ってくること。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 50%、提出された課題の内容 50% で総合評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　ヨハネス・イッテンの色相環 第２回　吹きながし　たらし絵　合わせ絵 第３回　霧ふりかけ　にじみ絵　スポンジ画 第４回　サインペンの水描き　指絵　手型足型とり 第５回　ステンシル　ひっかき絵　はじき絵 第６回　フォトモンタージュ　スチロールモノプリント　ボンド版画 第７回　紙版画　転写刷 第８回　ダンボールの型押し　孔版 第９回　重ね色スタンピング　ビー玉ころがし 第 10 回　ウォッシング　墨ながし　こすり出し 第 11 回　墨つけデザイン　糸ころがし　糸ひき絵 第 12 回　アワうつし　紙の折り染め 第 13 回　砂絵　ちぎり絵 第 14 回　これまでの技法を使った制作第 15 回　製本　提出 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36430
科目	3643 幼児体育Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者	朝元　尊		
授業概要	保育者にとって必要な基礎技能の習得に努めながら、運動あそびの指導計画、模擬指導を行う。更に、実践に対する反省と評価を行ない、実践力の向上を目指す。		
授業の到達目標	１．子どもにとっての運動あそびの意義を理解できる ２．運動あそびを立案・実践できる ３．子どもの安全を考慮した指導・援助を理解できる		
テキスト（教科書）	「幼児体育Ｉ」で購入したテキストを使用する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	テキストを予読し、模擬指導に向けての指導案の作成をすること、実技課題に対して自主練習をすることを推奨する。		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 50%、実技課題の達成度、指導計画立案と活動の展開の仕方、レポートを 50% の割合で、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　身近なものを使った遊び（ペットボトル） 第３回　身近なものを使った遊び（段ボール） 第４回　偶然性の強いゲーム 第５回　平均化できるゲーム 第６回　指導案について 第７回　体育環境の構成・安全を考える 第８回　役割分担できるゲーム 第９回　ハンディキャップのあるゲーム 第 10 回　鬼遊びの指導実践 第 11 回　ボール遊びの指導実践 第 12 回　伝承遊びの指導実践 第 13 回　身近なものを使った遊びの指導実践 第 14 回　体育的行事の企画・運営 第 15 回　まとめ（レポートの作成、提出） ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2013		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	36440
科目	3644 幼児体育Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者	朝元　尊		
授業概要	子どもにとっての運動あそびの意義・意味を学ぶ。また遊びの実践を通して、保育者の視点から指導・援助への理解を深める。		
授業の到達目標	１．体育的基礎技能を習得する ２．運動あそびの楽しさや必要性を理解できる ３．子どもの運動能力と現代的課題を理解できる		
テキスト（教科書）	『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子編、萌文書林）ISBN978-4-89347-130-7		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	実技課題に対して、自主練習することを推奨する。		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 60%、課題の達成度、実技試験を 40% の割合で、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　身体を使ったあそび 第３回　集団遊び①（手つなぎ鬼・色鬼・高鬼） 第４回　集団遊び②（ネズミとネコ・ドロケイ・たつのしっぽ取り） 第５回　集団遊び③（だるまさんがころんだ・おおかみさん今何時） 第６回　リズム遊び①（あんたがったどこさ・かごめかごめ・はないちもんめ） 第７回　リズム遊び②（バンブー・ジェンカ） 第８回　ボールで遊ぶ①（ころがしドッヂ・はさみドッヂ） 第９回　ボールで遊ぶ②（ドッヂボール） 第 10 回　ボールで遊ぶ③（王様ﾄﾞｯﾁﾞﾎﾞｰﾙ） 第 11 回　縄跳び①（短縄・縄跳びカード） 第 12 回　縄跳び②（大縄・縄跳びカード） 第 13 回　縄跳び③（歌遊びと縄跳び・縄跳びカード） 第 14 回　クラスマッチ 第 15 回　まとめ（援助の仕方を考える） ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM1009		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36450
科目	3645 音楽表現	授業種別	週間授業
担当教員	井中　あけみ	単位数	1
その他担当者	井指　紗恵、手島　裕美、伊藤　絢、鈴木　真衣、高柳　賀代、加藤　友香、金井　ゆかり、加藤　久美子、藤原　英		
授業概要	体（全身・部位）を使った音楽表現活動や合唱・合奏による活動を通して自己表現力を高め、子どもたちの発達に応じた豊かな表現活動の知識を習得し実践する。		
授業の到達目標	１．歌や声、楽器の色々な響きを味わい、豊かな音色を楽しむ ２．子どもたちが音楽に対して興味を持てるよう、発達に応じた音楽的導入表現をする ３．アンサンブルなどの協同活動による表現を知る ４．身体を使う音楽奏法を通して、豊かな創作表現を楽しむ		
テキスト（教科書）	『こどものうた 200』（小林美実編　チャイルド本社） ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 （バイエルピアノ教則･ブルグミュラー 25 番練習曲･ソナチネアルバム１･ソナタアルバム１等）		
参考書（参考文献）	授業時に適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	読譜を各自行い、可能な限り個人練習を行う。		
評価方法	ピアノ実技試験 50%､課題 25%､授業への参加態度･取り組み方（努力点）25% として総合評価する。		
授業計画	ピアノ実技は、全ての授業回数にてそれぞれの学生に合わせたテキストを使用し、各自の目標曲に取り組む 。さらに以下は全員が行う。 第１回　ガイダンス　領域「音楽」から音楽表現を考える 第２回　幼児音楽教育の歴史を知る 第３回　子どもの音楽表現活動「歌う」「聴く」について 第４回　子どもの音楽表現活動「演奏」「動き」について 第５回　子どもの春の歌年齢別音楽表現を考察・実践 第６回　子どもの夏の歌年齢別音楽表現を考 第７回　子どもの秋の歌年齢別音楽表現を考察・実践 第８回　子どもの冬の歌年齢別音楽表現を考察・実践 第９回　子どもの四季以外の歌年齢別音楽表現を考察・実践 第 10 回 行事の歌の音楽表現を考察・実践 第 11 回 楽器演奏（鍵盤楽器） 第 12 回 楽器演奏（打楽器） 第 13 回 楽器演奏（手作り鍵盤楽器） 第 14 回 楽器演奏（手作り打楽器） 第 15 回 演奏発表（ピアノ）・振り返りと今後の課題 学生の習熟状況によって、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2011		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36460
科目	3646 言語表現	授業種別	週間授業
担当教員	青嶋　由美子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	この科目は子どもの発達に応じた言語表現技術の習得を目的とする。 保育者として、子どもの言葉の発達を多様な方面から支えるためには、言葉を用いた表現力が欠かせない。様々な児童文化財を効果的に用いながら、子どもの言語能力を刺激し発達させる関わり方を体得し、また、自らの言語を用いた発信力を充実させていくことが、本講の主眼となっている。		
授業の到達目標	１．子どもの年齢に応じた言葉の発達過程を学び応用出来る ２．子どもの発達に応じた児童文化財（絵本・ストーリーテリングなど）を選択出来、読み聞かせたり語ったりすることが出来る ３．子どもが自ら児童文化財に接することが出来るような環境構成を考えられる ４．子どもの様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びが展開出来る		
テキスト（教科書）	太田光洋編『保育内容・言葉』（１年次に購入済・「保育内容の研究・言葉」で使用） その他に授業時に配布するプリントを使用		
参考書（参考文献）	『年中行事読本： 日本の四季を愉しむ歳時ごよみ』（岡田 芳朗 ・ 松井 吉昭 著 ）創元社 『保育に生かせる！年中行事・園行事　ことばかけの本』（横山洋子・中島千恵子著）学研教育出版等の、年中行事や四季について記された本		
受講条件	「保育内容・言葉」を履修済であること		
準備学習等の内容	担当日時を決め、発表することが多い。 発表のための準備に充分な時間を取り、担当日に欠席がないようにしてもらいたい。		
評価方法	発表担当者の発表をどのように受け止めて評価出来たかを 10%、発表担当の際の出来具合を 40%、定期試験で測る理解度を 50% として総合評価とする。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　０歳児の言葉の発達と保育教材（０ヶ月～６ヶ月頃） 第３回　０歳児の言葉の発達と保育教材（６ヶ月頃～ 12 ヶ月頃） 第４回　１歳児の言葉の発達と保育教材 第５回　２歳児の言葉の発達と保育教材 第６回　３歳児の言葉の発達と保育教材 第７回　幼児語・幼児音とそれらへの対応 第８回　４歳児の言葉の発達と保育教材 第９回　５歳児の言葉の発達と保育教材 第 10 回　就学前期の言葉の発達と保育教材 第 11 回　読書能力の発達 第 12 回　言葉を伸ばすための遊び①（しりとり遊びが出来るまで） 第 13 回　言葉を伸ばすための遊び②（言葉を分類する遊び） 第 14 回　言葉を伸ばすための遊び③（言葉遊びの伝え方） 第 15 回　保育活動の際の言葉掛け 第 16 回　定期試験 ただし履修している学生の習熟度により内容を変更することがある		
ナンバリング	PEDM2012		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	36470
科目	3647 造形表現	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　克俊	単位数	1
その他担当者			
授業概要	紙を使ったものづくりの中には、保育者や子どもたちが獲得すべき知識や技術がたくさん含まれている。この授業ではそうした制作を通して、基本的、応用的な造形の技術を学び、つくる楽しみを味わうことを目指す。		
授業の到達目標	１．造形活動のための材料、道具など環境設定に配慮できる ２．紙の特性を理解しながら、造形活動のコツを学ぶことができる ３．造形活動を学ぶ中で、表現活動を楽しむことができる		
テキスト（教科書）	なし		
参考書（参考文献）	適宜資料を用いる		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった製作に、こだわりを持って取り組むこと。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 50%、提出された課題の内容 50% で総合評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　ペーパークラフトの基本Ⅰ 第２回　ペーパークラフトの基本Ⅱ 第３回　「テーブルカード」「ガォ～カード」「かくれんぼカード」 第４回　作品製作 第５回　「山々カード」「穴のぞきカード」「浮き出しカード」 第６回　作品製作 第７回　「テレビカード」「パタパタカード」「糸はりカード」 第８回　作品製作 第９回　「パクパクカード」「うずまきカード」「立つ家カード」 第 10 回　作品製作 第 11 回　「テープの伸縮」「テープの活性化」「テープの動変換」 第 12 回　作品製作 第 13 回　「ピノキオ」「クリオネ」「クワガタ」 第 14 回　作品製作 第 15 回　製本　提出 ※但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM1008		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36480
科目	3648 身体表現	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	子どもの発達と運動機能を確認しながら、子どもの遊びを豊かに展開するために、教材の活用、保育環境の構成について学ぶ。更に、保育展開に必要な実践力を、模擬指導を通じて習得する。		
授業の到達目標	１．自らの身体表現力を高める ２．子どもの身体表現の特性を理解できる ３．子どもの表現を豊かにする指導・援助を理解できる		
テキスト（教科書）	『子ども、からだ、表現～豊かな保育内容のための理論と実践～』（西　洋子・本山益子・吉川京子著、市村出版）ISBN978-4-902109-16-0		
参考書（参考文献）	『子どもの身体表現～からだとこころ､あらわしてあそぼう～』（西　洋子･本山益子編著､市村出版） 『乳幼児のダンス ABC』（猪崎弥生・山田悠莉著、一二三書房）		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	テキストの予読。模擬指導に向けての指導案の立案。		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 50%、課題の達成度、指導実践計画と活動の展開を 50% の割合で、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　リズムと表現（フォークダンス） 第２回　リズムと表現（様々なステップ） 第３回　身近なものを使った表現（新聞） 第４回　身近なものを使った表現（布） 第５回　イメージと表現（ことば） 第６回　イメージと表現（音楽） 第７回　イメージと表現（絵本） 第８回　保育者のかかわりを事例から学ぶ 第９回　模擬指導（からだを意識する） 第 10 回 模擬指導（いろいろな動きの組み合わせ） 第 11 回 模擬指導（身近なもので遊ぶ） 第 12 回 模擬指導（音あそび） 第 13 回 模擬指導（かかわりをつくる） 第 14 回 模擬指導（イメージを広げる） 第 15 回 まとめ（自己評価と自己課題の確認） ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2014		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36510
科目	3651 言葉と表現	授業種別	週間授業
担当教員	青嶋　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	読む・書く・話す・聞く。この四つは、言葉を「道具」として用いて人間が行う動作である。この講座では、「人として、社会人として、保育者として」必要な言葉に関する技術の習得を目標とする。 言葉は、幼稚園教育要領においても、また、保育所保育指針においても、領域として独立して置かれている分野である。この「道具」を充分に使いこなせることが、保育者として子どもの言葉を育てる力となる。そのために、自分自身が持つ「言葉」の力を磨く場の一つが、この授業である。		
授業の到達目標	１．はっきりとした充分な声量で正しく文章を読める ２．小説や評論の内容を読み取ることが出来る ３．書き言葉を用いて手紙や説明文を書ける ４．敬語を使用出来、社会人としての国語能力が備わる ５．内容把握のために集中して聞くことが出来る		
テキスト（教科書）	マイケル・ボンド作（松岡享子・訳）『くまのパディントン』（福音館書店・福音館文庫 S-2）ISBN4-8340-1802-4 田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林） その他、随時、プリントを配布する		
参考書（参考文献）	この本といった限定的な指定はないが、出来るだけ多くの小説や児童文学を読むように心掛けて欲しい		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎時間音読を行うので、指定された箇所を読む練習を行うこと。 前週に行った内容の確認テストを実施するので、翌週の講義時間までに復習を行うこと。		
評価方法	授業時間内での課題の取り組み方、ノート、確認テストの結果、意見発表の様子を 50%、定期試験の結果を 50% として評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 及び　語彙力チェック試験 ――教材の使用方法について―― 第２回　絵本ノートの作成 第３回　説明文を書いてみる ――短い文章で、伝えたい内容を全て伝える書き方―― 朗読「どうぞこのクマのめんどうをみてやってください１」 第４回　正しく話すために必要なこと ――文法的な整合性・主語述語の対応―― 朗読「どうぞこのクマのめんどうをみてやってください２」 第５回　聞き取る力を試してみよう ――単語と文脈の聞き取り―― 朗読「はじめてのおふろ１」 第６回　日本の伝統行事を伝える文章 ――日本の伝統行事を読んでみる―― 朗読「はじめてのおふろ２」 第７回　使える漢字・使いたい漢字１ ――実習に備えて―― 朗読「パディントン地下鉄に乗る１」 第８回　書くことの基本を知る ――原稿用紙や報告用紙の使い方―― 朗読「パディントン地下鉄に乗る２」 第９回　読み取る力を試してみよう ――カタカナ語・接続語・指示語―― 朗読「百貨店での出来事１」 第 10 回　聞き取りやすい話し方を学ぶ ――スピードとイントネーション―― 朗読「百貨店での出来事２」 第 11 回　使える漢字・使いたい漢字３ ――難読漢字・間違えやすい表記―― 朗読「パディントンと名画１」 第 12 回　敬語を学ぶ ――敬語を用いた会話―― 朗読「パディントンと名画２」 第 13 回　手紙文の書き方１ ――季節の言葉を用いて―― 朗読「パディントンの芝居見物１」 第 14 回　手紙文の書き方２ ――恩師への報告の葉書を出してみよう―― 朗読「パディントンの芝居見物２」 第 15 回　絵本ノートの整理 ――春学期分 50 冊を分類してみる―― 第 16 回　定期試験 ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEDM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	36513
科目	3651 言葉と表現	授業種別	週間授業
担当教員	青嶋　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	読む・書く・話す・聞く。この四つは、言葉を「道具」として用いて人間が行う動作である。この講座では、「人として、社会人として、保育者として」必要な言葉に関する技術の習得を目標とする。 言葉は、幼稚園教育要領においても、また、保育所保育指針においても、領域として独立して置かれている分野である。この「道具」を充分に使いこなせることが、保育者として子どもの言葉を育てる力となる。そのために、自分自身が持つ「言葉」の力を磨く場の一つが、この授業である。		
授業の到達目標	１．はっきりとした充分な声量で正しく文章を読める ２．小説や評論の内容を読み取ることが出来る ３．書き言葉を用いて手紙や説明文を書ける ４．敬語を使用出来、社会人としての国語能力が備わる ５．内容把握のために集中して聞くことが出来る		
テキスト（教科書）	石井桃子編･訳　ジョン･D･バトン画 『文庫版　イギリスとアイルランドの昔話』（福音館書店） 田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林） その他、随時、プリントを配布する		
参考書（参考文献）	この本といった限定的な指定はないが、出来るだけ多くの小説や児童文学を読むように心掛けて欲しい。		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎時間音読を行うので、指定された箇所を読む練習を行うこと。 前週に行った内容の確認テストを実施するので、翌週の講義時間までに復習を行うこと。		
評価方法	授業時間内での課題の取り組み方、ノート、確認テストの結果、意見発表の様子を 50%、定期試験の結果を 50% として評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 及び　語彙力チェック試験 ――教材の使用方法について―― 第２回　絵本の読み方 第３回　説明文を書いてみる ――短い文章で、伝えたい内容を全て伝える書き方―― 第４回　正しく話すために必要なこと ――文法的な整合性・主語述語の対応―― 第５回　聞き取る力を試してみよう ――単語と文脈の聞き取り―― 第６回　日本の伝統行事を伝える文章 ――日本の伝統行事を読んでみる―― 第７回　使える漢字・使いたい漢字１ ――実習に備えて―― 第８回　書くことの基本を知る ――原稿用紙や報告用紙の使い方―― 第９回　読み取る力を試してみよう ――カタカナ語・接続語・指示語―― 第 10 回　聞き取りやすい話し方を学ぶ ――スピードとイントネーション―― 第 11 回　使える漢字・使いたい漢字３ ――難読漢字・間違えやすい表記―― 第 12 回　敬語を学ぶ ――敬語を用いた会話―― 第 13 回　手紙文の書き方１ ――季節の言葉を用いて―― 第 14 回　手紙文の書き方２ ――恩師への報告の葉書を出してみよう―― 第 15 回　生き生きとした朗読 第 16 回　定期試験 ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEDM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期～ 2017 年度 春学期	授業コード	37110
科目	3711 実習指導	授業種別	2016 年度 秋学期（週間授業）、 2017 年度 春学期（週間授業）
担当教員	杉山　和恵	単位数	2
その他担当者			
授業概要	教育実習に向けて、幼稚園の保育の流れや保育活動に必要な知識や技能を習得しようとする意識を高め、目的を持って実習に取り組む意欲的な態度を養う。子どもの発達、遊び、教材、記録、指導案などについて学び、実習に生かすことのできる実践力を身に付ける。		
授業の到達目標	１．幼稚園の機能、保育者の職務、幼児期の子どもの特徴について理解し、保育職に関する基本的な予備知識を身に付ける ２．保育者に求められる専門的知識や技能を知り、その習得に主体的に取り組む姿勢を持つ ３．実習に必要な手続き、教材や記録、指導案について学び、実習に向けての具体的な準備を整える ４．実習における自分自身の目標と課題を明らかにするとともに、実習後の振り返りを通して自らの改善点を把握し、次の実習に生かす		
テキスト（教科書）	『実習の記録と指導案』（田中亨胤監修・山本淳子編著　ひかりのくに）ISBN978-4-564-60785-1		
参考書（参考文献）	『幼稚園教育要領』（文部科学省　フレーベル館） 『保育所保育指針』（厚生労働省　フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園　教育･保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省　フレーベル館）		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	授業時間外で取り組む課題の提出期限を守ること。		
評価方法	授業への参加度と課題（70%）、レポート課題（30%）をもとに、総合的に評価する。		
授業計画	〈教育実習についてー 2016 年度秋学期開講ー〉 第１回　ガイダンス　教育実習の意義と目的 第２回　保育における計画 第３回　子どもの発達過程ー運動機能 第４回　子どもの発達過程ー生活習慣 第５回　教材研究 第６回　実習記録について 第７回　指導案について 第８回　実習前の準備・心構えについて 〈教育実習についてー 2017 年度春学期開講ー〉 第９回　教育実習を振り返って 第 10 回　教材研究 第 11 回　子どもの発達と遊び 第 12 回　子どもの発達と遊びー発表 第 13 回　実習記録について 第 14 回　指導案について 第 15 回　教材研究の成果発表 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEEM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期～ 2017 年度 秋学期	授業コード	37210
科目	3721 教育実習	授業種別	2016 年度 秋学期（実習）、2017 年度 春学期（実習）、2017 年度 秋学期（実習）
担当教員	杉山　和恵	単位数	4
その他担当者			
授業概要	幼稚園教諭二種免許状を取得する者は、幼稚園における教育実習４単位を履修する必要がある。教育実習は法律で定められた教員免許状取得のための一要件であるが、大学において学んだ基礎的科目及び専門的科目の知識・技能を幼稚園という具体的な場において統合・応用・拡大・深化させるものでなければならない。		
授業の到達目標	１．幼稚園の機能や保育者の職務について、保育現場における観察や参加を通して具体的に理解する ２．子どもの観察及び子どもとの実際の関わりから子ども理解への意欲を高め、さらに記録の記述を通して子どもの内面について考察を深める ３．保育者の実践から学ぶ姿勢を持ち、積極的に質問したり補助をしたりしながら保育者とのコミュニケーションを図り、保育者としての意識を高める ４．保育の計画、実践、反省を実際に経験することを通して、保育の実践力を身に付けるための自らの課題を明らかにする		
テキスト（教科書）	なし。		
参考書（参考文献）	『幼稚園教育要領』（文部科学省　フレーベル館）		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	二回の実習園からの実習評価及び実習記録等から総合的に評価する。		
授業計画	2016 年度は以下の予定で実習を行う。 １年生：2017 年 1 月 30 日～ 2 月 10 日 ２年生：2016 年 9 月 26 日～ 10 月 7 日		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期～ 2017 年度 春学期	授業コード	37320
科目	3732 保育実習Ⅰ	授業種別	2016 年度 秋学期（実習）、2017 年度 春学期（実習）
担当教員	中島　美奈子	単位数	4
その他担当者	佐々木　将芳		
授業概要	学内での学びをもとに、実践の場における子どもの生活や遊びを通して、保育所や児童福祉施設の役割、機能に対する理解を深める。子どもや保育の観察、参加をすることで子どもについて深く理解し、保育士の関わりについて学ぶ。		
授業の到達目標	保育実習の意義、目的を理解し、学内で習得した知識、技能を実践の場で応用する能力を養う。子どもとの直接的な関わりを通して子どもへの理解を深め、保育の計画、実践、評価について実践力を身につける。そして、実習生自身が様々な働きかけをすることで、新たな課題を明確化する。 保育士の業務内容や職業倫理、職員の連携について具体的に習得する。		
テキスト（教科書）			
参考書（参考文献）			
受講条件	「保育実習指導Ⅰ」の意欲、態度を重視する。また、実習要件を満たしていること。		
準備学習等の内容	現地オリエンテーションで指導を受けた保育内容（絵本の読み聞かせ、ピアノの弾き歌い、部分指導案の作成等）の準備		
評価方法	実習記録、実習園からの評価から総合的に評価します。		
授業計画	保育所実習１年生　平成 28 年 12 月 5 日～ 12 月 17 日 〔保育所実習の内容〕 １．保育所の機能と役割 ２．子ども理解 ３．保育内容・保育環境 ４．保育の計画、観察、記録 ５．保育所の保育士としての役割と職業倫理 施設実習　２年生　平成 29 年 8 月～ 9 月上旬 〔居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容〕 １．施設の役割と機能 ２．子ども理解 ３．養護内容・生活環境 ４．計画と記録 ５．居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における保育士の役割と職業倫理		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期～ 2017 年度 春学期	授業コード	37330
科目	3733 保育実習指導Ⅰ	授業種別	2016 年度 秋学期（週間授業）、 2017 年度 春学期（週間授業）
担当教員	中島　美奈子	単位数	2
その他担当者	佐々木　将芳		
授業概要	保育士資格取得のための必修科目である。保育実習における目的、内容、方法を理解し、実習生として必要な知識・技術を身につけ、実習に対する意欲を高める。 実習後は、実習のまとめや自己評価をもとに、他教科における学びとの統合を図った上で、新たな課題や目標を明確にする。		
授業の到達目標	１．保育実習の基本的な意義や目的を理解する ２．実習に際しての留意事項と心構えを理解する ３．実習内容を理解し、事前事後の自らの課題を明確にする		
テキスト（教科書）	『実習の記録と指導案』ひかりのくに 『遊びの指導　乳・幼児編』 財団法人　幼少年教育研究所［編著］同文書院 『保育士をめざす人の福祉施設実習』愛知県保育実習連絡協議会編集委員会編、みらい 『絆』購入予定 （授業の中で、紹介する。）		
参考書（参考文献）	「保育所保育指針」		
受講条件	保育士資格取得希望者であること		
準備学習等の内容	指定教科書は単元ごとに事前に読んでおくこと		
評価方法	授業態度 50%、課題への取り組み 50% で評価する。		
授業計画	保育所実習指導について （－ 2016 年秋学期開講－） 第１回　保育実習の方法と目的 第２回　実習の心構えと身だしなみ 第３回　保育所見学実習 第４回　保育所見学実習 第５回　見学実習反省と課題 第６回　子どもの発達過程の理解 第７回　保育教材の作成と保育実践 第８回　保育方法の理解 地域保育園児との交流及び保育士からの学び 第９回　保育内容の理解 地域保育園児との交流及び保育実践 第 10 回 実習に関する諸手続きの把握（ガイダンス） 第 11 回 実習記録の書き方 第 12 回 実習園の理解と実習課題の明確化 第 13 回 実習に際しての留意事項 現場保育士の保育実践の学び 第 14 回 保育所実習の反省 第 15 回 今後の方向性の明確化 施設実習指導について（－ 2016 年秋学期開講－） 第１回　施設実習の方法と目的 第２回　実習の心構え・注意事項の確認 第３回　施設の種類と目的 第４回　保育所実習との共通点と異なる点 第５回　施設の対象児の内訳 第６回　実習中の健康管理について 第７回　施設職員について （－ 2017 年春学期開講－） 第８回　実習希望先の選択および実習先の決定 第９回　実習モデルケースの視聴　その１ 第 10 回 実習モデルケースの視聴　その２ 第 11 回 実習体験者の発表会　児童養護施設部門・障害児部門 第 12 回 実習に関する諸手続きの把握（ガイダンス） 第 13 回 事前訪問指導 第 14 回 実習日誌の書き方 第 15 回 実習直前の確認事項チェック ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変することもある。		
ナンバリング	PEEM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	37410
科目	3741 保育実習Ⅱ	授業種別	春学期（実習）、秋学期（実習）
担当教員	中島　美奈子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	１年生の実習で明確化した課題を基に、さらに保育士としての知識や指導技術を高める。子どもの実態把握、保育の計画、実践、記録、評価について実際に取り組み、実践する。実習を通して、子ども観や保育観の確立など保育士としての資質の習得、保育士の業務や職業倫理について具体的に理解する。		
授業の到達目標	１．保育所、児童福祉施設の役割や機能を体験的に理解し、主体的に実践する ２．明確な視点や課題をもって子どもを観察し、必要な関わりを行う ３．保育士の業務内容と職業倫理を理解し、指導計画を作成、実践、振り返りを行う		
テキスト（教科書）			
参考書（参考文献）			
受講条件	保育実習指導Ⅱの意欲、態度を重視する。 「保育実習Ⅰ」（保育園）修了者であること。		
準備学習等の内容	現地オリエンテーションで指導を受けた部分実習、指導実習等への準備		
評価方法	実習記録、実習園からの評価から、総合的に評価する。		
授業計画	平成 28 年 5 月 23 日～ 6 月 4 日 〔実習内容〕 １．保育所の役割や機能の具体的展開 ２．観察に基づく子ども理解、保育実践の観察 ３．保育内容の理解 ・環境を通して行う保育 ・生活や遊びを通して総合的に行う保育 ４．保護者支援及び地域の子育て家庭への支援への理解 ５．指導計画の作成、実践、記録、評価反省 ６．保育士の業務と倫理 ７．自己課題の明確化		
ナンバリング	PEEM2006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	37420
科目	3742 保育実習指導Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	中島　美奈子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	これまでの実習における学びをふまえ、実習の内容を理解するとともに、自身の実習課題を明確にする。また、子どもの成長発達を援助する保育について考え、指導計画を作成するための技術について学ぶ。保育士としての実践する力を高める。		
授業の到達目標	１．保育実習の意義や留意事項について、保育実習Ⅰで得た学びからさらに深める ２．実習内容を理解し、責任実習における表現技術を活かした実践能力を習得する ３．実習を総括し、自己評価をもとに課題を明確にする		
テキスト（教科書）	『実習の記録と指導案』山本淳子編　ひかりのくに 『遊びの指導　乳・幼児編』 財団法人　幼少年教育研究所 ［編著］ 同文書院		
参考書（参考文献）	保育所保育指針		
受講条件	「保育実習指導Ⅰ」を受講していること。		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をすること。また、自分の受け持つ摸擬部分実習の計画及び準備をすること。		
評価方法	授業態度で 50%、課題提出と摸擬部分指導で 50%		
授業計画	第１回　２年生の保育実習の方法と目的 第２回　保育士の業務と職業倫理 第３回　実習に関する諸手続きの把握（ガイダンス） 第４回　実習課題の明確化と記録の書き方 第５回　摸擬部分指導（ごっこ遊び） 第６回　摸擬部分指導（素材・自然物遊び） 第７回　摸擬部分指導（ルールのある集団遊び） 地域の保育園児への遊びの模擬指導 第８回　保育所実習の反省と自己評価 第９回　実習の反省を受けての今後の課題 第 10 回 摸擬部分指導（音楽リズム遊び） 第 11 回 摸擬部分指導（自然への関心を高める遊び） 第 12 回 摸擬部分指導（せいさく） 第 13 回 摸擬部分指導（絵本からのイメージ遊び） 第 14 回 摸擬部分指導（わらべうた遊び） 第 15 回 就職に向けて今後の方向性の明確化 ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもあります。		
ナンバリング	PEEM2003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	37600
科目	3760 保育・教職実践演習（幼稚園）	授業種別	週間授業
担当教員	朝元　尊	単位数	2
その他担当者	岡本　雅子、青嶋　由美子、佐野　真一郎		
授業概要	これまでに行った１年生の実習体験をもとに、実習内容の振り返りを行う。その中で自らの保育者としての資質の習得、また、保育者としての資質の向上を目指す。		
授業の到達目標	１．保育に関する現代的課題について現状分析考察・検討を行う ２．保育に関する科目横断的な学習能力を習得する ３．学びを振り返り、保育者として必要な知識・技術を習得したことを確認する		
テキスト（教科書）	適宜プリントを用意する 必要に応じて参考文献を紹介する		
参考書（参考文献）	『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 『認定こども園教育・保育要領』		
受講条件	幼稚園教諭２種免許状と保育士資格を取得する者		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	授業への参加姿勢 40% と発表内容、学生自身の自己理解、レポート提出等を 60% で評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス・幼稚園実習に向けての自己課題と指導案作成 第２回　保育内容の研究 第３回　実習の振り返りおよび自己評価と今後の課題 第４回　領域「表現」の課題設定 第５回　自己課題の把握と克服のために（自己分析とグループ討議） 第６回　保育者の役割について（園の果たす役割と組織の一員としての役割） 第７回　保育における教材研究について 第８回　自己課題の把握と克服のために（自己分析とグループ討議） 第９回　その他の領域の課題について 第 10 回 保護者との連携（保護者対応について） 第 11 回 幼稚園・保育園・認定こども園・小学校との連携 第 12 回 行事に関わる子ども姿をとおして幼児理解を深める 第 13 回 幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園こども要録について 第 14 回 地域の子育て支援について 第 15 回 保育者の社会的責任と使命ー危機管理を通してー ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。		
ナンバリング	PEEM2007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	37650
科目	3765 総合表現	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	井中　あけみ	単位数	2
その他担当者	加藤　克俊、青嶋　由美子、井指　紗恵		
授業概要	総合表現の授業では、それまでに学んだ身体、言語、造形、音楽などの表現活動を総合的に展開し、子どものための創作劇を作り上げていく。また、多人数による活動を通して、創作表現活動を行う際の保育者として必要な技術と意識を養う。		
授業の到達目標	１．子どもの目線に立った表現を知る ２．企画・構成・表現するカを身につける ３．「表現」の環境設定を学ぶ ４．集団活動における協調性やバランス感覚を身に付ける ５．社会的ルールやマナーを学び、自制心をつける		
テキスト（教科書）	適宜、参考資料を配布する。		
参考書（参考文献）	適宜、参考となる資料等を配布する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習･復習をすること。また､この授業にあたっては､各自が積極的に取り組むこと。		
評価方法	授業態度 50%　課題提出 50%		
授業計画	以下の内容以外に、毎回の授業時には、発声練習など体の基礎訓練等を行う。 春学期 第１回　ガイダンス 「青い空コンサート」について、発声練習、体の基礎訓練のトレーニングの説明） （井中､加藤） 第２回　演技について　（井中、加藤） ・セリフから表現を考える ・色々な役になってみる 第３回　演目の決定、物語を読む（原典、絵本など）（井中、加藤） 第４回　配役、係り・リーダー決定（脚本・衣裳・道具・ダンス振付・音楽）（井中、加藤） 道具：場面を考え、背景の案、場面毎に道具のリストアップ 衣装：各役の衣装のデザイン 第５回　背景の下準備　（井中、加藤） 道具：背景の紙をつなげる 衣装：各役の衣装のデザイン 第６回　脚本の読み合わせ（役を意識して）（井中、加藤） 製作物の説明（子どもへのプレゼント） 第７回　衣裳型紙を作成　（井中、加藤） 第８回　読み合わせ　（井中、加藤） 道具：背景下描き、必要な道具の確認 第９回　ダンスの活動について（挿入箇所、イメージ等）（井中、加藤） 道具：背景下描き、道具のデザイン 第 10 回 ダンスの活動について（ダンスと音楽）　（井中、加藤） 道具：背景下描き完成、道具のデザイン 第 11 回 布配布と衣裳製作手順説明と確認　（井中、加藤） 秋学期 第 12 回 立ち稽古（ステージの使い方）、製作した衣裳発表、 子どもへのプレゼント宿題提出　（井中、加藤） 美術室の使い方説明　机の移動、絵の具の保管・処理について 第 13 回 立ち稽古（言葉と動き）　道具：背景着彩、道具作り　（井中、加藤） 第 14 回 立ち稽古（動きと音楽）　道具：背景着彩、道具作り　（井中、加藤） 第 15 回 立ち稽古（リズムと言葉と動き）　道具：背景着彩、道具作り　）（井中、加藤） 第 16 回 立ち稽古（心情・情景）　道具：背景着彩、道具作り　（井中、加藤） 第 17 回 立ち稽古（幕間と音楽、暗転と音楽）　道具：背景完成、道具作り　（井中、加藤） 第 18 回 立ち稽古（セリフのテンポ）　道具：道具作り　（井中、加藤） 第 19 回 立ち稽古（物語の緩急）　道具：道具完成　（井中、加藤） 第 20 回 総合的な練習（立ち位置確認）　（井中、加藤） 第 21 回 総合的な練習（セリフ抑揚について）（青嶋、井中、加藤） 第 22 回 総合的な練習（出入り確認）（井中、加藤） 第 23 回 総合的な練習（音楽と動作）（井中、加藤） 第 24 回 総合的な練習（音楽と動き）（井中、加藤） 第 25 回 総合的な練習（心情と動き）（青嶋、井中、加藤） 第 26 回 総合的な練習（道具の搬入出、動線について）（井中、加藤） 第 27 回 総合的な練習（照明、音響をふまえた総合的表現）　（青嶋、井中、加藤） 第 28 回 総合的な練習、リハーサル　（青嶋、井中、加藤） 第 29 回 本番「青い空コンサート」　（井中、加藤） 第 30 回 片付け、レポート　（井中、加藤） 但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2016		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	38081
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
担当教員	青嶋　由美子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	このセミナーでは、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
授業の到達目標	１・学習に必要な基礎力の形成と姿勢、態度を確立する ２・社会人として求められるマナー、常識を身につける ３・保育者として習得すべき知識や技能を習得する		
テキスト（教科書）	『子どもとマスターする 49 の生活技術』（子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修、合同出版）ISBN978-7726-0190-0 『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』（谷田貝公昭・上野通子編、一藝社） ISBN978-901233-81-9		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業内で適宜指示する		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 70%、セミナー演習ノートの作成、提出を 30% の割合として、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（幼児教育・保育科の方針・年間予定・短大生活の目標） 第２回　建学の精神・教育理念（学長の講話） 第３回　プレイスメントテスト（数）　本を読む①（輪読） 第４回　マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ） 第５回　子どもの環境を学ぶ（学外研修：豊橋市「こども未来館ここにこ」との地域連携） 第６回　食農教育活動（大豆の栽培） 第７回　新聞を読む（新聞の読み方・記事のスクラップ） 第８回　マナー②（食事の作法・箸使い・調理の基本）「お弁当の日」 第９回　マナー③（はさみ・カッターの使い方・切り絵） 第 10 回 本を読む②（お勧め本のプレゼンテーション） 第 11 回 本を読む③（お勧め本のプレゼンテーション） 第 12 回 マナー④（雑巾、箒の使い方） 第 13 回 身近な危険について考える（豊橋市役所安全生活課との地域連携　予定） 第 14 回 基礎学力チェック（国・数） 第 15 回 まとめ・セミナーノートの提出 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	38083
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
担当教員	杉山　和恵	単位数	1
その他担当者			
授業概要	このセミナーでは、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
授業の到達目標	１・学習に必要な基礎力の形成と姿勢、態度を確立する ２・社会人として求められるマナー、常識を身につける。 ３・保育者として習得すべき知識や技能を習得する		
テキスト（教科書）	『子どもとマスターする 49 の生活技術』（子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭･村越晃監修、合同出版）ISBN978-7726-0190-0 『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』（谷田貝公昭・上野通子編、一藝社）ISBN978-901233-81-9		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業内で適宜指示する		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 70%、セミナー演習ノートの作成、提出を 30% の割合として、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（幼児教育・保育科の方針・年間予定・短大生活の目標） 第２回　建学の精神・教育理念（学長の講話） 第３回　プレイスメントテスト（数）　本を読む①（輪読） 第４回　マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ） 第５回　子どもの環境を学ぶ（学外研修：豊橋市「こども未来館ここにこ」との地域連携） 第６回　食農教育活動（大豆の栽培） 第７回　新聞を読む（新聞の読み方・記事のスクラップ） 第８回　マナー②（食事の作法・箸使い・調理の基本）「お弁当の日」 第９回　マナー③（はさみ・カッターの使い方・切り絵） 第 10 回 本を読む②（お勧め本のプレゼンテーション） 第 11 回 本を読む③（お勧め本のプレゼンテーション） 第 12 回 マナー④（雑巾、箒の使い方） 第 13 回 身近な危険について考える（豊橋市役所安全生活課との地域連携　予定） 第 14 回 基礎学力チェック（国・数） 第 15 回 まとめ・セミナーノートの提出 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	38084
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
担当教員	佐々木　将芳	単位数	1
その他担当者	白柳　佳子		
授業概要	このセミナーでは、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
授業の到達目標	１・学習に必要な基礎力の形成と姿勢、態度を確立する ２・社会人として求められるマナー、常識を身につける。 ３・保育者として習得すべき知識や技能を習得する｜		
テキスト（教科書）	『子どもとマスターする 49 の生活技術』（子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修、合同出版）ISBN978-7726-0190-0 『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』（谷田貝公昭・上野通子編、一藝社）ISBN978-901233-81-9		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業内で適宜指示する		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 70%、セミナー演習ノートの作成、提出を 30% の割合として、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（幼児教育・保育科の方針・年間予定・短大生活の目標） 第２回　建学の精神・教育理念（学長の講話） 第３回　プレイスメントテスト（数）　本を読む①（輪読） 第４回　マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ） 第５回　子どもの環境を学ぶ（学外研修：豊橋市「こども未来館ここにこ」との地域連携） 第６回　食農教育活動（大豆の栽培） 第７回　新聞を読む（新聞の読み方・記事のスクラップ） 第８回　マナー②（食事の作法・箸使い・調理の基本）「お弁当の日」 第９回　マナー③（はさみ・カッターの使い方・切り絵） 第 10 回 本を読む②（お勧め本のプレゼンテーション） 第 11 回 本を読む③（お勧め本のプレゼンテーション） 第 12 回 マナー④（雑巾、箒の使い方） 第 13 回 身近な危険について考える（豊橋市役所安全生活課との地域連携　予定） 第 14 回 基礎学力チェック（国・数） 第 15 回 まとめ・セミナーノートの提出 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	38085
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
担当教員	朝元　尊	単位数	1
その他担当者			
授業概要	このセミナーでは、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
授業の到達目標	１・学習に必要な基礎力の形成と姿勢、態度を確立する ２・社会人として求められるマナー、常識を身につける。 ３・保育者として習得すべき知識や技能を習得する		
テキスト（教科書）	『子どもとマスターする 49 の生活技術』（子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修、合同出版）ISBN978-7726-0190-0 『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』（谷田貝公昭・上野通子編、一藝社）ISBN978-901233-81-9		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業内で適宜指示する		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 70%、セミナー演習ノートの作成、提出を 30% の割合として、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（幼児教育・保育科の方針・年間予定・短大生活の目標） 第２回　建学の精神・教育理念（学長の講話） 第３回　プレイスメントテスト（数）　本を読む①（輪読） 第４回　マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ） 第５回　子どもの環境を学ぶ（学外研修：豊橋市「こども未来館ここにこ」との地域連携） 第６回　食農教育活動（大豆の栽培） 第７回　新聞を読む（新聞の読み方・記事のスクラップ） 第８回　マナー②（食事の作法・箸使い・調理の基本）「お弁当の日」 第９回　マナー③（はさみ・カッターの使い方・切り絵） 第 10 回 本を読む②（お勧め本のプレゼンテーション） 第 11 回 本を読む③（お勧め本のプレゼンテーション） 第 12 回 マナー④（雑巾、箒の使い方） 第 13 回 身近な危険について考える（豊橋市役所安全生活課との地域連携　予定） 第 14 回 基礎学力チェック（国・数） 第 15 回 まとめ・セミナーノートの提出 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	38086
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	このセミナーでは、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
授業の到達目標	１・学習に必要な基礎力の形成と姿勢、態度を確立する ２・社会人として求められるマナー、常識を身につける。 ３・保育者として習得すべき知識や技能を習得する｜		
テキスト（教科書）	『子どもとマスターする 49 の生活技術』（子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭･村越晃監修、合同出版）ISBN978-7726-0190-0 『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』（谷田貝公昭・上野通子編、一藝社）ISBN978-901233-81-9		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業内で適宜指示する		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 70%、セミナー演習ノートの作成、提出を 30% の割合として、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（幼児教育・保育科の方針・年間予定・短大生活の目標） 第２回　建学の精神・教育理念（学長の講話） 第３回　プレイスメントテスト（数）　本を読む①（輪読） 第４回　マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ） 第５回　子どもの環境を学ぶ（学外研修：豊橋市「こども未来館ここにこ」との地域連携） 第６回　食農教育活動（大豆の栽培） 第７回　新聞を読む（新聞の読み方・記事のスクラップ） 第８回　マナー②（食事の作法・箸使い・調理の基本）「お弁当の日」 第９回　マナー③（はさみ・カッターの使い方・切り絵） 第 10 回 本を読む②（お勧め本のプレゼンテーション） 第 11 回 本を読む③（お勧め本のプレゼンテーション） 第 12 回 マナー④（雑巾、箒の使い方） 第 13 回 身近な危険について考える（豊橋市役所安全生活課との地域連携　予定） 第 14 回 基礎学力チェック（国・数） 第 15 回 まとめ・セミナーノートの提出 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	38089
科目	3808 保育者のライフデザイン	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　克俊	単位数	1
その他担当者			
授業概要	このセミナーでは、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。		
授業の到達目標	１・学習に必要な基礎力の形成と姿勢、態度を確立する ２・社会人として求められるマナー、常識を身につける。 ３・保育者として習得すべき知識や技能を習得する		
テキスト（教科書）	『子どもとマスターする 49 の生活技術』（子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭･村越晃監修、合同出版）ISBN978-7726-0190-0 『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』（谷田貝公昭・上野通子編、一藝社）ISBN978-901233-81-9		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	授業内で適宜指示する		
評価方法	授業への参加態度、課題への取り組み方を 70%、セミナー演習ノートの作成、提出を 30% の割合として、総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス（幼児教育・保育科の方針・年間予定・短大生活の目標） 第２回　建学の精神・教育理念（学長の講話） 第３回　プレイスメントテスト（数）　本を読む①（輪読） 第４回　マナー①（挨拶・言葉遣い・身だしなみ） 第５回　子どもの環境を学ぶ（学外研修：豊橋市「こども未来館ここにこ」との地域連携） 第６回　食農教育活動（大豆の栽培） 第７回　新聞を読む（新聞の読み方・記事のスクラップ） 第８回　マナー②（食事の作法・箸使い・調理の基本）「お弁当の日」 第９回　マナー③（はさみ・カッターの使い方・切り絵） 第 10 回 本を読む②（お勧め本のプレゼンテーション） 第 11 回 本を読む③（お勧め本のプレゼンテーション） 第 12 回 マナー④（雑巾、箒の使い方） 第 13 回 身近な危険について考える（豊橋市役所安全生活課との地域連携　予定） 第 14 回 基礎学力チェック（国・数） 第 15 回 まとめ・セミナーノートの提出 ＊ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	38091
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	青嶋　由美子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育士である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育士としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育士として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。		
授業の到達目標	１．自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける ２．食育についての実践する ３．社会人としての素養を身に付ける		
テキスト（教科書）	谷田貝公昭・上野道子編『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』一藝社、2007 （配布済） その他に、社会人としての素養を高めるためのプリントを適宜配布		
参考書（参考文献）	社会人基礎力をつけるための問題集を授業の際に紹介する		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	課題として「新聞記事のレポート作成」があるが、課題の有無にかかわらずに、新聞に目を通す習慣をつけることが望ましい。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 40%、「基礎セミナー・ノート」を含む課題の達成度を 60% として総合評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス　基礎セミナー・ノートの作成について 第２回　学園祭に向けて①（企画）・社会人基礎力（言語分野①） 第３回　学園祭に向けて②（立案）・社会人基礎力（数学分野①） 第４回　学園祭に向けて③（製作・設営のための準備）・社会人基礎力（生物分野①） 第５回　学園祭でのプレゼンテーション①（飾り付け、準備を含む） 第６回　学園祭でのプレゼンテーション②（運営、片づけを含む） 第７回　食育を考える（子どもと楽しめる調理） 第８回　SOZO 展に向けて①（企画・立案）・社会人基礎力（歴史分野①） 第９回　SOZO 展に向けて②（製作展示設営のための準備）・社会人基礎力（言語分野②） 第 10 回　本学の伝統を学ぶ（青い空コンサート・リハーサルの見学及び設営） 第 11 回　初めての就職対策講座・社会人基礎力（数学分野②） 第 12 回　子どもと関わるために知っておきたいこと①（興味・関心はどこにあるのか）・社会人基礎力（歴史分野②） 第 13 回　子どもと関わるために知っておきたいこと②（年齢と発達）・社会人基礎力（生物分野②） 第 14 回　身近にある危険を考える・（地理分野①） 第 15 回　まとめ及び実習に向けて ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	38092
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	朝元　尊	単位数	1
その他担当者	白柳　佳子		
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育士である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育士としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育士として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。		
授業の到達目標	１．自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける ２．食育についての実践する ３．社会人としての素養を身に付ける		
テキスト（教科書）	谷田貝公昭・上野道子編『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』一藝社、2007 配布済 その他に、社会人としての素養を高めるためのプリントを適宜配布		
参考書（参考文献）	社会人基礎力をつけるための問題集を授業の際に紹介する		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	課題として「新聞記事のレポート作成」があるが、課題の有無にかかわらずに、新聞に目を通す習慣をつけることが望ましい。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 40%、「基礎セミナー・ノート」を含む課題の達成度を 60% として総合評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス　基礎セミナー・ノートの作成について 第２回　学園祭に向けて①（企画）・社会人基礎力（言語分野①） 第３回　学園祭に向けて②（立案）・社会人基礎力（数学分野①） 第４回　学園祭に向けて③（製作・設営のための準備）・社会人基礎力（生物分野①） 第５回　学園祭でのプレゼンテーション①（飾り付け、準備を含む） 第６回　学園祭でのプレゼンテーション②（運営、片づけを含む） 第７回　食育を考える（子どもと楽しめる調理） 第８回　SOZO 展に向けて①（企画・立案）・社会人基礎力（歴史分野①） 第９回　SOZO 展に向けて②（製作展示設営のための準備）・社会人基礎力（言語分野②） 第 10 回　本学の伝統を学ぶ（青い空コンサート・リハーサルの見学及び設営） 第 11 回　初めての就職対策講座・社会人基礎力（数学分野②） 第 12 回　子どもと関わるために知っておきたいこと①（興味・関心はどこにあるのか）・社会人基礎力（歴史分野②） 第 13 回　子どもと関わるために知っておきたいこと②（年齢と発達） ・社会人基礎力（生物分野②） 第 14 回　身近にある危険を考える・（地理分野①） 第 15 回　まとめ及び実習に向けて ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	38093
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　克俊	単位数	1
その他担当者			
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育士である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育士としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育士として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。		
授業の到達目標	1．自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける 2．食育についての実践する 3．社会人としての素養を身に付ける		
テキスト（教科書）	谷田貝公昭・上野道子編『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』一藝社、2007 配布済 その他に、社会人としての素養を高めるためのプリントを適宜配布		
参考書（参考文献）	社会人基礎力をつけるための問題集を授業の際に紹介する		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	課題として「新聞記事のレポート作成」があるが、課題の有無にかかわらずに、新聞に目を通す習慣をつけることが望ましい。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 40%、「基礎セミナー・ノート」を含む課題の達成度を 60% として総合評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス　基礎セミナー・ノートの作成について 第２回　学園祭に向けて①（企画）・社会人基礎力（言語分野①） 第３回　学園祭に向けて②（立案）・社会人基礎力（数学分野①） 第４回　学園祭に向けて③（製作・設営のための準備）・社会人基礎力（生物分野①） 第５回　学園祭でのプレゼンテーション①（飾り付け、準備を含む） 第６回　学園祭でのプレゼンテーション②（運営、片づけを含む） 第７回　食育を考える（子どもと楽しめる調理） 第８回　SOZO 展に向けて①（企画・立案）・社会人基礎力（歴史分野①） 第９回　SOZO 展に向けて②（製作展示設営のための準備）・社会人基礎力（言語分野②） 第 10 回　本学の伝統を学ぶ（青い空コンサート・リハーサルの見学及び設営） 第 11 回　初めての就職対策講座・社会人基礎力（数学分野②） 第 12 回　子どもと関わるために知っておきたいこと①（興味・関心はどこにあるのか）・社会人基礎力（歴史分野②） 第 13 回　子どもと関わるために知っておきたいこと②（年齢と発達） ・社会人基礎力（生物分野②） 第 14 回　身近にある危険を考える・（地理分野①） 第 15 回　まとめ及び実習に向けて ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	38095
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	佐々木　将芳	単位数	1
その他担当者			
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育士である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育士としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育士として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。		
授業の到達目標	１．自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける ２．食育についての実践する ３．社会人としての素養を身に付ける		
テキスト（教科書）	谷田貝公昭・上野道子編『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』一藝社、2007 配布済 その他に、社会人としての素養を高めるためのプリントを適宜配布		
参考書（参考文献）	社会人基礎力をつけるための問題集を授業の際に紹介する		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	課題として「新聞記事のレポート作成」があるが、課題の有無にかかわらずに、新聞に目を通す習慣をつけることが望ましい。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 40%、「基礎セミナー・ノート」を含む課題の達成度を 60% として総合評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス　基礎セミナー・ノートの作成について 第２回　学園祭に向けて①（企画）・社会人基礎力（言語分野①） 第３回　学園祭に向けて②（立案）・社会人基礎力（数学分野①） 第４回　学園祭に向けて③（製作・設営のための準備）・社会人基礎力（生物分野①） 第５回　学園祭でのプレゼンテーション①（飾り付け、準備を含む） 第６回　学園祭でのプレゼンテーション②（運営、片づけを含む） 第７回　食育を考える（子どもと楽しめる調理） 第８回　SOZO 展に向けて①（企画・立案）・社会人基礎力（歴史分野①） 第９回　SOZO 展に向けて②（製作展示設営のための準備）・社会人基礎力（言語分野②） 第 10 回　本学の伝統を学ぶ（青い空コンサート・リハーサルの見学及び設営） 第 11 回　初めての就職対策講座・社会人基礎力（数学分野②） 第 12 回　子どもと関わるために知っておきたいこと①（興味・関心はどこにあるのか）・社会人基礎力（歴史分野②） 第 13 回　子どもと関わるために知っておきたいこと②（年齢と発達）・社会人基礎力（生物分野②） 第 14 回　身近にある危険を考える・（地理分野①） 第 15 回　まとめ及び実習に向けて ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	38096
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	岡本　雅子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育士である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育士としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育士として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。		
授業の到達目標	1．自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける 2．食育についての実践する 3．社会人としての素養を身に付ける		
テキスト（教科書）	谷田貝公昭・上野道子編『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』一藝社、2007 配布済 その他に、社会人としての素養を高めるためのプリントを適宜配布		
参考書（参考文献）	社会人基礎力をつけるための問題集を授業の際に紹介する		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	課題として「新聞記事のレポート作成」があるが、課題の有無にかかわらずに、新聞に目を通す習慣をつけることが望ましい。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 40%、「基礎セミナー・ノート」を含む課題の達成度を 60% として総合評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス　基礎セミナー・ノートの作成について 第２回　学園祭に向けて①（企画）・社会人基礎力（言語分野①） 第３回　学園祭に向けて②（立案）・社会人基礎力（数学分野①） 第４回　学園祭に向けて③（製作・設営のための準備）・社会人基礎力（生物分野①） 第５回　学園祭でのプレゼンテーション①（飾り付け、準備を含む） 第６回　学園祭でのプレゼンテーション②（運営、片づけを含む） 第７回　食育を考える（子どもと楽しめる調理） 第８回　SOZO 展に向けて①（企画・立案）・社会人基礎力（歴史分野①） 第９回　SOZO 展に向けて②（製作展示設営のための準備）・社会人基礎力（言語分野②） 第 10 回　本学の伝統を学ぶ（青い空コンサート・リハーサルの見学及び設営） 第 11 回　初めての就職対策講座・社会人基礎力（数学分野②） 第 12 回　子どもと関わるために知っておきたいこと①（興味・関心はどこにあるのか）・社会人基礎力（歴史分野②） 第 13 回　子どもと関わるために知っておきたいこと②（年齢と発達） ・社会人基礎力（生物分野②） 第 14 回　身近にある危険を考える・（地理分野①） 第 15 回　まとめ及び実習に向けて ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	38098
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	杉山　和恵	単位数	1
その他担当者			
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育士である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育士としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育士として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。		
授業の到達目標	１．自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける ２．食育についての実践する ３．社会人としての素養を身に付ける		
テキスト（教科書）	谷田貝公昭・上野道子編『これだけは身につけたい　保育者の常識 67』一藝社、2007 配布済 その他に、社会人としての素養を高めるためのプリントを適宜配布		
参考書（参考文献）	社会人基礎力をつけるための問題集を授業の際に紹介する		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	課題として「新聞記事のレポート作成」があるが、課題の有無にかかわらずに、新聞に目を通す習慣をつけることが望ましい。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 40%、「基礎セミナー・ノート」を含む課題の達成度を 60% として総合評価する		
授業計画	第１回　ガイダンス　基礎セミナー・ノートの作成について 第２回　学園祭に向けて①（企画）・社会人基礎力（言語分野①） 第３回　学園祭に向けて②（立案）・社会人基礎力（数学分野①） 第４回　学園祭に向けて③（製作・設営のための準備）・社会人基礎力（生物分野①） 第５回　学園祭でのプレゼンテーション①（飾り付け、準備を含む） 第６回　学園祭でのプレゼンテーション②（運営、片づけを含む） 第７回　食育を考える（子どもと楽しめる調理） 第８回　SOZO 展に向けて①（企画・立案）・社会人基礎力（歴史分野①） 第９回　SOZO 展に向けて②（製作展示設営のための準備）・社会人基礎力（言語分野②） 第 10 回　本学の伝統を学ぶ（青い空コンサート・リハーサルの見学及び設営） 第 11 回　初めての就職対策講座・社会人基礎力（数学分野②） 第 12 回　子どもと関わるために知っておきたいこと①（興味・関心はどこにあるのか）・社会人基礎力（歴史分野②） 第 13 回　子どもと関わるために知っておきたいこと②（年齢と発達）・社会人基礎力（生物分野②） 第 14 回　身近にある危険を考える・（地理分野①） 第 15 回　まとめ及び実習に向けて ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	38111
科目	3811 卒業研究セミナー	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	青嶋　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つめに必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では、幾つかの行事を体験しながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験・経験を通して社会で十分に通用させることが可能な実践力となっていく筈である。 また、まとめとして、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。二年間の総まとめとして、自分が興味を持っている絵本を選択し、資料を読み、まとめるという作業を行う。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。 さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なっていく。		
授業の到達目標	１．保育教材作成の手順を理解し、実践する ２．子どもに関わる行事の運営を行う ３．保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する ４．研究発表のプロセスを理解し、発表を行い、研究をまとめる		
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現］（萌文書林：１年次に購入済）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	社会人として活躍するために必要な知識や技術は、一朝一夕で身に付くものではない。 毎日が準備・復習の場であると考えてほしい。		
評価方法	授業の取り組み方 50%、作品製作及び作品発表 25%、卒業研究の成果 25% で評価を行う。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新入生との交流会 第３回　エプロン・シアターの製作① 第４回　エプロン・シアターの製作② 第５回　エプロン・シアターの発表① 第６回　エプロン・シアターの発表② 第７回　就職模擬試験① 第８回　就職模擬試験② 第９回　人権を知る～保育者として、社会人として、人として～ 第 10 回　就職関係書類の点検①（履歴書・封筒・お礼状等） 第 11 回　就職関係書類の点検②（小論文・作文等） 第 12 回　デイ・キャンプ① 第 13 回　デイ・キャンプ② 第 14 回　プレイスメント・テスト 第 15 回　クレペリン検査 第 16 回　保育士就職模擬試験① 第 17 回　保育士就職模擬試験② 第 18 回　保育教材の製作① 第 19 回　卒業研究・説明会（形式・体裁を知る） 第 20 回　卒業研究の書き方（題材の決定） 第 21 回　学園祭準備① 第 22 回　学園祭準備② 第 23 回　学園祭準備③ 第 24 回　卒業レポートの執筆・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等） 第 25 回　卒業レポートの執筆・個別指導②（構成の確認・序論・本論等） 第 26 回　保育教材の製作② 第 27 回　季節の行事を楽しむ① 第 28 回　季節の行事を楽しむ② 第 29 回　卒業レポートの執筆・個別指導③（本論部分）（内容の確認及び修正・訂正）及び提出 第 30 回　就職直前指導講座 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	38112
科目	3811 卒業研究セミナー	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	佐野　真一郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つめに必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では、幾つかの行事を体験しながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験・経験を通して社会で十分に通用させることが可能な実践力となっていく筈である。 また、まとめとして、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。二年間の総まとめとして、自分が興味を持っているテーマを選択し、資料を読み、まとめるという作業を行う。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。 さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なっていく。		
授業の到達目標	１．保育教材作成の手順を理解し、実践する ２．子どもに関わる行事の運営を行う ３．保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する ４．研究発表のプロセスを理解し、発表を行い、研究をまとめる		
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林：１年次に購入済）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	社会人として活躍するために必要な知識や技術は、一朝一夕で身に付くものではない。 毎日が準備・復習の場であると考えてほしい。		
評価方法	授業の取り組み方 50%、作品製作及び作品発表 25%、卒業研究の成果 25% で評価を行う。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新入生との交流会 第３回　エプロン・シアターの製作①及び「子ども未来館ここにこ」公演準備① 第４回　エプロン・シアターの製作②及び「子ども未来館ここにこ」公演準備② 第５回　エプロン・シアターの発表①及び「子ども未来館ここにこ」公演準備③ 第６回　エプロン・シアターの発表②及び「子ども未来館ここにこ」公演準備④ 第７回　就職模擬試験① 第８回　就職模擬試験② 第９回　「子ども未来館ここにこ」公演 第 10 回　就職関係書類の点検①（履歴書・封筒・お礼状等） 第 11 回　就職関係書類の点検②（小論文・作文等） 第 12 回　デイ・キャンプ① 第 13 回　デイ・キャンプ② 第 14 回　プレイスメント・テスト 第 15 回　クレペリン検査 第 16 回　保育士就職模擬試験① 第 17 回　保育士就職模擬試験② 第 18 回　保育教材の製作① 第 19 回　卒業研究・説明会（形式・体裁を知る） 第 20 回　卒業研究の書き方（題材の選び方） 第 21 回　学園祭準備① 第 22 回　学園祭準備② 第 23 回　学園祭準備③ 第 24 回　卒業レポートの執筆・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等） 第 25 回　卒業レポートの執筆・個別指導②（構成の確認・序論・本論等） 第 26 回　保育教材の製作② 第 27 回　季節の行事を楽しむ① 第 28 回　季節の行事を楽しむ② 第 29 回　卒業レポートの執筆・個別指導③（本論部分）（内容の確認及び修正・訂正）及び提出 第 30 回　就職直前指導講座 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	38113
科目	3811 卒業研究セミナー	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	杉山　和恵	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つめに必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では、幾つかの行事を体験しながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験・経験を通して社会で十分に通用させることが可能な実践力となっていく筈である。 また、まとめとして、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。二年間の総まとめとして、自分が興味を持っている絵本を選択し、資料を読み、まとめるという作業を行う。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。 さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なっていく。		
授業の到達目標	１．保育教材作成の手順を理解し、実践する ２．子どもに関わる行事の運営を行う ３．保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する ４．研究発表のプロセスを理解し、発表を行い、研究をまとめる		
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林 : １年次に購入済）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	社会人として活躍するために必要な知識や技術は、一朝一夕で身に付くものではない。 毎日が準備・復習の場であると考えてほしい。		
評価方法	授業の取り組み方 50%、作品製作及び作品発表 25%、卒業研究の成果 25% で評価を行う。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新入生との交流会 第３回　エプロン・シアターの製作① 第４回　エプロン・シアターの製作② 第５回　エプロン・シアターの発表① 第６回　エプロン・シアターの発表② 第７回　就職模擬試験① 第８回　就職模擬試験② 第９回　人権を知る～保育者として、社会人として、人として～ 第 10 回　就職関係書類の点検①（履歴書・封筒・お礼状等） 第 11 回　就職関係書類の点検②（小論文・作文等） 第 12 回　デイ・キャンプ① 第 13 回　デイ・キャンプ② 第 14 回　プレイスメント・テスト 第 15 回　クレペリン検査 第 16 回　保育士就職模擬試験① 第 17 回　保育士就職模擬試験② 第 18 回　保育教材の製作① 第 19 回　卒業研究・説明会（形式・体裁を知る） 第 20 回　卒業研究の書き方（題材の決定） 第 21 回　学園祭準備① 第 22 回　学園祭準備② 第 23 回　学園祭準備③ 第 24 回　卒業レポートの執筆・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等） 第 25 回　卒業レポートの執筆・個別指導②（構成の確認・序論・本論等） 第 26 回　保育教材の製作② 第 27 回　季節の行事を楽しむ① 第 28 回　季節の行事を楽しむ② 第 29 回　卒業レポートの執筆・個別指導③（本論部分）（内容の確認及び修正・訂正）及び提出 第 30 回　就職直前指導講座 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	38115
科目	3811 卒業研究セミナー	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	佐々木　将芳	単位数	2
その他担当者	井中　あけみ		
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つめに必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では、幾つかの行事を体験しながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験・経験を通して社会で十分に通用させることが可能な実践力となっていく筈である。 また、まとめとして、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。二年間の総まとめとして、自分が興味を持っているテーマを選択し、資料を読み、まとめるという作業を行う。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。 さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なっていく。		
授業の到達目標	１．保育教材作成の手順を理解し、実践する ２．子どもに関わる行事の運営を行う ３．保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する ４．研究発表のプロセスを理解し、発表を行い、研究をまとめる		
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林 : １年次に購入済）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	社会人として活躍するために必要な知識や技術は、一朝一夕で身に付くものではない。 毎日が準備・復習の場であると考えてほしい。		
評価方法	授業の取り組み方 50%、作品製作及び作品発表 25%、卒業研究の成果 25% で評価を行う。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新入生との交流会 第３回　エプロン・シアターの製作①及び「子ども未来館ここにこ」公演準備① 第４回　エプロン・シアターの製作②及び「子ども未来館ここにこ」公演準備② 第５回　エプロン・シアターの発表①及び「子ども未来館ここにこ」公演準備③ 第６回　エプロン・シアターの発表②及び「子ども未来館ここにこ」公演準備④ 第７回　就職模擬試験①｜第８回　就職模擬試験② 第９回「子ども未来館ここにこ」公演 第 10 回　就職関係書類の点検①（履歴書・封筒・お礼状等） 第 11 回　就職関係書類の点検②（小論文・作文等） 第 12 回　デイ・キャンプ① 第 13 回　デイ・キャンプ② 第 14 回　プレイスメント・テスト 第 15 回　クレペリン検査 第 16 回　保育士就職模擬試験① 第 17 回　保育士就職模擬試験② 第 18 回　保育教材の製作① 第 19 回　卒業レポート・説明会（形式・体裁を知る） 第 20 回　卒業レポートの書き方（題材の選び方） 第 21 回　学園祭準備① 第 22 回　学園祭準備② 第 23 回　学園祭準備③ 第 24 回　卒業レポートの執筆・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等） 第 25 回　卒業レポートの執筆・個別指導②（構成の確認・序論・本論等） 第 26 回　保育教材の製作② 第 27 回　季節の行事を楽しむ① 第 28 回　季節の行事を楽しむ② 第 29 回　卒業レポートの執筆・個別指導③（本論部分）（内容の確認及び修正・訂正）及び提出 第 30 回　就職直前指導講座 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	38116
科目	3811 卒業研究セミナー	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	岡本　雅子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つめに必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では、幾つかの行事を体験しながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験・経験を通して社会で十分に通用させることが可能な実践力となっていく筈である。 また、まとめとして、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。二年間の総まとめとして、自分が興味を持っている絵本を選択し、資料を読み、まとめるという作業を行う。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。 さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なっていく。		
授業の到達目標	１．保育教材作成の手順を理解し、実践する ２．子どもに関わる行事の運営を行う ３．保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する ４．研究発表のプロセスを理解し、発表を行い、研究をまとめる		
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林 : １年次に購入済）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	社会人として活躍するために必要な知識や技術は、一朝一夕で身に付くものではない。 毎日が準備・復習の場であると考えてほしい。		
評価方法	授業の取り組み方 50%、作品製作及び作品発表 25%、卒業研究の成果 25% で評価を行う。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新入生との交流会 第３回　エプロン・シアターの製作① 第４回　エプロン・シアターの製作② 第５回　エプロン・シアターの発表① 第６回　エプロン・シアターの発表② 第７回　就職模擬試験① 第８回　就職模擬試験② 第９回　人権を知る～保育者として、社会人として、人として～ 第 10 回　就職関係書類の点検①（履歴書・封筒・お礼状等） 第 11 回　就職関係書類の点検②（小論文・作文等） 第 12 回　デイ・キャンプ① 第 13 回　デイ・キャンプ② 第 14 回　プレイスメント・テスト 第 15 回　クレペリン検査 第 16 回　保育士就職模擬試験① 第 17 回　保育士就職模擬試験② 第 18 回　保育教材の製作① 第 19 回　卒業研究・説明会（形式・体裁を知る） 第 20 回　卒業研究の書き方（題材の決定） 第 21 回　学園祭準備① 第 22 回　学園祭準備② 第 23 回　学園祭準備③ 第 24 回　卒業レポートの執筆・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等） 第 25 回　卒業レポートの執筆・個別指導②（構成の確認・序論・本論等） 第 26 回　保育教材の製作② 第 27 回　季節の行事を楽しむ① 第 28 回　季節の行事を楽しむ② 第 29 回　卒業レポートの執筆・個別指導③（本論部分）（内容の確認及び修正・訂正）及び提出 第 30 回　就職直前指導講座 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	38118
科目	3811 卒業研究セミナー	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	加藤　克俊	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つめに必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では、幾つかの行事を体験しながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験・経験を通して社会で十分に通用させることが可能な実践力となっていく筈である。 また、まとめとして、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。二年間の総まとめとして、自分が興味を持っているテーマを選択し、資料を読み、まとめるという作業を行う。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。 さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なっていく。		
授業の到達目標	１．保育教材作成の手順を理解し、実践する ２．子どもに関わる行事の運営を行う ３．保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する ４．研究発表のプロセスを理解し、発表を行い、研究をまとめる		
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林：１年次に購入済）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	社会人として活躍するために必要な知識や技術は、一朝一夕で身に付くものではない。 毎日が準備・復習の場であると考えてほしい。		
評価方法	授業の取り組み方 50%、作品製作及び作品発表 25%、卒業研究の成果 25% で評価を行う。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新入生との交流会 第３回　エプロン・シアターの製作①及び「子ども未来館ここにこ」公演準備① 第４回　エプロン・シアターの製作②及び「子ども未来館ここにこ」公演準備② 第５回　エプロン・シアターの発表①及び「子ども未来館ここにこ」公演準備③ 第６回　エプロン・シアターの発表②及び「子ども未来館ここにこ」公演準備④ 第７回　就職模擬試験① 第８回　就職模擬試験② 第９回　「子ども未来館ここにこ」公演 第 10 回　就職関係書類の点検①（履歴書・封筒・お礼状等） 第 11 回　就職関係書類の点検②（小論文・作文等） 第 12 回　デイ・キャンプ① 第 13 回　デイ・キャンプ② 第 14 回　プレイスメント・テスト 第 15 回　クレペリン検査 第 16 回　保育士就職模擬試験① 第 17 回　保育士就職模擬試験② 第 18 回　保育教材の製作① 第 19 回　卒業研究・説明会（形式・体裁を知る） 第 20 回　卒業研究の書き方（題材の選び方） 第 21 回　学園祭準備① 第 22 回　学園祭準備② 第 23 回　学園祭準備③ 第 24 回　卒業レポートの執筆・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等） 第 25 回　卒業レポートの執筆・個別指導②（構成の確認・序論・本論等） 第 26 回　保育教材の製作② 第 27 回　季節の行事を楽しむ① 第 28 回　季節の行事を楽しむ② 第 29 回　卒業レポートの執筆・個別指導③（本論部分）（内容の確認及び修正・訂正）及び提出 第 30 回　就職直前指導講座 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	38119
科目	3811 卒業研究セミナー	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	朝元　尊	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つめに必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では、幾つかの行事を体験しながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験・経験を通して社会で十分に通用させることが可能な実践力となっていく筈である。 また、まとめとして、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。二年間の総まとめとして、自分が興味を持っている絵本を選択し、資料を読み、まとめるという作業を行う。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。 さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なっていく。		
授業の到達目標	１．保育教材作成の手順を理解し、実践する ２．子どもに関わる行事の運営を行う ３．保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する ４．研究発表のプロセスを理解し、発表を行い、研究をまとめる		
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現 ］（萌文書林 : １年次に購入済）		
参考書（参考文献）			
受講条件	なし		
準備学習等の内容	社会人として活躍するために必要な知識や技術は、一朝一夕で身に付くものではない。 毎日が準備・復習の場であると考えてほしい。		
評価方法	授業の取り組み方 50%、作品製作及び作品発表 25%、卒業研究の成果 25% で評価を行う。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　新入生との交流会 第３回　エプロン・シアターの製作① 第４回　エプロン・シアターの製作② 第５回　エプロン・シアターの発表① 第６回　エプロン・シアターの発表② 第７回　就職模擬試験① 第８回　就職模擬試験② 第９回　人権を知る～保育者として、社会人として、人として～ 第 10 回　就職関係書類の点検①（履歴書・封筒・お礼状等） 第 11 回　就職関係書類の点検②（小論文・作文等） 第 12 回　デイ・キャンプ① 第 13 回　デイ・キャンプ② 第 14 回　プレイスメント・テスト 第 15 回　クレペリン検査 第 16 回　保育士就職模擬試験① 第 17 回　保育士就職模擬試験② 第 18 回　保育教材の製作① 第 19 回　卒業研究・説明会（形式・体裁を知る） 第 20 回　卒業研究の書き方（題材の決定） 第 21 回　学園祭準備① 第 22 回　学園祭準備② 第 23 回　学園祭準備③ 第 24 回　卒業レポートの執筆・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等） 第 25 回　卒業レポートの執筆・個別指導②（構成の確認・序論・本論等） 第 26 回　保育教材の製作② 第 27 回　季節の行事を楽しむ① 第 28 回　季節の行事を楽しむ② 第 29 回　卒業レポートの執筆・個別指導③（本論部分）（内容の確認及び修正・訂正）及び提出 第 30 回　就職直前指導講座 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	PEFM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	39080
科目	3908 キャリアベーシック・言語Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	熊澤　美弓	単位数	0
その他担当者			
授業概要	国語力というものは、全ての科目の礎となるものであり、人として暮らしていくためにも不可欠な力である。これが不足していると、短期大学の講義・演習の履修に際して支障が出る場合もある。また、社会人として巣立つ際に、不便さや不都合が生じることも考えられる。国語に関わる力の不足から生じるトラブルを回避出来るようにするため、この科目では、中等教育前期にあたる程度の国語力の確保を目標する。また、語彙の運用能力を高めることも目指す。春学期は語彙を中心として授業を進める。		
授業の到達目標	１．社会人としてふさわしい一定の国語力を確保する ２．自己表現、情報伝達に十分な文章力を確保する ３．文章表現、語彙力の向上により、多角的な視野をもつことができる		
テキスト（教科書）	プリントを配布		
参考書（参考文献）			
受講条件	プレイスメント・テスト結果による該当者は全員受講すること。		
準備学習等の内容	予習・復習を行い、確実な知識を身につけるための学習時間を充分に取るようにすること。		
評価方法	平常点を 50%、提出物・課題の達成度を 50% として評価を行う。 筆記試験は行わず、毎時間プリント・小テストの提出を求める。これによって課題の達成度を判断する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　和語を中心に 第３回　漢語を中心に 第４回　外来語 第５回　同音異義語 第６回　同訓異義語 第７回　熟語 第８回　四字熟語 第９回　故事成語 第 10 回　慣用表現 第 11 回　ことわざ 第 12 回　敬語―尊敬語を中心に 第 13 回　敬語―謙譲語を中心に 第 14 回　仮名遣い 第 15 回　ことばいろいろ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	39090
科目	3909 キャリアベーシック・言語Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	熊澤　美弓	単位数	0
その他担当者			
授業概要	国語力というものは、全ての科目の礎となるものであり、人として暮らしていくためにも不可欠な力である。これが不足していると、短期大学の講義・演習の履修に際して支障が出る場合もある。また、社会人として巣立つ際に、不便さや不都合が生じることも考えられる。国語に関わる力の不足から生じるトラブルを回避出来るようにするため、この科目では、中等教育前期にあたる程度の国語力の確保を目標とする。また、語彙の運用能力を高めることも目指す。秋学期は文章表現を中心として授業を進める。		
授業の到達目標	１．社会人としてふさわしい一定の国語力を確保する ２．自己表現、情報伝達に十分な文章力を確保する ３．文章表現、語彙力の向上により、多角的な視野をもつことができる		
テキスト（教科書）	プリントを配布		
参考書（参考文献）			
受講条件	プレイスメント・テスト結果による該当者は全員受講すること。		
準備学習等の内容	予習・復習を行い、確実な知識を身につけるための学習時間を充分に取るようにすること。		
評価方法	平常点を 50%、提出物・課題の達成度を 50% として評価を行う。 筆記試験は行わず、毎時間プリント・小テストの提出を求める。これによって課題の達成度を判断する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　日本語の使い方 第３回　文体・話し言葉・書き言葉 第４回　ことばの瞬発力 第５回　文章の要約 第６回　文の構造 第７回　あいまい文 第８回　自他と視点 第９回　感想文・意見文 第 10 回　手紙の書き方 第 11 回　案内文 第 12 回　日誌 第 13 回　語彙―和語を中心に 第 14 回　語彙―漢語を中心に 第 15 回　待遇表現 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEFM1009		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

X　授業科目の紹介

キャリアプランニング科

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	11110
科目	1111 心理学	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　知佳子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	人間の精神を構成している様々な機能とその成り立ちについて学ぶ。日常とは違った視点で人間の「こころ」を探求する心理学という学問を学ぶことによって、自分や他者の「こころ」や気持ちを理解するための新しい視点を獲得することを目標とする。		
授業の到達目標	１．人間のこころを支える基本的な機能について概略を理解している。 ２．人間のこころには個人差や発達的な差異があることを例示できる。 ３．こころの働きの不調およびその治療法について例示できる。		
テキスト（教科書）	『絶対役立つ教養の心理学』（藤田哲也編著・ミネルヴァ書房） ISBN-10: 4623053385		
参考書（参考文献）	随時、紹介する。		
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	学期前に必要なものは特にない。その他は、随時、指示する。		
評価方法	小テストおよびミニレポート：40% 学期末試験：60% なお、小テストやミニレポートの回数によっては、比率を変更することもある。		
授業計画	第１回　ガイダンス：授業の進め方と目的および試験について、心理学とは 第２回　感覚と知覚：知覚のハードウエア 第３回　感覚と知覚：対象、奥行きの知覚 第４回　記憶：記憶の仕組み 第５回　記憶：記憶の諸相 第６回　対人関係の心理学：他者を理解する 第７回　対人関係の心理学：他者を動かす 第８回　動機づけのメカニズム：やる気とは 第９回　動機づけのメカニズム：やる気を引き出す 第 10 回　思考の仕組み 第 11 回　青年期の心理学 第 12 回　発達心理学：思考の発達 第 13 回　発達心理学：ことば、人間関係の発達 第 14 回　臨床心理学：こころの不調とは 第 15 回　臨床心理学：ひとを支える ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPDL1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	26530
科目	2653 トレーニング	授業種別	週間授業
担当教員	三木　裕子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	この授業ではトレーニングについて知るとともに「攻めと守りの健康管理」について学びます 「攻めの健康管理」とは、目的に応じたトレーニングを通じて身体を鍛え、病気やけがを防ぎ疲れにくい身体を作ること 「守りの健康管理」とは自身をメンテナンスし、身体を良い状態に保ち続けることです 社会人になっても自己管理できる能力を身につけます そして家族の体力づくりや介護予防にも役立つ理論も学びます		
授業の到達目標	学生は　社会人としての心身の自己管理能力を得る 　　グループワークを通して　その一員として行動する力を身につける 　　講義の内容を身体を使い実践しより深く習熟する		
テキスト（教科書）	『スポーツトレーニング理論』　伊藤マモル　日本文芸社 ISBN　978-4-537-20766-8		
参考書（参考文献）			
受講条件	ヨガマットを準備するのが望ましい		
準備学習等の内容	毎回の授業計画に沿って予習、復習すること 特に復習を重視する スポーツ関連誌（Tarzan 等）の購読を推奨する		
評価方法	授業態度（含実技）　50% グループワークへの貢献　30% レポートなど提出物　20% 大幅な遅刻　劣悪な受講態度（実技での危険行為など）は 減点の対象とする		
授業計画	第１回　攻めと守りの健康管理 　健康とよはし推進計画　第２次健康日本 21 第２回　トレーニングの理論 　体力の概念と体力要素　測定の意義 第３回　トレーニングの理論 　運動の原理・原則　様々なトレーニング方法 第４回　トレーニングと身体の仕組み 　エネルギー・ホルモン・　女性の身体の特性 第５回　トレーニングと栄養・食事の仕組み 　体重・食欲のコントロール　喫煙と飲酒　サプリメント　他 第６回　ストレッチング（ボブアンダーソン）　レジスタンストレーニング 第７回　YOGA　バレトンメソッド 第８回　サーキットトレーニング　リラクセーション 第９回　ボディーコンバット 第 10 回　フィギュアロビクス 第 11 回　トレーシーメソッド 第 12 回　ブートキャンプ（女性用） 第 13 回　ストレス管理法 第 14 回　高齢者の体力・健康と運動　ロコモティブシンドローム 第 15 回　高齢者の運動　介護予防運動 ただし、受講学生の習熟度や室内温度等により授業計画を変更することもある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40010
科目	4001 キャリアプランニングⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	1
その他担当者			
授業概要	自分が生きてきたこれまでを振り返り、それをもとに、自分のキャリアをどのように作り上げて行くかを考える授業です。キャリアプランニングⅠの担当教員が、担任としての役割を果たします。少人数教育ですので、友達をつくるよい機会にもなります。規則正しい学生生活が送れるように、自己管理・時間管理について助言をしていきます。自分の目標は何か、それを達成するために短期大学での２年間で何をしたらよいのか、何が出来るようになればよいのかを考えます。		
授業の到達目標	（１）働くということ、生活をしていくということに対して理解を深めること （２）自分が将来何をしたいのかを思い描くこと （３）社会人基礎力の必要性を知り、修得すること		
テキスト（教科書）	特にテキストは用意しません。プリントを配布します。		
参考書（参考文献）	適宜、指示します。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	教員が、授業時間内に予習・復習のやり方を指示します。		
評価方法	授業への取組状況（40 点）、発表（20 点）、定期試験（40 点）の合計によって判断し、成績評価を行います。		
授業計画	第１回　ガイダンス　　自己紹介　授業の進め方 「志」を抱くということ 演習：コミュニケーションセンスのチェック。春学期の目標について考え始める。 第２回　短大生としての自覚を持つということ　　自分を知る・仲間を知る・大学を知る 第３回　就職ガイダンス（１） 第４回　図書館ガイダンス 演習：図書情報センターの利用方法、文献探索の方法 第５回　キャリアプランニング　目標を持つということ 演習：目標と目標達成のためにやるべきことを書き出す。 キーワード:自分史、ビジョン、「いますぐやる」、「ためしにやる」、「とりあえずやる」 第６回　外部講師による講演会 演習：話を聞きながら要点をまとめる。感想を書く。 キーワード：職業観、プロ意識 第７回　就職ガイダンス（２） 第８回　コミュニケーションの意味するもの 演習：グループディスカッション、ディベート 第９回　メンタルタフネス講座 第 10 回　学長による建学の精神 第 11 回　就職ガイダンス（３） 第 12 回　大学で学ぶためのスタディ・スキル 演習：ノートのとり方、要約の仕方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方 キーワード：要点をおさえる。重要でないものは捨てる勇気をもつ。取捨選択。 第 13 回　私のキャリアデザイン 実習：短大生活の具体的行動計画表をつくる。 キーワード：キャリアデザイン 第 14 回　セルフモチベーション講座 キーワード：ポジティブ・シンキング 第 15 回　春学期の成果を秋学期につなげていくために 実習：この授業で学んだことを振り返る。 ・基礎学力をつけるため、国語・計算の演習問題を実施します。 ・コミュニケーションン能力をつけるため、人前で発表する訓練をします。 （自己紹介、友達に薦める本、新聞記事から、最近ちょっぴり幸せを感じたこと、などのテーマです。） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング	CPBM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40012
科目	4001 キャリアプランニングⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	中島　剛	単位数	1
その他担当者			
授業概要	自分が生きてきたこれまでを振り返り、それをもとに、自分のキャリアをどのように作り上げて行くかを考える授業です。キャリアプランニングⅠの担当教員が、担任としての役割を果たします。少人数教育ですので、友達をつくるよい機会にもなります。規則正しい学生生活が送れるように、自己管理・時間管理について助言をしていきます。自分の目標は何か、それを達成するために短期大学での２年間で何をしたらよいのか、何が出来るようになればよいのかを考えます。		
授業の到達目標	（１）働くということに対して理解を深めること （２）自分が将来何をしたいのかを思い描くこと （３）社会人基礎力の必要性を知り、修得すること		
テキスト（教科書）	特にテキストは用意しません。プリントを配布します。		
参考書（参考文献）	適宜、指示します。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	教員が、授業時間内に予習・復習のやり方を指示します。		
評価方法	授業への参加状況（40 点）、発表（20 点）、定期試験（40 点）の合計によって判断し、成績評価を行います。		
授業計画	第１回　ガイダンス　　自己紹介　授業の進め方 「志」を抱くということ 演習：コミュニケーションセンスのチェック。春学期の目標について考え始める。 第２回　短大生としての自覚を持つということ　　自分を知る・仲間を知る・大学を知る 第３回　就職ガイダンス（１） 第４回　図書館ガイダンス 演習：図書情報センターの利用方法、文献探索の方法 第５回　キャリアプランニング　目標を持つということ 演習：目標と目標達成のためにやるべきことを書き出す。 キーワード:自分史、ビジョン、「いますぐやる」、「ためしにやる」、「とりあえずやる」 第６回　外部講師による講演会 演習：話を聞きながら要点をまとめる。感想を書く。 キーワード：職業観、プロ意識 第７回　就職ガイダンス（２） 第８回　コミュニケーションの意味するもの 演習：グループディスカッション、ディベート 第９回　自分の強みと弱み 演習：アピールポイントのチェック 第 10 回　学長による建学の精神講演 第 11 回　就職ガイダンス（３） 第 12 回　大学で学ぶためのスタディ・スキル 演習：ノートのとり方、要約の仕方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方 キーワード：要点をおさえる。重要でないものは捨てる勇気をもつ。取捨選択。 第 13 回　私のキャリアデザイン 実習：短大生活の具体的行動計画表をつくる。 キーワード：キャリアデザイン 第 14 回　メンタル・タフネス　ポジティブ・シンキング 第 15 回　春学期の成果を秋学期につなげていくために 実習：この授業で学んだことを振り返る。 ・基礎学力をつけるため、国語・計算の演習問題を実施します。 ・社会常識を身につけるため、新聞記事に対する意見等を記述し、論議します。 ・コミュニケーションン能力をつけるため、人前で発表する訓練をします。 （自己紹介、友達に薦める本、新聞記事から、最近ちょっぴり幸せを感じたこと、などのテーマです。） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング	CPBM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40018
科目	4001 キャリアプランニングⅠ	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	1
その他担当者			
授業概要	自分が生きてきたこれまでを振り返り、それをもとに、自分のキャリアをどのように作り上げて行くかを考える授業です。キャリアプランニングⅠの担当教員が、担任としての役割を果たします。少人数教育ですので、友達をつくるよい機会にもなります。規則正しい学生生活が送れるように、自己管理・時間管理について助言をしていきます。自分の目標は何か、それを達成するために短期大学での２年間で何をしたらよいのか、何が出来るようになればよいのかを考えます。		
授業の到達目標	（１）働くということに対して理解を深めること （２）自分が将来何をしたいのかを思い描くこと （３）社会人基礎力の必要性を知り、修得すること		
テキスト（教科書）	特にテキストは用意しません。プリントを配布します。		
参考書（参考文献）	適宜、指示します。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	教員が、授業時間内に予習・復習のやり方を指示します。		
評価方法	授業への参加状況（40 点）、発表（20 点）、定期試験（40 点）の合計によって判断し、成績評価を行います。		
授業計画	第１回　ガイダンス　　自己紹介　授業の進め方 演習：コミュニケーションセンスのチェック。春学期の目標について考え始める。 第２回　短大生としての自覚を持つということ　　自分を知る・仲間を知る・大学を知る 第３回　就職ガイダンス（１） 第４回　図書館ガイダンス 演習：図書情報センターの利用方法、文献探索の方法 第５回　キャリアプランニング　目標を持つということ 演習：目標と目標達成のためにやるべきことを書き出す。 キーワード:自分史、ビジョン、「いますぐやる」、「ためしにやる」、「とりあえずやる」 第６回　外部講師による講演会 演習：話を聞きながら要点をまとめる。感想を書く。 キーワード：職業観、プロ意識 第７回　就職ガイダンス（２） 第８回　コミュニケーションの意味するもの 演習：グループディスカッション、ディベート 第９回　メンタルタフネス講座（１）ベーシック編 第 10 回　建学の精神に関する講演会 第 11 回　就職ガイダンス（３） 第 12 回　大学で学ぶためのスタディ・スキル 演習：ノートのとり方、要約の仕方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方 第 13 回　私のキャリアデザイン 実習：短大生活の具体的行動計画表をつくる。 キーワード：キャリアデザイン 第 14 回　メンタルタフネス講座（２）モチベーション編 第 15 回　春学期の成果を秋学期につなげていくために 実習：この授業で学んだことを振り返る。 ・基礎学力をつけるため、国語・計算の演習問題を実施します。 ・コミュニケーションン能力をつけるため、人前で発表する訓練をします。 （自己紹介、友達に薦める本、新聞記事から、最近ちょっぴり幸せを感じたこと、などのテーマです。） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング	CPBM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40020
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	1
その他担当者			
授業概要	就職ガイダンスの内容を正課の授業内容に採り入れた、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えていきます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。社会人としての常識、情報メディアを活用するスキル、コミュニケーション能力を高める演習も行います。		
授業の到達目標	（１）職業人意識を育成すること （２）就職活動のポイントを理解すること （３）社会人基礎力を育成すること		
テキスト（教科書）	テキスト　『2018 最新版　史上最強　一般常識＋時事［一問一答］必須＆重要問題集』（ナツメ社）		
参考書（参考文献）	適宜、指示します。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	毎日、新聞に目を通すことを勧めます。 授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。		
評価方法	授業への参加状況（40 点）、発表（20 点）、定期試験（40 点）を合計して判断し、評価を行います。		
授業計画	第１回（個別１）　ガイダンス　　授業の進め方　　発表の仕方 　演習：社会人常識１（経済一般） 第２回（全体１）　就職活動導入ガイダンス 　キーワード：就職活動の全体像 第３回（全体２）　適職診断（NAAIP）テスト 　キーワード：自分の強み 第４回（個別２）　発表１ 　演習：人前での発表、社会人常識２（財政・金融） 第５回（全体３）　一般常識テスト 第６回（個別３）　発表２ 　演習：人前での発表、社会人常識３（環境・エネルギー） 第７回（全体４）　①適職診断テストの解説　②業界（業種）と職種 　キーワード：業界、企業、社風、勤務条件、職種、志望動機 第８回（全体５）　履歴書の書き方講座および履歴書の作成 　キーワード：自己分析、自己 PR、志望動機 第９回（全体６）　①就職活動スケジュール　②地元企業の就職試験内容 第 10 回（全体７）　先輩の就職体験報告会 　キーワード：私の就職活動、面接対策、キャリアセンター 　演習：話を聞きながら要点をメモしていく。先輩のアドバイスをどう生かすか。 第 11 回（個別４）　発表３ 　演習：人前での発表、社会人常識４（医療、科学・技術） 第 12 回（個別５）　発表４ 　演習：人前での発表、社会人常識５（国際社会） 第 13 回（全体８）　SOZO 求人ナビ説明会 　キーワード：資料請求、就職情報サイト 第 14 回（個別６）　発表５ 　演習：人前での発表、 社会人常識６（文化、スポーツ） 第 15 回（個別７）　自信をもって就職活動をするために 　演習：就職活動で不安に思っていることを書き出す。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。		
ナンバリング	CPBM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40022
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	1
その他担当者			
授業概要	就職ガイダンスの内容を正課の授業内容に採り入れた、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えていきます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。社会人としての常識、情報メディアを活用するスキル、コミュニケーション能力を高める演習も行います。		
授業の到達目標	（１）職業人意識を育成すること （２）就職活動のポイントを理解すること （３）社会人基礎力を育成すること		
テキスト（教科書）	テキスト　『2018 最新版　史上最強　一般常識＋時事［一問一答］必須＆重要問題集』（ナツメ社）		
参考書（参考文献）	適宜、指示します。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	毎日、新聞に目を通すことを勧めます。 授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。		
評価方法	授業への取組状況（40 点）、発表（20 点）、定期試験（40 点）を合計して判断し、評価を行います。		
授業計画	第１回（個別１）　ガイダンス　　授業の進め方　　発表の仕方 　演習：社会人常識１（経済一般） 第２回（全体１）　就職活動導入ガイダンス 　キーワード：就職活動の全体像 第３回（全体２）　適職診断テスト 　キーワード：自分の強み 第４回（個別２）　発表１ 　演習：人前での発表、社会人常識２（財政・金融） 第５回（全体３）　一般常識テスト 第６回（個別３）　発表２ 　演習：人前での発表、社会人常識３（環境・エネルギー） 第７回（全体４）　適職診断テストの解説、業界（業種）と職種、主体的に行動するとは 　キーワード：業界、企業、社風、勤務条件、職種、志望動機 第８回（全体５）　履歴書の書き方講座、履歴書の作成 　キーワード：自己分析、自己 PR、志望動機 第９回（全体６）　就職活動スケジュール、地元企業の就職試験内容、 　キーワード：就職試験での人事の視点、コミュニケーションの重要性 第 10 回（全体７）　先輩の就職体験報告会 　キーワード：私の就職活動、面接対策、キャリアセンター 　演習：話を聞きながら要点をメモしていく。先輩のアドバイスをどう生かすか。 第 11 回（個別４）　発表３ 　演習：人前での発表、社会人常識４（医療、科学・技術） 第 12 回（個別５）　発表４ 　演習：人前での発表、社会人常識５（国際社会） 第 13 回（全体８）　SOZO 求人ナビ説明会 　キーワード：資料請求、就職情報サイト 第 14 回（個別６）　発表５ 　演習：人前での発表、 社会人常識６（文化、スポーツ） 第 15 回（個別７）　自信をもって就職活動をするために 　演習：就職活動で不安に思っていることを書き出す。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。		
ナンバリング	CPBM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40027
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
担当教員	中島　剛	単位数	1
その他担当者			
授業概要	就職ガイダンスの内容を正課の授業内容に採り入れた、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えていきます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。社会人としての常識、情報メディアを活用するスキル、コミュニケーション能力を高める演習も行います。		
授業の到達目標	（１）職業人意識を育成すること （２）就職活動のポイントを理解すること （３）社会人基礎力を育成すること		
テキスト（教科書）	テキスト　『2018 最新版　史上最強　一般常識＋時事［一問一答］必須＆重要問題集』（ナツメ社）		
参考書（参考文献）	適宜、指示します。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	毎日、新聞に目を通すことを勧めます。 授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。		
評価方法	授業への参加状況（40 点）、発表（20 点）、定期試験（40 点）を合計して判断し、評価を行います。		
授業計画	第１回（個別１）　ガイダンス　　授業の進め方　　発表の仕方 　演習：社会人常識１（経済一般） 第２回（全体１）　就職活動導入ガイダンス 　キーワード：就職活動の全体像 第３回（全体２）　適職診断テスト 　キーワード：自分の強み 第４回（個別２）　発表１ 　演習：人前での発表、社会人常識２（財政・金融） 第５回（全体３）　一般常識テスト 第６回（個別３）　発表２ 　演習：人前での発表、社会人常識３（環境・エネルギー） 第７回（全体４）　業界（業種）と職種、主体的に行動するとは 　キーワード：業界、企業、社風、勤務条件、職種、志望動機 　　：適職診断テスト解説 第８回（全体５）　履歴書の書き方 　キーワード：自己分析、自己 PR、志望動機 第９回（全体６）　就職試験での人事の視点、コミュニケーションの重要性 　キーワード：地元企業の就職試験、就職活動スケジュール 第 10 回（全体７）　先輩の就職体験報告会 　キーワード：私の就職活動、面接対策、キャリアセンター 　演習：話を聞きながら要点をメモしていく。先輩のアドバイスをどう生かすか。 第 11 回（個別４）　発表３ 　演習：人前での発表、社会人常識４（医療、科学・技術） 第 12 回（個別５）　発表４ 　演習：人前での発表、社会人常識５（国際社会） 第 13 回（全体８）　SOZO 求人ナビ説明会 　キーワード：資料請求、就職情報サイト 第 14 回（個別６）　発表５ 　演習：人前での発表、 社会人常識６（文化、スポーツ） 第 15 回（個別７）　自信をもって就職活動をするために 　演習：就職活動で不安に思っていることを書き出す。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・適宜、新聞記事を活用した意見記述、発表を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。		
ナンバリング	CPBM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	40060
科目	4006 ゼミナール	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	今泉　仁志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	社会人基礎力をつけるために、プロジェクト活動をします。 それに加え、春学期にはメンタルコントロールについて勉強します。 現代社会には、前もって準備しておくことができることと、予期していないことで臨機応変に対応しなければならないこととがあります。目先のことに右往左往しないで、想定外の困難に直面したときにも自分の将来を切り開いていけるだけの基本的知識・スキルはとっても大切です。そういった多様な力をプロジェクト活動を通して身につけます。さらに、ストレス社会では心理面でのメンタルタフネスを身につけていかないと、うまくやっていくことはできません。就職してからすぐに辞めてしまう若者の存在が社会問題となり、メンタルタフネス教育が求められるようになってきているのです。		
授業の到達目標	（１）プロジェクト活動を通して社会人基礎力を養成すること （２）グループワークを通して、協働できるようになること （３）地域との関わりを通して、人間的に成長すること		
テキスト（教科書）	特に、指定しません。		
参考書（参考文献）	適宜、指示します。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	授業時間中に指示します。		
評価方法	日頃の受講状況（40%）、口頭発表（20%）、プロジェクト活動状況（40%）を総合的に判断して評価します。		
授業計画	春学期は、まず、皆さんの就職活動（志望動機の記入、面接、小論文）を支援します。志望動機の書き方について助言します。人前でわかりやすい語り口で発表する練習をし、面接試験に対する度胸をつけます。小論文を手際よく書く練習もします。テーマは、時事的なもの、自分が今興味を持っているもの、エッセイ、情報技術（IT）関連のもの、などから選びます。メンタルタフネス関連の基礎知識も身につけていきます。社会人基礎力をつけるためにプロジェクト活動を実施します。 春学期 第１回　ガイダンス　授業の進め方　　プロジェクト運営について 第２回　豊橋という地域社会 第３回　グループワークという進め方 第４回　プロジェクトテーマを考える１ 第５回　プロジェクトテーマを考える２ 第６回　プロジェクトテーマを考える３ 第７回　プロジェクトテーマを考える４ 第８回　プロジェクト実行計画書の原案作成 第９回　プロジェクト活動１ 第 10 回　プロジェクト活動２ 第 11 回　プロジェクト活動実行計画書を完成させる 第 12 回　プロジェクト活動３ 第 13 回　プロジェクト活動４ 第 14 回　プロジェクト活動５ 第 15 回　プロジェクト中間報告書の作成、春学期の振り返り 秋学期は、会社について理解を深めます。自分で会社を選び、インターネットを活用して情報収集し、パソコンでビジネスデータ分析をします。会社の歴史・経営理念を調べ、エクセルで経営数字を操作してグラフ化し、会社の特徴を見つけます。 秋学期 第１回　ガイダンス　授業の進め方　秋学期への抱負を書く 第２回　プロジェクト活動１ 第３回　プロジェクト活動２ 第４回　プロジェクト活動３ 第５回　プロジェクト活動４ 第６回　プロジェクト活動５ 第７回　プロジェクト活動６ 第８回　プロジェクト活動報告書の原案 第９回　プロジェクト活動報告書の編集 第 10 回　プロジェクト活動報告書を完成させる 第 11 回　発表資料作成１ 第 12 回　発表資料作成２ 第 13 回　発表練習 第 14 回　プロジェクト成果発表会 第 15 回　振り返り、まとめ ・ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	40063
科目	4006 ゼミナール	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	プロジェクト活動を通して、社会人としてあるいは調理師資格取得に向けて習得すべき知識や技能を実践を通して学習する。また、年間を通してテーマに沿った内容でじっくり考え、取り組むことが大切だと考えている。今年のテーマは、「卵」。下記の１．から４．を中心に活動を展開していく。 １．保存食作り。 ２．卵料理（和・洋・中）。 ３．卵を使ったスイーツ。 ４．創造祭で地域の方々を対象にした、食育実習教室開催。 それぞれの活動・実習を通して知識や経験を積み重ね、社会に役立つ人材の育成を目指す。		
授業の到達目標	１．地域の企業と連携し、社会人基礎力を身につける。 ２．グループワークを通して、コミュニケーション能力を高める。 ３．実習活動を通して、調理の専門分野での技術力・応用力を身につける。		
テキスト（教科書）	実習時に配布するプリントを使用。		
参考書（参考文献）	適宜、指示する。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	適宜、指示する。		
評価方法	活動意欲、課題に取り組む姿勢を見て総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス・セミナーノートの記載について 第２回　保存食（ママレード作り） 第３回　保存食（苺ジャム作り） 第４回　卵について調べ・発表 第５回　卵料理調べ・発表（日本） 第６回　卵料理調べ・発表（西洋） 第７回　学外研修 第８回　卵料理調べ・発表（中国） 第９回　プロジェクトについて活動①（企画・立案） 第 10 回　プロジェクトについて活動②（レシピ作成） 第 11 回　プロジェクトについて活動③（実習） 第 12 回　保存食講義（梅干） 第 13 回　保存食実習 第 14 回　卵料理実習・スイーツ 第 15 回　食育実習教室について話し合い 第 16 回　食育実習教室の内容決定 第 17 回　卵を使った作りおきスイーツ① 第 18 回　卵を使った作りおきスイーツ② 第 19 回　創造祭に向けての活動①（テーマ決め） 第 20 回　創造祭に向けての活動②（役割分担） 第 21 回　創造祭に向けての活動③（作品製作 1） 第 22 回　創造祭に向けての活動④（作品製作 2） 第 23 回　創造祭に向けての活動⑤（食育実習教室設営のための準備） 第 24 回　創造祭実施 第 25 回　創造祭の反省及び振り返り 第 26 回　秋の保存食 第 27 回　ふわふふわロールケーキ実習 第 28 回　プロジェクトのまとめ１（レポート） 第 29 回　プロジェクトのまとめ２（パワーポイント） 第 30 回　セミナーノート提出・１年間のまとめ （ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	40064
科目	4006 ゼミナール	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	地域と連携して食育の視点を含めた子ども料理教室の開催を主軸とした活動を行う。 実施予定施設は豊橋市こども未来館「ここにこ」である。 ①郷土料理や地元の農産物を用いた献立、野菜や魚を使った献立などを取り上げ、小学生向き　の指導法を考えて料理教室を行い、子どもたちに料理の楽しさや自分で食事を作る大切さを　伝達する。 ②子ども料理教室を計画実行する過程で、献立から食育コラム、タイムテーブルの作成など、　各過程で意見交換をして確認し、全員の協力で完成させる力を育てる。 　調理の手順を考えることから作業の流れを把握したり、危険の予知が出来るようにする。 　そして、調理技術指導することからコミュニケーションやプレゼンテーションの度胸や指導　力を高めることを目標とする。 ③状況に応じて、活動の追加もありうる。		
授業の到達目標	・チームワーク活動における個人の役割を考え発言と行動ができる。 ・子どもと楽しく会話をするコミュニケーションがとれる。 ・学んだ調理技術をもとに正しく料理の指導をすることができる。 ・周囲への気配りと判断により、何事にも意欲的に取り組むことができる。		
テキスト（教科書）	特になし。		
参考書（参考文献）	郷土料理、基本調理、野菜や魚料理、デザート類に関する図書		
受講条件			
準備学習等の内容	①子ども料理教室では郷土料理も献立に取り上げるため、図書館の参考書などから調べたり、家族や親戚、近所の人等に聞いて資料を収集する。 　また、子どもたちに正しく指導できるまでの技術の向上と、訓練を心掛ける。 ②野菜や魚の摂取不足の現状を知って、摂取を促す献立を考えるような創意工夫の意識を持って取り組む。 ③配布レシピを作成するために、基本的な PC 技術の習得をしておく。 ④細かな気配りや機敏な動きなど、状況を把握して的確に誘導できる行動力とコミュニケーション力を高めるために積極的に取り組み、ミーティングでは意見も述べるように心掛ける。		
評価方法	ゼミ活動全般の参加意欲（50%）、とテーマの課題への取り組み姿勢（50%）の総合評価		
授業計画	１，２回　ガイダンス　セミナーの進め方について 　　子ども料理教室開催日程と献立の検討 ３回　第１回クッキングの試作１ ４回　子どもクッキング　実施施設「ここにこ」への挨拶とキッチン工房の確認 ５回　第１回クッキングの試作２　タイムテーブルの検討 ６回　第２回クッキング試作１、 ７回　第２回クッキング試作２、タイムテーブルの検討 ８回　第１回目の配布レシピ作成　タイムテーブル作成　第１回アンケート原稿作成・発注票提出 ９回　第１回子どもクッキングの進め方等の最終確認、第１回アンケート・レシピ印刷 ★第１回子どもクッキング実施 10 回　アンケート集計結果と１回目のクッキングの反省 　第２回目の配布レシピ作成　タイムテーブル作成 11 回　第３回クッキング試作１ 12 回　第３回クッキング試作２　タイムテーブルの検討 13 回　大学祭の模擬店と展示パネル内容の検討、アンケート、配布レシピ提出 14 回　第２回子どもクッキングの進め方等の最終確認、第２回アンケート・レシピ印刷 ★第２回こどもクッキング実施 15 回　アンケート集計結果と第２回クッキングの反省、第３回目の配布レシピ作成 　タイムテーブル作成 16 回　第３回クッキングのアンケート・配布レシピ、タイムテーブル・発注票提出 17 回　第３回子どもクッキングの進め方等の最終確認、第３回アンケート・レシピ印刷 　パネル作成進める ★第３回こどもクッキング実施 18 回　アンケート集計結果と第３回クッキングの反省、パネル作成 19 回　パネル作成 20 回　パネル原稿仕上げと印刷 21 回　パネル額へ入れる。クッキングの試作２（１品） ★大学祭　パネル展示 22 回　第４回クッキング試作１ 23 回　第４回クッキング試作２　タイムテーブルの検討 24 回　活動報告会の分担検討 25 回　第４回クッキングのアンケート・配布レシピ、タイムテーブル・発注票提出 26 回　第４回子どもクッキングの進め方等の最終確認、第４回アンケート・レシピ印刷 ★第４回こどもクッキング実施 27 回　アンケート結果　クッキング反省　活動報告会の資料作成 28 回　活動報告会の資料作成 29 回　活動報告会 30 回　創作料理検討と１年間の活動の反省 ただし、実習施設等の状況により授業計画を変更することもある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	40065
科目	4006 ゼミナール	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	村松　史子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	職場の中で自信を持って自分を主張し、印象良くするためのビジネス技術を学びます。またマナー・応対を学習し、演習問題・ロールプレイングを取り入れた学習を行います。さらに秘書検定２級の取得を目指すとともに、年間を通して JA 豊橋と地域提携し、豊橋名産の次郎柿を扱った「柿プロジェクト」を計画・実施します。		
授業の到達目標	１．地域連携のプロジェクト活動を通して社会人基礎力を養成する ２．グループワークを通して、協働できるようになる ３．地域との関わりを通して、人間的に成長する ４．社会人としての基本的マナーを身につける		
テキスト（教科書）	テキスト：指定なし		
参考書（参考文献）			
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	適宜指示します。		
評価方法	レポート評価および規律・受講態度の総合評価とします。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　職業人へのスタート・自分自身を知る 第３回　柿プロジェクト・外部提携企業との懇談 第４回～５回　必要とされる資質・要求される資質 第６回　会社訪問 第７回～８回　柿プロジェクト・推進、役割と機能・職務 第９回～ 10 回　裁縫（ボタンの付け方・繕いの仕方他） 第 11 回～ 12 回　人間関係と話し方 第 13 回　柿プロジェクト・現地見学 第 14 回　報告の仕方、電話の応対 第 15 回　接遇のマナー 第 16 回　柿プロジェクト・秋学期に向けてガイダンス 第 17 回～ 19 回　柿プロジェクト、学園祭の計画 第 20 回～ 21 回　柿プロジェクト、学園祭の準備・実施 第 22 回　慶弔の知識 第 23 回～ 24 回　ビジネス文書 第 25 回　柿プロジェクトまとめ・発表準備 第 26 回～ 27 回　柿プロジェクト発表準備 第 28 回　柿プロジェクト発表 第 29 回　美容講習（学外：正しいメイク落しと個性を引き出すメイク） 第 30 回　社会人としての心構え ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	40067
科目	4006 ゼミナール	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	中島　剛	単位数	2
その他担当者			
授業概要	社会人としての基礎教養を身につけるとともに、人としての成長とは何かを、人と人、人と社会とのつながりや、自然、歴史・文化を題材にして幅広く学んでいきます。 豊橋警察署と連携し、防犯ボランティア活動を通じ、学生自らが行動し、地域社会と積極的にかかわることを目指します。 　学生一人ひとりが個性を生かし、人間的に成長し、社会人として自信を持って新しい社会へ出発できるように勉強していきます。		
授業の到達目標	自然や人とのかかわりの中で、自ら働きかけ、行動できる人となることを目標とする。 自分自身を知り、人や自然とのかかわりや、社会や歴史、文化を学び、人としての目標を持った生活ができるように、次の２点を具体的な目標として学習する。 ①社会人として基礎となる幅広い知識を得るとともに、防犯ボランティア活動などに積極的に参加することができること。 ②社会､歴史･文化等から疑問点を見つけ､意見として発表できるまで探究することができること。		
テキスト（教科書）	特になし。		
参考書（参考文献）	特になし。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習すること。毎日の新聞購読をすすめます。		
評価方法	課題への取り組み状況（40%）、レポート等の提出物（30%），ボランティア活動などへの参加状況（30%）によって総合的に評価します。		
授業計画	第１回　　ガイダンス 第２回　　自己探求１（成育歴） 第３回　　自己探求２（性格・教育） 第４回　　人との係わり（人間関係） 第５回　　自然との係わり（水、森林、地球環境） 第６回　　社会との係わり１（人、地域） 第７回　　学外活動１（防犯ボランティア活動計画１） 第８回　　学外活動２（防犯ボランティア活動計画２） 第９回　　社会との係わり２（社会のしくみ） 第 10 回　社会との係わり３（政治、経済） 第 11 回　学外活動３（ボランティア活動） 第 12 回　歴史・文化との係わり１（日本の歴史・文化） 第 13 回　歴史・文化との係わり２（世界の歴史・文化） 第 14 回　学外活動４（防犯ボランティア活動） 第 15 回　学外活動５（防犯ボランティア活動・研修会） 第 16 回　古典を学ぶ１（日本の古典） 第 17 回　古典を学ぶ２（世界の古典） 第 18 回　日本の歴史・文化・自然遺産１ 第 19 回　日本の歴史・文化・自然遺産２ 第 20 回　学外活動６（ボランティア活動） 第 21 回　学外活動７（ボランティア活動） 第 22 回　世界の歴史・文化・自然遺産１ 第 23 回　世界の歴史・文化・自然遺産２ 第 24 回　学外活動８（防犯ボランティア活動） 第 25 回　人生論を読む（各人生論の研究及び討議） 第 26 回　人生論を読む（各人生論の研究及び討議） 第 27 回　学外活動９（防犯ボランティア活動） 第 28 回　学外活動 10（防犯ボランティア活動） 第 29 回　レポートの発表１ 第 30 回　レポートの発表２ 防犯ボランティア活動は、豊橋警察署と連絡を取りながら、防犯キャンペーンや防犯活動講演会等に参加する。 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	40068
科目	4006 ゼミナール	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	花岡　幹明	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本セミナーは、受講生自らによるプロジェクトの企画・運営を通じて、組織や社会的活動における実践的なスキルを習得することを目的としています。具体的には、地域社会において先行的に活動する関係者へのヒアリングを通じて自ら取り組むテーマを設定し、行政や地域における連携者を募り、プロジェクト活動を実践していきます。このようなプロセスにおいて、企画立案、会議運営、プレゼンテーション、資料・文書作成など、社会に出て役立つスキルを体験的に学習します。また、マーケティング調査や企画立案（戦略策定）プロセス、経験学習などの専門的な知識学習もその都度行っていきます。		
授業の到達目標	１．プロジェクト活動を通して社会人基礎力を養成すること ２．グループワークを通して、協働できるようになること ３．地域との関わりを通して、人間的に成長すること		
テキスト（教科書）	特になし		
参考書（参考文献）	『「経験学習」入門』 （松尾 睦著、ダイヤモンド社、978-4478017296）2,100 円		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	ガイダンス及び授業内にて適宜指示します。		
評価方法	評価は授業課題（プロジェクトの実施と関連授業課題）に関する成果とその取組み状況を勘案して行います。具体的には、プロジェクト（企画、実施、プレゼン、報告書作成など）やその他（授業、ゼミ活動など）において個々の貢献と最終成果をもって評価いたします。個々の貢献については、各自に目標管理を実施する予定です。これは、活動に際して、個々に成長目標を設定し、取り組むべき課題を定め、その成果をフィードバックしながら、活動を進めていくものです。詳細は第１回～第３回の授業内で説明します。また、全体的な評価配分についても、その際に説明します。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　経験学習（１）成長とは何か 第３回　経験学習（２）経験から学ぶ 第４回　社会起業と社会貢献 第５回　社会起業家とは 第６回　社会調査の手法を学ぶ 第７回　テーマ企画（１）基礎資料の収集 第８回　テーマ企画（２）会議の進め方 第９回　テーマ企画（３）テーマの決定会議 第 10 回　経験学習（３）経験学習の３つの力 第 11 回　経験学習（４）「思い」と「つながり」 第 12 回　経験学習（５）経験学習モデルとは 第 13 回　聞き取り調査の実施計画 第 14 回　聞き取り調査の実施と報告書作成 第 15 回　社会貢献活動のテーマ決定 第 16 回　アンケート調査の手法を学ぶ 第 17 回　アンケート調査の実施計画 第 18 回　質問票の作成 第 19 回　アンケート調査の実施 第 20 回　調査結果の集計 第 21 回　調査結果の考察と報告書作成 第 22 回　聞き取り調査を学ぶ 第 23 回　聞き取り調査の準備（調査内容、質問項目） 第 24 回　聞き取り調査の準備（アポ取り、段取り） 第 25 回　聞き取り調査の実施 第 26 回　調査結果の整理（文字おこしと要約） 第 27 回　聞き取り調査の報告書作成 第 28 回　活動報告書作成のための準備 第 29 回　活動報告書の作成とプレゼンテーション資料の作成 第 30 回　プレゼンテーション資料の作成と予行演習 ＊授業内容は、授業の進行状況により変更される場合があります		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	40069
科目	4006 ゼミナール	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	地元企業、官公庁の方と協力して地域に連携したプロジェクトを行います。 このゼミナールでは官公庁からは豊橋市役所様と企業からは豊橋鉄道様に協力をしていただき、官公庁の方、企業の方と連携をした勉強会を月１回行います。 今年は 18 歳まで選挙権が引き下げられて選挙が実施される最初の年です。選挙管理委員会様とも連携をして参議院議員選挙についても携わっていきます。 　こうした活動は就職活動にも役立ちます。また、就職活動をサポートするための学習会も活動の中で行っていく予定です。 民間就職、公務員就職の対策も含めた勉強会も行う予定です。		
授業の到達目標	実際に地域連携の活動を通じて社会人の基礎力を身につけます。 地域と連携して活動していく中で問題を解決するのに必要な能力に気が付き、身につけることを目標とします。		
テキスト（教科書）	特にありません		
参考書（参考文献）	特にありません		
受講条件	自分の将来について前向きに考えてから受講をしてください。		
準備学習等の内容	官公庁の方、企業の方とお目にかかる機会が多いので、失礼のないようにビジネスマナーの準備をお願いします。		
評価方法	地域との連携活動をして学ぶことがメインになります。地域連携に積極的に参加をすることが評価の時のポイントになります。		
授業計画	第１回　4 月 10 日は市電の日　イベントに注目しよう 第２回　各地の 4 月 10 日のイベントについてまとめよう 第３回　18 歳投票権の基礎知識についてまとめよう 第４回　18 歳投票権についてどうその世代に伝えるか知ろう 第５回　模擬投票について学ぼう 第６回　18 歳投票権盛り上げる提案をしよう 第７回　盛り上げるためのアイテムを作ろう 第８回　選挙管理委員会の方のお話を聞こう 第９回　講演を聞いてこれまでの活動を振り返ろう 第 10 回　「花育」で自分を知ろう 第 11 回　自己分析をして自己 PR を作ろう 第 12 回　企業の方をお招きして話を聞こう 第 13 回　社会人として必要な力はなにか考えよう 第 14 回　18 歳投票権の選挙直前の様子をまとめよう 第 15 回　18 歳投票権の選挙をまとめよう 第 16 回　４月から９月までの活動をまとめよう 第 17 回　創造祭参加企画をまとめよう 第 18 回　創造祭参加企画を準備しよう 第 20 回　創造祭を振り返ろう 第 21 回　夏の選挙について選挙管理委員会の方から伺おう 第 22 回　18 歳選挙権のこれからについて考えよう 第 23 回　路面電車の利用状況を考えよう 第 24 回　路面電車について提案をしよう 第 25 回　成果発表会の企画をしよう 第 26 回　成果発表会の準備をしよう 第 27 回　成果発表リハーサルをしよう 第 28 回　成果発表会 第 29 回　就職活動を振り返ろう 第 30 回　１年を振り返る ※毎回、授業ごとに就職対策勉強会を行います。 ※視察旅行、イベント参加などにより日程、内容に変更がある場合があります。 ※講演者をお招きする場合に日程に変更があることが予想されます。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40080
科目	4008 ビジネス文書Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	島田　大助	単位数	2
その他担当者			
授業概要	企業などにおける業務の処理は、文書によって行われている。これを「文章主義」という。ビジネスの社会で果たす文書の役割を理解し、目的に応じた文書を作成できるようになる。ビジネス文書１では主に文書を書く上で必要となる基本的な項目について習得する。		
授業の到達目標	１．ビジネス文書の記述に必要な表記のルールを修得すること ２．ビジネス文書の記述に必要な待遇表現・用語を修得すること ３．ビジネス文書の書式を理解し、簡単な社内文書・社外文書が作成できること		
テキスト（教科書）	テキスト：『ビジネス文書検定受験ガイド（改訂新版）３級』（財団法人実務技能検定協会 早稲田教育出版）1000 円＋税		
参考書（参考文献）			
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	ビジネス文書の作成には、基本的な日本語表記の知識が必要となる。各自、漢字などの復習に取り組むこと。		
評価方法	各講義時間中に課す提出物、学期末試験に基づいて評価する。		
授業計画	第１回　ビジネス文書とは 第２回　ビジネス文書の表記１〔漢字〕 第３回　ビジネス文書の表記２〔かな遣い・送りがな〕 第４回　ビジネス文書の表記３〔数字・句読点他〕 第５回　ビジネス文書の用語１ 第６回　ビジネス文書の用語２ 第７回　ビジネス文書の書式 第８回　文のしくみ〔語順の問題〕 第９回　文章の標題　要約文作成 第 10 回　敬語について 第 11 回　待遇表現　礼儀正しい文章 第 12 回　ビジネス文書の作成〔社内通知文書〕 第 13 回　ビジネス文書の作成〔社外通知文書〕 第 14 回　文書の取り扱い 第 15 回　挨拶状の作成		
ナンバリング	CPCM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40090
科目	4009 ビジネス文書Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	島田　大助	単位数	2
その他担当者			
授業概要	ビジネス文書Ⅱでは１年次にビジネス文書Ｉで学んだ基礎的な知識を用いながら、さまざまな目的に応じたビジネス文書が作成できるようになることを目標とする。		
授業の到達目標	１．目的に応じたビジネス文書の作成ができること ２．ビジネス文書の取り扱い方について修得すること ３．ビジネス文書の校正の方法を修得すること		
テキスト（教科書）	テキスト:『ビジネス文書検定受検ガイド（改訂新版）１・２級』（財団法人実務技能検定協会　早稲田教育出版）1200 円＋税		
参考書（参考文献）			
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	ビジネス文書Ｉで学んだ、ビジネス文書作成のための基本的なルールを復習しておくこと。		
評価方法	各講義時間中に課す提出物、学期末試験に基づいて評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　正確な文章 第３回　分かりやすい文章 第４回　礼儀正しい文章（待遇表現）１ 第５回　礼儀正しい文章（待遇表現）２ 第６回　社内文書（連絡文書） 第７回　社内文書（稟議書） 第８回　社内文書（規定文書） 第９回　社内文書（報告書） 第 10 回　社内文書（議事録） 第 11 回　社外文書（連絡文書） 第 12 回　社交文書１ 第 13 回　社交文書２ 第 14 回　文書の取り扱い 第 15 回　文書の校正		
ナンバリング	CPCM2005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40120
科目	4012 マナー演習	授業種別	週間授業
担当教員	中村　洋子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	多様な職業や生き方を選択できる時代となった今、信頼や好感を得られる柔軟な人間性が求められています。授業では、キャリアを積むために必要な挨拶や言葉遣い、電話応対、来客応対や訪問マナーなどの一連の基本的なマナーはもちろんのこと、社会で働き続けるために必要な自己認識の獲得や感情の受容、自己主張の概念の理解、傾聴や共感など対人関係スキルの習得を目標としていきます。		
授業の到達目標	・社会において求められる基本的なマナーを習得する。 ・知識として習得したマナーを、実際の社会で応用していくために対人関係スキルの視点から「体験」として学んでいく。 ・就職活動を見据え企業とのコンタクトの仕方や、面接、提出文書（履歴書など）記載のマナーも併せて習得する。		
テキスト（教科書）	テキスト 書名：2016 年度版　B 検「ビジネス能力検定ジョブパス」３級公式テキスト 著書名：一般財団法人　職業教育・キャリア教育財団 発行者：長谷川隆 発行：日本能率協会マネジメントセンター ISBN：978-4-8207-4961-5　C3034		
参考書（参考文献）	テキスト以外にも授業内でその都度、資料を配布します。		
受講条件	「必修科目」		
準備学習等の内容	適宜授業内で指示します 普段の生活の中のマナーやコミュニケーションに関する事柄で、相手にされて良かったことを意識をもって感じてみて下さい。授業を受講するにあたりテキストにて予習､復習をして下さい。		
評価方法	学期末に行う筆記試験（70%）、授業態度や取り組みの姿勢（30%）などを総合して評価します。欠席や遅刻などは減点の対象とします。		
授業計画	第１回　ガイダンス「他人から見た私」 自己認識と他者受容 第２回　どんな仕事？どんな生き方？　自己価値観の気づき 価値観シートにて 第３回　ビジネスマナーはなぜ大事？自己評価チェック 　　コミュニケーション能力とは？伝言ゲームから読み取れること 第４回　好印象は創るもの　①表情・挨拶とお辞儀 第５回　好印象は創るもの　②身だしなみ・立ち居ふるまい 第６回　信頼を得るための敬語と言葉遣い・クッション言葉 第７回　就職活動に役立つ　①電話応対　ロールプレイ 第８回　就職活動に役立つ　②訪問マナーと来客応対　名刺交換 第９回　就職活動に役立つ　③ビジネス文書・メール・手紙のマナー 第 10 回　慶弔・贈答・会食のマナー　席順の知識 第 11 回　話し方・聴き方の技術　肯定表現と傾聴技法　リフレーミング 第 12 回　コミュニケーションを円滑に　組織の中での報告・連絡・相談 第 13 回　組織においての受容と主張　コンセンサス法ワーク　クレーム対応の仕方 第 14 回　マナー総括　質問・自己宣言 第 15 回　就職活動に必要なマナーとは？ 　　（面接の仕方や提出書類（履歴書）の記載の仕方　グループディスカッション） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更する事もあります。		
ナンバリング	CPCM2004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40150
科目	4015 プロジェクトプランニング	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本科目では、プロジェクト（問題解決）活動を題材に、人間行動・組織行動を多角的に分析した経営学の諸理論を学習する。毎回の授業では、知識・情報を伝える講義と受講生が自ら考え、調べ、話し合う主体的な学習スタイルを併用する。実践的な演習の題材として、豊橋市の商学連携事業であるチャレンジショップの企画・運営を行う。地域（中心市街地・商店街）の活性化を目指し、行政（豊橋市役所）や地域の様々な関係者との連携を通じて、プロジェクトマネジメントのエッセンスを体験的に学習する。		
授業の到達目標	１．問題解決（ビジネス）の仕組みと意義を理解すること ２．組織行動（協働）の意義を理解すること ３．経営・ビジネス用語の意味を理解すること		
テキスト（教科書）	なし（毎回、資料を配布します。）		
参考書（参考文献）	特になし		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	毎回の授業計画に沿って予習･復習をすること。予習･復習に関しては授業内で指示する。また、経営に関する知識は、社会で起きている出来事や経済や企業に関する幅広い知識が必要とされます。日頃から、新聞、ビジネス誌の興味ある記事などを読むことや TV 番組を見て、企業活動についての知識を深めておくことを奨める。また、消費者・利用者としての実際の経験、また、働くことや組織の一員としての経験が全体的に必要です。買物や各種サービスを利用する際、また、家庭、地域コミュニティ、サークル・クラブ活動、アルバイトなど、常に、それぞれの立場、そして相手の立場などを意識して見る（考える）ことを習慣づけるとよい。		
評価方法	評価は期末試験（筆記試験），授業内での小テストや課題レポートを総合しておこなう。期末試験は自筆ノートと資料（許可したもののみ）の持ち込みを許可する。授業内小テストや課題レポートはほぼ毎回実施する予定であるが、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。これらの評価配分は、期末試験５割、小テス２割、課題レポート３割とする。		
授業計画	第１回　ガイダンス：プロジェクトと問題解決 第２回　問題解決とマネジメント 第３回　ビジネスと会社のしくみ 第４回　問題発見のプロセス（１）地域の社会的課題を考える （行政機関講師による講義とディスカッション） 第５回　問題発見のプロセス（２）いかに課題に取り組むか：戦略策定プロセス 第６回　問題発見のプロセス（３）具体的課題について調べよう：環境分析 第７回　組織の概念：問題解決（プロジェクト）の実行者について考える 第８回　社会起業とは（地域における社会起業家による講義とディスカッション） 第９回　プロジェクトマネジメント：プロジェクトの進め方 第 10 回　プロジェクトプランの作成（１）課題設定と活動計画の作り方 第 11 回　プロジェクトプランの作成（２）活動計画の作成と活動準備 第 12 回　経験学習（１）成長概念、モチベーションとリーダーシップ 第 13 回　プロジェクト活動の実践と報告（１）問題点の発見と報告書の作り方 第 14 回　経験学習（２）他者との関係性、プロフェッショナリズムとホスピタリティ 第 15 回　プロジェクト活動の実践と報告（２）問題点の修正（改善）案作成とプレゼンテーション ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPAM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40160
科目	4016 ビジネス実務総論	授業種別	週間授業
担当教員	村松　史子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	今日のビジネスには、広範囲の知識と技術が要求されます。仕事を確実に処理していくには、一般知識をはじめとした実務処理能力が必要となります。そこで、有能なワーカーとして活躍するための基礎理念や基本的な考え方を体系的、具体的に理解・促進するのがこの授業の目的です。		
授業の到達目標	１.一般知識をはじめとした実務処理能力を体得する ２．ワーカーとして活躍するための基礎理念を体得する ３．基本的な考え方を体系的、具体的に理解・促進する		
テキスト（教科書）	テキスト：『ビジネス実務総論』（編集：全国大学・短期大学実務教育協会）1900 円		
参考書（参考文献）	適宜使用します。		
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	適宜指示します。		
評価方法	期末テストおよび規律・受講態度の総合評価とします。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　ビジネスを考える 第３回　ビジネス環境をとらえる「経済グローバル化・高度情報化」 第４回　ビジネス環境をとらえる「地球環境問題・少子高齢化」 第５回～第６回　ビジネス現場をとらえる 第７回～第８回　ビジネス実務を学ぶ 第９回　ビジネス実務の基本とは何か「日本的経営システムの転換」 第 10 回　ビジネス実務の基本とは何か「オフィスからワークプレイス」 第 11 回　ビジネス実務の基本とは何か「ワークスタイルが変わる」 第 12 回　ビジネス実務の活動をとらえる「マーケティング活動」 第 13 回　ビジネス実務の活動をとらえる「キャリア形成」 第 14 回　ビジネス実務を創造する「選択と共生」 第 15 回　ビジネス実務を創造する「キャリアデザインを描く」 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	CPCM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40180
科目	4018 計算実務	授業種別	週間授業
担当教員	中島　剛	単位数	2
その他担当者			
授業概要	単位の換算や割合に関する計算のように、日常生活の中でもよく使われる計算知識は意外と多い。当然、実務においても、これらは頻繁に用いられるものである。本講義では、改めて計算知識とその有用性を検討し、実務の面で必要とされる計算知識と技術を学び、個々の計算能力を高めていく。また、女子一般職や事務職の就職試験で用いられる SPI（非言語系問題）や事務能力検査に対応した問題を取り挙げ、就職活動に向けた基礎的対策を行っていく。		
授業の到達目標	１.四則演算、単位換算、少数・分数の計算ができること ２．割合や金利に関する計算ができること ３．グラフや表の読み取りや作成ができること		
テキスト（教科書）	なし。（必要な資料はその都度配布します。）		
参考書（参考文献）	なし。		
受講条件	特になし。		
準備学習等の内容	計算技術を修得するためには、できるだけ多くの練習問題を解くことを勧める。宿題やそれ以外の練習問題など、適宜配布する。		
評価方法	評価は期末試験（筆記試験）と授業内で実施する小テストを総合しておこなう。期末試験について詳細はガイダンス時に説明する。授業内小テストは、ほぼ毎回実施し、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。評価配分についても、詳細はガイダンス時に説明する。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　数と式（１）四則演算 第３回　数と式（２）百分率 第４回　数と式（３）分数 第５回　数と式（４）単位計算 第６回　数と式（５）方程式の基礎 第７回　数的処理（１）原価・定価・売価 第８回　数的処理（２）割引き・分割 第９回　数的処理（３）順列と組み合わせ 第 10 回　数的処理（４）確率 第 11 回　計算能力（１）概算 第 12 回　計算能力（２）暗算・数列系問題 第 13 回　表の読み取り 第 14 回　金利計算の基礎 第 15 回　金利計算 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPDM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40230
科目	4023 パソコン演習Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では、まず、キーボードを見ないで入力していく「タッチタイピング」（ローマ字入力）の訓練を愚直に徹底的に行います。トレーニングソフトを使うので、ローマ字入力が初めての人から、ある程度のスピードで打てる人まで、自分のペースで進めていくことができます。新入生の中には、キーボード入力は自己流で触っているうちに自然と上達していくように楽観視している学生がいるかもしれませんが、きちんと訓練しないと下手さ加減が定着するだけで、なかなか思うようにはスピードは上達しません。アルファベットキー以外のキーも覚えていきます。テンキー（数字キー）入力もバカになりません。数表計算でデータ入力の際には、特に役立つ技術です。余裕があったら挑戦してください。 　タッチタイピングが苦手だと、どうしてもパソコン実習の能率が悪く、授業は嫌いなものになっていってしまいます。週２回、自分のペースでトレーニングを行ってもらい、キーボードに慣れるに従い、テキストエディタ、ワープロソフト「ワード」の使い方を勉強していきます。また、学内の電子メールの使い方を習います。他の授業でのレポート提出などに対応できる力をつけます。		
授業の到達目標	（１）タッチタイピングの技術を習得すること （２）「ワード」の基本的な操作ができること （３）ビジネス文書の作成ができること		
テキスト（教科書）	『タイプ練習ソフト　TYPEQUICK　USB 版』（日本データパシフィック株式会社）		
参考書（参考文献）	『できる Word2013』（田中亘＆できるシリーズ編集部　インプレス）ISBN-13: 978-4844333487		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	タイピング練習は各自のペースで進んでいけますので、「タイプクイック」を使って、授業と授業の間の空き時間にどんどん自習してください。一度に長時間練習するより、毎日 10 分でも 20 分でも練習してください。ソフトは USB に入っているので、自宅のパソコンでも練習できます。 　パソコンは、いつまでもビクビク使うのではなく、ちょっとずつ自分で小技を覚えていくとか、これまでのやり方から類推してやってみるとか、新しいやり方を探してみるとか、積極的にチャレンジしてください。 　この授業で身に付けたスキルを、他の授業でのレポート提出に活用してください。		
評価方法	授業中の受講状況（50%）、授業時間内に作成するレポートの成績（50%）の合計で評価します。実習の授業なので、原則として、追・再試験は実施しません。		
授業計画	第１回　イントロダクション　Windows の基本操作　タイプクイックのセットアップ 第２回　タッチタイピングの訓練の仕方、ユニバーサル・パスポートの紹介 第３回　電子メールの使い方　Ｇメールの初期設定、利用の仕方 第４回　自分のペースでタッチタイピングの訓練 第５回　　〃 第６回　　〃 第７回　　〃 第８回　　〃 第９回　　〃 第 10 回　英文の入力（１）　ワード入門、アルファベットの入力、文書保存 第 11 回　英文の入力（２）　用紙を横置き 第 12 回　和文の入力（１）　かな交じり文の入力、文節区切り、読めない漢字の入力 　キーワード：かな漢字変換、IME パッド 第 13 回　和文の入力（２）　文書作成の流れを学ぶ。新聞記事を題材にして文書をつくる 第 14 回　和文の入力（３）　編集方法、書式設定、効果的な装飾機能の使い方、レイアウト 第 15 回　表作成　週間ベストセラーのリストをつくる 第 16 回　罫線の使い方　見積書を作成する 第 17 回　図形描画　地図をつくる 　キーワード：図の挿入 第 18 回　チラシの作成　案内状をつくる 第 19 回　ハガキ文書の作成　暑中見舞いをつくる 　キーワード：テキストボックス 第 20 回　複雑なレイアウト（１）　レストランのメニューをつくる 　キーワード：段組み、ワードアート、クリップアート 第 21 回　複雑なレイアウト（２） 第 21 回　ネットのデータ利用　インターネット上の情報を加工して報告書をつくる 第 22 回　HTML 入門（１） 第 23 回　HTML 入門（２）　壁新聞のホームページをつくる 第 24 回　HTML 入門（３）　自己紹介のホームページをつくる 第 25 回　練習問題（１） 第 26 回　練習問題（２） 第 27 回　練習問題（３）　高度な書式設定をした文書をつくる 第 28 回　レポート課題の作成 第 29 回　レポート課題の作成・提出 第 30 回　課題へのコメント、まとめ ※ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング	CPAM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40231
科目	4023 パソコン演習Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	丸山　千寿	単位数	2
その他担当者			
授業概要	日常的なリポート作成をはじめとして、パソコンによる文書作成が一般的になりました。パソコン演習Ⅰでは、まずパソコン操作の基本となるキーボード入力を、正確に、より早く、行うことを目指します。具体的には、キーボードを見ずにタイピングを行うブラインドタッチの練習を行います。 そして、これを踏まえて、文書作成のためのワープロソフト「Microsoft Word 2013」による文書作成を行います。 各授業のリポート作成や基礎的なビジネス文書の作成方法を実践し、今後の大学での学習と、将来の職場で使いこなせるスキルを身に付けてください。		
授業の到達目標	１　タッチタイピングをできる ２　LAN や USB メモリを利用したデータが管理できる ３　表や図などを含む、ビジュアルな文書作成ができる ４　インデントや段組みを用いたレイアウトができる ５　ビジネス文書の作成ができる		
テキスト（教科書）	使用教材は、タイピングソフトとテキストのふたつ。 タイピングソフト：「Type Quick USB 版」 発売元：　日本データパシフィック株式会社 定価：　2,500 円＋税 参考 URL：　{http://www.datapacific.co.jp/typequick} 書名：「30 時間アカデミック　情報リテラシー　Office2013」 著者名：　杉本くみ子、大澤栄子 出版社名：　実教出版株式会社 ISBN：　978-4-407-33253-7| 定価：　1,300 円＋税 参考 URL：　{http://www.jikkyo.co.jp/book/detail/13510014} （注記）秋学期必修科目「パソコン演習Ⅱ」も継続して使用		
参考書（参考文献）	書名：「30 時間でマスター　Word2013」 著者名：　実教出版編修部 出版社名：　実教出版株式会社 ISBN：　978-4-407-33264-3 定価：　900 円＋税 参考 URL：　{http://www.jikkyo.co.jp/book/detail/14326005}		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	テキストを熟読することで毎回の授業の予習・復習を十分に行って下さい。わからないところはテキストにマークし、次回の授業の時に質問をするようにして下さい。 タッチタイピングは､練習すればするほど上達します。正しい姿勢とホームポジションを体得することで、効率良く、かつ、疲れにくいタイピングが行えるようになります。１回に長時間練習するよりも、短時間を毎日練習することが大切です。自宅にパソコンがあれば自宅で、あるいは、授業の空き時間などを利用し実習室などで毎日 30 分から１時間くらい練習して下さい。		
評価方法	評価方法は、毎時間の演習課題（50%）および受講態度（50%）で評価します。なお、筆記試験、ならびに、実技試験は行いません。 演習が中心の科目であるので、止むを得ない欠席の場合、その時間の演習課題などは次回の授業までに行っておいて下さい。		
授業計画	第１回　Windows 入門・電子メールの設定・Quick Type の設定 第２回　タッチタイピング Lesson １(asdf) 第３回　タッチタイピング Lesson １(jki) 第４回　タッチタイピング Lesson ２(eu) 第５回　タッチタイピング Lesson ２(to) 第６回　タッチタイピング Lesson ３(wh) 第７回　タッチタイピング Lesson ３(.rn) 第８回　タッチタイピング Lesson ４(gy.) 第９回　タッチタイピング Lesson ４(m;-) 第 10 回　タッチタイピング Lesson ５(pvzb) 第 11 回　タッチタイピング Lesson ６(cqlx) 第 12 回　タッチタイピング テンキーレッスン 第 13 回　タッチタイピング 総合練習 第 14 回　Word による文書作成 書式設定・文字の入力・配置・装飾 第 15 回　実習問題 01・実習問題 02 第 16 回　表の作成（レイアウト・セル結合・セル分割・表の書式設定） 第 17 回　実習問題 03・04 第 18 回　実習問題 05・06 第 19 回　網掛け・均等割り付け・箇条書き・段落番号・行間・ルビ・囲い文字・傍点 第 20 回　段組み・段区切り・書式コピー・ヘッダー・フッター・ページ番号・日付 第 21 回　実習問題 07・08（１） 第 22 回　実習問題 07・08（２） 第 23 回　実習問題 07・08（３） 第 24 回　オンライン画像・ワードアート・図・図形・数式・ページ罫線の挿入 第 25 回　実習問題 09・10・11（１） 第 26 回　実習問題 09・10・11（２） 第 27 回　実習問題 09・10・11（３） 第 28 回　アウトラインの作成（レベルの設定・番号の設定・変更） 第 29 回　実習問題 12（１） 第 30 回　実習問題 12（２）ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40240
科目	4024 パソコン演習Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	ビジネス文書には、単に文章だけではなく、経営数字を書いた数表やグラフ、わかりやすい図、写真などが入っており、読みやすくレイアウトされています。この授業では、パソコン演習Ⅰで習得したワープロソフト「ワード」に加え、数表計算ソフト「エクセル」の活用方法を勉強していきます。 エクセルそのものは便利なソフトなのですが、やりたい計算があるときに、どの関数を使えばよいのかは教えてくれません。自分の頭で、どうやって計算すればよいのか意味を考え、適切な数式や関数をセルに書き込まなければなりません。エクセルで、むずかしいと感じる内容に、セルの相対／絶対／複合参照の使い分けがあります。大切な内容なので、とことん教えます。 エクセルには、あまりにもたくさんの機能があります。「どの場合に」「どこにある機能を」「どうやって」使えばいいのか迷ってしまいます。エクセルに用意されている関数は、豊富な機能の代表例で、関数のリストを眺めるとその多さにびっくりしてしまいます。 パソコン演習Ⅲを選択しない学生がいるので、最後に、パワーポイントについて紹介して終わります。		
授業の到達目標	（１）エクセルの基本機能を理解すること （２）エクセルで、数表・グラフ・データベースを処理できること （３）エクセルを活用して、ビジネス文書の作成ができること		
テキスト（教科書）	できる Excel 関数編 2013　インプレス ISBN-13: 978-4844333999		
参考書（参考文献）	ネット上に、わかりやすい関数講座がいろいろあります。		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	エクセルの基本がわかったら、小遣い帳や、個人データベースなどをつくってみてください。両親など身近な人から「エクセルを教えて！」と頼まれるかもしれません。教えてあげられるぐらいに上達してください。ほめてもらえば、どんどん上達することでしょう。今の自分はまだ知らないけれども、もっと便利な方法があるはずだという好奇心を持って、いろいろエクセルに用意されている機能を試してみてください。		
評価方法	受講状況（50 点）、授業時間内に作成するレポートの成績（50 点）の合計で評価します。実習の授業なので、原則として、追・再試験は実施しません。		
授業計画	前半で、エクセルの一通りの機能を使えるようにします。進め方として、例題を与え、新しい機能を紹介しながら、その機能を試してみるという形をとります。 後半では、じっくり実力を養っていきます。授業の場合、実際に差し迫った実務があって、その問題解決をするわけではありませんから、ただ答えが出ればいいというより、なぜそういう答えになるのか理解し、「わかった！」という実感が持てるようにしていきたいと考えています。 第１回　イントロダクション　エクセルの概要紹介 キーワード：ワークシート、セル 第２回　エクセル入門、ワークシートの編集 キーワード：相対参照、絶対参照 第３回　データ入力、計算（１） キーワード：複合参照、IF 関数 第４回　データ入力、計算（２） キーワード：装飾とレイアウト 第５回　複数のワークシートの扱い キーワード：ブック、ワークシート間の計算 第６回　書式、レイアウトを整える　　見積書の作成 第７回　いろいろなグラフの作成 第８回　データベース機能を使う キーワード：データベース、フィールド、レコード、フィルタ 第９回　実技練習問題１　力試しをする 第 10 回　関数を学ぶ（１） 第 11 回　関数を学ぶ（２） 第 12 回　関数を学ぶ（３） 第 13 回　関数を学ぶ（４） 第 14 回　関数を学ぶ（５） 第 15 回　関数を学ぶ（６） 第 16 回　関数を学ぶ（７） 第 17 回　実技練習問題２　実力を養う 第 18 回　実技練習問題３ 第 19 回　実技練習問題４ 第 20 回　実技練習問題５ 第 21 回　ピボットテーブル 第 22 回　マクロの活用 第 23 回　総合練習問題１ 第 24 回　総合練習問題２ 第 25 回　レポート１作成・提出 第 26 回　レポート２作成・提出 第 27 回　ポスター／スライドの作成１ 第 28 回　ポスター／スライドの作成２ 第 29 回　ポスター／スライドの作成３ 第 30 回　ポスター／スライドの作成４・提出、まとめ ※ただし、受講学生の習熟度によって授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング	CPAM1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40241
科目	4024 パソコン演習Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	丸山　千寿	単位数	2
その他担当者			
授業概要	春学期の「パソコン演習Ⅰ」の継続として、表計算ソフト「Microsoft Excel 2013」と、プレゼンテーションソフト「Microsoft PowerPoint 2013」を学びます。 表計算ソフトでは、さまざまなデータを意味のある表にまとめ、視覚的にわかりやすいグラフの作成の方法を実践します。 プレゼンテーションソフトでは、表計算ソフトで作成したグラフなども用い、研究発表や資料作成などの方法を実践します。 論理的に計算を行う手順や判断などを頭で考え、それを正しくコンピュータに指示することが重要であるので、単に操作方法のみに終わらず、その式や手順の意味を考えながら演習を行います。		
授業の到達目標	１　効率良く、かつ、正確なデータ入力ができる ２　適切な式・関数式などを組み、目的にあった表作成ができる ３　作成した表やグラフをもとにデータ分析ができる ４　決められた手順をマクロとして作成できる		
テキスト（教科書）	書名：「30 時間アカデミック　情報活用　Excel2010」 著者名：　飯田慈子、米沢雄介、小林正樹 出版社名：　実教出版株式会社 ISBN：　978-4-407-32259-0 定価：　1,238 円＋税 参考 URL：　{http://www.jikkyo.co.jp/book/detail/112378} （注記）春学期必修科目「パソコン演習Ⅰ」と同じテキストも継続して使用します 参考 URL：　{http://www.jikkyo.co.jp/book/detail/13510014}		
参考書（参考文献）	書名：「60 時間でエキスパート Excel 2007/2010」 著者名：　実教出版編修部 出版社名：　実教出版株式会社 ISBN：　978-4-407-31907-1 定価：　1,048 円＋税 参考 URL：　{http://www.jikkyo.co.jp/book/detail/115067}		
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	テキストを熟読することで毎回の授業の予習・復習を十分に行って下さい。わからないところはテキストにマークし、次回の授業の時に質問をするようにして下さい。 また自宅にパソコンがあり、授業で使用するソフトがインストールされているのであれば、是非予習復習を行って下さい。 もう既に理解していることは、再度確認の意味での学習を、そして、わからないことはパソコンの操作を通して、理解できるようにしましょう。繰り返して学習することが、理解への早道です。 なお、パソコン操作が苦手な場合でも、怖がらずに操作をして下さい。		
評価方法	評価方法は、毎時間の演習課題（50%）および受講態度（50%）で評価します。なお、筆記試験、ならびに、実技試験は行いません。 演習が中心の科目であるので、止むを得ない欠席の場合、その時間の演習課題などは次回の授業までに行っておいて下さい。		
授業計画	第１回　Excel の基本操作 第２回　データの編集１（データの入力） 第３回　データの編集２（数式の入力） 第４回　表の編集１（セルの書式設定） 第５回　表の編集２（表示形式の設定） 第６回　グラフと図形の作成・ブックの利用と管理 第７回　関数１　（AVERAGE・MAX・MIN） 第８回　関数２　（COUNT・COUNTA） 第９回　関数３　（RANK） 第 10 回　関数４　（ROUND・ROUNDDOWN・ROUNDUP） 第 11 回　関数５　（IF・OR・AND） 第 12 回　関数６　（VLOOKUP・HLOOKUP） 第 13 回　データベース関数・データベース機能 第 14 回　マクロ 第 15 回　PowerPoint の基本操作 第 16 回　PowerPoint の演習 第 17 回　PowerPoint の課題作成・提出 第 18 回　練習問題１　　数式と関数（セルを使った計算式） 第 19 回　練習問題２　　数式と関数（合計と平均） 第 20 回　練習問題３　　数式と関数（最大、最小、カウント、絶対参照） 第 21 回　練習問題４　　印刷（ページレイアウト） 第 22 回　練習問題５　　グラフ（各種グラフ） 第 23 回　練習問題６　　データベース（並べ替え、抽出） 第 24 回　練習問題７　　数式と関数（条件判断） 第 25 回　練習問題８　　数式と関数（端数処理、順位付け） 第 26 回　練習問題９　　数式と関数（日数計算、データ参照） 第 27 回　練習問題 10　ワークシートの連携（ワークシートの操作） 第 28 回　練習問題 11　その他の機能（条件付書式、入力規則） 第 29 回　練習問題 12　その他の機能（図、クリップアートの挿入） 第 30 回　練習問題 13　問題練習（総まとめ） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40250
科目	4025 実務英語	授業種別	週間授業
担当教員	大木　ひろみ	単位数	2
その他担当者			
授業概要	ビジネス英語初心者の大学生向けのテキストを使用してビジネス英語の基礎を学ぶ。 テキストにそって、自己紹介をする、名刺交換をする、電話をかける・電話を受ける、人と会う約束をする、道を聞く、レストランで食事をするなどの場面での会話表現を聞き取り、聞き取った重要表現をペアで練習して覚えていく。これらの会話表現はビジネスとは関係ない普通の海外旅行でも有益であろう。 各ユニットのテーマに沿って諸外国の企業文化や風習を紹介する文章があるので、これらの英文を読むことで読解力を伸ばすと共に海外の文化・風習に対する理解を深めるようにする。 さらにテキストの巻末には、各ユニットの復習問題が TOEIC テスト形式（リスニングセクション＆リーディングセクション）で用意されている。TOEIC テストのスコアを伸ばすと就職活動で有利になるので、テストの形式に慣れ、受験するための基礎的な英語力を身に付けるようにしていく。		
授業の到達目標	中学・高校で学習した重要表現や文法事項を再確認する。 ビジネス英語（特に海外出張で役立つ会話表現）を身に付ける。 TOEIC テストを受験するための基礎力を身に付ける。		
テキスト（教科書）	テキスト：『Get Ready for International Business: English for the workplace Student's Book 1』（Andrew Vaughan & Dorothy E. Zemach, Macmillan LanguageHouse, 978-0-230-43325-0） 2,500 円（税別）		
参考書（参考文献）			
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をすること。		
評価方法	成績評価は、授業への参加態度、会話暗唱実技試験、中間試験（筆記試験）、期末試験（筆記試験）によって総合的に行う。評価の割合は、授業への参加態度が 4%、会話暗唱実技試験 10%、中間試験 43%、期末試験 43% とする。 ただし６回以上欠席（遅刻は３回で１回の欠席とみなす）した場合及び試験を欠席した場合は不合格の対象となる。		
授業計画	第１回　ガイダンス、Introduction　Unit 1 Let me give you my card 第２回　Unit 1 Let me give you my card 第３回　Unit 2 I start work at 8:30 第４回　Unit 3 What does your company do? 第５回　Unit 4 How do you like your job? 第６回　Unit 5 Can I take a message? 第７回　Unit 6 Which ones should we order? 第８回　Unit 1 ～ Unit 6 の復習 第９回　Unit 7 Are you free on Tuesday? 第 10 回　Unit 8 Where's the Marketing Department? 第 11 回　Unit 9 How long does the process take? 第 12 回　Unit10 Exports increased sharply 第 13 回　Unit11 I'm leaving tomorrow 第 14 回　Unit12 Would you like to try some dim sum? 第 15 回　Unit 7 ～ Unit12 の復習 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPAM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40270
科目	4027 ライフ・コーディネート（人生とお金）	授業種別	週間授業
担当教員	河村　八千子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この授業のテーマは「お金」。 社会人として最低限度必要なお金についての知識を身に付け自分の人生をライフプランニングとマネープランニングの双方から考えていくことができるようになることを目的とします。 Money is good servant, but a bad master! お金は忠実な召使にしたほうがいい。支配者にするとろくなことがない 今はすべてが「自己責任」の時代です。 お金の知識をしっかりと身につけ、「最強のお金使い」になりましょう！		
授業の到達目標	１．自分の「仕事」と「将来」を「お金」という切り口で考えられること ２．自分にとって「素敵なライフプラン」が立てられること ３．社会人として、最低限度必要なお金の知識を身につけること		
テキスト（教科書）	テキスト：これであなたもひとり立ち～自立のためのワークブック～ 大学生のための人生とお金の知恵 知るぽると（金融広報中央委員会） ※テキストは授業のオリエンテーション時に配布します		
参考書（参考文献）			
受講条件	必修科目		
準備学習等の内容	準備学習については授業時間中に適宜指示		
評価方法	評価方法：受講態度 30 点　プレゼンテーション 20 点　スピーチ原稿 20 点　定期試験 30 点 ※ 15 回授業内で数回の１分間スピーチを実施。 スピーチ原稿は指定用紙に書き込み全員作成する。 スピーチをしなかった生徒も授業後原稿を必ず提出すること。成績評価対象とする。 用紙はオリエンテーション当日指定する。 ※受講人数によってはスピーチではなく、テーマに従った５分間 200 文字の作文を実施。 作文の宿題もあり ※定期試験については、15 回の生徒の受講態度と講義に対する取り組み方で実施をするか否か決定するものとする。		
授業計画	第１回　オリエンテーション 「今、なぜお金について学ばなければならないか」 第２回　夢、実現！それとも？ 第３回　自立のための意思決定～アイデンティティ確立のために 第４回　私の命をはぐくんだお金はいくら？～ゆりかごから 19 年 第５回　社会人になるための経済学～求人票から読み取れること 第６回　ひとり暮らしの生活費～収支の合った楽しい生活 第７回　一人暮らしの部屋探し～初めての大きな契約 第８回　カード社会の歩き方～こまめにチェック！預金口座 第９回　金利と法律に強くなる～カード社会の落とし穴 第 10 回　おいしい話にご用心！～きっぱり、はっきり断ろう 第 11 回　悪徳商法と戦う！～手段はまだある 第 12 回　リスクと資金管理～その１　損害保険編～ 第 13 回　リスクと資金管理～その２　生命保険編～ 第 14 回　リスクと資金管理～その３　社会保険編～ 第 15 回　小論文の作成（テーマは 14 回目に発表） ★ただし、受講生との習熟度によって授業計画を変更することがあります		
ナンバリング	CPDM2002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40410
科目	4041 ビジネス実務演習	授業種別	週間授業
担当教員	村松　史子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	現代のビジネス社会においては、豊かな実務知識と技能を必要とされます。その内容は、日程の管理、受付応対、交際業務、文書業務、文書整理であり、情報の収集です。ビジネス実務総論で学んだ目的意識の上に、社会人として必要な実務能力を演習を通して体得する授業です。		
授業の到達目標	１．ビジネス全般の知識とビジネスマナーを身につける ２．ビジネス現場を知り、豊かな実務知識と技能を身につける ３．演習を通して社会人としての実務能力をつける		
テキスト（教科書）	『新しい時代の秘書のビジネス実務』（編集：全国大学実務教育学会）1,600 円		
参考書（参考文献）	「国際儀礼に関する 12 章～プロトコール早わかり～」 財団法人世界の動き社　他		
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	プリントを配布し、適宜指示します。		
評価方法	演習課題の提出と期末試験、平常点等を加味して総合評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス、 秘書（社員）の役割と仕事 第２～３回　ビジネス環境の変化とビジネス実務 ①情報技術の進歩　②グローバル化　③少子高齢化　④環境問題 第４回　ビジネスで求められる能力 ①人的ネットワーク　②情報ネットワーク　③総務・庶務的業務 ④社会人としての基本的能力 第５～６回　スケジューリング ①スケジューリングの基本と留意点　②スケジュールの種類 ③アポイントメントの取り方・受け方 ④スケジューリングとタイムマネジメント 第７回　一日の仕事の準備と上司とのコミュニケーション 第８～ 11 回　感じの良い秘書（社員）になる ①印象形成　②敬語表現　③コミュニケーション力 第 12 ～ 15 回　来客応対 ①受付・応対業務　②来客応対のマナー 第 16 ～ 17 回　電話の応対 ①電話応対の流れ　②電話の受け方・かけ方・話し方 第 18 回　外部講師（郵便局） 第 19 ～ 20 回　出張のコーディネート ①出張の準備　②国内出張　③海外出張 第 21 ～ 22 回　会議のコーディネート ①会議の準備業務　②会議中の仕事　③会議の後処理 ④議事録作成　⑤会食の手配　⑥会議の知識 第 23 ～ 26 回　慶弔のコーディネート ①慶弔の心得　②状況に応じた具体的な仕事 第 27 回　贈答のコーディネート ①贈答品の手配　②贈答品の選び方と贈り方　③熨斗・水引の知識 第 28 ～ 29 回　通信業務・文書作成業務・情報管理 ①通信文書の受発信　②通信手段の選択　③文書作成（社内外） 第 30 回　ファイリングと情報管理 ①ファイリングの用具　②名刺の整理 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	CPCM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40510
科目	4051 プレゼンテーション	授業種別	週間授業
担当教員	村松　史子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	プレゼンテーションの目的は、聴衆が知らないこと、誤解していることについて、正確な情報を伝達することにあります。あなたのプレゼンテーションによって、聴衆が今まで知らなかった情報を理解したり、間違った知識を訂正できたり、今までできなかった作業ができるようになれば、プレゼンテーションの目的は達せられます。また、プレゼンテーションとは、聞き手の立場を考え、聞き手を納得させるために行います。ビジネスでは重要な行動となります。 この講義では、ワークショップを用いて、簡単な自己紹介からプレゼンテーションツールを使った技術取得までを幅広く学びます		
授業の到達目標	１．自己紹介ができること ２．個人として発表ができること ３．グループとして発表ができること の３つを目標にします。		
テキスト（教科書）	『プレゼンテーション技法』 （プレゼンテーション学研究会　　ウィネット　978-4872846393） 1,200 円		
参考書（参考文献）			
受講条件	『履修に条件はありません』		
準備学習等の内容	知識を身につけてもらう講義と、技術を身につける実践が半分半分の講義です。 恥ずかしがらない度胸を準備してください。就職で必ず役に立ちます。		
評価方法	①筆記試験 ②実技 両方で評価します。 実技については講義内で行う、プレゼンテーション、集団討論で評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス、ワークショップで学ぶためのルール 第２回　コミュニケーションの基礎知識（基本） 第３回　コミュニケーションの基礎知識（チームワーク） 第４回　コミュニケーションの基礎知識（価値観） 第５回　意見を出すための基礎知識（意見とは） 第６回　意見を出すための基礎知識（留意点） 第７回　外部講師とのコミュニケーション 第８回　プレゼンテーションツールの技術（ツールを学ぶ） 第９回　プレゼンテーションツールの技術（パワーポイント） 第 10 回　プレゼンテーションツールの技術（パワーポイント） 第 11 回　ビジネスコミュニケーションの技術（必要性） 第 12 回　ビジネスコミュニケーションの技術（基本） 第 13 回　論理的思考の基礎（大切さ） 第 14 回　論理的思考の基礎（表現） 第 15 回　論理的思考の基礎（ディベート） ＊授業内容は、授業の進行状況により変更される場合があります。		
ナンバリング	CPFM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40530
科目	4053 インターンシップ	授業種別	集中講義
担当教員	村松　史子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	学生が企業・行政機関などに出向き、用意された実習内容に従って様々な就業体験を行います。 実際の現場で実務を経験することにより、今まで漠然と理解していたことを実践の場を通して活用し、社会人として自信を持って対応していくことができる能力を体得することが目標です。		
授業の到達目標	１．問題を発見して解決する能力をつけること ２．高い就業意識の育成をすること ３．用意された実習内容に従って様々な就業体験を行うこと		
テキスト（教科書）	テキストなし		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	選択科目であり、希望者を募集します。 希望者数が多い場合には、抽選を実施することがあります。		
準備学習等の内容	実習先に応じて、指導教員から指示があります。		
評価方法	所定の要件を満たした学生には、成績評価はしないで、１単位を認定します。		
授業計画	・研修期間は、原則として５日間とします。 ・研修時期は、１年生の８月・２月～３月、２年生の８月で実施します。 ・実施前準備　企業実務実習開始の前に事前指導として６月４コマ、７月２コマの計６コマを実施します。 ①自己紹介書作成：マッチング指導　６月・・・・キャリアセンターが実施 ②仕事に取り組む心構え　７月・・・・教員 ・終了後、所定の様式のレポートを提出します。		
ナンバリング	CPBM1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40560
科目	4056 IT 入門	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	IT パスポート試験合格を目標にして、技術からビジネスまで幅広い知識を身につけます。どの資格試験も難易度が上がっていくものなので、丸暗記ではなく本質的な理解を目指したいと思います。 内容は､｢ストラテジ｣｢マネジメント｣｢テクノロジ｣という３つの分野から構成されます。取っつきやすいハードウェア・ソフトウェアの話から始め､｢マネジメント｣｢ストラテジ｣の分野に進んでいきます。皆さんが苦手分野だと思われる英略語の理解や、計算問題の演習にも時間を割きます。		
授業の到達目標	（１）情報技術が支えるビジネスの基本を理解する （２）情報技術を導入するマネジメントの基礎を理解する （３）コンピュータの基礎技術を理解する		
テキスト（教科書）	｢かんたん合格 IT パスポート教科書平成 28 年度 CBT 対応｣（インプレス：ISBN：978-4844339540）		
参考書（参考文献）	｢IT パスポート最速合格術｣ 西　俊明著 （技術評論社：ISBN978-4-7741-5820-4）		
受講条件	特にありません。IT パスポート試験を題材に、職業人として誰もが備えておくべき情報技術の基礎を学びたい人が対象です。		
準備学習等の内容	最初は丁寧に説明しますが、回が進むに従い、予習してくることを前提にして、授業時間は疑問点の解消や問題演習に使いたいと思います。復習も、しっかりやってもらいたいものです。		
評価方法	授業時間内に実施する小テスト（40%）、定期試験（60%）		
授業計画	第１回　IT パスポート試験とは 第２回　テクノロジ系分野①　ハードウェア 第３回　テクノロジ系分野②　ソフトウェア 第４回　テクノロジ系分野③　コンピュータで扱うデータ 第５回　テクノロジ系分野④　データベース 第６回　テクノロジ系分野⑤　ネットワーク 第７回　テクノロジ系分野⑥　セキュリティ 第８回　マネジメント系分野①　システムの導入 第９回　マネジメント系分野②　システム開発とプロジェクトマネジメント 第 10 回 ストラテジ系分野①　企業活動と IT の活用 第 11 回 ストラテジ系分野②　法務と財務 第 12 回 用語の理解 第 13 回 計算問題 第 14 回 模擬問題（１） 第 15 回 模擬問題（２） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング	CPFM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40570
科目	4057 パソコン演習Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	パソコン演習Ⅰ／Ⅱに引き続いて、前半はデータベースソフト「アクセス」の活用方法を勉強します。大量のデータを蓄積し、並べ替えたり、条件を与えて必要な情報だけを抽出したり、といったことはパソコンが最も得意とする機能です。アクセスは、とても深みがあり使いでのあるソフトですが、まずは取っつきやすい簡単な名簿の作成からはじめます。 後半は、プレゼンテーションソフト「パワーポイント」の使い方を勉強します。このソフトは、学生さんにとって、とても使いやすいソフトのようで、美しく効果的なスライドをつくって教員を楽しませてくれます。発表に使われるソフトですが、(KJ 法のように）アイデアを練るという観点でも使えるソフトだと思います。１枚１枚のカード（スライド）に思いつくまま要点を書いておき、それらを自由に前後入れ替えができます。見出しのレベルを自由に変えられます。レポート全体の構成を考えるときや､口頭発表をする時に、あらすじをあれこれ考えたい場合、とても役立つソフトです。		
授業の到達目標	（１）「アクセス」を用いて、データベース処理ができること （２）「パワーポイント」で、プレゼンテーションができること （３）「オフィス」を活用できること		
テキスト（教科書）	できる Access2013　インプレス　ISBN-13: 978-4844334460		
参考書（参考文献）	特にありません。		
受講条件	特にありません。		
準備学習等の内容	まず、毎回出席することが一番大事です。ビジュアルでわかりやすい教科書にしてありますので、就職活動など自己都合で欠席した場合には、シラバスに従って自分で教科書を読みながら学習しておき、次回の授業に参加してください。教科書だけでわからないところは、そのときに質問してください。		
評価方法	授業時の受講状況(50 点)､授業時間内に作成するレポートの成績(50 点)の合計で評価します。会社説明会･会社訪問･就職試験／面接などで授業に出られないときには、事前に連絡してください。実習の授業なので、原則として、追・再試験は実施しません。		
授業計画	第１回　イントロダクション　データベース入門。Excel のデータベース機能を復習する。 ［キーワード］データベース、並べ替え、フィルタ 第２回　Access 入門　データベースファイルをつくる。名簿をつくる。 ［キーワード］テーブル、フィールド、レコード 第３回　テーブル　テーブルの設計方法を理解する。 ［キーワード］データ型、フィールドプロパティ 第４回　クエリの基礎編　クエリで情報を抽出する。 ［キーワード］クエリ、選択クエリ、並べ替え、抽出条件、ワイルドカード 第５回　クエリとフィルタ　クエリを使わず、[並べ替えとフィルタ] リボンを使う。 ［キーワード］フィルタの詳細設定、And 条件、Or 条件 第６回　フォームの基礎編　入力フォームをつくってデータを入力する。 ［キーワード］フォーム、ラベル、テキストボックス 第７回　レポート　レポートで情報をまとめる。 ［キーワード］レポートのデザインビュー 第８回　複数のテーブル　リレーショナルデータベースを作成する。 ［キーワード］リレーションシップ、参照整合性、フィールドの連鎖更新、レコードの連鎖削除 第９回　フォームの応用編　入力効率のよいフォームを作成する。 ［キーワード］メインフォーム、サブフォーム 第 10 回　クエリの応用編　クエリで複雑な条件を設定して情報を抽出する。 ［キーワード］集計、グループ化、関数、更新クエリ、削除クエリ、クロス集計クエリ 第 11 回　外部データ　エクセルのデータを使う ［キーワード］インポート 第 12 回　テーブルの設計　データを複数のテーブルで管理という概念・方法を学ぶ。 ［キーワード］リレーショナルデータベース、リレーションシップ 第 13 回　レポートの応用編　レポートを自由にレイアウトする ［キーワード］レコードソース、グループ化、セクション 第 14 回　メニュー画面　マクロを使って、メニューを作成する。 ［キーワード］コマンドボタン、イベント、マクロビルダ 第 15 回　実力確認１　実技練習問題１ 第 16 回　実力確認２　実技練習問題２ 第 17 回　実力確認３　実技練習問題３ 第 18 回　実力確認４　実技練習問題４ 第 19 回　レポート作成（１／４） 第 20 回　レポート作成（２／４） 第 21 回　レポート作成（３／４） 第 22 回　レポート作成（４／４）・提出 第 23 回　パワーポイント入門　パワーポイントの基本操作を確認する。 ［キーワード］スライド、プレースホルダ、レイアウト、箇条書き 第 24 回　アウトライン入力　アウトラインの表示を利用して、文字中心で編集する。 ［キーワード］リスト、レベル、レベル上げ、レベル下げ、スライドの挿入／削除／移動 第 25 回　スライドの加工　見栄えのよいスライドに仕上げる。 ［キーワード］表、グラフ、オートシェイプ、写真、クリップアート 第 26 回　スライドショー　動きのあるスライドを作成する。 ［キーワード］アニメーション、プレゼンテーション、スライドショー 第 27 回　レポート作成（１／３） 第 28 回　レポート作成（２／３） 第 29 回　レポート作成（３／３）提出 第 30 回　まとめ　レポート講評 ※ただし、受講学生の習熟度によって授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40580
科目	4058 パソコン演習Ⅳ	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	ホームページのつくり方を習得し、最後に、「オフィス」ソフトの総合演習をします。 ホームページは、情報発信の手段として広く使われるようになっています。見やすいホームページにはいくつか共通項があるようです。トップページが重くない、更新日がトップに載せてある、全体の構成を示す目次がある、全体の構成がわかりやすい、色使いが上手、文字・絵・写真のバランスがよい、レイアウトが上手、アイコンなどにカーソルを合わせると項目の説明が出る、各ページの長さが適当、などがあげられそうです。こういった点に留意して、ホームページをつくってもらいます。 卒業前の総まとめとして、ワードやエクセルの高度な使い方を総合演習します。		
授業の到達目標	（１）簡単なホームページをつくることができる （２）情報発信ができる （３）ワードやエクセルを支障なく使いこなすことができる		
テキスト（教科書）	特に必要ありません。必要に応じてプリントを配布します。		
参考書（参考文献）	授業中に指示します。		
受講条件	なし。　パソコン演習Ⅲは履修していなくてもかまいません。		
準備学習等の内容	インターネットで、いろいろなホームページを見て、見やすいページ／見づらいページを研究してください。		
評価方法	受講状況（50 点）、作成するレポート（50 点）の合計で評価します。会社説明会・会社訪問・就職試験／面接などで授業に出られないときには、前もって連絡してください。実習の授業なので、原則として、追・再試験は実施しません。		
授業計画	12 月末まではホームページ作成、１月は総合演習をします。 ホームページのつくり方を教える場合、雛型を示し、それを学生さんが編集する形で進めると、どうしても似たりよったりの出来になってしまいおもしろくありません。授業では、必要最低限のテクニックだけを説明します。学生さんの自由な発想を生かし、ユニークなホームページをつくってもらいたいと思います。 第１回　イントロダクション キーワード：ホームページ・ビルダー、HTML ファイル 第２回　ホームページの作成１ キーワード：標準モード 第３回　ホームページの作成２ キーワード：どこでも配置モード 第４回　ホームページの作成３　　レポート課題の提示 キーワード：サムネイル 第５回　ホームページの作成４ キーワード：ウェブアートデザイナー、ウェブアニメータ 第６回　ホームページの作成５　　表機能を使ってレイアウト キーワード：表 第７回　ホームページの作成６　　フレーム機能を使う キーワード：フレーム、ハイパーリンク 第８回　ホームページの作成７　　エクセルとの連携 キーワード：数表、グラフ、貼り付け 第９回　ホームページの作成８　　素材を活用する キーワード：検索エンジン、素材、サイト 第 10 回　ホームページの作成９　　音楽ファイルを貼り付ける 第 11 回　レポート作成　　自分で選んだ会社の紹介ページをつくる 第 12 回　レポート作成　　売上高の推移をグラフにする 第 13 回　レポート作成　　自分で選んだニュースのページをつくる 第 14 回　レポート作成　　世界の三大ニュース 第 15 回　レポート作成　　日本の三大ニュース 第 16 回　レポート作成　　私の三大ニュース 第 17 回　レポート作成　　自分で集めた画像で、ギャラリーをつくる 第 18 回　レポート作成　　サムネイルをつくる 第 19 回　レポート作成　　クリスマスカード、年賀状のページをつくる 第 20 回　レポート作成　　自分がよく見にいくページのリンク集をつくる 第 21 回　レポート作成　　自由ページの作成１ 第 22 回　レポート作成　　自由ページの作成２ 第 23 回　レポート作成　　自由ページの作成３ 第 24 回　レポート仕上げ・提出 第 25 回　エクセルの高度な使い方１ 第 26 回　レポートに対する講評 第 27 回　エクセルの高度な使い方２ 第 28 回　エクセルの高度な使い方３ 第 29 回　ワードの高度な使い方１ 第 30 回　ワードの高度な使い方２、まとめ ※ただし、受講学生の習熟度によって授業計画を変更することがあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	40730
科目	4073 商業簿記Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	4
その他担当者			
授業概要	複式簿記をもとに作成される企業の内部報告および外部報告は、さまざまな企業情報を提供します。そして経営者、投資家などの情報利用者は、それらの情報をもとに経営活動、投資活動などを決定します。このような会計情報作成の基礎となる複式簿記は、企業活動の重要な記録制度であるといえます。本講義では、商品売買業における複式簿記の基本原理について理解するとともに、日商簿記３級レベルの商業簿記に関する知識の修得を目標とします。		
授業の到達目標	１．個人企業形態で経営される商品売買業の商業簿記について、資産、負債、純資産、収益、費用の５要素が区別でき、複式簿記の原理によって、正確に取引の処理ができます。 ２．取引を主要簿と関連する補助簿に明瞭に記帳し、決算時に記帳されたデータを整理、集計して損益計算書と貸借対照表を正確に作成できます。 ３．企業経営の実情を計数的に的確にとらえて問題点を把握し、経営の将来の計画や実施に役立てます。		
テキスト（教科書）	合格テキスト 日商簿記３級（最新版） 合格トレーニング 日商簿記３級（最新版） 上記２冊とも TAC 簿記検定講座 著 ※テキストについての注意 １．平成 28 年以降の簿記検定試験３級より、出題内容の一部変更が見込まれます。そのため、テキストについても最新版を使用します。詳しくは、ガイダンス時に説明します。 ２．本講義は、テキストの例題等を参照しつつ進行していきます。したがって、テキストなしで受講することのないよう、必ず入手してください。		
参考書（参考文献）	ガイダンス時に説明いたします。		
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	受講上の注意：電卓等計算用具を必ず用意してください。 授業外の学習方法：商業簿記を修得するためには、できるだけ多くの練習問題を解くことが不可欠です。日商簿記検定３級の過去出題問題を数多く解いてください。		
評価方法	評価方法：課題の提出を重視します。また、講義時間内に適宜小テストを行い、定期試験（筆記試験）とあわせて総合評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス　～簿記とは何か～ 第２回　簿記の基礎と学習方法 第３回　日常の手続き（１）簿記上の取引、勘定、仕訳 第４回　日常の手続き（２）転記、合計・残高、勘定締切、帳簿、試算表 第５回　商品売買（１）三分法による処理、掛けによる売買 第６回　商品売買（２）返品・値引き、諸掛り、商品有高帳 第７回　現金 第８回　当座預金 第９回　小口現金 第 10 回　手形（１）約束手形 第 11 回　手形（２）手形の裏書、割引処理 第 12 回　その他の期中取引（１）貸付・借入金、手形貸付・借入金 第 13 回　その他の期中取引（２）未収・未払金、前払・前受金 第 14 回　その他の期中取引（３）仮払・借受金、立替・預り金 第 15 回　その他の期中取引（４）商品券と他店商品券 第 16 回　固定資産 第 17 回　有価証券 第 18 回　その他の期中取引（５）租税公課、純資産（資本）の引出 第 19 回　その他の期中取引（６）訂正仕訳、総勘定元帳と補助簿 第 20 回　試算表の作成（１）出題パターン１ 第 21 回　試算表の作成（２）出題パターン２ 第 22 回　試算表の作成（３）資料に重複した取引がある場合 第 23 回　決算とは、簿記一巡の手続き、決算整理 第 24 回　決算整理（１）精算表の作成 第 25 回　決算整理（２）現金過不足、消耗品の整理、売上原価の計算 第 26 回　決算整理（３）固定資産の減価償却、売却 第 27 回　決算整理（４）貸倒れ、貸倒引当金の設定 第 28 回　決算整理（５）繰延べと見越し 第 29 回　精算表の作成 第 30 回　勘定の締切、財務諸表の作成 第 28 回　伝票式会計 第 29 回　各帳簿記入の練習 第 30 回　仕訳に関する復習		
ナンバリング	CPFM1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40740
科目	4074 商業簿記Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	4
その他担当者			
授業概要	複式簿記をもとに作成される企業の内部報告および外部報告は、さまざまな企業情報を提供します。そして経営者、投資家などの情報利用者は、それらの情報をもとに経営活動、投資活動などを決定します。このような会計情報作成の基礎となる複式簿記は、企業活動の重要な記録制度であるといえます。本講義では、株式会社における複式簿記の基本原理について理解するとともに、日商簿記２級レベルの商業簿記に関する知識の修得を目標とします。		
授業の到達目標	１．商業簿記Ｉの学習内容を基礎として、さらに株式会社形態の商品売買業に関する各種の取引の処理が正確にできます。 ２．本支店会計、複数仕訳帳制、伝票の集計と転記の処理ができ、決算時に記帳されたデータを整理、集計して損益計算書と貸借対照表を正確に作成できます。 ３．企業経営の実情を計数的に的確にとらえて、問題点を把握し、経営の将来の計画や実施に役立てます。		
テキスト（教科書）	合格テキスト日商簿記２級商業簿記（最新版） 合格トレーニング 日商簿記２級商業簿記（最新版） 上記２冊とも TAC 簿記検定講座著 ※テキストについての注意 １．平成 28 年以降の出題範囲の大幅な改定により、テキスト改訂が見込まれます。使用テキストにいてはガイダンス時に説明いたします。 ２．本講義は、テキストの例題等を参照しつつ進行していきます。したがって、テキストなしで受講することのないよう、必ず入手してください。		
参考書（参考文献）	ガイダンス時に説明いたします。		
受講条件	商業簿記Ｉの履修が望ましい。もしくは同レベルの内容を修得済みであるか、３級以上の簿記検定に合格していることが望ましい。		
準備学習等の内容	受講上の注意：電卓等計算用具を必ず用意してください。 授業外の学習方法：株式会社会計を修得するためには、できるだけ多くの練習問題を解くことが不可欠です。日商簿記検定２級商業簿記の過去出題問題を数多く解いてください。		
評価方法	評価方法：課題の提出を重視します。また、講義時間内に適宜小テストを行ない定期試験（筆記試験）とあわせて総合評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　株式会社の仕組みと純資産 第３回　現金・当座預金 第４回　銀行勘定調整表 第５回　商品売買（１）売上原価計上法、商品売買取引 第６回　商品売買（２）クレジットカード等の売上、割戻と割引処理 第７回　有価証券（１）有価証券の処理 第８回　有価証券（２）有価証券の区分と評価 第９回　固定資産（１）減価償却費の計算 第 10 回 固定資産（２）売却、除却、買替の処理と購入 第 11 回 固定資産（３）リース取引とソフトウェア 第 12 回 固定資産（４）その他の固定資産取引 第 13 回 その他の取引処理 第 14 回 決算整理（１）売上原価の計算 第 15 回 決算整理（２）引当金 第 16 回 精算表 第 17 回 損益計算書 第 18 回 貸借対照表 第 19 回 株主資本等変動計算書 第 20 回 製造業の財務諸表 第 21 回 外貨建取引 第 22 回 為替予約 第 23 回 株式会社の税金 第 24 回 税効果会計 第 25 回 本支店会計（１）支店の独立会計 第 26 回 本支店会計（２）本支店会計の決算 第 27 回 連結財務諸表（１）目的と作成手順 第 28 回 連結財務諸表（２）基本処理と作成手続き 第 29 回 連結財務諸表の作成 第 30 回 仕訳に関する復習		
ナンバリング	CPGM1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	40760
科目	4076 工業簿記	授業種別	週間授業
担当教員	畑野　光正	単位数	2
その他担当者			
授業概要	商品売買業における企業の経営活動の主たるものは、商品などの購買活動と販売活動です 。これに対して、製造業（メーカー）における主たる経営活動は原材料の仕入などを行う購買活動と工場などで製品に仕上げる製造活動及びできあがった製品の販売活動です。工場内での製品製造活動の事務処理が工業簿記の学習内容の中心です 。これらの経営活動は商業簿記と同じように複式簿記によって記録 ・計算・整理されます 。本講義では、原価計算と密接に結合した製造業で行われている工業簿記について学習し、日商簿記２級工業簿記レベルの知識の修得を目標とします。 製造業（メーカー）の事務職を進路目標とする学生には、役に立つ授業科目です。		
授業の到達目標	１．製造業（メーカー）の製造に関する内部取引を正確に計算処理をして記帳し、決算時に整理・集計を行なって損益計算書と貸借対照表を作成できます。 ２．個別受注生産（個別原価計算）と見込生産（総合原価計算）の製造形態の区別に対応した製品製造原価を算出するための原価計算ができます。 ３．標準原価計算を利用することによって、原価管理を行ない製造活動の無駄を排除したり、直接原価計算を利用することによって、企業経営上の短期利益計画を立て、将来の経営活動の改善に役立てます。		
テキスト（教科書）	合格テキスト日商簿記２級工業簿記 Ver.8.0　ISBN978-4-8132-6158-2 合格トレーニング日商簿記２級工業簿記 Ver.8.0　ISBN978-4-8132-6160-5 上記２冊とも TAC 出版発行 ※テキストについての注意 本講義は、テキストの例題等を参照しつつ進行していきます。したがって、テキストなしで受講することのないよう、必ず入手してください。		
参考書（参考文献）	合格するための過去問題集日商簿記２級　TAC 出版 新版第 28 版ドリル式日商簿記検定２級　税務経理協会		
受講条件	商業簿記　Ｉの履修が望ましい。もしくは同レベルの内容を修得済みであるか、３級以上の簿記検定に合格していることが望ましい。		
準備学習等の内容	受講上の注意：電卓等計算用具を必ず用意してください。 授業外の学習方法 ： 製造業における原価計算と工業簿記を修得するためには、できるだけ多くの練習問題を解くことが不可欠です。　日商簿記検定２級（工業簿記）の過去に出題された問題を数多く解いてください。		
評価方法	評価方法：課題の提出を重視します。また、講義時間内に適宜小テストを行ない定期試験（筆記試験）とあわせて総合評価します。		
授業計画	第１回　工業簿記の基礎 第２回　材料費 第３回　労務費 第４回　経費 第５回　製造間接費 第６回　個別原価計算 第７回　部門別個別原価計算 第８回　総合原価計算（１） 第９回　総合原価計算（２） 第 10 回　財務諸表 第 11 回　本社工場会計 第 12 回　標準原価計算（１） 第 13 回　標準原価計算（２） 第 14 回　直接原価計算（１） 第 15 回　直接原価計算（２）		
ナンバリング	CPGM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41030
科目	4103 韓国入門	授業種別	週間授業
担当教員	韓　銀暎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	韓国について、いろんな方面（文字や発音、基本的な文法、文化、社会など）から理解を深める事を目標とする。		
授業の到達目標	①ハングルの読み書きができる ②韓国の文化などを知る ③簡単な挨拶や会話ができる、の三点を目標とする。		
テキスト（教科書）	金智賢 『教養韓国語初級』 朝日出版社　定価 2484 円（税込み）		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	予習は必要ないが、韓国語を学習するときは必ず復習すること。		
評価方法	復習小テスト、授業態度、課題の提出から総合的に評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス、ハングル文字について 第２回　基本母音、基本子音 第３回　合成母音、濃音 第４回　パッチム 第５回　発音のルール 第６回　挨拶表現 第７回　韓国の年中行事 第８回　基本助詞、～です・ます形 第９回　儀礼（１歳の誕生日のお祝い、結婚式） 第 10 回　漢数字 第 11 回　韓国の民族遊び 第 12 回　韓国の食文化 第 13 回　固有数詞 第 14 回　韓国の教育制度 第 15 回　韓国の宮殿、世界文化遺産		
ナンバリング	CPFM2039		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41040
科目	4104 ドイツ入門	授業種別	週間授業
担当教員	堀内　美江	単位数	2
その他担当者			
授業概要	西洋と東洋の違いはありますが、敗戦後、ドイツと日本は同じように経済的な発展をとげ、それぞれの地域を政治的にも経済的にもリードする国となりました。 そして日本が現在、成長に行き詰まりをみせている一方で、ドイツはヨーロッパ共同体のけん引役として、ますますその重要度を増してきています。 そんなドイツに、日本の一流企業やアーティストたちも注目しています。ドイツの童話や音楽がいま再び注目されはじめてもいます。 また、ドイツは親日派が多いことでも有名です。日本の伝統文化だけではなく、アニメや食文化なども、ドイツ人はとても興味を持っています。 この授業で一度日本を飛び出してみましょう。そしてドイツを通して新しいものの見方や考え方に触れてみてください。 そして再び新しい視点で日本を見る時、日本の良い面やおかしな面が見えてくることでしょう。 この授業が、皆さんの国際人としての感覚を少しでも育てるものであるようにと思っています。		
授業の到達目標	以下の項目を到達目標とします。 ①社会人として常識的なマナーのなかで授業に参加できる ②ドイツの食や音楽、祭礼などの文化を映像を見ながら学ぶ ③ドイツの自然遺産を知り、その地理的特徴を知る ④ドイツ人らしさ、ドイツ人気質を文化や歴史と関連付けて考えられる ⑤ドイツと日本を比較しながら考察する		
テキスト（教科書）	プリント配布		
参考書（参考文献）	田村光彰他『現代ドイツの社会･文化を知る為の 48 章』（明石書店）　＊ あくまで参考書です。		
受講条件	外国（特にヨーロッパ方面）に興味のある方ならどなたでも。		
準備学習等の内容	特になし		
評価方法	出席：ノート提出＝１：２の割合で評価します。 ＊ノートについて＊ 書き込みできるレジュメを毎回お配りします。そこに自由にノートを取っていただきます。半期の終わりごろにそれをチェックし、返却します。		
授業計画	１回　オリエンテーション ＊＊＊ドイツ地域研究入門＊＊＊ ２回　ドイツってどんな国？ ３回　ドイツの自然遺産 ４回　ドイツ人のお金事情 ５回　ドイツの州と町 ６回　何を食べようドイツの町で？ ７回　ドイツのエコ事情 ８回　ドイツの学生生活 ＊＊＊ドイツ文化研究入門＊＊＊ ９回　ドイツの作曲家を知っていますか？ 10 回　ドイツの歴史総まとめ 11 回　ノーベル賞文学賞をドイツ人も取ってるの？ 12 回　ドイツのクリスマスと祭礼 13 回　世界のなかのドイツ 14 回　ノート提出と補足説明 15 回　返却とまとめ		
ナンバリング	CPFM2032		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41080
科目	4108 観光英会話 I	授業種別	週間授業
担当教員	Stewart Gale	単位数	1
その他担当者	小西 真弓		
授業概要	Travel English course for elementary students. All classes are taught in English.		
授業の到達目標	Students will learn how to confidentally deal with a number of situations they may come across while travelling in foreign countries.		
テキスト（教科書）	Passport, Oxford University Press, 2000, Angela Buckingham & Norman Whitney		
参考書（参考文献）			
受講条件	Students should bring an English dictionary.		
準備学習等の内容			
評価方法	Participation, attitude and final exam.		
授業計画	In this course topics include: checking in at airports, asking directions, meeting people, shopping and visiting a doctor. Classes will involve various listening and speaking activities.		
ナンバリング	CPFM1008		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41090
科目	4109 観光英会話Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	Stewart Gale	単位数	1
その他担当者	小西 真弓		
授業概要	Travel English course for high elementary to lower intermediate and intermediate students. All classes are taught in English.		
授業の到達目標	Students will learn how to confidentally deal with a number of situations they may come across while travelling in foreign countries.		
テキスト（教科書）	Passport 2, Oxford University Press, 2010, Angela Buckingham & Lewis Lansford		
参考書（参考文献）			
受講条件	Pre-requisite - pass Travel English 1. Students should bring an English dictionary		
準備学習等の内容	Students should review the materials studied in Travel English 1.		
評価方法	Participation, attitude and final exam.		
授業計画	An extension of Travel English 1. As well as reinforcing the situational English learned in Travel English 1 an emphasis will be placed on free conversation and expressing ideas and opinions. Classes will involve various listening and speaking activities.		
ナンバリング	CPGM1006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41100
科目	4110 TOEIC 対策	授業種別	週間授業
担当教員	今泉　仁志	単位数	2
その他担当者			

授業概要

英語は嫌いで、これからの人生でも避け続け、なるべく関わりを持たないようにしたいと考えているかもしれません。でも、その一方で、頭の片隅では少しぐらいやっておいた方がいいかなと考えている前向きな自分もいるのかもしれません。人間って、矛盾に満ちたやっかいな存在ですね。

イヤイヤながら再チャレンジしたことでも、少しでも英文が読めるようになり、聞いた英語のところどころがわかるようになると、苦手意識や抵抗感が薄らいできて、もうちょっとやってみようかなという気になります。この授業は TOEIC 対策を通して、英語力を身につけていきます。

TOEIC（国際コミュニケーションのための英語力測定テスト）は、合格・不合格ではなく、10 点～ 990 点のスコアであなたの英語力を評価してくれるものです。努力すれば、必ずスコアは上がり、目に見える形で、あなたの努力は報われます。

英語が読める、話せる、聞けるようになりたいと思ったら、やはり英語のルール（文法）を知っておく方が早道です。それと同時進行で、単語を増やしていく必要があります。この単語さえわかれば、全部わかるのにというくやしい思いをしないためです。

授業の到達目標

（１）TOEIC の問題形式を理解する
（２）ベースとなる「語彙」と「文法」を学習する
（３）単語力と文法力を前提に、リスニング力・読解力を強化する

授業の目標は上記の通りですが、各自で以下のことにチャレンジしてほしいと思います。
・やる気が出るように、自分の具体的目標を明確にする。
・その目標を達成するために、英語に接する時間を増やし、かつ継続していけるように工夫する。
・自分の学習量を「見える化」する。折に触れ、達成感を得て、モチベーションを維持する。
・単語に何度も接するように、その機会を意識的に増やす。
・毎日の習慣として、時間・環境の許す限り、ナチュラルスピードで話される英語を聞き流す。
・物事に対して自分の意見を持つ。意見がないと話す力がつきません。

テキスト（教科書）

「はじめての新 TOEIC テスト 全パート総合対策」塚本幸光著（アスク出版：ISBN-13: 978-4872177879）

参考書（参考文献）

「大学生のための TOEIC テスト入門」（コスモピア：ISBN978-4-86454-025-4）
文法に自信がない場合は、高校時代の参考書を使ってください。
「総合英語 Forest 7th Edition」（桐原書店：ISBN-13: 978-4342010453）
英語を学ぶ場合、状況に応じた表現をただ丸暗記するだけでは、その場しのぎの英会話はこなせてもそれ以上の応用ができるようにはなりません。英語を使いこなすのに、実践的な会話練習が不可欠なのは当然のことですが、「ことばの仕組み（文法）」を知ることも大切です。

受講条件

特にありません。誰でも、心の中では英語ができるようになりたいと願っていることでしょう。
必要なのは、始めるきっかけと継続できるエネルギーです。
気の抜けない２時間の試験を乗り切るには、体力（気力）と集中力が必要です。
少しでもスコアを上げようとするなら、毎日 10 分でも 20 分でも捻出して努力する覚悟が必要です。
ただし、TOEIC でハイスコアを取るために英語を勉強するのではなく、本物の英語力（地力）が身についた結果が TOEIC のハイスコアに反映されるものだと考えてください。TOEIC の問題集を形だけやってもスコアはそれほど伸びません。

準備学習等の内容

TOEIC は、短期間で、ぐんぐんスコアが上がるような安易なテストではありません。基礎力をつけた上で、出題形式に慣れる必要があります。
毎日１時間は学習することがスコア・アップのための常道です。継続することが大切で、知識の定着を図るためには、スキマ時間を見つけては反復練習を繰り返さなければなりません。
英文を読むには「読解力」が必要です。日本語でゆっくり読んでもわからないものを、英語で素早く理解できるはずがありません。普段から新聞・ビジネス書を読んでいれば、TOEIC で出題される日常生活の話題やビジネスの背景知識が得られ、得点アップにつながります。
ネットで英語を聞く　iPad アプリ：NHK WORLD TV

評価方法

授業時間内に実施する小テスト（50%）と模擬テスト（50%）で評価します。

授業計画

授業計画は順序立てて論理的に書く必要がありますが、実際の勉強はいろいろな内容が同時並行で進んでいきます。単語、発音、熟語、文法、解釈、リスニング、の学習を同時並行で進めていくわけです。最初は、内容がバラバラのままで進んでいく感じがあるかもしれませんが、しばらくすると、お互いに関連ができてきてメキメキ力がついていきます。

第１回　TOEIC とは？　どこから、どうやって勉強すればいいのか
第２回　TOEIC の全体像をつかむ　問題構成はどうなっているのか

単語をひと目見ただけで覚えられる人は、そうはいないと思います。たいていは、繰り返しスペリングを書いて覚えたり、忘れては覚えなおし、ということが一生の間続きます。使わない単語はドンドン忘れますし、新しい英単語も増やしていかなければなりません。英単語を覚えたところで何になる、なんていう理屈をこねるヒマがあったら、１つでも多くの英単語を覚えることです。１日に、いくつの単語を覚えると１か月でいくつになり、半年ではどれだけになるなどと、くだらない皮算用はしないことです。とにかくドンドン覚え、ドンドン忘れることを繰り返すことです。

勉強するときに、１日何ページやろう、１週間に１章ずつ進もうなどと、もくろむことは、挫折する元です。参考書１冊を１ヶ月で仕上げようとか、大それたことを考えていけません。まずは、目の前のことをコツコツやることです。勉強にはコツがあり、あるレベルを越えると、どんどん勢いがついてきて、最初に想像できなかったような景色が見えてくるようになります。

第３回　単語　意味、品詞、句、節　　リスニング　表記と音、音の強弱
第４回　単語　覚えては忘れ、覚えては忘れる　　リスニング　音のかたまり
第５回　単語　忘れては覚え、忘れては覚える　　リスニング　音の脱落
第６回　単語　忘れたり、たまに忘れなかったり　リスニング　聞き直す、聞き流す

カタカナ英語が頭の中にあり、単語が一語一語ていねいに区切って発音されるものだと考えていると、いつまでたってもリスニングは上達しません。英語はアクセントの強弱が大きいリズミカルな言語なので、弱く発音される部分は（聞はあっても）聞こえません。冠詞も前置詞も弱いアクセントなので、聞き取りにくいものです。スペルと音の関係を勉強する必要があります。リスニングとスピーキングは同時にやるべきもので、正確に繰り返す「リピーティング」や追いかけるようについていく「シャドーイング」は効果的です。

文法は、「ことばのしくみ」を教えてくれるもので、外国語を勉強する時にはおろそかにはできません。文法に関しては、文法用語を覚えることより、こういう言い方をするものだと慣れることが必要です。整理してあるリストを丸暗記するのではなく、いろいろな文章の中で出会うことで、理屈抜きで、そういう言い方をするものだという感覚を養うことが大切です。「ことばのしくみ」を勉強することで、人間が自分の考え・思いを伝えるために、みごとな言語体制を成立させてきた素晴らしさを感じて欲しいと思います。

第７回　文法　構文、５文型
第８回　文法
第９回　文法

ビジネス英語ができるようになるには、日常英会話のレベルを超える必要があります。簡単な英会話ができることは必要ですが、英語をきちんと読めたり聞けたりする読解力が大切です。

英単語をいちいち調べなくても文脈からなんとなく意味がとれるようになるという意見もありますが、まずは、知らない単語はいちいち調べて語彙を増やしていった方が、結局は早い段階で読解力がつくようになります。覚えた単語が必ずしもすぐに次に読む文章で出てくるわけではありませんが、これはコップに水滴がたまっていくようなもので、何の変化も起きていないようでも、わからない単語は着実に減っていっており、ある日ふと気がつくと、読むスピードがぐんと上がっているのが実感できる時が必ずやってきます。そうなる日が楽しみですね。

第 10 回　リーディング　量をこなす
第 11 回　リーディング　勉強法は目的に応じて自分で考える
第 12 回　リーディング　手ごたえを感じる
第 13 回　リーディング　楽しく勉強を続ける

英会話についてのアドバイスです。会話の相手は、「なぜ？　どうして？　何のために？」と畳み掛けるように聞いてきます。その際、こういう状況ではこう答えるんだなというパターンでは不十分で、自分自身がものごとに対してどういう意見を持っているのかということを問われていること、自分自身の意見を持つということが大切なんだということを思い知らされるようになります。そんなところが、外国語を勉強することは、日本語を改めて勉強することになり、日本のことをより深く理解しようとすることになると言われる理由です。

第 14 回　模擬テストと時間配分の仕方（１）
第 15 回　模擬テストと時間配分の仕方（２）

基礎力がついたら、単語を増やし続け、英文をたくさん読み、英語をたくさん聞いて、速読力をつけることです。英語は日本語に置き換えて理解するのか、英語は英語のまま理解するのか、なんていうことに悩む必要はありません。相手の言いたいことがわかれば、理解の仕組みはどうでもよいことです。

英語に限らず外国語の勉強には、きりがありません。一度完璧に覚えたことでも、悲しいかな、どんどん忘れていきます。復習を繰り返すしか、対策はありません。しかし、一度勉強したことは無駄にはならないはずです。そう信じて、何ごともやれるときにやっておく、何ごとも思い立ったときに始める、ということで、英語に再チャレンジしませんか？

※授業時間以外でやってほしいこと

授業時間内で出来ることは限られています。教員が英文を説明して「わかる」までは もっていけますが、受講生は自分で「わかった」英語を「使える」英語にまで自主トレーニングする必要があります。

「音読・筆写」 ―ひたすら声を出して読む、そしてひたすら書き写す―

「使える」英語にするには、ある程度まとまった意味を持つ文章を、内容を理解してから、声に出して読んでみる「音読」が極めて効果的です。繰り返し音読したら、手を動かして英文をノートに書き写してみます。どれぐらいやれば効果があるでしょうか。やればやるほど効果があるとしか言いようがありません。

CD付きのテキストを使った練習方法の一例を示します。
（１）テキストを見る前に CD を聞いて、内容を推測します。
（２）CD を聞きながら、テキストの英文を小さめの声で CD に合わせて音読します。
（３）知らない単語は調べ、テキストを精読し、英文の内容を完全に理解します。
（４）テキストを見ながら、大きめの声で繰り返し音読します。
（５）１センテンスずつ音読しながら、ノートに書き写します。３回ほど繰り返します。
（６）テキストを見ないで CD を聞いて、内容を理解できるか試します。

この（１）から（６）までの一連の訓練が１時間程度です。それ以上やっても、長続きしません。
これを毎日繰り返します。完全に理解できるようになったら「シャドーイング」をします。聞こえてくる英語を、聞こえてくるままに、影のように口に出してついていく練習です。上達してくれば、静かで英語だけに集中できる環境ではなく、生活雑音がある自然な環境でも英語が聞き取れるようにします。

さらにレベルアップをねらいたい場合は、もっとタフな練習が待ち構えています。
（７）CD を聞きながら、英文をノートに書き取ってみます。ディクテーションです。

書き取るのに時間がかかりますから、CD を止めたりトラックを戻したりしながら書き取ることになります。自分に聞こえる音とスペルとの関係がよくわかるようになります。また、音を聞きながら、文の構造を理解しようとしますから、文法力の強化にもつながります。
（８）英文を暗誦してしまいます。感情豊かに表現する練習をします。音読で元気が出てきます。

こういった訓練により、「３ヶ月で変化が表れ、３年で結果が出てきます」。Good luck!
※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。

ナンバリング

CPFM1019

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	35090
科目	3509 社会的養護内容	授業種別	週間授業
担当教員	佐々木　将芳	単位数	1
その他担当者			
授業概要	社会的養護の内容をふまえ、実践に求められる「生活」の理解、子ども集団への関わり方を学ぶ。 成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を習得し、子ども観や施設養護観を養う。		
授業の到達目標	１．保育士に必要な知恵・技・観（見方）を理解し、説明できる ２．施設養護および他の社会的養護の実際について学ぶ ３．児童福祉施設における養護実践事例を読み拓くことができ、個々に応じた個別支援計画の作成についての留意点を説明できる ４．児童福祉施設における子ども集団、親・家族への働きかけを検討し、施設職員の役割を知る		
テキスト（教科書）	授業内で指示する。		
参考書（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
受講条件	なし。		
準備学習等の内容	「社会的養護」と密接に関わっている。「社会的養護」について、しっかり学びながらこの授業に臨むことが必要である。		
評価方法	授業態度、課題提出　40% 期末筆記試験　60%		
授業計画	第１回　オリエンテーション、施設とは 第２回　子どものこころの理解 第３回　社会的養護問題の背景 第４回　社会的養護の動向 第５回　社会的養護における個と集団 第６回　社会的養護における生活内容 第７回　社会的養護における養護技術（日常生活に関する技術） 第８回　社会的養護における養護技術（専門的援助・支援） 第９回　自立支援計画 第 10 回 専門職の倫理と責務 第 11 回 子どもへの関わりの視点を学ぶ 第 12 回 アドミッションケア・インケア 第 13 回 自立援助・家族支援 第 14 回 施設内虐待 第 15 回 施設退所後のケア ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEBM1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41120
科目	4112 海外語学研修	授業種別	集中講義
担当教員	長谷川　正志	単位数	1
その他担当者			
授業概要	オーストラリアの都市（ケアンズ、ゴールドコースト等）を訪問し、現地の家族と一緒に生活し、語学研修で基礎的な英語を学び、ボランティアワーク、施設訪問等様々なアクティビティを通じて、グローバルな生活・文化・習慣を体験する。		
授業の到達目標	他国の習慣、生活様式等にふれ、いかに慣れ親しむことができるか 言葉の壁を乗り越えていかにコミュニケーション能力を身につけるか		
テキスト（教科書）	なし		
参考書（参考文献）	ホームステイの英会話：ナツメ社		
受講条件	なし ※）但し、参加者 10 名以上で実施予定です。		
準備学習等の内容	実施が決まったら、４回程度のオリエンテーションを実施します。 １回目：参加者の自己紹介、オーストラリアの基礎知識 ２回目：海外旅行必需品等について ３回目：海外研修の詳細スケジュールについて ４回目：ホストファミリーの決定		
評価方法	海外研修スケジュールに沿ったプログラムをこなすこと。		
授業計画	事前オリエンテーション：４回程度 旅行日程（10 日間） １日目：午後豊橋発⇒成田国際空港⇒オーストラリアへ ２日目：早朝オーストラリア着⇒地域観光⇒語学学校⇒ホストファミリー宅へ ３日～８日目：午前中は語学研修、午後はアクティビティ（名所観光、幼稚園・施設等訪問） ９日目：語学学校修了式⇒ホテルで全員宿泊 10 日目：昼オーストラリア発⇒成田経由で豊橋着（夜）		
ナンバリング	CPDM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	35110
科目	3511 児童文化	授業種別	週間授業
担当教員	加藤　克俊	単位数	2
その他担当者			
授業概要	児童文化は子どもの生活の全てに関わるものであるが、子どもの生活を豊かにする遊びや行事に視点をおいて、保育者を目指す学生が保育所や幼稚園などで取り入れられている様々な遊びや行事の楽しさや意味を学び、子どもに提供するための創造性や感性を磨く。		
授業の到達目標	１．グループワークを通し社会性を育みながら、協力して表現することを楽しめる ２．素材ごとに適した道具を使用することができる ３．子どもの視点に立った思考により、子どものための環境づくりができる		
テキスト（教科書）	なし		
参考書（参考文献）	適宜資料を用いる		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった製作に、こだわりを持って取り組むこと。第１回は折り紙と接着剤、色ペンを持ってくること。		
評価方法	授業への参加態度・取り組み方を 50%、提出された課題の内容 50% で総合評価する。		
授業計画	第１回　ガイダンス　児童画について 第２回　ビバあそび場！（SOZO 展における遊べるコーナーづくり）企画 第３回　ビバあそび場！遊べるコーナーの制作 第４回　ビバあそび場！遊べるコーナーの制作 第５回　ビバあそび場！遊べるコーナーの制作 第６回　ビバあそび場！遊べるコーナーの完成 第７回　ビバあそび場！作品の展示 第８回　壁面制作　行事・記念日　（行事について調べ、下絵を描く） 第９回　壁面制作　行事・記念日　（様々な素材をつかっての制作） 第 10 回　壁面制作　行事・記念日　（完成） 第 11 回　ペープサート　（ペープサートについて） 第 12 回　ペープサート　（キャラクターデザイン） 第 13 回　ペープサート　（道具の制作、演技の練習） 第 14 回　ペープサート　（道具の完成、演技の練習） 第 15 回　ペープサート　（発表） 但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	PEDM2018		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41631
科目	4163 茶道Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	中神　佐代子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	本学の茶道は南坊流であります。茶道の第一の段階は実際にふれなければならない点前の習熟であります。日本の伝統芸能の一つ、茶道で学ぶ、礼儀、作法、誠実の精神を養うことを目的とします。 茶道では主人は客を思い、客は主人を思い、お互いに思いやる心を持ち、茶の湯を行います。茶道具、掛物、季節のお花等にも目をむけて授業で学習した事を皆さんにもお茶会に参加する事で実践していただきたいです。 創造祭にお茶会を行いますのでこの機会に主客の心得を体験しませんか。		
授業の到達目標	１．茶道を通して、礼儀・作法・誠実の精神を養うこと ２．茶道の基本に習熟すること ３．茶道を通して日本文化を理解すること		
テキスト（教科書）	テキスト：教科書なし。その都度プリントを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	講義時に指示します。四季の花、和菓子にも目をむけて欲しい。		
評価方法	レポート、実技テスト（授業態度、総合的に評価します）		
授業計画	点前の作法をまず習うことから、練習を身をもって行う。 第１回　風炉薄茶用の諸道具の説明・お辞儀の仕方・挨拶の仕方・歩き方 第２回　座り方・襖（障子）開閉・床の間の拝見（掛物、お花・花入れ（花びん）） 第３回　部分指導（ふくささばき・茶入のふき方・茶杓のふき方・茶巾の扱い方） 部分指導（茶せんとうし・茶碗のふき方・お菓子のいただき方・お茶の飲み方） 第４回　盆点薄茶点前 第５回　主客の実習 第６回　主客の実習 第７回　主客の実習 第８回　主客の実習 第９回　主客の実習 第 10 回　主客の実習 第 11 回　主客の実習 第 12 回　風炉小板薄茶点前（柄杓の扱い方） 第 13 回　主客の実習（水指運ぶ） 第 14 回　主客の実習 第 15 回　実技		
ナンバリング	CPDL1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41640
科目	4164 茶道Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	中神　佐代子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	本学の茶道は南坊流であります。茶道の第一の段階は実際にふれなければならない点前の習熟であります。日本の伝統芸能の一つ、茶道で学ぶ、礼儀、作法、誠実の精神を養うことを目的とします。 茶道では主人は客を思い、客は主人を思い、お互いに思いやる心を持ち、茶の湯を行います。茶道具、掛物、季節のお花等にも目をむけて授業で学習した事を皆さんにもお茶会に参加する事で実践していただきたいです。 創造祭にお茶会を行いますのでこの機会に主客の心得を体験しませんか。		
授業の到達目標	１．茶道を通して、礼儀・作法・誠実の精神を養うこと ２．基本点前に習熟すること ３．茶道を通して日本文化を理解すること		
テキスト（教科書）	テキスト：教科書なし。その都度プリントを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	「茶道Ⅰ」の単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	講義時に指示します。四季の花、和菓子にも目をむけて欲しい。		
評価方法	レポート、実技テスト（授業態度、総合的に評価します）		
授業計画	点前の作法をまず習うことから、練習を身をもって行う。 第１回　風炉小板薄茶点前　水指運ぶ 第２回　風炉小板薄茶点前　水指運ぶ 第３回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第４回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第５回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第６回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第７回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第８回　色紙箱 第９回　主客の実習 第 10 回　主客の実習 第 11 回　主客の実習 第 12 回　主客の実習 第 13 回　主客の実習 第 14 回　主客の実習 第 15 回　実技		
ナンバリング	CPDL1008		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41641
科目	4164 茶道Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	中神　佐代子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	本学の茶道は南坊流であります。茶道の第一の段階は実際にふれなければならない点前の習熟であります。日本の伝統芸能の一つ、茶道で学ぶ、礼儀、作法、誠実の精神を養うことを目的とします。 茶道では主人は客を思い、客は主人を思い、お互いに思いやる心を持ち、茶の湯を行います。茶道具、掛物、季節のお花等にも目をむけて授業で学習した事を皆さんにもお茶会に参加する事で実践していただきたいです。 創造祭にお茶会を行いますのでこの機会に主客の心得を体験しませんか。		
授業の到達目標	１．茶道を通して、礼儀・作法・誠実の精神を養うこと ２．基本点前に習熟すること ３．茶道を通して日本文化を理解すること		
テキスト（教科書）	テキスト：教科書なし。その都度プリントを配布する。		
参考書（参考文献）			
受講条件	「茶道Ⅰ」の単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	講義時に指示します。四季の花、和菓子にも目をむけて欲しい。		
評価方法	レポート、実技テスト（授業態度、総合的に評価します）		
授業計画	点前の作法をまず習うことから、練習を身をもって行う。 第１回　風炉小板薄茶点前　水指運ぶ 第２回　風炉小板薄茶点前　水指運ぶ 第３回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第４回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第５回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第６回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第７回　主客の実習　置水指（水注扱いをする） 第８回　色紙箱 第９回　主客の実習 第 10 回　主客の実習 第 11 回　主客の実習 第 12 回　主客の実習 第 13 回　主客の実習 第 14 回　主客の実習 第 15 回　実技		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41660
科目	4166 華道Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	塩野谷　恵子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	日本の伝統文化いけ花のルーツを尋ねると池坊に出逢います。四季の花、草木を通じて養われた豊かな心は､暮らしに癒しと潤いを与えてくれます｡目まぐるしく移り変わる現代社会にこそ､ふと立ちどまって花を眺めるゆとりが大切です。 草木を注意深く見つめ、草木の自然の美しさをとらえることから始めます。		
授業の到達目標	１．いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。 ２.四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。 ３．草木をいける心構えを身につけること。		
テキスト（教科書）	なし。		
参考書（参考文献）			
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	特になし。		
評価方法	草木に接し、いける楽しみ、いけるゆとり、いける心構えが大切ですから、授業態度、作品評価･ノートで総合的に評価します。		
授業計画	いけ花の分類、いけ花の基礎、自由花の形態等を教本から又ビデオから学びつつ実技を行う。 第１回　ガイダンス 第２回　生ける時のマナー・用具の扱い方・花材の扱い方 第３回　基本花形 第４回　基本花形 第５回　基本花形 第６回　基本花形 第７回　正風体・生花 第８回　アレンジ・フラワー 第９回　自由花についての説明 第 10 回　自由花 第 11 回　自由花 第 12 回　自由花 第 13 回　アレンジ・フラワー 第 14 回　正風体・生花 第 15 回　新風体・生花		
ナンバリング	CPDL1006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41661
科目	4166 華道Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	塩野谷　恵子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	日本の伝統文化いけ花のルーツを尋ねると池坊に出逢います。四季の花、草木を通じて養われた豊かな心は､暮らしに癒しと潤いを与えてくれます｡目まぐるしく移り変わる現代社会にこそ､ふと立ちどまって花を眺めるゆとりが大切です。 草木を注意深く見つめ、草木の自然の美しさをとらえることから始めます。		
授業の到達目標	１．いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。 ２.四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。 ３．草木をいける心構えを身につけること。		
テキスト（教科書）	なし。		
参考書（参考文献）			
受講条件	履修条件はありません。		
準備学習等の内容	特になし。		
評価方法	草木に接し、いける楽しみ、いけるゆとり、いける心構えが大切ですから、授業態度、作品評価･ノートで総合的に評価します。		
授業計画	いけ花の分類、いけ花の基礎、自由花の形態等を教本から又ビデオから学びつつ実技を行う。 第１回　ガイダンス 第２回　生ける時のマナー・用具の扱い方・花材の扱い方 第３回　基本花形 第４回　基本花形 第５回　基本花形 第６回　基本花形 第７回　正風体・生花 第８回　アレンジ・フラワー 第９回　自由花についての説明 第 10 回　自由花 第 11 回　自由花 第 12 回　自由花 第 13 回　アレンジ・フラワー 第 14 回　正風体・生花 第 15 回　新風体・生花		
ナンバリング	CPDL1006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41670
科目	4167 華道Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	塩野谷　恵子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	「いけ花」は季節、環境、観る人など、他との調和、映りを大切にします。 華道Ⅱではその調和、映りを考え、花器との出合い、空間との関連を学んでいきます。 「いけ花」によって、創造する楽しさを感じ取り、美意識を養っていきます。		
授業の到達目標	１．いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。 ２．四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。 ３．草木をいける心構えを身につけること。		
テキスト（教科書）	なし。		
参考書（参考文献）			
受講条件	「華道Ⅰ」の単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	特になし。		
評価方法	草木に接し、いける楽しみ、いけるゆとり、いける心構えが大切ですから、授業態度、作品評価・ノートで総合的に評価します。		
授業計画	自由花の構成の多様性、行事といけ花、生花の基礎知識を学んでいきます。 第１回　ガイダンス 第２回　基本花形 第３回　基本花形 第４回　自由花 第５回　自由花 第６回　自由花 第７回　レリーフ（壁かけの花） 第８回　レリーフ（壁かけの花） 第９回　正風体・生花 第 10 回　アレンジ・フラワー 第 11 回　正風体・生花 第 12 回　新風体・生花 第 13 回　自由花 第 14 回　自由花 第 15 回　正風体・生花		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41671
科目	4167 華道Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	塩野谷　恵子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	「いけ花」は季節、環境、観る人など、他との調和、映りを大切にします。 華道Ⅱではその調和、映りを考え、花器との出合い、空間との関連を学んでいきます。 「いけ花」によって、創造する楽しさを感じ取り、美意識を養っていきます。		
授業の到達目標	１．いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。 ２.四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。 ３．草木をいける心構えを身につけること。		
テキスト（教科書）	なし。		
参考書（参考文献）			
受講条件	「華道Ⅰ」の単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	特になし。		
評価方法	草木に接し、いける楽しみ、いけるゆとり、いける心構えが大切ですから、授業態度、作品評価・ノートで総合的に評価します。		
授業計画	自由花の構成の多様性、行事といけ花、生花の基礎知識を学んでいきます。 第１回　ガイダンス 第２回　基本花形 第３回　基本花形 第４回　自由花 第５回　自由花 第６回　自由花 第７回　レリーフ（壁かけの花） 第８回　レリーフ（壁かけの花） 第９回　正風体・生花 第 10 回　アレンジ・フラワー 第 11 回　正風体・生花 第 12 回　新風体・生花 第 13 回　自由花 第 14 回　自由花 第 15 回　正風体・生花		
ナンバリング	CPDL1009		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41680
科目	4168 基礎教養Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	基礎教養では２つのことを目指します。１つ目は履歴書やエントリーシートなど、手で書くことを求められる書類についての基礎知識を学びます。そのために読みやすい文字を書くことが要求されます。硬筆書写技能検定を学びながら、文字を誠実に書くことを身につけましょう。誠実な文字は相手に誠意を伝えることができます。 １つは筆記試験に必要な知識のまとめです。いくら人間性が豊かでも筆記試験に通らなければ面接には進めません。 この２つを中心に就職試験で必要な基礎教養を身につけます。 この講座は硬筆書写技能検定３級に対応しています。		
授業の到達目標	１．文字の書き方など表現の基礎を身につけること ２．履歴書などの書類作成の基礎を習得すること ３．就職活動に必要な知識を身につけ解答することができること の３つの目標を目指します。		
テキスト（教科書）	『硬筆書写技能検定１・２級合格のポイント』 （狩田　巻山　日本習字普及協会 978-4819503105 ）1,500 円		
参考書（参考文献）	就職筆記試験対策問題集【Web テスト付】1200 円（税抜） 入学準備学習で使用したものです。持参してください。 持っていない学生は初日に申し出てください。		
受講条件	『履修条件はありません』		
準備学習等の内容	実技のみでなく知識も必要になります。漢字の知識については自宅でも学習してください。また、検定の対策を自宅でも必ず行ってください。		
評価方法	①実技試験 ②理論試験 ③知識の筆記試験 普段の講義内で行う、筆記の実習提出物の確認と定期テストで評価を行います。 実技と理論と３：１の割合で評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　時間制限内で正しく書く 第３回　時間制限なしに正しく書く 第４回　行書を書く 第５回　お手本を見ながら書く 第６回　ハガキを正しく書く 第７回　ポスターを書く 第８回　理論のまとめ 第９回　総合的な練習をする 第 10 回　書類を書く 第 11 回　総合演習 第 12 回　総合演習 第 13 回　総合演習 第 14 回　総合演習 第 15 回　総合演習 各回に就職筆記試験対策問題集を使った知識分野の勉強を行います。		
ナンバリング	CPEL1002		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41690
科目	4169 基礎教養Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この講座では時事について理解を深めるための基礎的な知識の習得を目的とします。一般教養試験に出題されやすいテーマに学習します。単なる受験対策に終わらず、社会で生活するときの知識として活かせるように、基本的なところから学習します。 　民間企業採用試験、公務員採用試験の基本的な学修にもつながります。 　新聞を読む前に受講をしてください。受講後に新聞の内容がわかりやすくなります。		
授業の到達目標	１．筆記試験の得意不得意を把握すること ２．苦手分野について理解を深めること ３．得意分野の演習をすること の３つを目標とします。		
テキスト（教科書）	2016 ニュース時事検定公式テキスト & 問題集　時事力３級編　毎日新聞社		
参考書（参考文献）			
受講条件	『履修条件はありません』 数的処理Ⅰ・Ⅱも合わせて受講すると望ましいです。		
準備学習等の内容	講義の中で基本的には理解できますが、完全に身につけるために課題を渡しますから演習をしてください。 空き時間に公務員スタディールーム（D 棟３階）を使って学習してください。		
評価方法	①各講義のチェックテスト ②期末テスト ３：１で評価します。 また、課題については教員から指示をします。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　憲法と政治 第３回　近隣と国土 第４回　地方自治 第５回　日本の産業貿易 第６回　進む少子高齢化 第７回　社会保障 第８回　働く環境 第９回　裁判所の役割 第 10 回　情報社会 第 11 回　科学技術 第 12 回　自然災害 第 13 回　持続可能社会 第 14 回　流動化する世界 第 15 回　平和への道のり		
ナンバリング	CPEL1004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41710
科目	4171 インテリアデザイン	授業種別	週間授業
担当教員	柳原　伸行	単位数	2
その他担当者			
授業概要	インテリアデザインに関連した建物や家具、設備器機等の知識を高めるとともに、住生活商品を扱う小売店やショウルームに必要な販売の知識を習得する。 又バリアフリー･ユニバーサルデザイン等につ教養を高め、併せてインテリアコーディネーターの知識を習得する。		
授業の到達目標	社会に出て役立つ専門分野での基礎知識を習得する。 ３級フードコーディネーターの資格取得を目指す。		
テキスト（教科書）	「インテリアコーディネーター合格教本上巻＜販売編＞第９版 （ハウジングエージェンシー出版）		
参考書（参考文献）			
受講条件	特になし		
準備学習等の内容			
評価方法	出席、演習・小テスト　25% レポート作成　25% 試験　50%		
授業計画	第１回　ガイダンス、インテリアコーディネーターの仕事 第２回　マーケティング 第３回　流通、他 第４回　建築、もんのづくり技術 第５回　色彩計画 第６回　家具 第７回　設備 第８回　バリアフリー・ユニバーサルデザイン 第９回　照明 第 10 回　インテリア他 第 11 回　モデュラーコーディネーション内装材、外装材 第 12 回　住宅の計画・健康住宅 第 13 回　安心して暮らせる街づくり 第 14 回　バリアフリー計画の基礎 第 15 回　まとめ （ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある）		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41730
科目	4173 テーブルコーディネート	授業種別	週間授業
担当教員	大脇　典子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	・テーブルセッティング（食卓テーブルにリネン類・食器・カトラリー・花などを配置する。）、テーブルデコレーション（食卓テーブルを飾る。）テーブルコーディネート（食空間―食卓上の食器・カトラリー・リネン・フィギュア・その空間の照明・室温・音楽などを調和を考え、その食卓を囲む日時・場所・目的に適した食空間を演出する。）の三つの違いを理解する。 ・和・洋の食卓テーブルにおいての社会人としても一般常識を学習する。		
授業の到達目標	・食卓テーブルにおける座席位置・マナーなどを知り、社会人としてのマナーを身に着ける。 ・食卓で使う食器（陶磁器・ガラス・金属など）の歴史、使用方法、使用目的を教養として学ぶ。 ・８つに分類されたイメージに沿ったテーブルフラワー（調和する造花の小さなアレンジをつくる）をつくることにより、８分類のイメージの違いを明確につかむこと ・おもてなしをする時のマナー、おもてなしを受けるときのマナーを身に着ける。		
テキスト（教科書）	テキスト：毎回、プリントを配布しテキストとします。		
参考書（参考文献）	社団法人全国調理師養成施設協会「食育インストラクター教本」		
受講条件	特になし。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	毎回実施する小テスト、期末提出のレポートなどで評価します。		
授業計画	事業計画 第１回　テーブルコーディネート概論－食卓演出の必要性 第２回　８分類されるイメージについて 第３回　空間について－洋のテーブル　セッティング 第４回　空間について－洋食器 第５回　空間について－金属食器 第６回　空間について－ガラス食器 第７回　空間について－テーブルリネン 第８回　空間について－フィギュアと花飾り 第９回　空間について－日本の西洋料理 第 10 回　空間について－和のテーブルと和食器 第 11 回　空間について－漆器・日本料理 第 12 回　空間について－中国のテーブルセッテイング 第 13 回　空間について－ティーのテーブルセッテイング 第 14 回　人間について－パーティー，時間について－外国の歳時記 第 15 回　時間について－日本の歳時記		
ナンバリング	CPFM2042		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41750
科目	4175 マーケティング	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	2
その他担当者			
授業概要	マーケティングとは、変化する市場に働きかける企業の諸活動、すなわち市場の創造を意味している。本講義では、小売業の視点からのマーケティングに焦点を当て、売れるお店を作るための販売活動などを学ぶ。最終的には７月に行われる販売士検定３級の合格を目指す。尚、本講義は、日本商工会議所販売士検定３級試験科目を対象とするものである。		
授業の到達目標	１．小売業のマーケティングの基本的考え方を理解する ２．顧客管理と販売促進の基本的役割を理解する ３．売場づくりの基本的考え方を理解する		
テキスト（教科書）	『販売士ハンドブック（基礎編） ④マーケティング』定価 1,700 円 （日本商工会議所、株式会社カリアック 、ISBN: なし） ※テキストの販売は受講者が確定後、授業内にて行う。		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	（本講義は日本商工会議所販売士検定３級の合格を目指すものである。販売士３級を取得するためには「マーケティング」以外に、「流通論（春開講）」、「ショップマネジメント（春開講）」、「店舗・販売戦略（秋開講）」を履修することが求められる。）		
準備学習等の内容	毎回確認テストを実施するので、テキストの関連個所の復習を行うこと。 問題集や宿題など適宜配布します。 また、実店舗での販売活動を対象としているため、アルバイトやショッピングなどを通じて日頃から見聞を広めることやビジネス誌やニュース、経済情報番組など見て企業の最新情報などをチェックすることを勧める。		
評価方法	評価は期末試験（筆記試験）と授業内で実施する小テストを総合しておこなう。また、理解度を高めるためのレポートなども実施する予定であり、これらも加点対象とする。評価対象や配分についてはガイダンス時に詳細を説明する。		
授業計画	第１回　小売業のマーケティングの基本知識 第２回　マーケティングリサーチの基本知識 第３回　顧客満足経営の基本知識 第４回　顧客管理の基本知識 第５回　フリークエントショッパーズプログラムの基本知識 第６回　販売促進の基本知識 第７回　販売促進策の特徴 第８回　市場の変化、商圏の基本知識 第９回　立地条件の基本知識、競争店調査の基本知識 第 10 回　出店の基本知識 第 11 回　売場づくりの基本知識 第 12 回　売場づくりの手順 第 13 回　小売業の照明の基本 第 14 回　光源の種類と特徴 第 15 回　ディスプレイ効果を高める色彩の活用 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPGM2004		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41760
科目	4176 ショップマネジメント	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	2
その他担当者			
授業概要	小売店の店舗経営について学びます。お店を開くには何が必要か。また、店舗運営をするために心掛けることは何か。本講義では、店舗運営の基礎、売り場づくり、作業や人の割り当てなど、効率的な店舗運営の方法を学ぶ。尚、本講義は、日本商工会議所販売士検定３級試験科目を対象とするものである。		
授業の到達目標	１．店舗運営の基本的役割を理解する ２．ディスプレイの基本的役割を理解する ３．人的販売の基本的考え方を理解する		
テキスト（教科書）	『販売士ハンドブック（基礎編）　③ストアオペレーション』定価 1,700 円 （日本商工会議所、株式会社カリアック 、ISBN: なし） ※テキストの販売は受講者が確定後、授業内にて行う。		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	（本講義は日本商工会議所販売士検定３級の合格を目指すものである。販売士３級を取得するためには「ショップマネジメント」以外に、「流通論（春開講）」、「マーケティング（秋開講）」、「店舗・販売戦略（秋開講）」を履修することが求められる。）		
準備学習等の内容	毎回確認テストを実施するので、テキストの関連個所の復習を行うこと。 問題集や宿題など適宜配布します。 店づくりや店内オペレーションなど、実際の店舗での業務を対象としているため、アルバイトやショッピングなどを通じて日頃から見聞を広めることを勧める。		
評価方法	評価は期末試験（筆記試験）と授業内で実施する小テストを総合しておこなう。また、理解度を高めるためのレポートなども実施する予定であり、これらも加点対象とする。評価対象や配分についてはガイダンス時に詳細を説明する。		
授業計画	第１回　ストアオペレーションの重要性 第２回　開店準備の業務 第３回　発注の基本知識 第４回　荷受け・検収、商品への値付け、補充（リセット） 第５回　POP 広告、棚ラベルの管理、売場チェックの基本知識 第６回　ミーティングの種類と特徴 第７回　包装技術の基本知識 第８回　ディスプレイの目的と基本的役割 第９回　ディスプレイの基本的パターン 第 10 回　ワークスケジューリングの基本知識 第 11 回　ファッション衣料品業界のディスプレイ技術 第 12 回　パートタイマー・アルバイトの活用方法 第 13 回　顧客の購買心理過程 第 14 回　顧客心理と接客販売技術 第 15 回　推奨販売の基本 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPFM1006		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41770
科目	4177 流通論	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	2
その他担当者			
授業概要	近年、日本の流通業は大きく変化してきている。本講義では、日本の小売業、卸売業といった流通業の現状と将来の方向性について学ぶ。具体的には、小売業、卸売業の果たす役割、流通経路や様々に展開する店舗形態、また中でもその発展に大きく寄与するチェーンストアの仕組みなどを学習する。尚、本講義は、日本商工会議所販売士検定３級試験科目を対象とするものである。		
授業の到達目標	１．流通における小売業の基本的役割を理解する ２．店舗形態別小売業の基本的役割を理解する ３．チェーンストアの基本的役割を理解する		
テキスト（教科書）	『販売士ハンドブック（基礎編）　①小売業の類型』定価 2,000 円 （日本商工会議所、株式会社カリアック 、ISBN: なし） ※テキストの販売は受講者が確定後、授業内にて行う。		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	（本講義は日本商工会議所販売士検定３級の合格を目指すものである。販売士３級を取得するためには「流通論」以外に、「ショップマネジメント（春開講）」、「マーケティング（秋開講）」、「店舗・販売戦略（秋開講）」を履修することが求められる。）		
準備学習等の内容	毎回確認テストを実施するので、テキストの関連個所の復習を行うこと。 問題集や宿題など適宜配布します。 店舗形態など、実在するものを対象としているため、アルバイトやショッピングなどで日頃から見聞を広めることを勧める。		
評価方法	評価は期末試験（筆記試験）と授業内で実施する小テストを総合しておこなう。また、理解度を高めるためのレポートなども実施する予定であり、これらも加点対象とする。評価対象や配分についてはガイダンス時に詳細を説明する。		
授業計画	第１回　小売業とは何か 第２回　日本の小売業の構造と変化 第３回　流通機構における小売業の役割 第４回　小売業と国際化 第５回　主要商品別流通経路の基本知識 第６回　流通経路における卸売業のポジショニング 第７回　製造業の流通経路政策の基本知識 第８回　組織小売業の種類と特徴 第９回　販売形態別の種類と特徴 第 10 回　小売業態の基本知識 第 11 回　店舗形態別小売業の基本知識（専門店、百貨店、GMS,SM） 第 12 回　店舗形態別小売業の基本知識（ホームセンター、ドラッグストア、コンビニエンスストア） 第 13 回　チェーンストアとはなにか 第 14 回　チェーンオペレーションの基本知識 第 15 回　商業集積の基本的役割と仕組み ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPFM1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41780
科目	4178 店舗・販売戦略	授業種別	週間授業
担当教員	花岡　幹明	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本講義では、店舗運営における効率的な商品管理に関わる側面としてのマーチャンダイジング（発注、仕入、在庫、販売といった商品の流れ）と店舗運営に必要な法令や計数について学ぶ。尚、本講義は、日本商工会議所販売士検定３級試験科目を対象とするものである。		
授業の到達目標	１．販売事務と計数管理の基本的知識を理解する ２．店舗管理の基本的役割を理解する ３．マーチャンダイジングの基本を理解する		
テキスト（教科書）	『販売士ハンドブック（基礎編）　②マーチャンダイジング』定価 1,700 円 （日本商工会議所、株式会社カリアック 、ISBN: なし） 『販売士ハンドブック（基礎編）　⑤販売・経営管理』定価 1,700 円 （日本商工会議所、株式会社カリアック 、ISBN: なし） ※テキストの販売は受講者が確定後、授業内にて行う。		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	（本講義は日本商工会議所販売士検定３級の合格を目指すものである。販売士３級を取得するためには「店舗･販売戦略」以外に、「流通論（春開講）」、「ショップマネジメント（春開講）」、「マーケティング（秋開講）」を履修することが求められる。）		
準備学習等の内容	毎回確認テストを実施するので、テキストの関連個所の復習を行うこと。 問題集や宿題など適宜配布します。 商品管理や店舗販売などの業務を対象としているため、アルバイトやショッピングなどを通じて日頃から見聞を広めることを勧める。		
評価方法	評価は期末試験（筆記試験）と授業内で実施する小テストを総合しておこなう。また、理解度を高めるためのレポートなども実施する予定であり、これらも加点対象とする。評価対象や配分についてはガイダンス時に詳細を説明する。		
授業計画	第１回　商品の基本知識 第２回　マーチャンダイジングの基本 第３回　商品計画の基本 第４回　販売計画および仕入計画の基本的役割 第５回　在庫管理の基本的役割 第６回　販売管理の基本的役割 第７回　価格設定の基本的考え方 第８回　小売業に関する主な法規 第９回　消費者基本法と個人情報保護法、環境問題と消費生活 第 10 回　販売員の業務 第 11 回　販売事務の基本 第 12 回　計数管理の基本 第 13 回　販売に求められる決算データ 第 14 回　売り場の人間関係 第 15 回　店舗管理の基本的役割 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPGM1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41810
科目	4181 数的処理 I	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	公務員試験の中でも独特と言われるのが数的処理です。数的処理は「判断推理（解題推理）」と「数的推理」に分かれます。文字通り「判断」することで問題を解くか「計算」することで問題を解くかで分野が分かれます。 皆さんに注目していただきたいのは「推理」という言葉です。「推理する」わけですからじっくり考えれば「正解」を導くことができるのです。 さあ、90 分じっくり問題に取り組んで解く楽しさを身につけましょう。		
授業の到達目標	１．基礎的な計算を理解する ２．問題文をしっかり理解する ３．基本的な解法を理解すること の３つの目標を目指します。		
テキスト（教科書）	公務員講座シリーズ 『一般知能　講義編』（ウィネット） 1,600 円 初回のガイダンスの際に注文を受け付けます		
参考書（参考文献）			
受講条件	『履修条件はありません』		
準備学習等の内容	基本的に講義内で理解できます。理解しただけでは学習としては足りません。課題を出しますので演習をしてください。 空き時間に公務員スタディールーム（D 棟３階）を使って学習してください。		
評価方法	①各講義ごとに行う確認問題 ②期末テスト ３：１の割合で評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　論理と集合 第３回　暗号読解 第４回　対応関係 第５回　順序関係 第６回　試合の勝敗 第７回　方位・位置関係 第８回　手順や数量関係 第９回　道順・一筆書き 第 10 回　平面図形の数・模様 第 11 回　軌跡 第 12 回　立体図形と構成 第 13 回　展開図・サイコロ 第 14 回　投影図と折り紙 第 15 回　立体図形の切断		
ナンバリング	CPFM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41820
科目	4182 数的処理Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この講座では数的処理Ⅰでは学ばなかった、「数的推理」の分野について勉強をします。この分野は、出題文章を理解して基本的な計算をして解く問題がメインになります。計算が面倒と言うよりも出題分を読むという練習も大切になります。 　出題文章から解き方を推理することを身につけましょう。 解き方のパターンを理解すればあとは優しい計算です。頑張りましょう。 SPI にも役立ちますので民間就職希望の皆さんも受講してください。 　この講座は算数・数学思考力検定に対応している講座です。		
授業の到達目標	１．問題文から分野を理解すること ２．典型的な解法を応用することができること ３．早く正確に解答を得られること の３を目標にする。		
テキスト（教科書）	公務員講座シリーズ 『一般知能 ワークブック』（ウィネット） 1,400 円 初回ガイダンス時に注文を受け付けます。		
参考書（参考文献）			
受講条件	『履修条件はありません』 数的処理Ⅰ・Ⅱも合わせて受講すると望ましいです。		
準備学習等の内容	講義の中で基本的には理解できますが、完全に身につけるために課題を渡しますから演習をしてください。 空き時間に公務員スタディールーム（D 棟３階）を使って学習してください。		
評価方法	①各講義のチェックテスト ②期末テスト ３：１で評価します。 また、課題については教員から指示をします。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　数と式の基本　方程式の応用 第３回　連立方程式 第４回　不等式 第５回　速度・距離計算① 第６回　速度・距離計算② 第７回　割合・能力 第８回　数の並びと規則 第９回　平面図形 第 10 回　円 第 11 回　面積・角度 第 12 回　立体図形 第 13 回　順列・組み合わせ 第 14 回　特別な順列・組み合わせ 第 15 回　確率		
ナンバリング	CPFM1018		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41830
科目	4183 社会科学基礎	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	社会科学の分野は就職試験、公務員試験を問わず、採用試験の筆記には必ずと言ってよいほど出題されます。一般常識とも言われるこの分野を完成させることで社会人の基礎知識を身につけるとともに、公務員試験を代表とする就職試験を盤石なものにします。 ただ、暗記をするのではなく、なぜ？と言う理由に踏み込んでわかりやすく理解をしていただきます。 また、この講座は理系科目の勉強方法もお話しします。授業計画を参考にしてください。		
授業の到達目標	１．政治経済分野の基礎を理解すること ２．政治経済に関する数字を覚えること ３．政治経済の仕組みを理解すること の３つを目標とします。		
テキスト（教科書）	公務員講座シリーズ 『一般知識　講義編上』（ウィネット） 1,900 円 初回ガイダンスの時に注文を受け付けます。		
参考書（参考文献）			
受講条件	『履修条件はありません』		
準備学習等の内容	講義内で理解で来る内容になっていますが、完全に身につけるためには課題を出しますので演習をしてください。 空き時間に公務員スタディールーム（D 棟３階）を使って学習してください。		
評価方法	①各講義ごとに行うチェックテスト ②期末テスト ３：１の割合で評価します。 課題を提出していただことも考慮に入れます。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　民主政治の成立 第３回　日本国憲法 第４回　基本的人権の尊重 第５回　日本の政治機構（１） 第６回　日本の政治機構（２） 第７回　現代政治の諸問題 第８回　国際政治の現状と課題 第９回　経済社会の仕組みと経済学 第 10 回　国民経済の構造と経済成長 第 11 回　日本経済の現状と諸問題 第 12 回　国際経済と経済協力 第 13 回　倫理・社会 第 14 回　政治分野の重要ポイント 第 15 回　経済分野の重要ポイント		
ナンバリング	CPEM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	41840
科目	4184 知識分野基礎	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この講座では人文科学と呼ばれる分野を学びます。特に歴史に中心を置きます。歴史から地理に知識をつないでいき、世界の地誌がわかるように学びます。 　加えて地学を学ぶことで地球の環境問題を考える基礎を学びます。		
授業の到達目標	１．基本的な歴史の流れが分かること ２．基本的な言葉遣いが身についていること ３．歴史や文化が政治に与えた影響を理解できていること の３つを目標にします。		
テキスト（教科書）	公務員講座シリーズ 『一般知識　講義編（上)』（ウィネット） 1,900 円 初回ガイダンスで注文を受け付けます。		
参考書（参考文献）	公務員講座シリーズ 『一般知識　講義編（下)』（ウィネット） 1,900 円 初回ガイダンスで注文を受け付けます。		
受講条件	『履修条件はありません』 数的処理Ⅰ・Ⅱも合わせて受講すると望ましいです。		
準備学習等の内容	講義の中で基本的には理解できますが、完全に身につけるために課題を渡しますから演習をしてください。 空き時間に公務員スタディールーム（D 棟３階）を使って学習してください。		
評価方法	①各講義のチェックテスト ②期末テスト ３：１で評価します。 また、課題については教員から指示をします。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　原始時代 第３回　古代前期 第４回　平安時代 第５回　鎌倉時代 第６回　室町・安土桃山時代 第７回　江戸時代 第８回　現代 第９回　世界史① 第 10 回　世界史② 第 11 回　世界史③ 第 12 回　地理① 第 13 回　地理② 第 14 回　地学① 第 15 回　地学②		
ナンバリング	CPEM1003		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41870
科目	4187 公務員知能分野応用	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	公務員試験合格の鍵になる知能分野のポイントをおさえます。ポイントを丁寧に解説しながら問題演習も行い、確実に試験に使える知識を身につけます。		
授業の到達目標	知能分野の完成を目指します。どの傾向の問題が出ても正答率が一定であることを目指します。		
テキスト（教科書）			
参考書（参考文献）			
受講条件	公務員試験、もしくはそれに準ずる筆記試験合格を必要とする者		
準備学習等の内容	予習は必要ありません。復習をしてください。時間に空きがあれば公務員総合ゼミナールを受講して実力養成をしてください。時間割に余裕があれば公務員総合ゼミナールも受講してください。		
評価方法	各回に行うテストと定期テスト（１：１５）で評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　速度計算 第３回　仕事算 第４回　濃度計算 第５回　場合の数 第６回　対応関係 第７回　うそつき問題 第８回　集合 第９回　暗号 第 10 回　道順 第 11 回　論理命題 第 12 回　手順 第 13 回　校内模試１回 第 14 回　校内模試２回 第 15 回　校内模試３回 校内模試については実施日を変更する可能性があります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41880
科目	4188 公務員知識分野応用	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	公務員試験知識分野のポイントをおさえます。効率的に知識を身につけることで合格に近づくように講義します。		
授業の到達目標	知識分野の正答率が７割を超えることを目標とします。		
テキスト（教科書）	『一般知識　ワークブック（上・下)』3,000 円 初回ガイダンスで注文を受け付けます。		
参考書（参考文献）			
受講条件	公務員試験を受験しようと考えている学生		
準備学習等の内容	予習は必要ありません。復習をしてください。また､時間割に余裕があれば公務員総合ゼミナールを受講してください。		
評価方法	毎回の小テストと定期テスト（１：３）		
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　社会科学政治分野 第３回　社会科学経済分野 第４回　人文科学歴史分野 第５回　人文科学地理分野 第６回　自然科学　物理 第７回　自然科学　生物 第８回　自然科学　化学 第９回　自然科学　地学 第 10 回　自然科学　数学 第 11 回　社会科学政治分野復習 第 12 回　社会科学経済分野復習 第 13 回　人文科学歴史分野復習 第 14 回　人文科学地理分野復習 第 15 回　知識分野のまとめ		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41890
科目	4189 公務員総合ゼミナール	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	公務員試験合格を目指す講座です。全講座を通じて 800 問の過去問題に触れ理解をすることを目標にしています。得意分野だけに終わらず不得意分野もしっかりと網羅できるような内容になっています。民間就職の筆記試験対策にもなりますので参加してください。		
授業の到達目標	過去問題を合格レベルまで得点できるようにする。		
テキスト（教科書）	公務員総合ゼミナール 『校内模擬試験　全 15 回』 8,000 円 初回で注文を受け付けます。必ず購入してください。		
参考書（参考文献）			
受講条件	真面目にしっかりと勉強に取り組めること。こちらが受講に不向きと判断をした場合にはお断りをすることがあります。		
準備学習等の内容	予習は不要です。必ず復習を行ってください。		
評価方法	毎回行う模擬問題の成績と期末テストで評価を行います。 模擬問題と期末テストと同様の価値で評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンスと入門模擬問題 第２回　入門模擬問題の解説 第３回　模擬問題第２回 第４回　模擬問題第２回の解説 第５回　模擬問題第３回 第６回　模擬問題第３回の解説 第７回　模擬問題第４回 第８回　模擬問題第４回の解説 第９回　模擬問題第５回 第 10 回　模擬問題第５回の解説 第 11 回　模擬問題第６回 第 12 回　模擬問題第６回の解説 第 13 回　模擬問題第７回 第 14 回　模擬問題第７回の解説 第 15 回　模擬問題第８回 第 16 回　模擬問題第８回の解説 第 17 回　模擬問題第９回 第 18 回　模擬問題第９回の解説 第 20 回　模擬問題第 10 回 第 21 回　模擬問題第 10 回解説 第 22 回　模擬問題第 11 回 第 23 回　模擬問題第 11 回解説 第 24 回　模擬問題第 12 回 第 25 回　模擬問題第 12 回解説 第 26 回　模擬問題第 13 回 第 27 回　模擬問題第 13 回解説 第 28 回　模擬問題第 14 回 第 29 回　模擬問題第 14 回解説 第 30 回　模擬問題第 15 回 第 31 回　模擬問題第 15 回解説 ※この講義は２限目３限目の連続実施です。２限目は演習、３限目は講義になります。問題が時間内に解けない場合には昼休みを使って解いてください。３限目には解説を行います。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	41920
科目	4192 ニュース解説	授業種別	週間授業
担当教員	伊藤　圭一	単位数	2
その他担当者			
授業概要	教養分野に占める時事問題の割合は高い。ニュース時事検定のテキストに沿って時事問題について理解をふかめ、教養試験の社会科学分野の基礎固めを行う。		
授業の到達目標	ニュース時事検定２級合格程度の知識を身につける		
テキスト（教科書）	2016 年度版ニュース検定公式問題集１級２級準２級発展編（毎日新聞社）		
参考書（参考文献）	2016 ニュース検定公式テキスト時事力（２級準２級編）毎日新聞社		
受講条件	時事問題について興味のある学生に限る		
準備学習等の内容	予習は必要なし。復習のみ行うこと。時事問題について理解を深め総合的に学習をしたい場合は公務員総合ゼミナールを勧める。		
評価方法	各回の小テストと定期テスト（１：３）		
授業計画	第１回　輸入に頼る資源と食 いのちを守る 第２回　曲がり角の社会保障 第３回　情報社会に生きる 第４回　違いを認め合って 第５回　急速に減る人口 第６回　景気回復への道のり 第７回　どうする日本の借金 第８回　平和への道のりは 第９回　富士山が世界遺産に 第 10 回　安倍内閣③憲法と政治の課題 第 11 回　裁判所の役割と国民 第 12 回　領土と近隣の国々 第 13 回　輸入に頼る資源と食 第 14 回　ストップ温暖化 第 15 回　2020 年五輪 東京で正念場を迎えた国々 時事的な変化によりテーマは変わることがあります。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42010
科目	4201 医療事務Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	医療事務（医事）の内容を大きくとらえ、診療報酬点数の算定について基礎的な技術を身につけることが目標です。更に、『医療事務Ⅱ』で主に学ぶ診療報酬明細書（レセプト）作成への足がかりとします。		
授業の到達目標	保険医療機関・医療保険制度の概要と、診療報酬点数（外来）の基本的な点数の理解を授業の到達目標とする。		
テキスト（教科書）	テキスト:『診療点数早見表 (2016 年４月版)』（医学通信社）		
参考書（参考文献）	プリント等配布		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	毎回の授業につき復習をしっかりすること。		
評価方法	授業への取り組み姿勢 (30%)・小テスト (20%)・定期試験 (50%) によって評価します。		
授業計画	第１回　　ガイダンス、保険請求事務概論 第２回　　点数表の構成について 第３回　　点数算定と演習（初診料） 第４回～５回　　点数算定と演習（再診料） 第６回～９回　　点数算定と演習（投薬料） 第 10 回～ 12 回　点数算定と演習（注射料） 第 13 回～ 15 回　点数算定と演習（医学管理料） 第 16 回～ 18 回　点数算定と演習（処置料） 第 19 回～ 20 回　点数算定と演習（手術料） 第 21 回～ 23 回　点数算定と演習（検査料） 第 24 回～ 26 回　点数算定と演習（画像診断料） 第 27 回～ 28 回　点数算定と演習（精神科専門療法・リハビリ料） 第 29 回　　総合演習（総合問題１） 第 30 回　　総合演習（総合問題２） ※）但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM1009		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42020
科目	4202 医療事務Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	医療事務Ⅰで学習した内容をさらに発展（点数算定→レセプト作成）＋（外来医療→在宅、入院医療）させていきます。医療機関における医療事務の立場と保険請求の重要性を理解しながら、医療秘書技能検定試験（３級）の資格取得も目指します。		
授業の到達目標	診療報酬点数の理解を基本とした「医療事務Ⅰ」から診療報酬明細書（外来・入院）の記載要領についての基本を理解することを授業の到達目標とする。		
テキスト（教科書）	テキスト：医療事務Ⅰからのテキストを使用 （診療点数早見表 2016 年４月版：医学通信社）		
参考書（参考文献）	プリント等配布します。		
受講条件	医療事務Ⅰ単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	・夏休みに「サマースクール」を開講します。出来る限り出席すること。 ・毎回の授業につき復習をしっかりとすること。		
評価方法	授業に対する取り組み姿勢（サマースクール含）(30%)・小テスト (20%)・定期試験 (50%) にて評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス（小テスト実施） 第２回　点数算定（在宅医療料） 第３回　演 習（在宅医療） 第４回　レセプトとは 第５回　レセプト記載要領 第６回　レセプト例題（診察料・投薬料） 第７回　レセプト例題（医学管理料） 第８回　レセプト例題（処置手術料） 第９回　レセプト例題（検査料） 第 10 回 レセプト例題（画像診断料） 第 11 回 レセプト例題（総合演習①） 第 12 回 レセプト例題（総合演習②） 第 13 回 小テスト 第 14 回～ 15 回　入院基本料 第 16 回～ 17 回　入院基本料等加算 第 18 回～ 20 回　入院に伴う基本診療料及び特掲診療料 第 21 回～ 28 回　入院演習問題 第 29 回　入院総合問題１ 第 30 回　入院総合問題２ ※）但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM1020		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42050
科目	4205 医療事務演習	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	医療機関がより質の高い医療サービスを目指す中で、医療事務職員に対してもより多くの医学関連の知識と、正確で迅速な事務処理能力＋サービス提供者としての資質が求められています。本講座では、医療事務職として基本的にマスターしておかなければならない、診療報酬点数算定方法の、より高度な内容（入院医療中心）を実践的に解説します。同時に１年次に学んだ「臨床医学総論」、「医療概論」、「医療保険制度」等の復習も行います。 さらに、医療秘書技能検定試験の上級合格（２級）に対応します。		
授業の到達目標	入院カルテから入院診療報酬明細書の応用的な記載要領が出来ることを授業の到達目標とする。		
テキスト（教科書）	テキスト：『診療点数早見表（2016 年４月版）』（医学通信社）		
参考書（参考文献）	講義毎に関係資料・レジュメ等配布。		
受講条件	医療事務Ⅰ、Ⅱの単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	毎回の授業につき復習をしっかり行うこと。		
評価方法	演習ですから基礎的な知識伝達は極力省き、より実践的な内容で授業は進めます。 従って評価は毎回の授業に対する取り組み姿勢（30%）、小テスト結果（20%）および検定試験結果（50%）にて判定します。		
授業計画	第１回　ガイダンス（本講座の進め方について） 第２回　小テスト（入院例題） 第３回　医療保険制度概略 第４回　診療報酬請求業務概略 第５回　実務演習（入院料中心） 第６回　実務演習（入院医学管理料中心） 第７回　実務演習（入院投薬料中心） 第８回　実務演習（入院注射料中心） 第９回　実務演習（入院処置料中心） 第 10 回　実務演習（入院手術料中心） 第 11 回　実務演習（入院検査料中心） 第 12 回　実務演習（入院画像診断料中心） 第 13 回　実務演習（入院総合中心） 第 14 回　総合実務演習１ 第 15 回　総合実務演習２ ※）但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM2034		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42080
科目	4208 臨床医学総論	授業種別	週間授業
担当教員	宮原　英夫	単位数	2
その他担当者			
授業概要	人体各部の名称、構造、機能を学ぶとともに、疾病の原因、診断法、治療法の概要を学ぶ。		
授業の到達目標	人体構造と機能を学ぶとともに、疾病の原因・診断・治療総論、先天性疾患・外因性疾患の概要についての知識を修得する。		
テキスト（教科書）	診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ⅰ　第７版　基礎・医学編　日本病院会　2014		
参考書（参考文献）	カラーアトラス　体の構造と機能　小板橋喜久代　学研		
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者。 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	受講態度および筆記試験の結果などにより総合的に評価する。		
授業計画	〔人体構造・機能論〕 第１回～第２回　細胞、組織、器官 第３回～第４回　呼吸器、循環器の構造と機能 第５回～第６回　消化器、泌尿器の構造と機能 第７回　上肢、下肢の骨と筋肉 〔臨床医学総論〕 第８回～第９回　病気になる原因、病気の診断、検査所見、治療の方針 第 10 回～第 11 回　先天奇形、変形及び染色体異常 第 12 回～第 14 回　損傷、中毒、その他の外因の影響 １）損傷、２）薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒 ３）薬用を主としない物質の毒作用 第 15 回　人体構造・機能論と臨床医学総論についてのまとめ、復習。 医学データに見られる難字の学習も実施し，レポートを提出させる.		
ナンバリング	CPGM1007		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42090
科目	4209 医療保険制度	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	少子高齢化・医療技術の進歩・国民の価値観の変化・保険財源の悪化等により、日本の医療（保険）制度は改革が行われています。 社会保障と税の一体改革でも、産科医療・小児医療・救急医療・後期高齢者医療の問題をはじめとして様々な改革が予定されています。本講座では現状の基本制度の把握を中心に、今後の制度改革の方向性も展望します。又、本講座は「医療秘書技能検定試験」対策にも対応します。		
授業の到達目標	医療事務員としての最低限の医療保険に関する基礎知識を習得する。		
テキスト（教科書）	テキスト：『医療関連法規』（ 建帛社 ）		
参考書（参考文献）	なし		
受講条件	医療事務Ｉと同時履修が望ましい。		
準備学習等の内容	日々の新聞（何新聞でもよい）に目を通す習慣をつけてください。医療に関わる記事が無い日は殆どありません。またインターネット上にもたくさんの情報があります。まずは厚生労働省の報道発表資料から現在の医療（保険）制度の方向性を掴んでみてください。		
評価方法	受講態度４割、試験６割により評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス（保険とは？） 第２回　医療保険制度体系 第３回　保険者と被保険者 第４回　医療保険の種類 第５回　保険給付 第６回　給付率と患者負担 第７回　保険以外の負担と入院時の生活の費用 第８回　資格喪失・退職後の医療保険 第９回　高齢者の医療の確保に関する法律 第 10 回　後期高齢者医療制度 第 11 回　特定健診・特定保健指導 第 12 回　公費負担医療 第 13 回　労災保険 第 14 回　交通事故と自動車保険 第 15 回　制度の要点の復習 ※第１回目のガイダンスを正当な理由無く欠席した場合には受講を認めない。履修変更等の事情により欠席した場合は教員に申し出ること。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。		
ナンバリング	CPFM1010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42110
科目	4211 医療法規	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	医療行為は様々な法律の規定を受けます。それは「人の命を預かる」という極めて崇高な使命に基づくからに他なりません。昨今「医療事故」「医療ミス」が日常茶飯事のように新聞等を賑わわせていますが、私達はその使命の重大さに今一度立ち返り、医療人としての自覚を考え直さなければなりません。本講座では基本的な「医療法」「健康保険法」を中心に医療現場で日常的に起こる法律問題の事例を学びます。 医療機関では患者さんの秘密を扱うわけですが、一般企業でも顧客情報という秘密を取り扱う機会がたくさんあります。それらを守るための「個人情報保護法」についても学び、社会人としての常識も身につけます。また本講座は「医療秘書技能検定試験」対策にも対応します。		
授業の到達目標	医療事務員としての最低限の医療関連法規の基礎知識を習得する。		
テキスト（教科書）	テキスト：『医療関連法規』（建帛社）		
参考書（参考文献）	厚生労働省法令検索データベース（http://wwwhourei.mhlw.go.jp/hourei/index.html）		
受講条件	なし		
準備学習等の内容	日々の新聞（何新聞でもよい）に目を通す習慣をつけてください。殊に最近は医療過誤や診療報酬の不正請求などの記事が多いので、果たして何が問題なのかを講義を通じて自分なりに考察するようにしましょう。		
評価方法	受講態度４割、定期試験６割により評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス（医療機関と法律） 第２回　医療事務と法規（総論） 第３回　医療法１（総論） 第４回　医療法２（人員基準等） 第５回　医療保険に関する法規（総論） 第６回　健康保険法１（目的・法の概要） 第７回　健康保険法２（給付の内容） 第８回　健康保険法３（患者負担等） 第９回　高齢者医療確保法（後期高齢者医療保険関係） 第 10 回　診療報酬に関する法規 第 11 回　療養担当規則 第 12 回　介護保険法 第 13 回　その他の医事関連法規 第 14 回　個人情報保護法 第 15 回　医療関連法規の要点の復習 ※第１回目のガイダンスを正当な理由無く欠席した場合には受講を認めない。履修変更等の事情により欠席した場合は教員に申し出ること。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。		
ナンバリング	CPGM2010		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42130
科目	4213 医療事務コンピュータ	授業種別	週間授業
担当教員	近藤　朋胤	単位数	1
その他担当者			
授業概要	全国の医療機関の 90% 以上が医療事務コンピュータを活用しており、実際の保険請求業務では手書きレセプトを作成することは殆どありません。 それは医療事務職員にとって医事コンピュータを使いこなす事が、非常に重要なスキルであることを物語っています。 本講座は、医療事務の講義で学んだことを基礎に医事コンピュータの基本動作及びレセプトデータ入力の基本編・応用編、更にレセプトの出力に至る一連の作業をマスターし、医療事務職としての現場感覚を養っていきます。		
授業の到達目標	医療機関の医事課職員として働くために、以下の基本スキルを目指します。 ・受付時の患者情報登録（保険証の種類や本人／家族の区別等） ・医師のカルテをもとにした診療内容入力（点数表の診療区分に基づき入力練習します） ・会計に必要な領収書及び明細書の印刷 ・レセプトの印刷 なお、医療事務コンピュータのメーカーによって操作方法は若干違いますが、基本をマスターする事によって慌てずに対応出来る力も目指します。		
テキスト（教科書）	毎回講義レジュメを配布します。 レジュメを綴じるバインダー等の用意をお願いします。		
参考書（参考文献）	『診療点数早見表（医学通信社）』 （講義に必須ではありません。講義内容の確認のために使用してください）		
受講条件	医療事務Ⅰ・Ⅱの履修者のみ		
準備学習等の内容	コンピュータ操作の基礎知識、医療事務及び医学の基礎知識があることを前提で講義を進めます。 医療事務に関連する講義で学習したことをしっかりと復習しておいてください。		
評価方法	実技習得が基本的なスタイルとなります。 受講態度４割、講義中の到達度及び理解度４割、実技試験２割で評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンスと基本操作１ （ソフトの起動・終了、医療保険・公費負担医療のおさらい） 第２回　基本操作２ （基本操作のおさらい、患者情報入力、一般保険・公費負担医療、医療機関の IT 化の歴史・医療機関の業務フロー） 第３回　レセプトデータ入力基本編（基本診療料、医学管理料） 第４回　レセプトデータ入力基本編（在宅医療料） 第５回　レセプトデータ入力基本編（投薬料） 第６回　レセプトデータ入力基本編（注射料） 第７回　レセプトデータ入力基本編（処置料、手術料） 第８回　レセプトデータ入力基本編（検査料） 第９回　レセプトデータ入力基本編（画像診断料） 第 10 回 レセプトデータ入力基本編（その他料、病名入力） 第 11 回 レセプトデータ入力応用編（カルテ入力①、レセプト出力） 第 12 回 レセプトデータ入力応用編（カルテ入力②） 第 13 回 レセプトデータ入力応用編（カルテ入力③） 第 14 回 医療事務コンピュータと電子カルテの関係・カルテの記載ルール 他のメーカーのコンピュータ操作①（ORCA の基本操作） 第 15 回 他のメーカーのコンピュータ操作②（ORCA の基本操作） ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。		
ナンバリング	CPFM2035		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42140
科目	4214 電子カルテ演習	授業種別	週間授業
担当教員	近藤　朋胤	単位数	1
その他担当者			
授業概要	医療機関ではワープロや表計算ソフトなどのビジネスソフトを用いて仕事をしているが、一般の者が普段の生活で使用することがないソフトも使用している。 医療機関における IT 化の象徴的なものとして電子カルテの存在が挙げられ、最近は電子カルテを採用する医療機関も増えて来ている。 電子カルテはデータの解析などで便利な反面、多くの患者を診る医師にとっては、入力に気を取られてしまうことも多く、そのため診療報酬上でも「医師事務作業補助」に対して評価がされている。 本講義では医師の補助者としての医療事務従事者となるために、SOAP というカルテの書き方や医療機関の IT 化の歴史を学び、医師の指示によって正確なカルテを記載できる人材を育成することを目標とする。		
授業の到達目標	医療機関に普及しつつある電子カルテの操作の基本を学び、医師の指示や医学用語などが理解出来る医療事務員を目指すとともに、講義の中で電子カルテと同時に使用する ORCA（医療事務コンピュータ）の検定合格を目指します。		
テキスト（教科書）	毎回講義レジュメを配布します。 レジュメを綴じるバインダー等の準備をお願いします。 検定受検のために「日医標準レセプトソフト（ORCA）基本操作説明書＜外来版＞」を使用します。		
参考書（参考文献）	『診療点数早見表（医学通信社）』 （講義で必須ではありません。講義内容の確認のために使用してください）		
受講条件	以下の単位取得者 ・医療事務Ⅰ・Ⅱ ・情報処理演習Ⅰ・Ⅱ		
準備学習等の内容	コンピュータ操作の基礎知識、医療事務及び医学の基礎知識があることを前提で講義を進めます。 関連する講義で学習したことをしっかりと復習しておいてください。		
評価方法	実技習得が基本的なスタイルとなります。 受講態度４割、講義中の到達度及び理解度４割、実技試験２割で評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス・電子カルテシステムとは？ 第２回　ORCA（医事コンピュータ）の基本操作① 第３回　ORCA（医事コンピュータ）の基本操作② 第４回　ORCA（医事コンピュータ）の基本操作③ 第５回　REMORA（電子カルテ）の基本操作① 電子カルテの定義と法的要件、電子カルテ関連システム 第６回　REMORA（電子カルテ）の基本操作② 医師事務作業補助とは 第７回　REMORA（電子カルテ）の基本操作③ 医療情報システムの概要とセキュリティ対策 第８回　ORCA の応用操作① 第９回　ORCA の応用操作② 第 10 回　REMORA の応用操作① シェーマの入力 第 11 回　REMORA の応用操作② 各種文書（診断書・紹介状）の入力 第 12 回　検定試験に向けた実践操作練習① 第 13 回　検定試験に向けた実践操作練習② 第 14 回　検定試験に向けた実践操作練習③ 第 15 回　検定試験に向けた実践操作練習④		
ナンバリング	CPFM2041		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42150
科目	4215 介護事務概論	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	介護保険のしくみから提供される介護サービスの内容まで、介護保険制度の基礎知識を学ぶことが本講座の獲得目標です。 介護は医療と違い学生の皆さんにはまだ身近に感じられないものですが、スライド等を使いイメージを膨らませていきます。 介護保険の基礎を学んだら、日本の社会保障制度の成り立ちと将来像を考えてみます。 その中で、受講生の皆さんと今後の日本の社会保障制度の在り方についてもいっしょに考えたいと思います。 医療と介護は別物と思われがちですが、実際の医療機関では介護保険のサービスを行い、その請求業務を行っているところはたくさんあります。 皆さんにとって介護は身近な物ではありませんが、この機会に介護保険とはどういうものなのか触れてみてください。		
授業の到達目標	介護保険の基本的な概要を知り、日本の社会保障制度の未来像を考えることを目標とします。 医療事務を目指している人にとっても介護事務の知識は重要ですので、一回り大きな医療事務員を目指します。		
テキスト（教科書）	教科書は使用しませんが、毎回講義レジュメを配布します。		
参考書（参考文献）	介護報酬早見表平成 15 年４月版：医学通信社		
受講条件	医療事務関連の講義履修者が望ましい		
準備学習等の内容	日々の新聞（何新聞でもよい）に目を通す習慣をつけてください。介護は個人の生活の中でも身近な問題です。今介護の現場ではどのような問題があり、どのような取り組みをしているのかを考察しましょう。		
評価方法	受講態度３割、レポート２割、定期試験５割により評価します。		
授業計画	第１回　ガイダンス（高齢社会の現況） 第２回　介護保険制度の概要１（制度の概略） 第３回　介護保険制度の概要２（制定の背景・問題点・要介護認定の流れ） 第４回　医療保険と介護保険との違いと介護サービスの種類と概要 第５回　介護報酬のしくみ 第６回　介護給付費明細書記載の要点と記載要領 第７回　単位数・負担金の計算方法、介護保険請求事務実技１ 第８回　介護保険請求事務実技２ 第９回　介護保険請求事務実技３ 第 10 回　介護保険請求事務実技４ 第 11 回　日本の社会保障制度の成り立ち 第 12 回　日本の社会保障制度の基本 第 13 回　日本の社会保障制度の問題点及び課題提起 第 14 回　グループディスカッション 第 15 回　制度とレセプト記載の要点の復習 ※第１回目のガイダンスを正当な理由無く欠席した場合には受講を認めない。履修変更等の事情により欠席した場合は教員に申し出ること。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。		
ナンバリング	CPFM1022		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42200
科目	4220 医療事務特講Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本講座は、２つの目標を持ちます。 １つは「医療秘書技能検定試験」の「３級資格取得」を目指して、医学知識、医療保険制度、診療報酬点数等の基礎を復習すると同時に、検定試験対策に取り組みます。 ２つは、病院管理学の基礎として、医事統計指標を作成するに当たって基礎となる項目を学びます。		
授業の到達目標	医療事務としての基本的な知識（診療報酬点数に関する）の習得と「医療秘書技能検定試験３級」の合格を目指す。		
テキスト（教科書）	テキスト：医療事務Ⅰからのテキストを使用 （診療点数早見表 2016 年４月版：医学通信社）		
参考書（参考文献）	講義毎回プリント、資料等配布します。		
受講条件	医療事務Ⅰ単位修得済み、および医療事務Ⅱを同時履修している事。		
準備学習等の内容	毎回の授業に対して「復習」をしっかりしておくこと。		
評価方法	授業に対する取り組み姿勢（30%）・小テスト結果（20%）・検定試験結果（50%）にて評価します。		
授業計画	第１回　　ガイダンス（小テスト） 第２回～９回　医療秘書技能検定試験対策（演習中心） 第 10 回　　病院管理学基礎編１（病院管理とは） 第 11 回　　病院管理学基礎編２（組織管理） 第 12 回　　病院管理学基礎編３（人事管理） 第 13 回　　病院管理学基礎編４（物品管理） 第 14 回　　病院管理学基礎編５（財務管理） 第 15 回　　病院管理学総論 ※）但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM1021		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42210
科目	4221 医療事務特講Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	本講座は、２つの目標を持ちます。 １つは「医療秘書技能検定試験」の「準１級資格取得」を目指して、医学知識、医療保険制度、診療報酬点数等を復習すると同時に、より高度な領域を学び検定試験対策に取り組みます。 ２つは､病院管理学における､医療事務職が果たすべき「病院運営管理指標」について学びます。		
授業の到達目標	医療事務としてのより専門的な知識（診療報酬点数に関する）の習得と､「医療秘書技能検定試験」の上級合格（準１級）を目指す。		
テキスト（教科書）	診療点数早見表 2016 年４月版：医学通信社		
参考書（参考文献）	毎回講義の際にプリント、資料等配布します。		
受講条件	医療事務Ⅰ、Ⅱ及び医療事務演習の単位修得済みであること。		
準備学習等の内容	毎回講義の際の「復習」をしっかり行うこと。		
評価方法	授業に対する取り組み姿勢（30%）・演習問題達成率（20%）・検定試験結果（50%）にて評価します。		
授業計画	第１回　　ガイダンス（小テスト） 第２回～９回　医療秘書技能検定試験対策（演習問題中心） 第 10 回　　病院管理学「管理運営編１」（運営手法） 第 11 回　　病院管理学「管理運営編２」（経営管理） 第 12 回　　病院管理学「管理運営編３」（複合体形成について） 第 13 回　　交通事故の保険について 第 14 回　　労災保険制度について 第 15 回　　これからの医療展望と病院経営 ※）但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM2040		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42220
科目	4222 医療概論	授業種別	週間授業
担当教員	宮原　英夫	単位数	2
その他担当者			
授業概要	現代の医療は医師や看護師だけでなく、多くの職種の人たちによって支えられている。それは医療が複雑化し高度化したという理由ばかりではない。医療に対する要求は、単に病気を治すだけではなく、社会の中で生きがいを持って生活を送れるようにして欲しいと広がってきている。 様々な職種の人たちが働く医療の現場では、互いの意思の疎通がスムースに行われることが必要であるが、そのためには関係者が医学・医療に対する一通りの基礎知識を備えていることが望ましい。この科目では、医療事務職を目指す学生に対して、病気とは、今日の医学・医療がどのように発展してきたのか、医療関係者が守るべきことはなにか、日本の医療制度などの概要を紹介し、今後の学習の基礎として役立ててもらうことを目標とする。 同時に、普段聞きなれない医学用語に慣れ、正しく読んだり、書いたりできるように練習を重ねる。		
授業の到達目標	１．　医学の歴史を知り、現在の医学がどのように発展してきたかを理解する。 ２．　我が国の現在の医療状況を学び、今どんなことが問題となっているかを理解する。		
テキスト（教科書）	テキスト：『診療情報管理Ｉ　基礎・医学編』第７版、日本病院会　2014		
参考書（参考文献）	柳沢信夫：　現代医学概論　医歯薬出版　2012 千代豪昭ほか：　学生のための医療概論　第３版　増補版　医学書院　2012 医療概論や医学の歴史に関する参考書は、上記以外にも図書館に多数用意されている。		
受講条件	特に医療分野の予備知識を必要としないが、今後の関連分野の学習の基礎を作るために、できるだけの知識を習得しておきたいという意欲が必要である。		
準備学習等の内容	原則として毎回宿題を出し、次回にレポートを提出させる。		
評価方法	提出レポート，期末試験等により評価。		
授業計画	第１回　ガイダンスー医学と医療 第２回　健康とは？ー健康に対する個人と社会の責任 第３回　医学の歴史① 第４回　医学の歴史② 第５回　医学の歴史③ 第６回　医療概論①　医の倫理 第７回　医療概論②　社会保障制度 第８回　医療概論③　医療制度 第９回　医療概論④　予防医学 第 10-15 回　医療に関するトピックス		
ナンバリング	CPGM1001		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42230
科目	4223 歯科・調剤事務	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者	澤田　恵子、佐藤　ルミコ		
授業概要	【歯科】歯科医療事務・歯科助手として必要な基礎知識を習得する。 【調剤】調剤薬局で多忙な薬剤師をサポートし、受付や会計、レセプトの作業業務等の調剤報酬請求事務を習得する。		
授業の到達目標	【歯科】口腔内などの基礎知識を学ぶ 【調剤】医薬分業で時代が求める調剤薬局事務のスペシャリスト『調剤事務管理士』を目指す。		
テキスト（教科書）	【歯科】歯科テキスト２，診療報酬の算定、テキスト５，歯科助手の基本知識 【調剤】調剤テキスト２，算定とレセプト、サポートブック		
参考書（参考文献）	特になし。		
受講条件	医療事務Ⅰ及びⅡの単位取得者。		
準備学習等の内容	授業計画にそって復習をすること（授業欠席をした場合は自己学習をすること）		
評価方法	１．授業への取り組み姿勢（40%） ２．最終講義にて試験実施（60%）		
授業計画	第１回　歯科の知識・初診料・再診料・指導料 第２回　処置及び手術の算定の原則 第３回　う蝕症・歯周病・補綴 第４回　保険調剤のしくみ、処方箋、調剤基本料 第５回　調剤（１） 第６回　調剤（２） 第７回　薬剤料 第８回　調剤及び薬剤料の算定 第９回　薬学管理料・特定保険医療材料 第 10 回　調剤報酬算定と調剤録の記載 第 11 回　レセプトの記載方法 第 12 回　練習問題による点数算定とレセプトの作成（１） 第 13 回　練習問題による点数算定とレセプトの作成（２） 第 14 回　試験対策の総復習 第 15 回　試験対策の総復習 ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPGM2023		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42290
科目	4229 医療事務実習	授業種別	集中講義
担当教員	長谷川　正志	単位数	1
その他担当者			
授業概要	医療事務を学ぶ学生に、実際の医療現場での仕事を経験することにより、自らの学びに対する新たな課題や、将来の就職に対する動機付けとする。		
授業の到達目標	実習に参加（原則すべて参加）し、病院内で働く事務職員の動向及び他職種との関連を認識すること。		
テキスト（教科書）	特になし。		
参考書（参考文献）	特になし。		
受講条件	医療事務ⅠおよびⅡの履修者で、医療事務Ⅰに関しては単位取得者であること。 定員 25 名までとします。		
準備学習等の内容	実習病院に事前訪問して詳細の打ち合わせを行います。		
評価方法	・実習期間は休まないこと。 ・実習レポートを提出すること。その内容で判定します。		
授業計画	下記の各病院様で春期・夏期に５日間の実習を行います。 ・豊橋市民病院 ・光生会病院 ・赤岩病院 ・蒲郡東部病院 ・国府病院 ・浜松医療センター ・豊川市民病院　等		
ナンバリング	CPBM1005		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42340
科目	4234 手話入門	授業種別	週間授業
担当教員	浅倉　君枝	単位数	2
その他担当者	平松　靖一郎		
授業概要	手話を学ぶことで、表現力が豊かになります。手話を学ぶことで、人と通じ合う喜びを感じます。手話は言語です。語学を学ぶことと同じです。手話を学ぶことは、ろう文化を学ぶことでもあります。 この講義では、聴覚障害者、聴覚障害者の生活および関連する福祉制度等についての理解と認識を深めるとともに、手話で日常会話を行うのに必要な手話語彙及び手話表現技術を修得する。		
授業の到達目標	厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム入門課程対応 １．聴覚障害の基礎知識 耳の仕組みや聴覚障害の原因を理解するとともに、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解する。 ２．手話の基礎知識 日本の手話の歴史及び特徴を理解する。 ３．聴覚障害者の生活 聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解する。 ４．表現基礎学習 手話習得に必要な観る力や表す力等基礎表現能力を習得する。また、コミュニケーション意欲を高める。 ５．手話による表現（自己表現） 簡単な手話表現ができる技術を習得する。 ６．手話による表現（対話の基礎練習） 会話に必要な疑問の表現・読み取り等対話の基礎技術を習得する。 ７．手話による表現（会話練習） 習得した手話語彙や手話表現技術を使っての会話を練習する。 聴覚障害者の生活場面における課題を理解し、必要な手話語彙を習得する。		
テキスト（教科書）	手話を学ぼう　手話で話そう 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム入門課程・基礎課程対応（全日本ろうあ連盟発行） ISBN978-4-902158-39-7 C0037		
参考書（参考文献）	必要に応じて講義の中で適宜紹介します。		
受講条件	手話の習得に必要な「観る力」「表現する力」を養うためには、自ら表現するとともに、相手の手話を観る姿勢が求められます。受講に際しては、積極的に表現する姿勢で受講できることを条件とします。 受講者数が 40 名を越える場合は、原則として受講者を抽選にて決定させていただきます。		
準備学習等の内容	前回学習した手話単語や手話表現について、友人同士で確認し合うなどして相手に伝わる表現が出来ているのか、復習することを期待します。一人で自習する場合は、鏡などを前にして表現を確認するとよい。		
評価方法	受講態度やレポート提出（50%）、試験の点数（50%）を総合的に評価します。 試験については､筆記試験（読み取り及び聞き取り表現試験を含む）を実施します。試験の内容は､以下の通りです。 ●日常会話を行うのに必要な手話語彙及び手話表現技術が身についているか ●聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解できているか		
授業計画	皆さんの積極的な参加で、授業を楽しく進めていきたいと考えています。 第１回　テキスト第１・第２講座　つたえあってみましょう 開講にあたり「手話教室」の目的／基礎表現能力を習得する 第２回　テキスト第３講座　自己紹介をしましょう① 名前を紹介しましょう／ビデオ「私の大切な家族」 第３回　テキスト第４講座　自己紹介をしましょう② 家族を紹介しましょう 講義：「手話とは」 第４回　テキスト第５講座　自己紹介をしましょう③ 数字を使って話しましょう 講義：「聴覚障害とは」 第５回　テキスト第６講座　自己紹介をしましょう④ 趣味について話しましょう 講義：「聴覚障害者とのコミュニケーション方法」 第６回　テキスト第７講座　自己紹介をしましょう⑤ 仕事について話しましょう 講義：「聾者の就労」 第７回　テキスト第８講座　自己紹介をしましょう⑥ 住所を紹介しましょう 講義：「ろう者の子育てと教育問題」 第８回　テキスト第 10 講座　話してみましょう① １日のことを話しましょう 講義：「ろう運動（手話通訳制度と情報保障）」 第９回　テキスト第 11 講座　話してみましょう② １ヶ月のことを話しましょう 講義：「ろう運動（全日本ろうあ連盟のあゆみ）」 第 10 回　テキスト第 12 講座　話してみましょう③ １年のことを話し合いましょう 講義：「聴覚障害者への福祉施策（差別解消法と手話言語条例）」 第 11 回　テキスト第 13 講座　話してみましょう④ パーティーのことを話し合いましょう 講義：「災害時における聴覚障害者支援のあり方その１」 第 12 回　テキスト第 14 講座　話してみましょう⑤ 旅行のことを話し合いましょう 講義：「災害時における聴覚障害者支援のあり方その２」 第 13 回　テキスト第 15 講座　話してみましょう⑥ 病院のことを話しましょう 第 14 回　テキスト第 16 講座・第 17 講座　話してみましょう⑦ 学校のことを話しましょう 職場のことを話しましょう 第 15 回　テキスト第 18 講座　話してみましょう⑧ 聾者の話を見て、話し合いましょう。（聾者との交流） ※学習効果を高めるため、適宜、ビデオ教材を使用します。 ※授業の進行状況及び受講生の理解度によっては、講義計画の変更又は追加補講を実施することがあります。その場合は、その都度お知らせします。 ※健聴講師　・・・　平松靖一郎（手話通訳士）		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42500
科目	4250 食生活アドバイザー	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者	西山　千穂子、井上　健太郎、熊崎　稔子		
授業概要	食を通して「生活そのもの」を提案し、適切な指導や助言をする食生活のスペシャリストを認定する資格の「食生活アドバイザー」３級を取得するため、栄養と健康･文化と食習慣･食品学･衛生管理・食マーケット・社会生活の６つの分野から解説する。		
授業の到達目標	①各単元の重要ポイントをまとめることができる。 ②各単元ごとに自ら予習と復習を行い、正しく理解することができる。 ③練習問題や模擬試験で冷静さと迅速さを培う。		
テキスト（教科書）	「食生活アドバイザー　３級公式テキスト」日本能力協会マネジメントセンター ISBN-13: 978-4820747598		
参考書（参考文献）	「３ステップで最短合格！食生活アドバイザー検定３級テキスト＆模擬問題」村井　美月　秀和システム		
受講条件	資格取得を目指す者		
準備学習等の内容	練習問題集や公式 HP の検定模擬問題等に取り組み、各自で模擬試験に慣れておく。		
評価方法	各分野ごとの練習問題（小テスト）と受講意欲（40%）と模擬試験（60%）を総合して評価とする。		
授業計画	【　各回もしくは各単元で小テストを実施する　】 １・２回　ガイダンス、 栄養と健康に関する基礎知識 ①栄養と栄養素～⑧運動と休養 ３～５回　食品学に関する基礎知識 ①食品の種類と役割～⑥有機農産物・特別農産物と遺伝子組換え表示 ６・７回　衛生管理に関する基礎知識 ①食中毒の種類と原因～⑧食品の安全と感染 ８・９回　食マーケットに関する基礎知識 ①消費者の意識と食マーケットの変化～ ⑥小売りシステムの変化 10 回　社会生活に関する基礎知識 ①暮らしと経済～⑤食品の安全と法律 11 ～ 13 回（土曜日　補講日） 食文化と食習慣に関する基礎知識 ①行事と料理～⑪食べ物にまつわる言葉 14 回　社会生活に関する基礎知識 ⑦暮らしと IT 社会　⑧日本の食料自給率 試験出題傾向分析と解答の際の注意事項等 15 回　模擬試験 16 回　模擬試験解説　合格に向けての重点ポイント総括最終確認 ただし、受講生の習熟度により進行に変更が生じる場合がある		
ナンバリング	CPFM1011		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42510
科目	4251 食文化概論	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	・　日本をはじめ世界各国にはそれぞれの食文化があり、それらは風土や歴史の中で生まれ、時代と共に変化し、今に受け継がれている。しかし、昨今は伝統色や地域性、そして季節感が薄れ、心が満たされない食べ物も多く見受けられる。ここでは、さまざまな食文化の現状と多様化してきた歴史的環境的背景等を理解し、食事と人々のつながりについて考える力をつける。 ・　郷土料理や各国の代表する料理を画像を通して確認する。 ・　この科目は調理師及びフードコーディネーター取得の必須科目でもあるため、伝統の味や心を次世代にしっかり引き継ぐ食文化の継承者として知識を修得する。		
授業の到達目標	・世界における食の伝播から食環境の現状を理解し問題点を考える。 ・日本の食文化の変遷をたどることで現在を見つめ、日本料理の特徴を理解する。 ・世界の料理の歴史とそれぞれの関わりと特徴を理解する。		
テキスト（教科書）	・調理師養成教育全書「調理理論と食文化概論」 全国調理師養成施設協会 ・調理師養成教育全書 「必携問題集」 全国調理師養成施設協会 ・「食育インストラクター教本」　全国調理師養成施設協会 ・フードコーディネーター取得予定者必携 「フードコーディネーター教本」 日本フードコーディネーター協会編　柴田書店 ISBN:978-4-388-15321-3		
参考書（参考文献）	食文化に関する新聞記事や書籍		
受講条件	調理師コース必修 職業意識や向上心を持って受講する		
準備学習等の内容	・伝統的な行事に関わる食事について、自分の経験を思い出したり、家族に聞いたりしてみる。 ・新聞等に掲載される国内外の食料や伝統食などの情報に関心を待つ。		
評価方法	試験とレポート（80%） 受講意欲（20%）の総合評価		
授業計画	１回　ガイダンス　授業の進め方 調理師制度の歴史と食生活、食文化に果たす役割と期待 「食文化を伝承する」とは何かについて考える ２回　食文化の成り立ち ３回　多様な食文化 ４回　食文化の共通化と国際化：食の伝播と変容 ５回　食文化の共通化と国際化：食生活の変容と食文化の創造 ６回　日本の食文化史：原始、古代、中世 ７回　日本の食文化史：近世、近代、現代 ８回　日本料理の食文化 ９回　行事食と郷土料理 10 回　現代の食生活と未来の食文化：食文化の現状 11 回　現代の食生活と未来の食文化：食文化の未来 12 回　西洋料理の食文化：変遷、特徴、様式 13 回　西洋料理の食文化：食事作法、 中国料理の食文化：変遷、 14 回　中国料理の食文化：特徴、様式、食事作法 15 回　その他の国の料理の食文化 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPFM1013		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42511
科目	4251 食文化概論	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	・日本をはじめ世界各国にはそれぞれの食文化があり、それらは風土や歴史の中で生まれ、時代と共に変化し、今に受け継がれている。しかし、昨今は伝統色や地域性、そして季節感が薄れ、心が満たされない食べ物も多く見受けられる。ここでは、さまざまな食文化の現状と多様化してきた歴史的環境的背景等を理解し、食事と人々のつながりについて考える力をつける。 ・郷土料理や各国の代表する料理を画像を通して確認する。		
授業の到達目標	・世界における食の伝播から食環境の現状を理解し問題点を考える。 ・日本の食文化の変遷をたどることで現在を見つめ、日本料理の特徴を理解する。 ・中国と西洋の料理の歴史とそれぞれの関わりと特徴を理解する。		
テキスト（教科書）	・プリント配布 ・フードコーディネーター取得予定者は必携 「フードコーディネーター教本」 日本フードコーディネーター協会編　柴田書店 ISBN:978-4-388-15321-3		
参考書（参考文献）	食文化に関する新聞記事や書籍 特に指定はない		
受講条件	フードコーディネーター取得予定者は必修		
準備学習等の内容	・伝統的な行事に関わる食事について、自分の経験を思い出したり、家族に聞いたりしてみる。 ・新聞等に掲載される国内外の食料や伝統食などの情報に関心を待つ。		
評価方法	試験とレポート（80%） 受講意欲（20%）の総合評価		
授業計画	１回　日本料理の歴史 ２回　日本料理の種類 ３回　〃 ４回　日本料理の献立を立てる際の注意点 ５回　暦と旬 ６回　慶事と仏事 ７回　行事食と郷土料理 ８回　和菓子の歴史 ９回　中国料理の歴史 10 回　中国料理の特徴 11 回　中国料理の献立の立て方 12 回　西洋料理の歴史　古代～ 17 世紀 13 回　〃　18 世紀～現代　日本における西洋料理 14 回　洋菓子の歴史・パンの歴史 菓子・デザート 15 回　その他の国の料理 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42520
科目	4252 お菓子専科	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	お菓子作りの基礎を中心に、講義を交えながら実習を行っていく。 お菓子作りの魅力は、材料を変化させ様々な食感や味を生み出していく工程にある。 本科目では、手軽に作れる洋菓子を中心に実習を進め、他に季節にあった和菓子・中華菓子なども取り入れながら、幅広い分野の実習を展開していく。		
授業の到達目標	１．材料の正しい計量方法や、器具の使い方を把握する能力を高める。 ２．各工程の目的と仕上がりをイメージして、作業手順を把握する力を身に付ける。 ３．グループワークを通して、コミュニケーション能力を養成する。 ４．和・洋・中それぞれのお菓子に用いる材料の違いについての知識を習得する。		
テキスト（教科書）	実習時にプリントを配布する。		
参考書（参考文献）	特になし。		
受講条件	特になし。		
準備学習等の内容	適宜、指示する。		
評価方法	受講意欲および態度（40%）・期末筆記試験（60%）を総合的に判断し評価する。		
授業計画	第１回　　調理室の使い方・班決め・ガイダンス 第２回　　和菓子・中華菓子・洋菓子についての基礎理論 第３・４回 和菓子実習（米粉使用） 第５回　　中華菓子実習（杏仁パウダー使用） 第６・７回 洋菓子実習（型抜きクッキー・他） 第８・９回 洋菓子実習（搾り出しクッキー・他） 第 10 回　　中華菓子実習（マンゴー使用） 第 11・12 回 洋菓子実習（別立てスポンジとその応用） 第 13・14 回 洋菓子実習（共立てスポンジとその応用） 第 15 回　和菓子実習（寒天使用）・ファイル整理 ただし、受講学生の習熟度・実習材料等の都合により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42530
科目	4253 フードマネジメント	授業種別	週間授業
担当教員	鬼頭　寿夫	単位数	2
その他担当者			
授業概要	ビジネスセンスを要求される分野が、フードマネジメントである。フード・ビジネスの最前線で活躍するためには、食品市場のマクロ視点から具体的な販売促進活動までをトータルに把握して開業のための基礎知識及マーケティングから経営、財務、採算分析、予算といった経営のバランスをとり事業をすすめるための展開を身につける事を目標にします。		
授業の到達目標	・食関連事業経営実務の知識習得。 ・開業計画・店舗運営に関わる知識修得。 ・フードコーディネーターの専門分野スキルアップ。		
テキスト（教科書）	テキスト:新版『フードコーディネーター教本』(日本フードコーディネーター協会　㈱柴田書店) 本体 3,000 円＋税		
参考書（参考文献）	・給食経営管理論（第２版） ・プレジレント ・ビジネスフレームワーク		
受講条件			
準備学習等の内容	経済・経営【経済的概念と食関連事業経営実務】 第 10 章、第 11 章、第 12 章参照、準備学習 受講のための準備は「フードコーディネーター教本」の予習をすること。		
評価方法	授業態度、授業時間内に行うレポートの提出によって総合的に評価します。 授業の内容を参考に現在のフードビジネス業界を把握し将来のライフスタイルを望みます。		
授業計画	第１回　ガイダンス　建学の精神、 教育理念、経営理念 第２回　達成目標、企画・立案のコツ１、フードサービス産業の歴史と文化 第３回　経営の基礎知識、収支売上げ表の作成 第４回　業態開発の考え方、フードコーディネーターの役割 第５回　出店計画の立案・計画、店舗イメージ 第６回　経営戦略、開店業務に関わる業務内容 第７回　販促マーケティングの攻略、人材教育、キャリアアンカー 第８回　基本戦略～開業迄の流れ 第９回　フードビジネスのフレームワーク、５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・躾） 第 10 回　食品流通とメニュー構成 第 11 回　メニュープランニングと問題解決 第 12 回　フードマネメント１のＰ・Ｄ・Ｃ・Ａ 第 13 回　食の企画、イベントの開催、フードマネジメント２ 第 14 回　企画・立案のコツ２ 第 15 回　企画書の基本構成、フードマネジメント３ 第 16 回　試験日		
ナンバリング	CPFM1023		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42540
科目	4254 基礎調理	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目はフードコーディネーター取得者の必須科目であるが、取得予定者でなくても受講はできます。 食のあらゆる分野で活躍する場合、調理の基本を理解して、それに独自性を重ねて応用できるまで研鑽することが必要である。調理そのものは奥が深く、短期間で習得できるものではなく、日常の中で実践をして経験を積み重ねていくものである。ここではその「第一歩」として基本的な食材の扱い方、調理方法の知識と技術を習得して、自ら料理を作る楽しさを体験する。 合わせて食品の取り扱い、食品の安心安全に関する食品衛生分野の内容も織り込んで進める。		
授業の到達目標	・基本となる調理技術と心構えを修得し、自ら調理する楽しさと必要性を学ぶ。 ・複数献立の調理にかかる時間と手順を考えて取り掛かることができる。 ・食品の衛生に気を配りながら進めることができる。		
テキスト（教科書）	テキスト：受講者必携 　イチバン親切な「料理の教科書」川上文代著　新星出版社　ISBN-13: 978-4405091344 その他：必要に応じて適宜プリント配布 参考書：フードコーディネーター取得予定者は必携のテキスト 「フードコーディネーター教本」 日本コーディネーター協会編　柴田書店		
参考書（参考文献）	多くの料理書 「フードコーディネーター教本」 日本コーディネーター協会編　柴田書店		
受講条件	実習は遅刻や無断欠席をしない。 忘れ物をしない。		
準備学習等の内容	・あらかじめ持ち物確認をして受講に臨む。 ・実習後の記録ノートは毎回整理しておく。		
評価方法	筆記及び実技試験（50%）、受講態度と実習への意欲（25%）、実習記録ノート提出（25%）の総合評価 ただし、実習を伴うので出席率は 70% 以上であること		
授業計画	１回　　ガイダンス　実習についての諸注意、食の安全・食品の取り扱いと食中毒 　　講義　日本料理　食の安全・食品添加物と食品異物 ２・３回　講義　日本料理　調理の基本２ 　　講義　西洋調理、イタリア料理、中国料理の基本 ４・５回　実習　実習室の扱い　食の安全　　厨房機器と設備 　　実習　日本料理　基本切りと応用料理　卵料理 ６・７回　実習　西洋料理　基本切りと白ソースの応用米料理 ８・９回　実習　中国料理　焼き餃子　和え物　スープ 10・11 回　実習　日本料理　基本と応用料理　だしのとり方　炊飯　魚の手開きと衛生　煮物 12・13 回　実習　西洋料理　魚のつぼ抜き　野菜料理　スープ　冷菓 14・15 回　実習　日本料理　魚の三枚おろし　和え物　汁物　和菓子 16・17 回　実習　イタリア料理　肉料理　パスタ　焼き菓子 18・19 回　実習　日本料理　郷土料理　パッククッキング 　　講義　食品の品質表示制度と食物アレルギー 20 回　　実技試験　大掃除 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42550
科目	4255 食品学Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	西山　千穂子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	調理師に必要な食品の基本知識と嗜好特性について学び、調理師活動において中心的存在となる食品についての正しい視点を養う。		
授業の到達目標	１．それぞれの食品が持つ栄養素や性質を理解する。 ２．素材から加工食品になるまでの流れを理解する。 ３．「１」「２」で得た知識を調理に役立てるようにする。		
テキスト（教科書）	『２食品と栄養の特性』 公益社団法人　全国調理師養成施設協会		
参考書（参考文献）	「調理師養成教育全書　必携問題集」全国調理師養成協会 「カラーチャート食品成分表」 教育図書株式会社 「食育インストラクター教本」 公益社団法人　全国調理師養成施設協会 「フードコーディネーター教本」 日本フードコーディネーター協会編　柴田書店		
受講条件	調理師取得予定者であること		
準備学習等の内容	食品に関するニュース（新種、新商品、事件・事故、法改正など、、、）について常に興味を持ち知識を得ておく。		
評価方法	試験（70%）　受講意欲（30%）の総合評価		
授業計画	第１回　米　小麦 第２回　とうもろこし　大麦　そば　その他の穀類とその加工品 第３回　じゃがいも　さつまいも 第４回　その他のいも類およびでんぷん類 第５回　砂糖 第６回　その他の甘味類 第７回　大豆 第８回　小豆　その他の豆類 第９回　ナッツ類　種子類 第 10 回　野菜類（葉菜類） 第 11 回　野菜類（茎菜類　根菜類） 第 12 回　野菜類（果菜類　花菜類） 第 13 回　果実類（仁果類　準仁果類） 第 14 回　果実類（核果類　液果類）　その他　果実の加工品 第 15 回　きのこ類 第 16 回　テスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPFM2038		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42551
科目	4255 食品学Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	現代は食品加工品や外食産業の増加、そして暮らし方の変化で、料理を手作りで作る機会が減っており、食品の元の姿を知らずに食べていることが多い。私たちが食べている食品の種類は時代とともに増えており、改良や開発も進められている。ここではできるだけ多くの食品の歴史や特徴について基本知識を学ぶ。しかし、膨大な食品は期間内では網羅できないため、課題を課し、自らもより深く調べる力をつける。フードコーディネーター取得予定者は必須科目でもあるために資格に必要な応用力をつける。		
授業の到達目標	・食品は自然の産物であり、季節や環境と関係することを理解する。 ・市場に出回っている食品や自分が食べている食品について関心を持つ。 ・食品の産地や表示などの問題について学ぶ。		
テキスト（教科書）	・受講者全員必携ﾃｷｽﾄ 「カラーチャート食品成分表」 教育図書株式会社　ISBN:978-4-87730-304-4 ・フードコーディネーター取得予定者は必携ﾃｷｽﾄ 「フードコーディネーター教本」 日本フードコーディネーター協会編　柴田書店 ISBN:978-4-388-15321-3 ・その他：必要に応じてプリント配布		
参考書（参考文献）	特に指定はない		
受講条件	調理師取得予定者以外であること。 遅刻をしない。		
準備学習等の内容	日頃食べている物の原材料について関心を持つ。 食品販売店を訪れて出回る食材の季節や種類について調べてみる。 珍しい食材を探し、店員に味や食べ方などの質問をして理解を深める。		
評価方法	筆記試験（70%）、レポート（20%）、受講意欲（10%）の総合評価		
授業計画	食品成分表の添付資料（写真と説明）と画像の提示をあわせて使用しながら進める。 １回　ガイダンス・テキストと授業の進行について、 食品・食材を知ることとは ２回　肉類　　牛・豚肉 ３回　〃　　鶏肉・その他 ４回　魚類 ５回　貝類 ６回　エビ・カニ類　　イカ・タコ類　その他 ７回　豆・大豆・大豆製品 ８回　葉菜類　　鱗茎菜類 ９回　〃 10 回　果菜・花菜類　　根菜類 11 回　キノコ類　・藻菜類 12 回　〃　果実・種実類 13 回　豆・大豆・大豆製品 14 回　乳・乳製品・卵 15 回　穀物・加工品・インスタント食品 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42560
科目	4256 食品学Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	西山　千穂子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	調理師に必要な食品の基本知識と嗜好特性について学び、調理師活動において中心的存在となる食品についての正しい視点を養う。		
授業の到達目標	１．それぞれの食品が持つ栄養素や性質を理解する。 ２．素材から加工食品になるまでの流れを理解する。 ３．「１」「２」で得た知識を調理に役立てるようにする。		
テキスト（教科書）	『２食品と栄養の特性』 公益社団法人　全国調理師養成施設協会		
参考書（参考文献）	「調理師養成教育全書　必携問題集」全国調理師養成協会 「カラーチャート食品成分表」 教育図書株式会社 「食育インストラクター教本」 公益社団法人　全国調理師養成施設協会 「フードコーディネーター教本」 日本フードコーディネーター協会編　柴田書店		
受講条件	食品学Ⅰの単位習得済みであること 食品学Ⅲと同時履修であること 調理師取得予定者であること		
準備学習等の内容	食品に関するニュース（新種、新商品、事件・事故、法改正など、、、）について常に興味を持ち知識を得ておく。		
評価方法	試験（70%）　受講意欲（30%）の総合評価		
授業計画	第１回　藻類 第２回　魚介類の構造、成分　死後硬直と鮮度 第３回　主な魚介類の種類① 第４回　主な魚介類の種類② 第５回　主な魚介類の種類③　加工品 第６回　食肉類の構造と肉質　成分 第７回　肉の熟成　主な食肉類の種類① 第８回　主な食肉類の種類②　加工品 第９回　卵類 第 10 回　乳類 第 11 回　油脂類 第 12 回　菓子類 第 13 回　アルコール飲料① 第 14 回　アルコール飲料②　非アルコール飲料① 第 15 回　非アルコール飲料② 第 16 回　テスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPGM2030		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42580
科目	4258 栄養学 I	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	人は口から食事を摂ることで生命を維持している。一方、人の健康状態は毎日の食生活の良し悪しにより大きく左右される。ここでは調理師として必要な栄養的知識の導入として、食物に含まれる各栄養素の基礎を学んで、身体とどのように係わっているのか理解を深める。		
授業の到達目標	・栄養素の種類や生理作用の基本的な知識を理解する。 ・主な栄養素の性質や摂り方の相互作用について理解する。 ・調理師として栄養素と食品との関係をつなげることができる。		
テキスト（教科書）	・調理師養成教育全書 「食品と栄養の特性」 全国調理師養成協会 ・「カラーチャート食品成分表」 教育図書 ・調理師養成教育全書 「必携問題集」 全国調理師養成協会 ・フードコーディネーター取得予定者必携 「フードコーディネーター教本」日本フードコーディネーター協会編　柴田書店 ISBN:978-4-388-15321-3		
参考書（参考文献）	特に指定はないが食と健康に関する書籍など		
受講条件	調理師取得予定者であること		
準備学習等の内容	栄養素の基本を学ぶため、食品成分表を活用して食品との関係も深めておく。 必携問題集は進行に合わせて各自で進めていく。		
評価方法	筆記試験（80%）、受講意欲（20%）の総合評価		
授業計画	１回　栄養素の機能と健康　栄養と健康 ２回　炭水化物とは ３回　食物繊維 ４回　脂質とは ５回　脂質の種類 ６回　たんぱく質とは ７回　たんぱく質の種類 ８回　たんぱく質の栄養価 ９回　ビタミンとは　ビタミンの種類：脂溶性ビタミン 10 回　水溶性ビタミン 11 回　〃 12 回　ミネラルとは 13 回　ミネラルの種類 14 回　〃 15 回　〃 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPFM1024		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42590
科目	4259 栄養学Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	栄養学Ⅰの復習から始め、その後、食物摂取と代謝に関する栄養生理について学ぶ。 また健康を意識しての食事を摂取するための食事摂取基準や食事バランスガイドについても理解を深め、栄養の特性について理解する。		
授業の到達目標	・ヒトの消化器の仕組みと働きを理解する。 ・栄養素の消化と吸収の仕組みを理解する。 ・ライフステージごとの栄養について違いを理解する。		
テキスト（教科書）	「調理師養成教育全書　「食品と栄養の特性」　全国調理師養成施設協会 「カラーチャート食品成分表」 教育図書 「調理師養成全書　必携問題集」全国調理師養成協会		
参考書（参考文献）	特に指定はない		
受講条件	調理師取得予定者であること。 栄養学１を単位習得済みのこと。		
準備学習等の内容	必携問題集は進行に合わせて各自で進めていく。		
評価方法	試験（80%） 受講意欲（20%）の総合評価		
授業計画	技術考査の問題集とも並行して内容の確認する。 １回　栄養学Ⅰのミネラルまでの復習 ２回　エネルギー代謝と食事摂取基準 　　食品の選択　献立　栄養価計算の必要性 ３回　栄養価計算　成分表の引き方 ４回　栄養価計算　演習 ５回　栄養素の機能と健康 　　その他の成分　　水分　栄養生理　食物の摂取調節と栄養感覚 ― 摂食調節中枢 ６回　消化と吸収 　　食品の摂取 ７回　　〃　　消化・吸収・代謝　　栄養素の消化 ８回　　〃　　栄養素の吸収 ９回　　〃　　栄養素の代謝 10 回　エネルギー代謝と食事摂取基準　エネルギー代謝とは 11 回　　〃　　エネルギー摂取量とエネルギー消費量 12 回　　〃　　日本人の食事摂取基準とは 13 回　　〃　　食事摂取基準の指標 14 回　　〃　　食品分類法 15 回　　〃　　食事バランスガイド ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング	CPFM2037		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42620
科目	4262 栄養と健康	授業種別	週間授業
担当教員	朝倉　由美子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	食生活の乱れは肥満または痩せを招き、悪化すれば健康を害する。特に近年は肥満人口が増加し、肥満が原因の生活習慣病を誘発し、メタボリック症候群が進行・悪化の結果、さまざまな病気を抱えた人が増えている。　この科目ではフードコーディネーター取得の必須科目でもあり、体重調節だけではなく、ヒトが食事から摂り入れる五大栄養素の働きや消化吸収、食べ物と身体の仕組みを理解する。そして、病態と栄養、運動と栄養などの関係について展開し、バランスのよい食事の目的は何か、健康的な身体づくりには何が必要なのかを考える。		
授業の到達目標	・食生活の乱れと健康障害の現状を理解する。 ・食事と栄養素の関係を理解する。 ・疾病と食事の摂り方の違いと食事療法の必要性を理解する。		
テキスト（教科書）	・受講者全員必携 「カラーチャート食品成分表」 教育図書株式会社　ISBN:978-4-87730-304-4 ・フードコーディネーター取得予定者は必携 「フードコーディネーター教本」 日本フードコーディネーター協会編　柴田書店 ISBN:978-4-388-15321-3 ・その他：必要に応じてプリント配布		
参考書（参考文献）	・厚生労働省の国民健康栄養調査のデータ		
受講条件	調理師取得予定者以外		
準備学習等の内容	日常の食事（間食、飲酒含む）と健康に関して問題意識を持ち、新聞やメディア等で取り上げられる食生活や健康に関する情報を収集する習慣をつけてください。		
評価方法	試験（80%）　受講意欲（20%）の総合評価		
授業計画	１回　ガイダンス　日本人の健康状態について ２回　肥満のメカニズムと評価　メタボリックシンドローム ３回　人はなぜ食物を食べるのか　　栄養素とは 栄養素の種類と働き、多く含む食品（炭水化物） ４回　〃　（食物繊維） ５回　〃　（脂質） ６回　〃　（たんぱく質） ７回　〃　（ミネラル） ８回　〃　（ミネラル、脂溶性ビタミン） ９回　〃　（水溶性ビタミン） 10 回　〃　（水溶性ビタミン） 11 回　消化・吸収・代謝の仕組み 食生活と健康づくり、食生活指針、食事バランスガイド、食事摂取基準 12 回　病気と食生活：生活習慣病の理解と予防や改善のための食生活 糖尿病・高血圧 13 回　〃　脂質異常症・動脈硬化症・虚血性心疾患 14 回　〃　痛風・骨粗鬆症 15 回　食物アレルギー ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42630
科目	4263 食品衛生学Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	井上　健太郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	「食品衛生学」とは、食物の安全性の確保を学ぶことであり、この安全性の確保のためには、原材料の生産から製造、加工調理の過程、最終的には人に摂取されるまで安全でなければならない。このために「食品衛生学Ⅰ」では、食品衛生における調理師の果たすべき役割について知り食品衛生の概念を理解することを目標とします。		
授業の到達目標	１　食品衛生における調理師の果たすべき役割について習得する。 ２　微生物による健康危害の発生を未然に防止する方法について学ぶ。 ３　食品添加物の有用性・安全性またその危険性をも学び、その正しい使い方を覚える。		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　３食品の安全と衛生』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会） 『調理師養成教育全書　必携問題集』　（公益社団法人　全国調理師養成施設協会）		
参考書（参考文献）	特に指定はしないが、食品衛生に係る新聞記事等は常に関心をもって読むこと。		
受講条件	「調理師資格取得予定者であり、誠実で勉学意欲のある者」 「必修科目」		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をし、常に食品衛生学について興味・関心をもつこと。		
評価方法	受講態度・質疑応答・レポート等（30%）、筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　食の安全と衛生 第２回　食品衛生と調理師の責務 第３回　食品中の微生物 第４回　食品の微生物汚染 第５回　食品の腐敗 第６回　腐敗に関与する微生物 第７回　食品と化学物質 第８回　食品添加物の概要 第９回　食品添加物と食品衛生関係法規 第 10 回　食品と重金属 第 11 回　ヒ素および重金属 第 12 回　食品と放射性物質 第 13 回　放射線照射食品 第 14 回　器具容器包装の概要 第 15 回　器具容器包装の取り扱い ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM1014		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42640
科目	4264 食品衛生学Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	井上　健太郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	食品衛生学Ⅰで習得したことを理解した上で、更に飲食による健康危害の概要を知り、食中毒はどのようにしたら予防できるかを理解し安全な食品を提供できるよう食品と微生物の関係について深く知識を得ることを目標とする。		
授業の到達目標	1　食中毒による健康危害・原因物質等を習得する。 ２　細菌性食中毒等の概要と危険性、その予防法を学ぶ。 ３　自然毒食中毒、化学性食中毒等を学びその予防法を習得する。		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　３食品の安全と衛生』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会） 『調理師養成教育全書　必携問題集』　（公益社団法人　全国調理師養成施設協会）		
参考書（参考文献）	特に指定はしないが食品衛生に係る新聞記事等は常に関心をもって読むこと。		
受講条件	『食品衛生学Ⅰの単位修得済みであること』 「必修科目」		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をして、常に食品衛生学について興味、関心をもつこと。		
評価方法	受講態度・質疑応答・レポート　(30%)、筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　飲食による健康危害の種類 第２回　食中毒の定義・分類・発生状況 第３回　細菌性食中毒 第４回　感染型食中毒の症状・発生状況・予防法 第５回　食品内毒素型食中毒の症状・発生状況・予防法 第６回　生体内毒素型食中毒の症状・発生状況・予防法 第７回　ウイルス性食中毒 第８回　ノロウイルスの概要と危険性・その予防法 第９回　自然毒食中毒概要 第 10 回　動物性自然毒 第 11 回　植物性自然毒 第 12 回　化学性食中毒の概要 第 13 回　化学性食中毒の予防 第 14 回　ヒスタミンによる食中毒 第 15 回　アレルギー様食中毒 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM1025		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42650
科目	4265 食品衛生学Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	井上　健太郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	食品衛生学Ⅰ、Ⅱで学習したことを礎石にして、更に寄生虫による食中毒、経口感染症、BSE,食物アレルギー等について食の安全性を確保する方法を学ぶ。		
授業の到達目標	１　寄生虫による食中毒の概要、その予防法について習得する ２　経口感染症と食中毒、その予防法について習得する ３　BSE、鳥インフルエンザ、農薬等による健康危害について学ぶ ４　食物アレルギーとはどういうことかについて学ぶ		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　３　食品の安全と衛生』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会） 『調理師養成教育全書　必携問題集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会）		
参考書（参考文献）	特に指定はしないが、食品衛生に係る新聞記事等は常に関心をもって読むこと。		
受講条件	『食品衛生学Ⅰ、Ⅱの単位修得済みであること』		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をし、常に食品衛生学について興味・関心をもつこと		
評価方法	受講態度・質疑応答・レポート等　(30%)、筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　寄生虫による食中毒の概要 第２回　寄生虫による食中毒の予防 第３回　経口感染症と食中毒 第４回　経口感染症とはどういうものか 第５回　感染症法について 第６回　経口感染症と食中毒の関係について 第７回　人畜共通感染症について 第８回　経口感染症の予防について 第９回　食物アレルギーとはどういうことか 第 10 回　食物アレルギーの症状 第 11 回　即時型食物アレルギーと遅延型アレルギーについて 第 12 回　アレルギー物質の表示について 第 13 回　BSE について 第 14 回　鳥インフルエンザについて 第 15 回　農薬および動物用医薬品の残留について ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPGM2014		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42660
科目	4266 食品衛生実習	授業種別	週間授業
担当教員	井上　健太郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	食品衛生学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ ，Ⅳを理解した上で、更に食品衛生に関する実験や食品の鮮度判定等を行うことにより、食の安全性確保の重要性について習得することを目標とします。		
授業の到達目標	１　食品や手指からの各種細菌の検出方法について習得する。 ２　水道水の簡易水質検査について習得する。 ３　野菜類や生卵などの鮮度判定について習得する。		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　３　食品の安全と衛生』（　公益社団法人　全国調理師養成施設協会） 『調理師養成教育全書必携問題集』　（　公益社団法人　全国調理師養成施設協会）		
参考書（参考文献）	特に指定はしないが、食品衛生に係る新聞記事等は常に関心をもって読んでおくこと。		
受講条件	『食品衛生学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ，Ⅳの単位習得済みであること』		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をし、常に食品衛生学について興味・関心をもつこと		
評価方法	受講態度、質疑応答、レポート等（30%）、筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　手指の汚染状況の測定 第２回　黄色ブドウ球菌の測定 第３回　食品からの一般生菌数の測定 第４回　食品からの各種細菌の測定 第５回　食品の水素イオン濃度の測定 第６回　空中の浮遊微生物の測定 第７回　水道水の簡易水質検査 第８回　水道水の残留塩素測定 第９回　食器洗浄後の汚れ状態の検査 第 10 回　野菜類の鮮度判定、 技術考査対策学習 第 11 回　魚介類の鮮度判定　、技術考査対策学習 第 12 回　魚肉練り製品の鮮度・品質判定、 技術考査対策学習 第 13 回　食肉の鮮度判定，技術考査対策学習 第 14 回　牛乳の鮮度判定、 技術考査対策学習 第 15 回　生卵の鮮度判定、技術考査対策学習 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPGM2032		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42710
科目	4271 公衆衛生学Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	墨岡　成治	単位数	2
その他担当者			
授業概要	「公衆衛生学１」では、「食生活と健康」という観点から調理師の果たす役割について学ぶことを目的とします。 具体的には、「調理師と健康」、「食生活と疾病」、「健康づくり」について重点的に学習し、公衆衛生向上の意義と重要性について習得することを目標とします。		
授業の到達目標	１　「調理師と健康」についての考え方・役割を習得する ２　「食生活と疾病」について習得する ３　「健康づくり」について習得する		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　１ 食生活と健康』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
参考書（参考文献）	『調理師養成教育全書　必携問題集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
受講条件	調理師資格取得予定者であり誠実で勉学意欲のある者 「必修科目」		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をすること		
評価方法	受講態度・意欲（30%）、筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　「調理師と健康」　健康とはなにか 第２回　わが国の健康水準 第３回　目指すべき健康とは 第４回　「食と健康の関連」　食生活が健康に果たす役割 第５回　健康的な食生活習慣づくり 第６回　「調理師の役割」　調理師の成り立ち 第７回　調理師法の概要 第８回　食生活における調理師の役割 第９回　「食生活と疾病」　疾病の動向 第 10 回　疾病の予防 第 11 回　「生活習慣病」　生活習慣病とは 第 12 回　生活習慣病の国際比較と生活習慣の重要性 第 13 回　生活習慣病の予防 第 14 回　「健康づくり」　疾病予防から健康増進へ 第 15 回　健康増進法 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM1015		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42720
科目	4272 公衆衛生学Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	墨岡　成治	単位数	2
その他担当者			
授業概要	「公衆衛生学Ⅰ」で学習したことを理解した上で、更に「わが国における健康づくり対策」、「心の健康づくり」、「調理師と食育」、「労働と健康」等の知識を得て、公衆衛生向上の意義と重要性について習得することを目標とします。		
授業の到達目標	１　「わが国における健康づくり対策」について習得する ２　「心の健康づくり」について習得する ３　「調理師と食育」について習得する ４　「労働と健康」について習得する		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　１　食生活と健康』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
参考書（参考文献）	『調理師養成教育全書　必携問題集　』　（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
受講条件	公衆衛生学Ⅰの単位習得済みであること 「必修科目」		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をすること		
評価方法	受講態度・意欲（30%）、筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　「健康づくり対策」　わが国における健康づくり対策 第２回　健康教育 第３回　健康に関する食品情報 第４回　「心の健康づくり」　心身相関とストレス 第５回　ストレスへの対処方法 第６回　心の健康と自己実現 第７回　「調理師と食育」　食育とは 第８回　食育の定義 第９回　食育の意義 第 10 回　食育基本法の概要 第 11 回　「食育における調理の役割」　正しい知識の提供 第 12 回　食育の実践 第 13 回　「労働と健康」　作業と健康 第 14 回　作業条件と健康 第 15 回　職業病 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM1026		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42730
科目	4273 公衆衛生学Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	墨岡　成治	単位数	2
その他担当者			
授業概要	公衆衛生学Ⅰ、Ⅱで学習したことを礎石にした上で、健康づくり、生活環境の衛生、環境汚染問題等について学ぶことにより公衆衛生向上の重要性についてより深く習得することを目標とします。		
授業の到達目標	１．生活環境衛生の重要性について学ぶ。 ２．環境汚染問題について学ぶ。 ３．公衆衛生向上の意義と重要性について習得する。		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　３　公衆衛生学』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 『調理師養成教育全書　必携問題集』　（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
参考書（参考文献）	特に指定はしないが健康・環境等の新聞記事は常に関心をもって読むこと。		
受講条件	公衆衛生学Ⅰ、Ⅱの単位習得済みであること 「必修科目」		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をすること		
評価方法	受講態度・意欲（30%）、筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　健康づくり対策 第２回　わが国における健康づくり対策 第３回　健康日本 21 （第２次） 第４回　健康教育 第５回　環境保健 第６回　生活環境の衛生 第７回　現代の生活環境 第８回　環境条件（大気・水・衣服） 第９回　環境条件（住居・ごみ） 第 10 回　環境条件（そ族・衛生害虫の防除・電離放射線） 第 11 回　広がる環境汚染 第 12 回　空気汚染 第 13 回　水質汚染 第 14 回　騒音・振動・悪臭問題 第 15 回　環境問題とその取り組み ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPGM2015		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42750
科目	4275 調理学Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	調理は、人間が生命を維持していく上で欠かせない大切な食べ物を作り出す操作である。調理学Ⅰでは、特においしさとの関係の中から、調理の意義や目的について学習する。また基本的な調理法の種類と特徴を学び、それぞれの料理に適した調理操作が出来ることを目指す。		
授業の到達目標	１．調理の意義や目的についての知識を習得する。 ２．おいしさの構成について学び､おいしい料理を作るために様々な要因があることを把握する。 ３．調理の基本操作を学び、実習がスムーズに展開できることを目指す。 ４．日本料理についての概要や基本的な知識を身に付ける。		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書　第４巻 調理理論と食文化概論・第５巻 調理実習』 （公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
参考書（参考文献）	『改訂増補　フードコーディネーター教本』 （日本フードコーディネーター協会編　柴田書店） 『食育インストラクター教本』 （社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者） 調理実習Ⅰと同時履修であること		
準備学習等の内容	講義の後の復習を重点的に行うこと。特に講義において示した重要事項についての理解を確実にして、次回の授業に備えたい。		
評価方法	受講態度・意欲（30%）・筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　調理師になるための心構え 第２回　調理実習を行う前の心得 第３回　調理学を学ぶ意義および調理の目的 第４回　おいしさの構成（食べ物の側 化学的要因　五味の仕組み） 第５回　〃　（食べ物の側　物理的要因） 第６回　おいしさの構成（食べる人の側）・味覚の実験 第７回　調理の基本技術　調理法の種類 第８回　〃　調理操作（非加熱操作） 第９回　〃　調理操作（加熱操作１） 第 10 回　〃　調理操作（加熱操作２） 第 11 回　〃　調理操作（加熱操作３） 第 12 回　日本料理　概要・包丁の種類と研ぎ方・基本的な切り方と応用 第 13 回　日本料理　器具の種類と特徴 第 14 回　日本料理　食材の扱いと下処理法（野菜・魚） 第 15 回　日本料理　食材の扱いと下処理法（肉・その他の材料） （ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPFM1016		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42760
科目	4276 調理学Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	鳥当　法子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	食品の特性を踏まえながら、おいしさの理由を理論として学ぶ事により、調理過程を科学的に捉え調理技術の習得をより確かなものにすることを目的とする。		
授業の到達目標	１、調理による食品の変化を理解する　　植物性食品 ２、調理による食品の変化を理解する　　動物性食品		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書 ４　調理理論と食文化概論　』（公社） 全国調理師養成施設協会編		
参考書（参考文献）	『新調理師養成教育全書　必携問題集』（公社） 全国調理師養成施設協会編		
受講条件	必修科目 調理学Ⅰ・調理実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の単位修得済みであること。また調理学Ⅲ・調理実習Ⅳと同時履修であること。		
準備学習等の内容	講義の後の復習を、重点的に行うこと。調理の専門用語などの理解を確実なものにして、次の授業に臨みたい。		
評価方法	学期末試験　60% 提出物・小テスト　30% 授業に対する積極性　10%　をもとに評価する。		
授業計画	第１回　主な食品の調理と科学　植物性食品　穀類の調理　米の調理 第２回　〃　〃　〃　小麦粉の調理 第３回　〃　〃　〃　いも及びでんぷん類の調理 第４回　〃　〃　〃　豆類の調理 第５回　〃　〃　野菜類の調理　① 第６回　〃　〃　〃　② 第７回　〃　〃　きのこ類、藻類の調理 第８回　〃　動物性食品　魚介類の調理　構造 ・ 生食調理 第９回　〃　〃　〃　加熱調理① 第 10 回　〃　〃　〃　〃　② 第 11 回　〃　〃　食肉類の調理　加熱による変化 第 12 回　〃　〃　〃　肉の調理 第 13 回　〃　〃　卵類の調理 ① 第 14 回　〃　〃　〃　② 第 15 回　〃　〃　乳類の調理 （ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPGM2016		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42770
科目	4277 調理学Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	日本料理の繊細な感覚や食文化を理解し、その種類と調理法を学ぶ。 中国料理は、長い歴史と広大な国土に育まれた多様性に富む料理である。 調理師として必要な中国料理の知識と技術を学ぶ。		
授業の到達目標	１．日本料理の種類と調理法を重点的に学び、その他すしや麺類の調理についても学び日本料理について幅広いな知識を身に付ける。 ２．中国料理業界の概要を把握し中国料理の基本（切り方・器具・特殊材料）について習熟する。 ３．中国料理の調理工程および種類と調理法について学び、調理師資格取得のための専門的な知識を習得する。		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書　８　調理実習・必携調理実習レシピ集　』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
参考書（参考文献）	『新調理師養成教育全書　必携問題集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者） 調理学Ⅰ・調理実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の単位修得済みであること。調理学Ⅱと同時履修であること。		
準備学習等の内容	講義後の復習を重点的に行うこと。また学習した食材や調理法について、関連する料理の資料を調べる。		
評価方法	受講態度・意欲（30%）・筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　日本料理　調味料と香辛料 第２回　日本料理　だし 第３回　日本料理　種類と調理例　「先付～揚げ物」 第４回　日本料理　種類と調理例　「蒸し物～弁当」 第５回　日本料理　すし 第６回　日本料理　そば・うどん 第７回　中国料理　概要と特徴 第８回　中国料理　包丁の種類と切り方第 第９回　中国料理　器具の種類と特徴 第 10 回　中国料理　特殊材料とその扱い方 第 11 回　中国料理　調味料と香辛料 第 12 回　中国料理　だしのとり方 第 13 回　中国料理　調理工程・種類と調理法（? 菜と ? 菜技法） 第 14 回　中国料理　種類と調理法（熱菜と熱菜技法） 第 15 回　中国料理　種類と調理法（甜菜と甜菜技法） （ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPGM2017		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42830
科目	4283 調理実習Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	調理をする上で大切な、計量の仕方・切り方・調味の仕方を学習する。また調理機器・食器の名称・取り扱い方法等を学び、円滑な調理実習ができる力を養成する。		
授業の到達目標	１．日本・中国・西洋料理について、基本的な知識を習得する。 ２．調理器具・道具の名称を知り、正しい使い方をマスターする。 ３．調理師に必要な衛生管理の基礎知識を身につける。		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書　第５巻　調理実習・必携調理実習レシピ集』 （公益社団法人　全国調理師養成協会編） 実習時に配布するプリントを使用		
参考書（参考文献）	『調理実習ノート』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 『おうちで簡単 お店の味』（岩崎 啓子著　学研パブリッシング発行）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者） 調理学Ⅰと同時履修であること。		
準備学習等の内容	日頃から自己管理を怠らず、万全な体調で実習に臨むことを心掛ける。また、実習した調理を家で復習する習慣を身に付ける。		
評価方法	１．（実技及び筆記）期末試験（70%） ２．課題およびノート提出（20%） ３．実習時における服装及び受講態度（10%）		
授業計画	第１回　調理実習の心得、班の編成 第２回　実習時の安全面・衛生面について指導 第３回　調理器具の種類と取り扱い方法 第４回　野菜の基本切り 第５回　包丁の種類と研ぎ方 第６回　日本料理（だしのとり方・応用調理） 第７回　日本料理（米の研ぎ方・白飯・若竹汁・他） 第８回　日本料理（親子丼・あさりの味噌汁・他） 第９回　日本料理（イワシの手開き・応用調理） 第 10 回　西洋料理（チーズ・応用調理） 第 11 回　中国料理（毛湯・応用調理） 第 12 回　韓国料理（チヂミ・大学芋・他） 第 13 回　洋菓子講座（ロールケーキ・他） 第 14 回　実技試験（野菜の切り方・かきたま汁） 第 15 回　実習ノートの補足説明・清掃 （ただし、受講学生の習熟度・実習材料等の都合で授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPFM1017		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42840
科目	4284 調理実習Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	日本・中国料理における基本的な調理を班単位で実習する。デモンストレーション・実技演習・試食・片付けのスタイルで授業を進めていく。また日本の伝統的な行事食も取り入れ、調理実習を通して食文化を学ぶ。		
授業の到達目標	１．日本・中国料理の基礎技術をマスターする。 ２．日本の伝統的な行事食や中国の食文化を理解し、応用調理を身に付ける。 ３．グループワークを行いながら、協調性を身に付ける。		
テキスト（教科書）	テキスト：『新調理師養成教育全書　８　調理実習・必携調理実習レシピ集』（公益社団法人全国調理師養成施設協会編） 実習時に配布するプリントを使用		
参考書（参考文献）	『調理実習ノート』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 『おうちで簡単 お店の味』（岩崎 啓子著　学研パブリッシング発行）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者） 調理実習Ⅰ・調理学１の単位修得済みであること。調理実習Ⅲと同時履修であること。		
準備学習等の内容	材料当番の、役割分担について把握しておく。日頃から自己管理を怠らず、万全な体調で実習に臨むことを心掛ける。また、実習した調理を家で復習する習慣を身に付ける。		
評価方法	１．（実技及び筆記）期末試験（70%） ２．課題およびノート提出　（20%） ３．材料当番での活動・ 実習時における服装及び受講態度（10%）		
授業計画	第１回　日本料理（冷やし麺の扱いとつけ汁・他） 第２回　日本料理（混ぜご飯・茶碗蒸し・他） 第３回　日本料理（牛丼・なめこの味噌汁・他） 第４回　日本料理（天ぷら・赤だし・他） 第５回　中国料理（湯の取り方・応用調理） 第６回　日本料理（鮭のかぶら蒸し・菊花豆腐のすまし汁・他） 第７回　日本料理（鯖の味噌煮・けんちん汁・他） 第８回　中国料理（古老肉・川菜粉糸湯・他） 第９回　中国料理（天津飯・姜汁墨魚・他） 第 10 回　中国料理（鍋貼餃子・粟米湯・他） 第 11 回　韓国料理（キムチ・スンドゥブチゲ・ホットッ） 第 12 回　正月料理 第 13 回　ひな祭りの料理 第 14 回　実技試験 第 15 回　日本の行事食および実習ノートの補足説明 （ただし、学生の習熟度・実習材料等の都合で実習計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPFM1027		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42850
科目	4285 調理実習Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	西洋料理における基本調理を中心に指導する。実習回数を重ねることにより調理技術や調理における段取り力の向上を図る。調理師として大切な責任感・マナーなども併せて身につけるようにその場に応じて指導していく。また、西洋料理の供応食であるクリスマス料理の実習時には、メニュー表の書き方や生花･フィギュアなどを用いたテーブルセッティングなども取り入れ、フードコーディネーターに必要な感性を養成する。		
授業の到達目標	１．西洋料理の基本技術をマスターする。 ２．グループワークを通してコミュニケーション能力を養成する。 ３．供応食を通して、フードコーディネーターに必要な感性を養う。		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書　８　調理実習・必携調理実習レシピ集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 実習時に配布するプリントを使用		
参考書（参考文献）	『調理実習ノート』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 『おうちで簡単　お店の味』（岩崎 啓子著　学研パブリッシング発行）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者） 調理実習Ⅰ・調理学１の単位修得済みであること。調理実習Ⅱと同時履修であること。		
準備学習等の内容	材料当番の、役割分担について把握しておく。日頃から自己管理を怠らず、万全な体調で実習に臨むことを心掛ける。また、実習した調理を家で復習する習慣を身に付ける。		
評価方法	１．（実技及び筆記）期末試験（70%） ２．課題およびノート提出　（20%） ３．材料当番での活動・ 実習時における服装及び受講態度（10%）		
授業計画	第１回　西洋料理（キャベツと生ハムのパスタ・海の幸と夏野菜のグリル・他） 第２回　〃　（ブイヨンの取り方・応用調理） 第３回　〃　（サラダの基本・シーフードカレー・他） 第４回　〃　（卵料理と応用料理） 第５回　〃　（ホワイトソースと応用調理） 第６回　〃　（焼きとうもろこしのポタージュ・子羊の燻製バジリコ風味・他） 第７回　洋菓子講座（フルーツのタルト） 第８回　西洋料理（きのこのカルボナーラ・カプレーゼ・他） 第９回　〃　（チーズインハンバーグ・クラムチャウダー・他） 第 10 回　〃　（コロッケ・ウォルドフサラダ・他） 第 11 回　〃　（魚介類のムース・他） 第 12 回　〃　（クリスマス料理） 第 13 回　〃　（パーティー料理・シフォンケーキ・他） 第 14 回　実技試験（ホワイトソースとその応用調理） 第 15 回　西洋料理について補足説明と実習ノートの整理 （ただし、受講学生の習熟度・実習材料等の都合で授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPFM1028		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42860
科目	4286 調理実習Ⅳ	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	１年次の基本的な実習から発展させ、素材の知識と技術の向上を図り、応用調理（日本・西洋）を実施する。また、環境を配慮したエコクッキングや高齢者のための介護食なども調理実習に取り入れ、幅広く活躍できる調理師の養成に向けて指導していく。		
授業の到達目標	１．日本・西洋調理の応用調理を修得する。 ２．各国の食材やスパイスの使い方を知り、料理にアクセントをつける力を養成する。 ３．高齢者のための介護食などを理解し、その調理方法を身に付ける。		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書　８　調理実習・必携調理実習レシピ集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 実習時に配布するプリントを使用		
参考書（参考文献）	『調理実習ノート』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 『おうちで簡単 お店の味』（岩崎 啓子著　学研パブリッシング発行）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者） 調理学１・調理実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の単位修得済みであること。 調理学Ⅱ・Ⅲと同時履修であること。		
準備学習等の内容	材料当番の、役割分担について把握しておく。日頃から自己管理を怠らず、万全な体調で実習に臨むことを心掛ける。また、実習した調理を家で復習する習慣を身に付ける。		
評価方法	１．（実技及び筆記）期末試験（70%） ２．課題およびノート提出　（20%） ３．材料当番での活動・ 実習時における服装及び受講態度（10%）		
授業計画	第１回　　洋菓子講座　「パウンドケーキ」 第２回　　日本料理「イカの捌き方・応用調理」 第３回　　日本料理「春の行楽弁当」 第４回　　日本料理「高齢者のための介護食」 第５回　　日本料理「太巻き寿司・稲荷寿司」 第６回　　献立作成・実習「私のお弁当」 第７回　　日本料理「アジの卸し方と応用調理」 第８回　　中国料理「麻婆豆腐・酸辣湯・他」 第９回　　西洋料理「スパゲッティボンゴレ・インゲンのサラダ・他」 第 10 回　西洋料理「紅茶セミナー」 第 11 回　洋菓子講座「フィナンシェ・他」 第 12 回　西洋料理「手作りピザ・サラダ」 第 13 回　西洋料理「ベーグル・ミネストローネスープ・他」 第 14 回　実技試験「アジの卸し方と応用調理」 第 15 回　小麦粉調理について補足説明と実習のノートの整理・清掃 （ただし、受講学生の習熟度・実習材料等の都合で授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPGM2019		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42870
科目	4287 調理実習Ⅴ	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	1
その他担当者			
授業概要	調理実習１～Ⅳで学んだ基礎知識及び調理技術を、より確かなものとすることを目指す。そのため、各自で考案した献立に基づき、材料の準備・計量・実習・盛り付けまでの工程を全て一人で行い、計画性や責任感を身に付ける。またプロの外来講師から、調理の現場で働く厳しさや心構えを学び、社会で必要とされる調理師やフードコーディネーターになるための実践力を養うことを目標とする。		
授業の到達目標	１．各自の調理能力の弱点を補強し、技術の向上を目指す。 ２．魅力ある調理師になるための人間力を身に付ける。 ３．今まで学んだ知識や技術を活かし、より美味しい料理ができる能力を見につける。		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書　８　調理実習・必携調理実習レシピ集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 実習時に配布するプリントを使用		
参考書（参考文献）	『調理実習ノート』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編） 『おうちで簡単 お店の味』（岩崎 啓子著　学研パブリッシング発行）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者） 調理実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位修得済みであること。 調理学（１・Ⅱ・Ⅲ）の単位修得済みであること。 調理学Ⅳ・Ⅴと同時履修であること。		
準備学習等の内容	材料当番の、役割分担について把握しておく。日頃から自己管理を怠らず、万全な体調で実習に臨むことを心掛ける。また、実習した調理を家で復習する習慣を身に付ける。		
評価方法	１．（実技及び筆記）期末試験（70%） ２．課題およびノート提出　（20%） ３．材料当番での活動・ 実習時における服装及び受講態度（10%）		
授業計画	第１回　　日本料理「豚しゃぶサラダ・蓮根のきんぴら風煮・栗まんじゅう・他」 第２回　　洋菓子講座「ショコラ＆ショコラ・他」 第３回　　日本料理「秋の一汁三菜・秋野菜の和風あんかけなど」 第４回　　日本料理「牛肉とじゃがいもの煮物・さんまのから揚げ・他」 第５回　　日本料理「そば打ち・天ぷら」 第６回　　日本料理「八方味噌と応用調理」 第７回　　西洋料理「丸鶏のローストチキン・ポテトグラタン・他」 第８回　　西洋料理「ポークフィレのアプリコットロティ・ムール貝のブルゴーニュ風・他」 第９回　　中国料理「麻婆茄子・棒棒鶏・他」 第 10 回　中国料理「広東風焼売・回鍋肉・他」 第 11 回　中国料理「紅焼魚翅・粉蒸牛肉・他」 第 12 回　西洋料理「カフェメニュー実習」 第 13 回　ワンセルフ実習　試作 第 14 回　ワンセルフ実習 第 15 回　実習ノートの補足説明・清掃 （ただし、受講学生の習熟度・実習材料等の都合で授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPGM2020		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42910
科目	4291 調理学Ⅳ	授業種別	週間授業
担当教員	鳥当　法子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	食品の特性を踏まえながら、おいしさの理由を理論として学ぶことにより、調理過程を科学的に捉え調理技術の習得をより確かなものにすることを目的とする。 調理設備、器具、熱源の基本的な特徴を理解し、調理操作にあったものを選択できるようにする。また、食器などの材質や種類を学び、料理をより美味しく演出できるような選択ができるよう理解を深める。		
授業の到達目標	１．　調理による食品の変化を理解する　　油脂類、ゲル状食品 ２．　調理設備、器具、熱源および食器について学ぶ ３．　技術考査　合格を目指す		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書　４　調理理論と食文化概論』（公社）　全国調理師養成施設協会編		
参考書（参考文献）	『新調理師養成教育全書　必携問題集』（公社）　全国調理師養成施設協会編		
受講条件	必須科目 調理学（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）　調理実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位修得済みであること 調理実習Ⅴと同時履修であること		
準備学習等の内容	授業後の復習を、重点的に行うこと。 調理器具や食器の理解を深めるために、実習時や家庭また販売店などで日常的に関心を持ち調べる。 技術考査対策では、小テストの範囲を重点的に予習をすること。		
評価方法	学期末試験　　60% 小テスト・提出物　30% 授業に対す積極性　10%　　をもとに評価する。		
授業計画	第１回　食品の調理科学　　油脂類 第２回　　ゲル状食品 第３回　調理施設と設備 第４回　調理器具　　非加熱調理器具 第５回　　加熱調理器具　① 第６回　　加熱調理器具　② 第７回　　加熱調理器具　③ 第８回　　その他の器具 第９回　食器・容器　材質別の特徴　① 第 10 回　　材質別の特徴　② 第 11 回　食器・容器　料理別の種類と特徴 第 12 回　熱源、技術考査対策 第 13 回　技術考査対策 第 14 回　技術考査対策 第 15 回　技術考査対策 （ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することがある。）		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42920
科目	4292 調理学Ⅴ（2014 生～）	授業種別	週間授業
担当教員	木下　賀律子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	フランス料理を中心とした西洋料理について概要を学び、西洋料理の基本（切り方・調理法・香辛料）について、知識を身に付ける。特にソースを中心として展開する調理法について理解を深め、日本・中国料理との違いを把握する。後半は、「技術考査」対策にも力を注ぎながら、授業を進めていく。		
授業の到達目標	１．西洋料理の基本である、切り方・調理法についてのフランス語を身に付ける。 ２．料理の美味しさを左右する、香草や、香辛料について知識を深める。 ３．ソースの使い方を学び、それらを使った調理ができるように実践力を高める。 ４．技術考査に合格できる能力を養う。		
テキスト（教科書）	『新調理師養成教育全書 調理理論　８　調理実習・必携調理実習レシピ集　』 （公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
参考書（参考文献）	『新調理師養成教育全書　必携問題集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会編）		
受講条件	必修科目（調理師資格 取得予定者）。 調理学（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）調理実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位修得済みであること。 技術考査受験者であること。 調理学Ⅳ及び調理実習Ⅴと同時履修であること。		
準備学習等の内容	毎回の授業計画に沿って、予習・復習をすること。特に、授業時に併行して実施する、技術考査対策の小テストの範囲を重点的に予習すること。		
評価方法	受講態度・意欲（30%）・筆記試験（70%）		
授業計画	第１回　西洋料理　概要・料理の基本（包丁） 第２回　西洋料理　料理の基本（切り方・調理法） 第３回　西洋料理　器具と特徴 第４回　西洋料理　油脂と調味料 第５回　西洋料理　香辛料と香草 第６回　西洋料理　ブイヨン 第７回　西洋料理　ソース 第８回　西洋料理　種類と調理例（オードブル～ポアソン） 第９回　西洋料理　種類と調理例（ヴィヤンド～アントルメ） 第 10 回　西洋料理　イタリア料理及びその他の西洋料理 第 11 回　日本・中国・西洋を除いた国々の料理 第 12 回　様式別の献立（日本・西洋・中国） 第 13 回　技術考査対策　調理理論 第 14 回　技術考査対策　調理実習（日本・西洋） 第 15 回　技術考査対策　調理実習（中国・その他の国・総合調理） （ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。）		
ナンバリング	CPGM2018		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42930
科目	4293 総合調理学	授業種別	週間授業
担当教員	髙橋　清	単位数	2
その他担当者	鳥当　法子		
授業概要	本学習において集団調理の基本、各調理施設、調理システム、給食管理、フードビジネスを習得する。		
授業の到達目標	栄養管理、食品管理、衛生管理、労働安全管理、献立立案、帳票作成、原価計算等の事務管理を通して給食運営に関する技法を習得し、喫食者のニーズに対応できる給食運営、、またフードビジネスを通じての調理提供者として社会の食に対する意識向上させ、調理システムを理解し効率的な運用により付加価値を増し利用者と社会に食を通して貢献することを目標とする。		
テキスト（教科書）	新調理師養成教育全書＜必修編＞第６巻　総合調理実習（公社）全国調理師養成施設教会		
参考書（参考文献）	食品成分表		
受講条件	調理学Ⅰ、Ⅱ、の単位取得済みであること。 調理学Ⅲを同時履修。 調理実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、の単位取得済みであること。 調理実習Ⅳ同時履修		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習すること。		
評価方法	実習態度（意欲、自主性、協調性、責任感など）および課題提出、春学期定期試験により総合評価する。		
授業計画	第１回　第２章集団調理実習の目的大量調理における『プロの衛生管理』 大量調理の特徴と調理技術 第２回　調理実習 第３回　集団調理の進め方 第４回　調理実習 第５回　調理施設・設備、調理システム 第６回　献立作成の方法 第７回　調理実習 第８回　アレルギー 第９回　接客サービス（第１節～第３節） 第 10 回 接客サービス（第４節） 第 11 回 接客サービス（第５節） 第 12 回 調理実習 第 13 回 大量調理機器、真空調理実習 第 14 回 調理師とフードビジネス 第 15 回 飲食店開業、まとめ		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	42940
科目	4294 総合調理実習	授業種別	週間授業
担当教員	髙橋　清	単位数	1
その他担当者			
授業概要	本実習においては、「調理実習」「食品衛生学」「食品栄養学」をはじめとしてその他の専門科目で得た基礎知識や技術を活用して、大量調理の技法、提供サービスを学ぶことを目的とする。		
授業の到達目標	栄養管理、食品管理、衛生管理、労働安全管理、また献立立案、帳票作成、原価計算等の事務管理を通して給食運営、に関する技法を習得し、調理技術との関連性を持ちながら喫食者のニーズに対応できる給食運営、食事作りを目指す。		
テキスト（教科書）	新調理師養成教育全書＜必修編＞第６巻　総合調理実習　（公社）全国調理師養成施設教会		
参考書（参考文献）	食品成分表		
受講条件	調理実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、の単位取得済みであること。 調理実習Ⅳ同時履修 調理学Ⅰ、Ⅱ単位取得済みであること。 調理学Ⅲ同時履修		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習すること、担当部門については指示内容を理解し担当当日には迷いなく作業に従事できることが望ましい。		
評価方法	実習態度（意欲、自主性、協調性、責任感など）および課題提出、春学期定期試験により総合評価する。		
授業計画	第１回　実習の意義と目的、実習、演習の進め方、実習の諸注意、実習室調理機器の説明及び実習室等の整備、献立計画及び予定献立の発表。 第２回　調理機器を使用しての基礎実習 第３回、第４回　肉料理試作実習検討 第５回、第６回　肉料理　大量調理実習 第７回、第８回　病院食大量調理実習 第９回、第 10 回　麺料理　試作実習検討 第 11 回、第 12 回　麺料理　大量調理実習 第 13 回、第 14 回　魚料理　試作実習検討 第 15 回、第 16 回　魚料理　大量調理実習 第 17 回、第 18 回　学生献立　試作実習検討 第 19 回、第 20 回　学生献立　大量調理実習 第 21 回、第 22 回　学生献立　試作実習検討 第 23 回、第 24 回　学生献立　大量調理実習 第 25 回、第 26 回　大量調理機器、真空調理実習 第 27 回、第 28 回　高齢者ソフト食調理実習 第 29 回、第 30 回　嚥下食調理実習 第３回～第 24 回まで、試作実習、大量調理実習はクラスをグループに分け実習室において実際の調理現場に即した内容で実習を行う、献立内容によっては仕込み作業、当日朝早出も必要となる。 実習回数の中で実習生の作業内容はローテーションを行い各種役割を体験する。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42960
科目	4296 食品学Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	西山　千穂子	単位数	2
その他担当者			
授業概要	調理師に必要な食品の基本知識と嗜好特性について学び、調理師活動において中心的存在となる食品についての正しい視点を養う。		
授業の到達目標	１．調味料、香辛料の特性を知り、用途に応じて使用できるようにする。 ２．食材や料理に応じて正しくゲル状食品を利用できるようにする。 ３．特別用途食品、保健機能食品について理解する。 ４．食品の加工法、貯蔵法について理解する。 ５．食品の生産から購入までの流通について理解する。		
テキスト（教科書）	『２食品と栄養の特性』 公益社団法人　全国調理師養成施設協会		
参考書（参考文献）	「調理師養成教育全書　必携問題集」全国調理師養成協会 「カラーチャート食品成分表」 教育図書株式会社 「食育インストラクター教本」 公益社団法人　全国調理師養成施設協会 「フードコーディネーター教本」 日本フードコーディネーター協会編　柴田書店		
受講条件	食品学Ⅰの単位習得済みであること 食品学Ⅱと同時履修であること 調理師取得予定者であること		
準備学習等の内容	食品に関するニュース（新種、新商品、事件・事故、法改正など、、、）について常に興味を持ち知識を得ておく。 問題集より、毎回小テストを行うので指定範囲をしっかり勉強しておくこと。		
評価方法	試験（70%）　小テスト（20%）　受講意欲（10%）の総合評価		
授業計画	第１回　調味料① 第２回　調味料② 第３回　香辛料 第４回　調理加工食品類 第５回　ゲル状食品 第６回　特別用途食品 第７回　保健機能食品① 第８回　保健機能食品② 第９回　食品の加工① 第 10 回　食品の加工② 第 11 回　食品の貯蔵① 第 12 回　食品の貯蔵② 第 13 回　食品の国内生産と輸入 第 14 回　食品の流通① 第 15 回　食品の流通② 第 16 回　テスト ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	42970
科目	4297 食品衛生学Ⅳ	授業種別	週間授業
担当教員	井上　健太郎	単位数	2
その他担当者			
授業概要	食品衛生学Ⅰ、Ⅱ，Ⅲで学習したことを礎石にして、食品安全対策としての「食品衛生法などの法体系と衛生行政」、「施設・設備・調理従事者の衛生管理」、食の安全性を確保するための管理手法である「HACCP システム」、また「食品・容器・器具等の洗浄、消毒、殺菌法」などを重点的に学ぶ。		
授業の到達目標	１　食品衛生法などの法体系と衛生行政の仕組みについて習得する。 ２　施設・設備や調理従事者の衛生管理について習得する。 ３　食の安全性を確保するための HACCP システムについて学ぶ		
テキスト（教科書）	『調理師養成教育全書　３　食品の安全と衛生』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会） 『調理師養成教育全書　必携問題集』（公益社団法人　全国調理師養成施設協会）		
参考書（参考文献）	特に指定はしないが食品衛生に係る新聞記事は常に関心をもって読むこと。		
受講条件	『食品衛生学Ⅰ，Ⅱ、Ⅲの単位修得済みであること』		
準備学習等の内容	毎回の授業計画にそって予習・復習をし、常に食品衛生学について興味・関心を持つこと。		
評価方法	受講態度・質疑応答・レポート等　(30%)、筆記試験　(70%)		
授業計画	第１回　食品衛生法 第２回　食品安全基本法 第３回　食品衛生行政 第４回　食品調理施設・設備の衛生管理 第５回　給水及び汚水・汚物処理 第６回　食品調理従事者の衛生管理 第７回　食材の衛生管理 第８回　異物混入防止 第９回　HACCP システムについて 第 10 回　HACCP システムに対する取り組み 第 11 回　HACCP システムの７原則 12 手順 第 12 回　HACCP システムを支える一般的衛生管理プログラムと HACCP の今後 第 13 回　食品・容器・器具などの洗浄法 第 14 回　殺菌と消毒（物理的方法） 第 15 回　殺菌と消毒（化学的方法） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング			

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	43010
科目	4301 診療情報管理論Ⅰ（総論）	授業種別	週間授業
担当教員	小坂　清美	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では、診療情報管理とは何か、診療情報管理と診療情報管理士とのかかわり、診療情報管理士とはどのような職業なのかについて、イメージを持てるようにします。わが国の診療情報管理の歴史的背景や沿革について米国の病院と対比させながら学びます。情報社会といわれる現在、診療情報管理士に必要な診療記録ならびに診療情報に関わる法規について学びます。病院組織における診療情報管理部門のあり方についても学びます。 問題集を解き、理解度を確認します。		
授業の到達目標	診療情報管理について､基礎的知識を身につける｡診療情報管理に関わる法規について習得する。		
テキスト（教科書）	診療情報管理士テキスト　診療情報管理Ⅲ　専門・診療情報管理編（一社）日本病院会 診療情報管理士教育問題集　専門・診療情報管理編　（一社）日本病院会		
参考書（参考文献）	『診療情報学』　編集：診療情報管理学会		
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者。 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	学習状況、定期試験により総合的に評価する。		
授業計画	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：診療情報管理と診療情報管理士、診療情報管理士の教育・資格制度、診療情報管理士の業務 わが国と各国の教育制度の現状を学びます。診療情報管理士とはどんな職業かについて考えます。 第 3 回：診療に関する情報 用語の定義、診療記録の意義と価値について理解します。 第 4 回：診療情報管理の背景と沿革 診療記録のルーツについて理解します。 諸外国の病院および日本における診療情報管理について学びます。 第 5 回、第 6 回、第 7 回：診療情報管理と法規 診療記録の記載と保存に関する法規、診療録等の電子化に関する法規、診療記録の提示に関する法規について学びます。 第 8 回、第 9 回：診療情報管理と法規 医療事故にともなう法的責任、診療情報の守秘に関する法規について学びます。 第 10 回、第 11 回：診療情報管理と法規 個人情報の保護に関する法規について学びます。 第 12 回、第 13 回：診療情報管理部門のあり方 診療録管理体制加算の基準、診療情報管理委員会、診療記録の管理規程について学びます。 第 14 回：診療記録の電子化への対応 診療記録の電子カルテについて、医療・健康・介護・福祉分野の情報化グランドデザインについて学びます。 第 15 回：診療情報管理Ⅰのまとめ 診療情報管理Ⅰの試験対策を講じます。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	CPGM2011		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	43020
科目	4302 診療情報管理論Ⅱ（実務）	授業種別	週間授業
担当教員	小坂　清美	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この科目では、診療情報管理Ⅰで学んだ内容を基礎に、診療情報管理の業務内容や実務について学びます。ナンバリング（番号法）やファイリング（保管法）など診療記録を保管管理するための基本的手法、診療記録の回収・内容点検・疾病コーディング・各種情報の登録などの日常業務について学習します。登録した情報の活用例を学び情報を活用する視点を理解します。診療記録を構成する用紙の種類や記載方法、カルテ開示についても学びます。問題集を解き、理解度を確認します。		
授業の到達目標	診療情報管理の実務について知識を身につけ、社会への適応を習得する。資格試験に合格する。		
テキスト（教科書）	診療情報管理士テキスト　診療情報管理Ⅲ　専門・診療情報管理編（一社）日本病院会 診療情報管理士教育問題集　専門・診療情報管理編　　（一社）日本病院会		
参考書（参考文献）	『診療情報学』　編集：日本診療情報管理学会		
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	学習状況、定期試験により総合的に評価する。		
授業計画	第１回：ガイダンス 第２回：診療記録の保管管理 ナンバリング（番号法）とファイリング（保管法）について学びます。 第３回：診療記録の保管管理 診療記録の保存期間と保存方法について学びます。 診療記録の管理方法について学びます。 第４回：診療記録の保管管理 診療記録の貸出管理、貸出利用規程、個人情報保護の視点からの保管管理について学びます。 第５回：診療記録の保管管理 電子カルテシステムでの保管管理について学びます。 第６回：診療情報の点検 診療記録の回収、診療記録の点検、電子カルテシステムでの点検について学びます。 第７回：診療情報の点検 製本、ICD による傷病名コーディング、各種情報の登録、診療記録の監査について学びます 第８回：診療情報の活用 各種統計資料の作成と活用の視点について学びます。 第９回、第 10 回：診療情報の提供 カルテ開示をはじめとする、さまざまな情報提供のあり方について学びます。 第 11 回、第 12 回：診療記録の記載方法 公的な記録である診療記録の記載方法について学びます。POMR について理解します。 第 13 回、第 14 回：診療記録の種類 診療記録を構成する各種用紙とそこで使用される用語について理解します。 第 15 回：診療情報管理Ⅱのまとめ 診療情報管理Ⅱの試験対策を講じます。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	CPGM2024		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	43110
科目	4311 疾病分類法Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	小坂　清美	単位数	2
その他担当者			
授業概要	疾病分類には、国際的に共通な疾病、傷害及び死亡統計のために、WHO の国際疾病分類（ICD）がある。この点について厚生労働省は ICD を採用していくことを明確にしている。そこでこの科目では、ICD について理解を深め歴史と現在の状況を把握し、日本における利用の現状を理解する。IT 化普及における ICD を用いる意義を理解した上で、ICD の基本を習得し、コーディング方法を学ぶ。実際の診療録（カルテ）より診断名を読み取りコーディングおよびその活用である統計作成ができるようにする。授業では、そのための主要病態の選択、原死因の選択ができるようにする。		
授業の到達目標	ICD の基本的知識を習得し、理解および活用するための技術を身につける。		
テキスト（教科書）	『診療情報管理士テキスト　診療情報管理Ⅳ　専門・国際疾病分類法編』（一社）日本病院会 診療情報管理士教育問題集・専門・国際疾病分類法編　（一社）日本病院会 『疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10（2003 年版）準拠 第２巻・第３巻』 厚生大臣官房統計情報部編　　厚生統計協会		
参考書（参考文献）	疾病、傷害および死因統計分類提要（ICD-10 準拠 2003 年版）第１巻 , 国際疾病分類－腫瘍学第３版（ICD-03） 診療情報管理Ⅰ　基礎医学編　（一社）日本病院会		
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者。資格取得のための履修科目を受講すること。 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	レポート提出、定期試験により評価する。		
授業計画	１回 ガイダンス ２回、３回 国際疾病分類（ICD）と我が国での利用 分類法について知ることで、疾病分類の意義について理解します。 また、ICD の使用目的について理解します。我が国の利用として国勢調査、人口動態統計について知ります。また、作成されている各種分類表を知ります。 各回、授業で実際に国際疾病分類（ICD-10）を用いて演習（Ⅰ章－ＸⅠ章）を行いながら授業を進めます。 ４回、５回 国際疾病分類（ICD）の歴史 国際疾病分類の史的考察、国際疾病分類の誕生までを知ると共に、国際疾病分類の経緯を知ります。 ICD について、WHO 主催による改訂会議について知ります。 ６回、７回、 国際疾病分類（ICD）の現状と課題 現在使用している ICD-10 について改正などの現状を知ります。 分類法の使用目的について理解します。 また分類項目の設定に関しても知ります。 国際疾病分類の編算基準と体系を理解します。 各章の特徴と構成について知ると共に、各章のコード体系について理解します。また、各章の取り扱い方、異なる部分を知ります。 ８回、９回 他の国際疾病分類（ICD）ファミリー 国際生活機能分類（ICF）、腫瘍分類（ICD-O）、医療行為の分類（ICHI）などについて理解します。 10 回、11 回 主要病態の選択ルールおよび原死因選択ルールについて実際の演習をもちいて理解します。 12 回、13 回、14 回 死亡診断書・死因統計 原死因の定義について理解すると共に、死亡診断書の意義について知ります。 また、記載上の留意点について知ります。 原死因の選択と原死因コーディングを身につけます。 疾病統計の作成・分析と死因統計の作成・分析を知ります。 15 回 まとめ、復習など。ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	CPGM2025		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	43210
科目	4321 医療管理論Ⅰ（病院管理）	授業種別	週間授業
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	診療情報管理士の業務に必要な、病院管理（病院組織、システム）の基礎知識を習得する。基礎知識の範囲は、日本病院会で実施する「診療情報管理士」資格試験の内容に準拠する。		
授業の到達目標	病院組織における経営的観点の理解を目指す。		
テキスト（教科書）	教科書 診療情報管理士テキスト　診療情報管理Ⅲ　　日本病院会		
参考書（参考文献）	特になし。		
受講条件	診療情報管理関連科目の受講をしておくこと。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	１．授業に対する取り組み姿勢（20%） ２．課題レポート（20%） ３．期末テスト（60%） 以上の成績を総合して評価		
授業計画	テキストに準拠するが、日常生活で話題になる問題をできるだけ取り上げ、実用的な知識の向上も図る。 １．病院管理とは ２，３．プロセス（工程）とは ４，５，危機管理システム（リスクマネジメント） ６，７，危機管理システムと病院経営システム ８，９，管理と組織（ラインとスタッフ） 10,11，財務、経営管理 12,13，人事、労務管理 14,15，施設管理 ※１）基礎知識の習得のために、課題レポートを与える。 ※２）受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPGM2026		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期～秋学期	授業コード	43240
科目	4324 医療事務特講Ⅲ	授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）
担当教員	長谷川　正志	単位数	2
その他担当者			
授業概要	この講義には２つの獲得目標があります。 １つ目は「医療制度の国際比較」です。米､英､中国､韓国の医療制度の違いを比較検討する中で、結果として我が国の医療制度の特徴を再確認することです。 ２つ目は「医療秘書技能検定試験」の２級および準１級へのチャレンジです。１年次に「医療事務ユニット」で学んだことをベースにして、さらなる高みを目指します。		
授業の到達目標	わが国の医療保険制度についてより詳しく学ぶことと同時に、暮らしに役立つ医療制度として受講者各人が、これからの社会生活の中で生かしていけるようにすること。 「医療秘書技能検定試験」の上級合格（２級、準１級）合格を目指す。		
テキスト（教科書）	・診療点数早見表 (2016 年４月版：医学通信社）		
参考書（参考文献）	毎回講義時にプリント、資料等配布します。		
受講条件	・医療事務Ⅰ、Ⅱの単位修得済みであること。 ・フィールドワークとして「韓国医療研修」を実施します。原則その行事に参加できること。		
準備学習等の内容	春休みに「スプリングスクール」を開講します（週１回程度）。必ず参加すること。		
評価方法	授業に対する取り組み姿勢（スプリングスクール含）(50%)、フィールドワークへの参加及び取り組み姿勢 (30%)、検定試験結果 (20%)		
授業計画	第１回　「日本の医療制度の特徴～歴史～」 第２回　「日本の医療制度の特徴～現状～」 第３回　「日本の医療制度の特徴～問題点～」 第４回　「米国の医療制度～概略～」 第５回　「米国の医療制度：メディケアとメディケイド」 第６回　「米国の医療制度：無保険と民間医療保険」 第７回　「英国の医療制度～概略～」 第８回　「英国の医療制度：NHS について」 第９回　「中国の医療制度～概略～」 第 10 回　「中国の医療制度：格差医療の現状」 第 11 回　「韓国の医療制度～概略～」 第 12 回　「韓国の医療制度：IT の活用」 第 13 回　「韓国の医療制度：混合診療について」 第 14 回　「韓国の医療制度：高齢化問題」 第 15 回　「韓国の医療制度：国民皆保険」 第 16 回　「韓国医療研修：レポート」 第 17 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 53 回制度・法規」 第 18 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 53 回医療事務」 第 19 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 52 回制度・法規」 第 20 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 52 回医療事務」 第 21 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 51 回制度・法規」 第 22 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 51 回医療事務」 第 23 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 50 回制度・法規」 第 24 回　「医療秘書検定対策：２級過去問題 50 回医療事務」 第 25 回　「医療秘書検定対策：準１級過去問題 53 回制度・法規」 第 26 回　「医療秘書検定対策：準１級過去問題 53 回医療事務」 第 27 回　「医療秘書検定対策：準１級過去問題 52 回制度・法規」 第 28 回　「医療秘書検定対策：準１級過去問題 52 回医療事務」 第 29 回　「医療秘書検定対策：準１級過去問題 51 回制度・法規」 第 30 回　「医療秘書検定対策：準１級過去問題 51 回医療事務 ※）但し、受講学生の習熟度及び検定試験、韓国研修日程等により授業計画を変更することもある。		
ナンバリング	CPFM2033		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	43310
科目	4331 臨床医学Ⅰ	授業種別	週間授業
担当教員	宮原　英夫	単位数	2
その他担当者			
授業概要	診療情報管理士テキスト:診療情報管理Ⅰを中心に、感染症と新生物（がん）について学習する。 診療情報管理士という専門職の資格を取得するために必要とされるレベルで講義する。		
授業の到達目標	感染症、新生物に関する基礎知識の習得。診療情報管理士の受験に役立つレベルの習得。		
テキスト（教科書）	診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ⅰ　基礎・医学編　第７版　日本病院会　2014		
参考書（参考文献）	大学図書館には多数の参考書が用意されている		
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者。 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと。		
準備学習等の内容	講義と並行してレポート問題を配布し，次回に提出してもらう。		
評価方法	受講態度および筆記試験の結果などにより総合的に評価する		
授業計画	〔臨床医学　感染症及び寄生虫症〕 第１回　感染症とは 第２回　腸管感染症、結核等 第３回　性感染症 第４回　ウイルス感染症、 第５回　ウイルス肝炎　その他ウイルス疾患 第６回　インフルエンザ 第７回　主な寄生虫症 〔臨床医学　新生物〕 第８回　新生物とは何か　、悪性、良性新生物とは。 第９回　口唇、口腔及び咽頭、消化器の悪性新生物 第 10 回　呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物 第 11 回　骨及び関節軟骨の悪性新生物、皮膚、その他の悪性新生物 第 12 回　乳房の新生物、性器の新生物、尿路の新生物 第 13 回　脳及び中枢神経系のその他の部位の新生物 第 14 回　甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物、リンパ組織等及び 関連組織の悪性新生物 第 15 回　感染症及び寄生虫症、新生物についてのまとめ、復習		
ナンバリング	CPGM2012		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 春学期	授業コード	43320
科目	4332 臨床医学Ⅱ	授業種別	週間授業
担当教員	宮原　英夫	単位数	2
その他担当者			
授業概要	診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ｉを用いて、臨床医学の各論（血液疾患、代謝疾患、内分泌疾患、周産期疾患）について、診療情報管理士の認定試験の準備するためのレベルで講義する。		
授業の到達目標	血液・代謝・内分泌疾患、周産期の疾患に関する基礎知識を診療情報管理士受験準備として役立つレベルに到達する。		
テキスト（教科書）	診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ｉ　基礎・医学編　第７版　日本病院会　2014		
参考書（参考文献）	大学図書館には多数の参考書が用意されている		
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者。 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと。		
準備学習等の内容	毎回、レポート問題を宿題として与え、次回に提出してもらう。		
評価方法	受講態度および筆記試験の結果などにより総合的に評価する		
授業計画	〔臨床医学　血液・代謝・内分泌〕 第１回　血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害とは 第２回　貧血全般 第３回　凝固障害等出血性病態、免疫機構の障害 第４回　甲状腺障害、糖尿病、すい内分泌障害、その他の内分泌障害 第５回　栄養失調 第６回　肥満及びその他の過栄養 第７回　代謝障害 〔臨床医学　周産期〕 第８回　妊娠、分娩及び産褥。 第９回　流産について 第 10 回　妊娠、分娩、産褥における浮腫、蛋白尿、高血圧障害 第 11 回～第 12 回　母体ケアと分娩に関する諸問題 第 13 回～第 14 回　分娩とその合併症、産褥に関連する合併症 第 15 回　血液・代謝・内分泌、周産期に関する臨床医学のまとめ、復習		
ナンバリング	CPGM2013		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	43330
科目	4333 臨床医学Ⅲ	授業種別	週間授業
担当教員	小竹　伴照	単位数	2
その他担当者			
授業概要	診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ⅰを用いて、臨床医学の各論について理解する。具体的には、循環器・呼吸器系、消化器・泌尿器系の疾患等に関する基礎知識の習得を目標とする。		
授業の到達目標			
テキスト（教科書）	教科書 診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ⅰ　基礎・医学編　　日本病院会 参考書 カラーアトラス　体の構造と機能　小板橋喜久代　学研		
参考書（参考文献）			
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者。 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	受講態度および筆記試験の結果などにより総合的に評価する		
授業計画	〔臨床医学　循環器・呼吸器〕 第１回　循環器系の疾患とは、呼吸器系の疾患とは 第２回　循環器系の疾患Ⅰ 第３回　循環器系の疾患Ⅱ 第４回　循環器系の疾患Ⅲ 第５回　呼吸器系の疾患Ⅰ 第６回　呼吸器系の疾患Ⅱ 第７回　呼吸器系の疾患Ⅲ 〔臨床医学　消化器・泌尿器〕 第８回　消化器系の疾患とは、泌尿器系の疾患とは 第９回　消化器系の疾患Ⅰ 第 10 回　消化器系の疾患Ⅱ 第 11 回　消化器系の疾患Ⅲ 第 12 回　泌尿器系の疾患Ⅰ 第 13 回　泌尿器系の疾患Ⅱ 第 14 回　泌尿器系の疾患Ⅲ 第 15 回　循環器・呼吸器、消化器・泌尿器のまとめ、復習 第 16 回　総括		
ナンバリング	CPGM2027		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.

開講年度・開講学期	2016 年度 秋学期	授業コード	43340
科目	4334 臨床医学Ⅳ	授業種別	週間授業
担当教員	小竹　伴照	単位数	2
その他担当者			
授業概要	診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ⅰを用いて、臨床医学の各論について理解する。具体的には、精神・脳神経・感覚器等、皮膚・筋骨格の疾患等に関する基礎知識の習得を目標とする。		
授業の到達目標			
テキスト（教科書）	教科書 診療情報管理士テキスト：診療情報管理Ⅰ　基礎・医学編　日本病院会 参考書 カラーアトラス　体の構造と機能　小板橋喜久代　学研		
参考書（参考文献）			
受講条件	診療情報管理士の取得をめざす者。 診療情報管理士試験の受験に向けて、授業時間外にも演習問題等に積極的に取り組むこと。		
準備学習等の内容	適宜指示する。		
評価方法	受講態度および筆記試験の結果などにより総合的に評価する		
授業計画	〔臨床医学　精神・脳神経・感覚器系〕 第１回　精神・脳神経・感覚器の疾患の概要 第２回　神経系の疾患Ⅰ 第３回　神経系の疾患Ⅱ 第４回　精神及び行動の障害Ⅰ 第５回　精神及び行動の障害Ⅱ 第６回　眼及び付属器の疾患 第７回　耳及び乳用突起の疾患 〔臨床医学　皮膚・筋骨格系〕 第８回　皮膚、筋骨格系に関する構造・機能の復習 第９回　皮膚、筋骨格系に関する疾患の概要 第 10 回　皮膚及び皮下組織の疾患Ⅰ 第 11 回　皮膚及び皮下組織の疾患Ⅱ 第 12 回　筋骨格系の疾患Ⅰ 第 13 回　筋骨格系の疾患Ⅱ 第 14 回　筋骨格系の疾患Ⅲ 第 15 回　精神・脳神経・感覚器の疾患、皮膚・筋骨格系の疾患のまとめ 第 16 回　総括		
ナンバリング	CPGM2028		

©2016 Toyohashi Sozo Junior College All rights reserved.